

クラス		受験番号	
出席番号		氏 名	

2014年度 全統マーク高2模試  
学 習 の 手 引 き 【解答・解説集】

# 国語・地理歴史・公民

【2015年2月実施】

## • 地理歴史

世界史B	①「古代～中世」選択	1
	②「近現代」選択	9
日本史B	①「原始～中世」選択	19
	②「近現代」選択	29
地 理B		38

## • 公 民

現代社会	51
倫 理	63
政治・経済	75
倫理, 政治・経済	86

## • 国 語 ..... 132

英語冊子巻末に「自己採点シート」と「学力アップ・志望校合格のための復習法」を掲載していますので、志望校合格へむけた効果的な復習のためにご活用ください。

河合塾



1465110329502090



# 【地理歴史】

世界史 B ①「古代～中世」

## 【解答・採点基準】

(100点満点)

問題番号	設 問		解 答 番 号	正解	配点	自己採点
第1問	A	問 1	①	④	3	
		問 2	②	②	3	
		問 3	③	①	3	
	B	問 4	④	②	2	
		問 5	⑤	③	3	
		問 6	⑥	④	3	
	C	問 7	⑦	①	3	
		問 8	⑧	②	2	
		問 9	⑨	③	3	
第1問 自己採点小計					(25)	
第2問	A	問 1	⑩	②	3	
		問 2	⑪	①	3	
		問 3	⑫	④	2	
	B	問 4	⑬	④	3	
		問 5	⑭	①	3	
		問 6	⑮	②	2	
	C	問 7	⑯	③	3	
		問 8	⑰	③	3	
		問 9	⑱	④	3	
第2問 自己採点小計					(25)	
第3問	A	問 1	⑲	④	2	
		問 2	⑳	②	3	
		問 3	㉑	③	3	
	B	問 4	㉒	④	3	
		問 5	㉓	②	3	
		問 6	㉔	②	3	
	C	問 7	㉕	③	3	
		問 8	㉖	①	2	
		問 9	㉗	①	3	
第3問 自己採点小計					(25)	

問題番号	設 問		解 答 番 号	正解	配点	自己採点
第 4 問	A	問 1	㉘	②	3	
		問 2	㉙	④	3	
		問 3	㉚	③	3	
	B	問 4	㉛	⑥	3	
		問 5	㉜	③	3	
		問 6	㉝	①	3	
	C	問 7	㉞	③	3	
		問 8	㉟	①	2	
		問 9	㊱	②	2	
第 4 問 自己採点小計					(25)	
自己採点合計					(100)	

## 【解説】

### 第1問 古代の著名な戦闘

#### 【出題のねらい】

古代における著名な戦闘について、Aではエジプト新王国とヒッタイトのカデシュの戦いを、Bではペルシア戦争中のサラミスの海戦を、Cでは曹操軍と孫権・劉備軍との赤壁の戦いを、それぞれ扱って出題した。

#### 【設問別解説】

##### A

問1 ① ④

④ ファーティマ朝は10世紀初めに成立したシーア派のイスラーム王朝で、エジプトにメンフィスではなくカイロを建設して都とした。メンフィスは、エジプト古王国の都。① 古代エジプトでは、毎年定期的にかかるナイル川の氾濫の時期を知るために、太陽暦が使用された。また、氾濫後の農地を復元するために測地術も発達した。② アメンホテプ4世(イクナートン)は、エジプト新王国の前14世紀のファラオ(王)で、唯一神アトンの信仰を強制し、テーベからテル=エル=アマルナに遷都した。③ プトレマイオス朝は、ヘレニズム時代にエジプトを支配した王朝で、都のアレクサンドリアには研究施設のムセイオンが建設され、幾何学のエウクレイデス(ユークリッド)、数学・物理学者のアルキメデス、地球の周長を計測したエラトステネスなどがここで研究した。

問2 ② ②

② 前17世紀に小アジアに建国したインド=ヨー

ロッパ語系のヒッタイトは、メソポタミアにセム語系のアムル(アモリ)人が建てていた**ア**。バビロン第1王朝(古バビロニア王国)を滅ぼし、鉄製武器を用いて強大化した。その後、地中海東岸で活動していた**イ**。「海の民」の攻撃などによって前12世紀に滅亡した。③④**ア**。インド＝ヨーロッパ語系のメディアは、新バビロニア(カルデア)と連合してアッシリアを滅ぼし、イラン高原を支配して強大化した。前6世紀半ばにアケメネス朝ペルシアに滅ぼされた。①②**イ**。ヒクソスは、エジプト中王国の末期または滅亡後にシリア方面からエジプトに侵入し、ナイル川河口付近を支配した民族。このヒクソスをエジプトから追放して成立したのが、エジプト新王国である。

### 問3 3 ①

① **a** 11世紀後半にセルジューク朝が小アジアに進出すると、ビザンツ(東ローマ)皇帝はローマ教皇に支援を要請した。これを受けてローマ教皇ウルバヌス2世は、1095年に開かれたクレルモン公会議(宗教会議)において、キリスト教の聖地エルサレムをイスラーム教徒から奪回するために、十字軍の派遣を提唱した。**b** 第1回十字軍は、クレルモン公会議の翌年に派遣され、聖地エルサレムを征服してその地にエルサレム王国を建てた。

### B

### 問4 4 ②

② **a** フェニキア人はセム語系の民族で、シドンやティルスを拠点として地中海貿易で活躍し、彼らの使用したフェニキア文字はギリシア人に伝わってアルファベットのもとになった。**b** ネアポリス(現在のナポリ)は、フェニキア人ではなくギリシア人が南イタリアに建設した植民市である。ギリシア人は、ネアポリス以外にも、フランス南部のマッサリア(現在のマルセイユ)、シチリア島のシラクサ、ボスフォラス海峡に面するビザンティオン(のちのコンスタンティノープル、現在のイスタンブール)などの植民市を建設した。フェニキア人が建設した代表的な植民市には、北アフリカのカルタゴがある。

### 問5 5 ③

①②③ アケメネス朝ペルシアは、前6世紀半ばにダレイオス(ダリウス)1世ではなくキュロス2世が建国し、メディア・リディア・新バビロニアを滅ぼした(問2③④**ア**。の解説参照)。キュロス2世は、新バビロニアがユダ王国の住民を強制移住させた「バビロン捕囚」を終わらせたことでも知られる。ダレイオス1世は、西はエーゲ海北岸から東はインダス川流域にいたる広大な領域を支配してアケメネ

ス朝に最盛期をもたらした国王で、都のササと小アジアを結ぶ「王の道」や新都のペルセポリスを建設した。また、領内に多くの州を設置して各州の長官であるサトラップ(知事)に統治させ、「王の目」「王の耳」と呼ばれる監察官を派遣して州の動静を報告させた。④ マニ教は、アケメネス朝ではなくササン朝の時代の3世紀に、マニがゾロアスター教・仏教・キリスト教を融合させて創始した宗教である。ササン朝で弾圧され、西は北アフリカや南フランスに、東は中央アジアや中国に伝えられた。アケメネス朝ペルシアでは、ゾロアスター教が信仰された。

### 問6 6 ④

④ デロス同盟の盟主であったアテネは、前5世紀後半のペロポネソス戦争中に、扇動政治家であるデマゴゴス(デマゴグ)が輩出して衆愚政治におちいり、ペロポネソス同盟を率いるスパルタに敗北した。① ドラコンではなくソロンが、前6世紀初めに財産による等級に応じて参政権や兵役義務を定める財産政治を実施し、市民が借財によって奴隷となる債務奴隷を禁止した。ドラコンは、前7世紀に慣習法を成文化したアテネの政治家である。② ペイシストラトスではなくクレイステネスが、前6世紀末に陶器の破片(オストラコン)による投票で僭主の出現を防止する陶片追放(オストラキスモス)を導入した。ペイシストラトスは、前6世紀半ばに貧民の不満を利用して僭主政治を行ったアテネの政治家。③ ペリクレス時代には民会が最高機関となってアテネの古代民主政が完成されたが、女性に参政権は与えられておらず、成年男性市民による直接民主政が行われた。古代アテネの民主政の発展については、次の表を参照。

ドラコン	前7 C 後半	慣習法の成文化
ソロン	前6 C 初め	財産政治 負債の帳消し、債務奴隷の禁止
ペイシストラトス	前6 C 半ば	僭主政治
クレイステネス	前6 C 末	陶片追放の創設
ペリクレス	前5 C 半ば	民会が最高機関 成年男性市民による直接民主政が完成

古代アテネの民主政の発展

### C

### 問7 7 ①

① 2世紀後半、太平道の張角を指導者として農民反乱の黄巾の乱が起り、この反乱を機に各地の豪族が挙兵して後漢の衰退は決定的になった。② 紅巾の乱は、元末の14世紀半ばに白蓮教徒が起こした反乱である。この反乱のなかから台頭した朱元璋が

1368年に明を開き、元はモンゴル高原に撤退した。  
③赤眉の乱は1世紀前半に起こった農民反乱で、この反乱によって王莽が建てた新は滅亡した。反乱は、後漢を開いた劉秀(光武帝)に鎮圧された。④八王の乱は、西晋の皇帝一族が3世紀後半に起こした帝位をめぐる内乱で、この反乱を機に西晋は弱体化した。皇帝の一族が、五胡と総称された遊牧民族と結んだため、彼らが台頭して華北は五胡十六国時代となり、西晋は五胡のうちの匈奴に滅ばされた。

問8 [8] ②

②戦国時代の長江流域には、燕ではなく楚が繁栄した。燕は現在の北京を中心とした地域を支配した。①長江下流域における河姆渡遺跡の発見により、華北の仰韶(ヤンシャオ)文化と同時期の前5000年頃に、長江流域で稲作文化が繁栄していたことが明らかにされた。③南朝の梁では、四六駢儷体などによる詩文集の『文選』が昭明太子によって編纂された。④宋代には、ベトナムのチャンパーで栽培されていた日照りに強い占城稻が長江下流域に普及した。長江下流域は、占城稻の普及と干拓地の拡大などによって農業生産力が上昇し、「蘇湖(江浙)熟すれば天下足る」と称された。

問9 [9] ③

③曹丕(文帝)が建国した三国時代の魏は、洛陽に都を置き、華北を統治した。魏で創始された九品中正(九品官人法)は、中央から任命された中正官が推薦した人物を官吏とする制度で、地方豪族はこの制度を通じて門閥貴族化していった。①②現在の南京にあたる建業は、三国時代の呉の都である。東晋では建康という名で都となり、宋・齊・梁・陳の南朝でも都となった。②④郷举里選は、前漢の武帝が始めた官吏任用制度で、地方で徳があるとされた人物を地方長官の推薦で登用し、豪族の中央政界への進出を促進した。

## 第2問 「聖なる空間」

### 【出題のねらい】

世界史上の聖地や聖堂などの「聖なる空間」について、Aではイスラーム教のカーバ神殿を、Bではヒンドゥー教最大の聖地ワラーナシー(ベナレス)を、Cでは中世ヨーロッパの3大巡礼地の一つであるサンチャゴ=デ=コンポステラを、それぞれ扱って出題した。

### 【設問別解説】

A

問1 [10] ②

②ア。メッカは、隊商交易などで栄えたアラビア

半島中西部の都市で、イスラーム教最大の聖地とされる。イスラーム教を創始したムハンマド(マホメット)は、メッカで布教活動を開始したが、大商人らによる迫害を受け、622年に信徒とともにメディナに移住した。これをヒジュラ(聖遷)といい、ムハンマドは、メディナでイスラーム教徒の共同体であるウンマを建設した。このヒジュラの年を紀元とする太陰暦が、イスラーム(ヒジュラ)暦である。イ。『コーラン(クルアーン)』は、神がムハンマドにさずけたとされる啓示をアラビア語で記したもので、イスラーム教の聖典である。正統カリフ時代に現在の形に編集された。③④ア。コルドバは、イベリア半島南部にある都市で、8世紀半ばに成立した後ウマイヤ朝の都となり、西方イスラーム世界の政治・経済・文化の中心として繁栄した。①③イ。『アヴェスター』はゾロアスター教の聖典で、ササン朝の時代に現在の形にまとめられた。

問2 [11] ①

①ヤハウェ(ヤーヴェ)は、一神教であるユダヤ教の神。ユダヤ教は、救世主であるメシア信仰や選民思想などを特色とし、のちに成立したキリスト教やイスラーム教に大きな影響を与えた。②シヴァは、インドの多神教であるヒンドゥー教の神で、ヴィシュヌ神とともに広く信仰されている。③オシリスは、霊魂不滅の思想をもった古代エジプトで信仰された神で、死後の世界をつかさどった。④イデアは、古代ギリシアの哲学者プラトンがとなえた観念。プラトンは、真に実在するのは善や美などのイデアであり、現実はいデアがさまざまな形をとってあらわれたものに過ぎないと主張した。

問3 [12] ④

④10世紀に成立したイラン系のブワイフ朝はシーア派の王朝で、軍人や官僚に対してその俸給額に見合った土地の管理権・徴税権を与えるイクター制を始めた。また、アッバース朝のカリフから大アミールの称号を獲得して軍事指導権や統治権を掌握し、この結果カリフは有名無実化した。①イベリア半島は、正統カリフ時代ではなくウマイヤ朝時代の8世紀前半に、ゲルマン人の西ゴート王国が滅ぼされてイスラーム勢力の支配下に入った。正統カリフ時代のイスラーム勢力は、ササン朝を滅ぼしてイランを征服したほか、ビザンツ帝国からシリアやエジプトを奪った。②アッバース朝では、ダマスクスではなくバグダードが新都として建設された。ダマスクスは、ウマイヤ朝の都である。③アラビア語の影響を受けたスワヒリ語が成立したのは、西アフリカではなく東アフリカである。インド洋交易を行っていた

イスラーム商人が来航し、キルワ・モンバサ・マリ  
ンディなどの港市が繁栄した。

## B

### 問4 13 ④

④ ヴァルダナ朝は、7世紀前半にハルシャ＝ヴァ  
ルダナが創始し、ガンジス川流域を支配した王朝。  
唐の仏僧であった玄奘がこの王朝を訪れ、ナーラン  
ダー僧院で仏典の研究を行った。①チョーラ朝は、  
前3世紀に南インドに成立した王朝で、ガンジス川  
流域は支配していない。②アンコール朝は、9世紀  
初めに東南アジアの真臘(カンボジア)に成立した王  
朝で、ヒンドゥー教寺院のアンコール＝ワットなど  
を造営した。③ムラービト朝は、11世紀にベルベル  
人が建てたイスラーム王朝で、モロッコのマラケ  
シュを都とした。西アフリカのガーナ王国を衰亡さ  
せる一方で、イベリア半島に進出して国土回復運動  
(再征服運動、レコンキスタ)を行うキリスト教徒と  
戦った。

### 問5 14 ①

① インド＝ヨーロッパ語系のアーリア人は、カイ  
バル峠を通る地図上のaの経路によって前1500年頃  
に中央アジアからインドに入り、インダス川中流域  
のパンジャーブ地方に定住したとされる。前1000年  
頃からはガンジス川流域に進出し、鉄製の武器や農  
具を使用して征服や開発を行った。この過程で、バ  
ラモン(祭司)・クシャトリヤ(武人・貴族)・ヴァイ  
シャ(一般庶民)・シュードラ(隷属民)の4つの身分  
からなるヴァルナ制が形成された。②④従士制は、  
ゲルマン人に古くから伝わる制度で、有力者から保  
護を受ける代わりに従士として忠誠をつくした。こ  
の従士制と古代ローマの恩貸地制が結びついて、中  
世ヨーロッパの封建制度が成立した。③④地図上の  
bは、季節風を用いてインドに向かう交易船の経路  
を示している。

### 問6 15 ②

② マウリヤ朝では、前3世紀のアショーク王が仏  
教を保護し、ストゥーパ(仏塔)を各地に建立したほ  
か、上座部仏教などの經典を編纂する仏典結集を  
援助し、スリランカ(セイロン)への布教活動を行っ  
た。①マウリヤ朝の都は、プルシャプラではなくガ  
ンジス川流域のパータリプトラ。プルシャプラはク  
シャーナ朝の都で、現在のパキスタン北部に位置し  
た。③ガンダーラ美術は、マウリヤ朝ではなくク  
シャーナ朝で発達した仏教美術で、ヘレニズム文化  
の影響を受けて仏像が制作された。④カーリダーサ  
は、マウリヤ朝ではなくグプタ朝で、サンスクリッ  
ト文学の代表作とされる戯曲『シャクンタラー』を

著した。

## C

### 問7 16 ③

③ ディオクレティアヌス帝ではなくコンスタン  
ティヌス帝が、4世紀前半にミラノ勅令を發布して  
キリスト教を公認した。ディオクレティアヌス帝  
は、3世紀後半に共和政の伝統を放棄して皇帝権力  
の強化をはかる専制君主政(ドミナトゥス)を創始し  
た皇帝で、ローマ帝国を分担して統治する四分統治  
(四帝分治制、テトラルキア)を行い、4世紀初め  
には皇帝崇拝を拒否したキリスト教徒への大迫害を  
実施した。①五賢帝の2番目にあたるトラヤヌス帝時  
代の2世紀初めに、ローマ帝国の領土は最大となっ  
た。なお、五賢帝とは、パックス＝ローマーナ(「ロー  
マの平和」)の時期の、ネルウァ・トラヤヌス・ハド  
リアヌス・アントニヌス＝ピウス・マルクス＝アウ  
レリウス＝アントニヌスの5人の皇帝をさす。②カ  
ラカラ帝は3世紀前半に、ローマ帝国内のすべての  
自由民にローマ市民権を付与した。これによって  
ローマ法は、市民法から万民法になった。④テオド  
シウス帝が4世紀末に死去したさいに、ローマ帝国  
は東西に分裂した。その後、東ローマ帝国は15世紀  
中頃までつづいたが、西ローマ帝国はゲルマン人の  
侵入によって弱体化し、5世紀後半にゲルマン人の  
傭兵隊長オドアケルに滅ばされた。

### 問8 17 ③

③ 11世紀後半に即位したローマ教皇グレゴリウス  
7世は、クリュニー修道院が推進した教会刷新運動  
の影響を受け、神聖ローマ皇帝や国王など世俗君主  
による聖職者の叙任を批判した。これに反発した神  
聖ローマ皇帝ハインリヒ4世とのあいだに起こった  
のが叙任権闘争で、教皇グレゴリウス7世に破門を  
宣告されて窮地に立ったハインリヒ4世は、北イタ  
リアのカノッサで教皇に許しを請うた。これをカ  
ノッサの屈辱という。その後、叙任権闘争は12世紀  
前半に結ばれたヴォルムス協約によって終結をみ  
た。①グレゴリウス1世は6世紀末に即位した教皇  
で、ゲルマン人へのカトリックの布教を積極的  
に行った。②レオ3世は、800年にフランク王国の  
カール大帝(シャルルマーニュ)にローマ皇帝の帝冠  
を与えた教皇。④オットー1世はローマ教皇ではな  
く、10世紀後半にローマ教皇から帝冠を与えられ、  
神聖ローマ帝国の初代皇帝になったとされる人物。

### 問9 18 ④

④ ア. 11世紀の西ヨーロッパでは、重厚な壁や半  
円筒アーチを特色とするロマネスク様式が発達し、  
イタリアのピサ大聖堂(次ページの図版を参照)やド



イツのヴォルムス大聖堂などが建てられた。イ. 12世紀以降には、ステンドグラスや尖頭アーチを特色とするゴシック様式が登場し、ドイツのケルン大聖堂(下の図版を参照)やフランスのバリにあるノートルダム大聖堂などが建てられた。①②ア. 北イタリアのラヴェンナにあるサン＝ヴィターレ聖堂は、6世紀に建設されたビザンツ様式の聖堂である。①③イ. モザイクは、ドーム型の屋根とともにビザンツ様式の特色の一つであり、聖堂の内部壁面などに施された。



ピサ大聖堂(ロマネスク様式)



ケルン大聖堂(ゴシック様式)

### 第3問 人々の移動

#### 【出題のねらい】

人々の移動について、Aではノルマン人(ヴァイキング)の移動を、Bではモンゴル帝国の駅伝制(ジャムチ)を、Cではインドから東南アジアへの移動を、それぞれ扱って出題した。なお、Bの引用文は、『モンゴル秘史3』(村上正二訳注、東洋文庫、平凡社)を用

いた。

#### 【設問別解説】

A

問1 19 ④

④ b デーン人のクヌート(カヌート)がイングランドを征服したのは、11世紀前半。c ノルマンディー公ウィリアムが、ヘースティングズの戦いに勝利してノルマン朝を創始したのは、11世紀後半。この結果、フランス王の臣下であるノルマンディー公がイングランド王となった。a ノルマン朝が断絶すると、12世紀半ばにフランスのアンジュー伯がヘンリ2世としてイングランド王となり、プランタジネット朝を創始した。ヘンリ2世はフランス国内に広大な領土をもっていたため、フランスのカペー朝との対立が深刻化した。

問2 20 ②

② 西スラヴ人に属するチェック人は、ビザンツ帝国の支配を受けなかった。10世紀に王国を建設し、11世紀には神聖ローマ帝国に支配された。① ビザンツ皇帝のユスティニアヌスは、6世紀に北アフリカのヴァンダル王国やイタリア半島の東ゴート王国を滅ぼし、地中海沿岸地帯の大部分を支配した。③ 軍管区(テマ)制は、ビザンツ帝国の領内を軍管区にわけ、その司令官に軍事・民事の大権を与えて帝国を防衛させる制度。イスラーム勢力などに対抗するため7世紀頃から実施された。④ 8世紀前半にビザンツ皇帝レオン(レオ)3世は、聖像禁止令を発布して聖像の制作・崇拜を禁止した。ゲルマン人への布教に聖像を使用していたローマ＝カトリック教会がこれに反発したため、カトリック教会とコンスタンティノーブル教会が対立した。

問3 21 ③

③ フランク王国のカルル大帝は、エルベ川下流域のザクセン人を征服し、この地域の住民をカトリック化した。① メロヴィング朝に代わってカロリング朝を創始したのは、カルル大帝ではなく、カルル大帝の父であるピピン(ピピン3世)。ピピンはランゴバルド王国に遠征し、北イタリアのラヴェンナ地方を奪って教皇に寄進した。これが教皇領の起源になったとされる。② 8世紀前半にトゥール・ポワティエ間の戦いでイスラーム勢力のウマイヤ朝を撃退したのは、メロヴィング朝の宮宰(マヨルドムス)カール＝マルテルで、彼はカルル大帝の祖父であった。④ カルル大帝は、アウグスティヌスではなくアルクインをイングランドからまねき、文芸復興につとめた。これをカロリング＝ルネサンスという。アウグスティヌスは、キリスト教の教義を理論

化した4世紀から5世紀の教父で、『神の国(神国論)』や『告白録』を著した。

B

問4 22 ④

④ア. オゴタイ=ハンはモンゴル帝国第2代のハンで、華北を支配していた金を滅ぼし、モンゴル高原に都カラコルムを建設した。また、バトゥにヨーロッパへの遠征を命じた。イ. 駅伝制のジャムチは、オゴタイ=ハン時代から整備が進み、元の成立後は中国全土でも行われた。①②ア. モンケ=ハンはモンゴル帝国第4代のハンで、彼の命で西アジア遠征を実施したフラグは、13世紀半ばにアッパース朝を滅ぼし、西アジアにイル=ハン国を建てた。①③イ. クリルタイは、モンゴル人の有力者が集まって開かれる会議で、ハンの選定などの重要事項を決定した。モンゴル帝国の領域と遠征路については、下の地図を参照。

問5 23 ②

②前6世紀頃に黒海北岸で活動したのは、突厥ではなくスキタイ。イラン系のスキタイは、騎馬技術の開発や黄金を用いた美術で知られ、その騎馬技術は、匈奴の強大化に影響を与えた。突厥はトルコ系の民族で、6世紀頃にモンゴル高原を支配し、ホスロー1世時代のササン朝と同盟してエフタルを滅ぼした。①新石器時代の洞穴絵画の遺跡としては、フランスのラスコーやスペインのアルタミラが有名で

ある。③ユカタン半島を中心に栄えたマヤ文明、アンデス高原のインカ帝国、メキシコ高原のアステカ帝国(王国)など古代アメリカ文明では、馬や牛は存在せず、車輪・鉄器は利用されなかった。④中世ヨーロッパで馬に乗って戦った騎士は、国王や諸侯などとともに荘園を所有する領主であった。

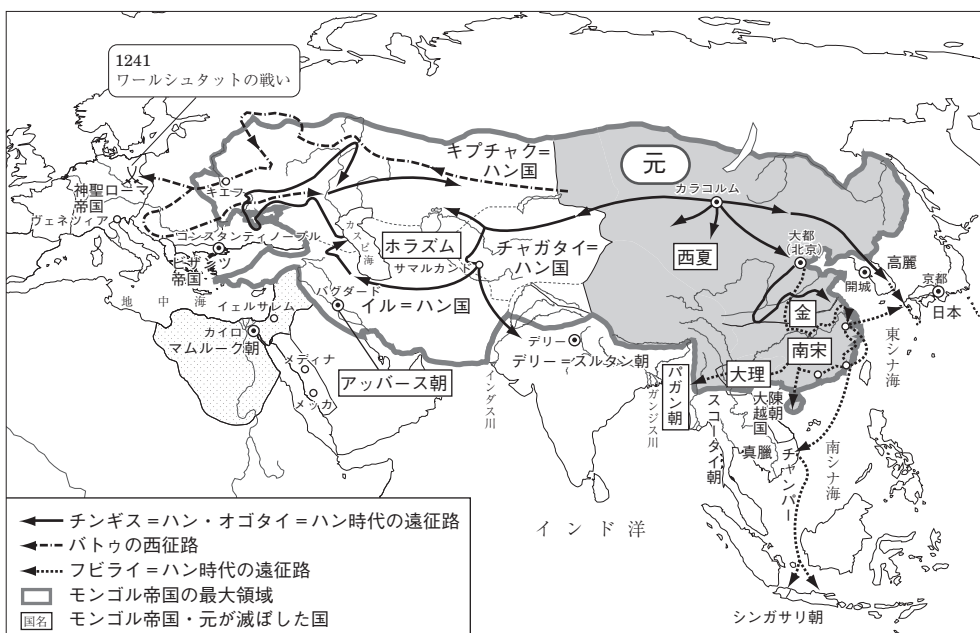
問6 24 ②

②a イスラーム天文学の影響を受け、元の郭守敬が授時暦を作成した。授時暦は、日本に伝わり、江戸時代の17世紀に授時暦を改良して貞享暦がつけられた。b タラス河畔の戦いを契機に製紙法がイスラーム世界に伝わったが、この戦いが起こったのはモンゴル帝国・元の時代ではなく、唐の時代の8世紀半ばである。タラス河畔の戦いはアッパース朝と唐との戦いで、敗北した唐は中央アジアから後退した。

C

問7 25 ③

③ア. 市舶司は海上貿易を管轄する役所で、唐代に広州に初めて設置された。その後、宋代になると海上貿易の活発化を背景に、中国南部のイ. 泉州・明州(寧波)・杭州などにも置かれた。①②ア. 都護府は、服属した周辺地域の民族を統治するために置かれた機関で、唐代にはベトナムの安南都護府など6つの都護府が設置された。都護府を通じて周辺地域を間接統治する政策を、羈縻政策と呼ぶ。②④



モンゴル帝国



イ. 開封(汴京)は、黄河と大運河が接する地点の付近にある内陸交通の要衝で、のちに北宋の都となって繁栄した。

問8 26 ①

① ア. 扶南は、1・2世紀頃にメコン川下流域を支配した東南アジア最初の本格的港市国家で、aのオケオは、その支配下の港であった。④ イ. 大乘仏教の寺院であるbのポロブドゥールは、8世紀から9世紀頃にシャイレンドラ朝がジャワ島に建立した。

問9 27 ①

① a 戦国時代の中国では、布銭・刀銭・円銭(環銭)・蟻鼻銭などの青銅貨幣が発行された。b 前3世紀後半に中国を統一した秦の始皇帝は、統一貨幣として半面銭という銅銭を铸造し、度量衡や文字も統一した。また、中央から官吏を派遣して統治する郡県制を全国で実施するなど中央集権的な政策を進めた。

## 第4問 世界各地の歴史書

### 【出題のねらい】

世界各地の歴史書について、Aでは古代ローマで編纂されたポリビオスの『歴史』とプルタルコスの『対比列伝(英雄伝)』を、Bでは中国の編年体と紀伝体の歴史書を、Cでは朝鮮半島の『三国史記』『高麗史』と日本の『日本書紀』を、それぞれ扱って出題した。

### 【設問別解説】

#### A

問1 28 ②

② 『対比列伝(英雄伝)』を著したのは、ローマ帝政期の1世紀から2世紀に活躍したギリシア人のプルタルコス。① キケロは、ローマ共和政末期の前1世紀に活躍した散文家・政治家。③ アリストタルコスは、ヘレニズム時代の前4世紀から前3世紀の人物で、地球の公転・自転と太陽中心説をとらえた。④ トゥキディデスは前5世紀のギリシアの歴史家で、ペロポネソス戦争を実証的に記述した。

問2 29 ④

④ イタリア半島の同盟市は、共和政期の前1世紀初めにローマ市民権を求めて反乱を起こした。この同盟市戦争は、閥族派(オプティマテス)のスラが收拾し、イタリア半島内の自由民にローマ市民権が付与された。① 平民会の決議が元老院の承認なしにローマの国法となることを定めたのは、共和政期の前5世紀に制定された十二表法ではなく、前3世紀に制定されたホルテンシウス法で、この結果、平民(プレブス)と貴族(パトリキ)の法的平等が達成され

た。十二表法は、慣習法を成文化した。② 共和政期の前3世紀から前2世紀にかけて起こったローマとカルタゴとのポエニ戦争において、スキピオではなくカルタゴの將軍のハンニバルが、前3世紀末のザマの戦いでローマに敗北した。スキピオは、この戦いでハンニバルを破ったローマの將軍。③ 共和政期のポエニ戦争の時期から、奴隷を使用してブドウ・オリーブなどの果樹栽培を行う大農場経営のラティフンディア(ラティフンディウム)が、衰退したのではなく発展した。帝政期にラティフンディアが衰退するなかで、コロヌスと呼ばれる小作人を使役した土地経営のコロナトゥスが3世紀頃から進展した。

問3 30 ③

③ c ギリシアのテーベ(テーバイ)は、前4世紀前半にスパルタを破ってギリシアの覇権を獲得した。その後、マケドニアのフィリッポス2世は、前4世紀後半にカイロネイアの戦いでアテネ・テーベ連合軍を破ると、コリントス同盟(ヘラス同盟)を結成して、スパルタを除くギリシアを支配した。フィリッポス2世の子であるアレクサンドロス大王は東方(ペルシア)遠征を開始し、イッソスの戦いでアケメネス朝のダレイオス3世を破り、まもなくアケメネス朝は滅亡した。アレクサンドロス大王はギリシア・エジプトからインダス川流域にいたる大帝國を築いたが、その死後、後継者を意味するディアドコイの抗争によって、帝國はセレウコス朝シリヤ・アンティゴノス朝マケドニア・プトレマイオス朝エジプトなどの王国に分裂した。

#### B

問4 31 ⑥

⑥ c 北魏は、五胡の一つに数えられる鮮卑の拓跋氏が建てた王朝で、5世紀前半に太武帝が華北を統一し、5世紀後半の孝文帝が平城から洛陽に遷都した。また孝文帝は、土地制度の均田制や村落統治制度の三長制を実施し、鮮卑の言葉や遊牧民の習俗を禁止する漢化政策を行った。b 唐の高宗の皇后であった則天武后は、高宗の死後の7世紀末に即位して国号を周と改め、これによって唐は一時中断した。a 遼(契丹)は、10世紀前半にモンゴル系契丹の耶律阿保機(太祖)によって建国され、その後、五代の後晋の建国を援助した見返りに燕雲十六州を獲得した。

問5 32 ③

③ ア. 王安石は、11世紀後半に北宋の神宗に登用されて宰相となり、中小農民に対する低利融資策のイ. 青苗法や中小商人への低利融資策である市易法などの新法を実施して富国強兵をめざした。しか

し、これに反対する司馬光ら旧法党と対立して失脚し、新法は神宗の死後に廃止された。①②ア. 欧陽脩は北宋の政治家・文章家。②④イ. 両税法は、現住地で土地・資産に応じて年2回徴税する税制で、唐の安史の乱後の8世紀後半に宰相の楊炎の献策によって成立し、明の後半まで実施された。

問6 33 ①

①②④前漢の武帝が中央アジアの大月氏に派遣したのは、班超ではなく張騫で、その目的は匈奴に対抗するための同盟であった。この目的には失敗したが、張騫のもたらした情報は、前漢の西域経営に寄与した。班超は、後漢の西域都護として活躍した人物。また武帝は、敦煌郡を西域に設置するなどの対外積極策を行ったが、財政難に陥り、その打開策として塩・鉄・酒の専売を行うとともに、物価の調整や安定をはかる均輸法・平準法を実施した。③武帝は、董仲舒の献策にもとづいて儒学を官学化し、『詩経』や『春秋』などを教授する五経博士を置いた。春秋・戦国時代から宋のおもな儒家・儒学者とその事績については、次の表を参照。

時代	人物	事績
春秋 戦国	孔子	儒家の祖、仁や礼を重視
	孟子	性善説
	荀子	性悪説
前漢	董仲舒	武帝に儒学の官学化を献策
後漢	鄭玄	訓詁学を確立
唐	孔穎達	『五経正義』を編纂
北宋	周敦頤	宋学(朱子学)の祖
南宋	朱熹(朱子)	宋学を大成、四書を重視、 華夷の区別、大義名分論
	陸九淵(陸象山)	朱熹と対立

春秋・戦国時代から宋のおもな儒家・儒学者

C

問7 34 ③

③吐蕃は、7世紀にソンツェン＝ガンポがチベットに建てた国で、吐蕃ではチベット仏教(ラマ教)が信仰されるようになった。①渤海は、7世紀末に大祚榮が高句麗の遺民などを率いて満州(中国東北地方)に建てた国で、上京竜泉府に都が置かれ、唐に朝貢し、日本とも通交した。②大越(ダイベト)はベトナムの国号で、11世紀から13世紀の李朝、13世紀から14世紀の陳朝、15世紀から18世紀の黎朝などの時期に使用された。④西夏は、11世紀にチベット系タングートの李元昊が黄河上流域に建てた国で、北宋を圧迫して銀や絹などの歳幣を獲得し、漢字にならった西夏文字を作成した。13世紀にチンギス＝ハン時代のモンゴル軍に征服された。

問8 35 ①

①高句麗は、満州で前1世紀頃に成立したとされ、4世紀に楽浪郡を滅ぼして朝鮮半島北部も支配した。楽浪郡は、前漢の武帝が前2世紀末に衛氏朝鮮を征服して設置した朝鮮4郡の一つである。②高句麗は特権身分となった官僚層で、百済ではなく10世紀前半に建国した高麗で形成され、14世紀末に成立した朝鮮(朝鮮王朝、李朝)では党争をくり返した。百済は、4世紀から7世紀後半に朝鮮半島の西南地方を支配した国。③新羅は、開城ではなく、朝鮮半島東南部に位置する慶州に都を置いた。開城は高麗の都で、朝鮮半島の中西部に位置する。④高麗は、広開土王(好太王)ではなく王建(太祖)が建国した。広開土王は、高句麗の4世紀末から5世紀前半の王で、その事績を記念して広開土王碑が建立された。

問9 36 ②

② a 邪馬台国の卑弥呼は、3世紀に三国時代の魏に朝貢し、親魏倭王の称号を賜ったとされる。b 12世紀に成立した平氏政権は、遣唐使を派遣したのではなく、同時代の宋と活発な交易を行って銅銭や陶磁器などを輸入した。遣唐使は、飛鳥時代の7世紀から平安時代前期の9世紀に日本から唐に派遣された使節で、中国文化の摂取に貢献した。

●写真・図版提供

PPS 通信社

【解答・採点基準】

(100点満点)

問題番号	設 問		解 答 番 号	正解	配点	自己採点
第 5 問	A	問 1	41	①	3	
		問 2	42	①	3	
		問 3	43	②	3	
	B	問 4	44	③	3	
		問 5	45	③	2	
		問 6	46	①	3	
	C	問 7	47	②	3	
		問 8	48	⑥	3	
		問 9	49	④	2	
第 5 問 自己採点小計					(25)	
第 6 問	A	問 1	50	②	3	
		問 2	51	①	3	
		問 3	52	③	3	
	B	問 4	53	④	3	
		問 5	54	②	2	
		問 6	55	④	3	
	C	問 7	56	①	3	
		問 8	57	④	2	
		問 9	58	④	3	
第 6 問 自己採点小計					(25)	
第 7 問	A	問 1	59	③	3	
		問 2	60	①	3	
		問 3	61	④	2	
	B	問 4	62	①	3	
		問 5	63	③	3	
		問 6	64	②	2	
	C	問 7	65	②	3	
		問 8	66	①	3	
		問 9	67	③	3	
第 7 問 自己採点小計					(25)	

問題 番号	設 問		解 番	答 号	正解	配点	自己採点
第8問	A	問 1	68	④	3		
		問 2	69	①	3		
		問 3	70	②	3		
	B	問 4	71	③	3		
		問 5	72	②	2		
		問 6	73	①	3		
	C	問 7	74	④	2		
		問 8	75	②	3		
		問 9	76	③	3		
第8問 自己採点小計					(25)		
自己採点合計					(100)		

【解説】

第5問 未知の世界の探究

【出題のねらい】

未知の世界の探究について、Aでは未知の世界に対する知識の増加と地図の作成を、Bではマラリアの特効薬と探検の進展との関連を、Cでは北極点・南極点の到達競争を、それぞれ扱って出題した。

【設問別解説】

A

問1 41 ①

①ポルトガル人のバルトロメウ＝ディアスは、15世紀後半にアフリカ南端の喜望峰に到達した。そののち15世紀末にポルトガル人のヴァスコ＝ダ＝ガマがインド西南岸のカリカットに到達した。②ポルトガル人のマゼラン(マガリャンイス)は、16世紀前半にスペイン王カルロス1世の支援を受けて大西洋からマゼラン海峡を通過し、太平洋を横断してフィリピンにいたり、その地で死去した。その後、部下が初めて世界周航を達成した。③トスカネリは14世紀末から15世紀のイタリアの地理学者で、地球球体説を主張した。コロンブスは、この地球球体説を信じて、アジアに向かうため大西洋を西航したとされる。④スペイン人のバルボアは、16世紀前半にパナマ地峡を横断して太平洋に到達した。

問2 42 ①

①a ダンテはイタリア＝ルネサンスの先駆者で、14世紀前半に口語のトスカナ語で『神曲』を著した。  
b ムスタファ＝ケマル(ケマル＝パシャ)らは、第一

次世界大戦後にトルコ革命を起こし、スルタン制を廃止してオスマン帝国を滅亡させ、トルコ共和国を樹立した。その後、ムスタファ＝ケマルはカリフ制を廃止して政教分離を進め、トルコ語の表記をアラビア文字からローマ字とする文字改革や女性解放などを行って近代化をめざした。

### 問3 43 ②

②サルデーニャ王国の首相カヴールは、1850年代にフランス皇帝ナポレオン3世とプロンビエール密約を結び、フランスがサルデーニャの対オーストリア戦争を支援するかわりに、サルデーニャはフランスにサヴォイア・ニースを割譲することを約束した。これにもとづいてサルデーニャは、イタリア統一戦争でオーストリアと戦ったが、フランスがオーストリアと単独講和を結んだため、ロンバルディアのみの獲得にとどまった。その後、サヴォイア・ニースは、サルデーニャ王国が中部イタリアを併合するさいにフランスに割譲された。①カヴールではなくマッツィーニが、1830年にフランスで七月革命が起こったのちに、オーストリアの弾圧などで衰退したカルボナリを継承して青年イタリアを結成した。1848年にフランスで二月革命が起こると、その影響を受けて、翌年にローマ共和国の樹立を宣言したが、フランスに打倒された。カヴールは、サルデーニャ王国の首相として国王ヴィットーリオ＝エマヌエーレ2世を補佐し、イタリア統一に貢献した。③千人隊(赤シャツ隊)を率いたガリバルディは、ヴェネツィアではなく両シチリア(ナポリ)王国を占領して、これをヴィットーリオ＝エマヌエーレ2世に献上し、1861年にイタリア王国が成立した。その後、イタリアはプロイセン＝オーストリア(普墺)戦争の結果、ヴェネツィアを併合し、1870年代のプロイセン＝フランス(普仏)戦争を機に、教皇領を占領した。④「未回収のイタリア」は、イタリア

が教皇領を占領した段階でイタリアに編入されていなかったオーストリア領内の地域のことで、ロンバルディアではなく南チロル・トリエステなどをさす。「未回収のイタリア」の大部分は、第一次世界大戦でオーストリアが敗北すると、連合国とオーストリアが結んだサン＝ジェルマン条約などでイタリアに編入された。イタリア統一については、下図参照。

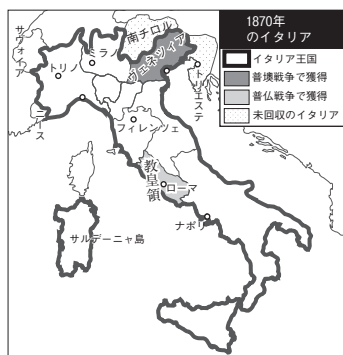
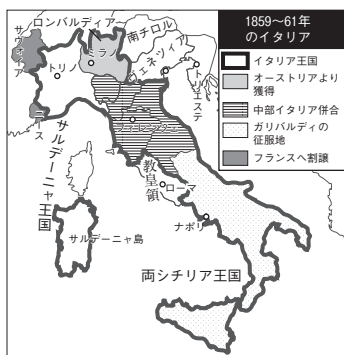
## B

### 問4 44 ③

③ア・リヴィングストンはイギリスの宣教師・探検家で、19世紀半ばからアフリカ探検を行った。スタンリーはアメリカ合衆国の探検家で、イ・ベルギー国王の依頼でコンゴ川流域を探検した。このベルギーのコンゴ進出にイギリスなどが反発したため、ドイツの宰相ビスマルクは1880年代にアフリカ分割に関するベルリン会議を開催した。この結果、コンゴはコンゴ自由国としてベルギー国王の私領となった。また、先に占領した国が領有できるという原則が確認され、これ以降アフリカ分割が本格化した。①②ア・セシル＝ローズは、1890年代にイギリスのケープ植民地首相となり、帝国主義政策を進めた。

### 問5 45 ③

③レントゲンはドイツの物理学者で、19世紀にX放射線を発見した。①『種の起源』は、イギリスのニュートンではなくダーウィンが、生物の進化論を提唱した著書。ニュートンは、17世紀に万有引力の法則を発見した数学・物理学者。②エネルギー保存の法則を発見したのは、キュリー夫妻ではなくドイツのマイヤーとヘルムホルツ。キュリー夫妻は、放射性物質のラジウムなどを発見したフランスの物理・化学者。④モールスは、電話機ではなく電信機を発明したアメリカ合衆国の電気技師。電話機は、



イタリア統一と「未回収のイタリア」

アメリカ合衆国のベルが発明した。

問6 46 ①

① ジャワ島は地図中の a で、オランダが17世紀にバタヴィアを建設し、香辛料貿易の拠点とした。

ア. オランダは、19世紀前半にジャワ島でコーヒーなどの商品作物を栽培させて安値で買い取る強制栽培制度を実施した。④ b はフィリピンのルソン島で、16世紀にスペインが進出し、イ. マニラを建設した。

C

問7 47 ②

② アメリカ合衆国は、20世紀初めにコロンビアからパナマを独立させ、カリブ海と太平洋を結ぶパナマ運河の建設を進めた。① 蒸気船を開発したのは、イギリスのクロムプトンではなくアメリカ合衆国のフルトンである。クロムプトンは、ミュール紡績機を発明した。③ アメリカ合衆国では、19世紀初めではなく南北戦争後の19世紀後半に、西部と東部を結ぶ大陸横断鉄道が開通し、西部の開発と東部の工業化が進展した。④ ロシアは19世紀末から、イギリス資本ではなくフランス資本を導入してシベリア鉄道を建設した。

問8 48 ②

⑥ c 江戸時代末期の1850年代にアメリカ合衆国のペリーが来航し、日米和親条約が締結されて17世紀以来の鎖国体制が崩壊した。その後、不平等条約の日米修好通商条約が結ばれた。b 1860年代に成立した明治新政権は、1870年代に琉球王国を廃止し、沖縄県として日本に編入した。a 1937年に、北京郊外で日中両軍が衝突する盧溝橋事件が起こると、日中戦争が本格化した。

問9 49 ④

④ a アボリジニーは、ニューギニアではなくオーストラリアの先住民。イギリス人の入植によって居住地を追われ、イギリス人がもたらした病気などで人口が激減した。b 19世紀後半に最初のイギリス自治領となったのは、ニュージーランドではなくカナダである。その後20世紀初めには、オーストラリア・ニュージーランド・南アフリカ連邦などが自治領となった。

## 第6問 国際会議とその後の国際体制

### 【出題のねらい】

17世紀から20世紀にヨーロッパで行われた国際会議とその後の国際体制について、Aでは三十年戦争の講和会議と主権国家体制の確立を、Bではナポレオン戦争を收拾したウィーン会議とウィーン体制を、Cでは

第一次世界大戦後のパリ講和会議とヴェルサイユ体制を、それぞれ扱って出題した。

### 【設問別解説】

A

問1 50 ②

② 1688年にイギリスで起こった名誉革命で、ステュアート朝のジェームズ2世にかわってオランダ総督夫妻がメアリ2世・ウィリアム3世として即位した。両王は権利の宣言を承認して王位につき、権利の章典を發布し、課税や法律の制定などに議会の承認が必要であることを明確化した。① プロイセンのフリードリヒ2世(大王)ではなくフランスのルイ14世が、17世紀にバロック様式のヴェルサイユ宮殿を建設した。フリードリヒ2世は、18世紀にロココ様式のサンサーシ宮殿を建設した。③ アラビア半島でワッハーブ王国が成立したのは、18世紀前半。ワッハーブ王国は、ムハンマド(マホメット)時代のイスラーム教への回帰をと考えたワッハーブ派が、アラビア半島の豪族サウード家と結んで成立し、19世紀前半にはエジプトのムハンマド＝アリーに滅ばされたが、まもなく再興した。④ フランス人技師のレセブスが、エジプトにスエズ運河を建設したのは、19世紀後半の1869年。スエズ運河はスエズ運河会社が運営したが、イギリスのディズレーリ内閣が1870年代にスエズ運河会社のエジプト株を買収し、エジプトへの干渉を強化していった。

問2 51 ①

① ヴィッテンベルク大学神学教授のマルティン＝ルターは、ローマ教皇レオ10世がサン＝ピエトロ大聖堂の建築資金獲得のために許可した贖宥状(免罪符)販売に抗議して16世紀前半に九十五条の論題を発表し、これがドイツ宗教改革の発端となった。ルターは聖書中心主義を主張し、ザクセン選帝侯フリードリヒの保護のもとで『新約聖書』をドイツ語に翻訳した。② ドイツ農民戦争は、16世紀前半にイエズス会(ジェズイット教団)ではなくミュンツァーが指導した。農民はミュンツァーらの指導のもとで、農奴制の廃止などの社会改革を要求したため、初め農民に同情的であったルターは、農民戦争を鎮圧する領主を支持した。イエズス会は、イグナティウス＝ロヨラやフランシスコ＝ザビエルを中心として16世紀前半に結成されたカトリック側の組織。教皇に対する絶対服従を誓い、ポルトガル・スペインの対外進出とともに海外布教に活躍した。イエズス会の結成や16世紀半ばに開催されたトリエント(トレント)公会議におけるカトリック側の改革などを、対抗(反)宗教改革と呼ぶ。③ 予定説をと考えたカル



ヴァンは、スイスのチューリヒではなくジュネーヴで活動した。主著に『キリスト教綱要』がある。カルヴァンが蓄財を容認したため、カルヴァン派は各国の商工業者に広まり、スコットランドではプレスビテリアン(長老派)、イングランドではピューリタン(清教徒)、フランスではユグノー、オランダではゴイセンと呼ばれた。チューリヒで宗教改革を推進したのは、ツヴィングリ。④ イギリス国教会は、ジョージ1世ではなくヘンリ8世が、離婚問題での教皇との対立から、16世紀前半に国王至上法(首長法)を發布して設立した。その後、メアリ1世がカトリック復活をはかったが、エリザベス1世が16世紀半ばに統一法を制定し、これによってイギリス国教会が確立した。ジョージ1世は、18世紀前半にハノーヴァー朝を開いたイギリス国王。

問3 52 ③

③ a ドイツの国際連盟への加盟は、ワシントン会議で決定されたのではなく、ワシントン会議後の1925年に結ばれたロカルノ条約(問7 ③の解説参照)にもとづき、翌年に実現した。b ワシントン会議で結ばれた四カ国条約では、アメリカ合衆国・イギリス・フランス・日本が、太平洋における権益の相互尊重など太平洋の現状維持を約し、この条約締結によって日英同盟が解消されることになった。またこの会議では、中国の主権と独立の尊重、領土保全・機会均等・門戸開放を約した九カ国条約、イギリス・アメリカ合衆国・日本・フランス・イタリアの主力艦の保有比率を決めたワシントン海軍軍備制限条約も結ばれた。

B

問4 53 ④

④ ④ 総裁政府は、制限選挙などを定めた1795年(共和国第3年)憲法にもとづいて成立し、私有財産制の廃止をとええるバプーフが武装蜂起を画策したが、逮捕・処刑された。ブリュメール18日のクーデタは、イタリア遠征などで台頭したナポレオン・ボナパルトが起こした事件で、立法議会ではなく総裁政府を打倒して統領政府を成立させた。立法議会は、国民議会(憲法制定国民議会)に代わって1791年に成立し、ジロンド派政権のもとでオーストリアに宣戦したが敗戦がつづき、サンキュロットらがパリの王宮を襲撃して王権停止を宣言する8月10日事件が起こると解散し、1792年に国民公会が成立した。

① ③ ルイ16世はブルボン朝の国王で、国民議会ではなく国民公会の時期に処刑された。国民公会は、ジャコバン(山岳)派がロベスピエールを中心として恐怖政治を展開すると、封建地代の無償廃止や最高

価格令の發布、革命(共和)暦やメートル法の採用などを行ったが、テルミドール(9日)のクーデタ後に崩壊した。国民議会はフランス革命期最初の議会で、1789年に封建的特権の廃止や人権宣言(人間および市民の権利の宣言)の採択などを実施した。また、1791年には、ルイ16世一家がオーストリアへの逃亡を企てて失敗したヴァレンヌ逃亡事件が起こった。

問5 54 ②

② a ハイチは、カリブ海の島でフランスの支配に対して黒人奴隷が起こした反乱を発端に、ナポレオン軍の干渉を撃退して19世紀初めに独立した。b シモン＝ボリバルは、スペイン植民地生まれの白人であるクリオーリョで、アルゼンチンではなくベネズエラやコロンビアなどの独立運動を指導した。アルゼンチンやペルーなどの独立運動を指導したのは、シモン＝ボリバルと同じくクリオーリョであったサン＝マルティン。ラテンアメリカ諸国の独立については、次の地図を参照。



ラテンアメリカ諸国の独立

問6 55 ④

④ 1848年にフランスの二月革命の影響を受けてドイツで三月革命が起こると、ドイツ統一と憲法制定を話し合うため、フランクフルト国民議会が開かれた。この議会では、オーストリアを排除してプロイセンを中心に統一を達成しようとする小ドイツ主義と、オーストリアの大部分を含めて統一しようとする大ドイツ主義が対立した。小ドイツ主義が優勢となったが、プロイセン王がドイツ皇帝となることを

拒否し、統一は実現しなかった。①フランスの二月革命では、シャルル10世ではなくルイ＝フィリップが退位し、七月王政に代わって第二共和政が成立した。シャルル10世はブルボン朝の国王で、1830年の七月革命で退位し、オルレアン家のルイ＝フィリップが即位して七月王政が開始された。②コシュートは、二月革命の影響を受けて、ペーメン(ボヘミア)ではなくハンガリーの民族運動を指導したが、オーストリアなどに弾圧された。また、同時期のペーメンでの民族運動もオーストリアに弾圧された。③フランス二月革命以前の1820年代にギリシア独立戦争が起こり、ギリシアはロシア・イギリス・フランスの支援を受けてオスマン帝国から独立した。ギリシア独立戦争には、イギリスのロマン派詩人バイロンが従軍し、フランスのロマン派の画家ドラクロワは、絵画によってギリシアの独立への救援を訴えた。

C

問7 56 ①

①ウィルソンは、民主党のアメリカ合衆国大統領で、第一次世界大戦中の1917年に対ドイツ参戦に踏みきり、翌年に十四カ条(十四カ条の平和原則)を発表し、秘密外交の廃止、関税障壁の撤廃、軍備縮小、民族自決、国際平和機構の設立などを提唱した。これにもとづいて国際連盟は成立したが、十四カ条のすべてが実現されたわけではなかった。②ロイド＝ジョージはイギリスの自由党の首相で、アメリカ合衆国のウィルソン大統領、フランスのクレマンソー首相とともにパリ講和会議を主導した。③ブリアンはフランスの政治家で、首相・外相を歴任した。第一次世界大戦後に対ドイツ協調外交を進め、1925年には西ヨーロッパの安全保障を内容とするロカルノ条約を締結し、1928年には武力による国際紛争の解決を否定する不戦条約(ケロッグ・ブリアン条約)をアメリカ合衆国の国務長官ケロッグとともに成立させた。④マッキンリーは共和党のアメリカ合衆国大統領で、カリブ海地域をアメリカ合衆国の支配下に置こうとするカリブ海政策を推進した。キューバの独立支援を名目として1898年にアメリカ＝スペイン(米西)戦争を起こしてカリブ海のプエルトリコや太平洋のグアム・フィリピンを領有し、同年にはハワイを併合した。また、国務長官のジョン＝ヘイに、中国における門戸開放・機会均等・領土保全を内容とする門戸開放宣言を発表させた。

問8 57 ④

④マルクスは、19世紀にエンゲルスとともに『共産党宣言』を発表して労働者の国際的な団結による

社会主義社会の建設を呼びかけ、『資本論』では、資本主義の分析にもとづいて社会主義社会成立の必然性を主張した。①ルソーはフランスの啓蒙思想家で、18世紀に『人間不平等起源論』を著し、フランスの不平等な社会を批判した。また、『社会契約論』では人民主権を主張し、フランス革命に影響を与えた。

問9 58 ④

④ドイツのヒトラー政権は、1938年にオーストリアを併合したあと、ドイツ系住民が多いズデーテン地方の割譲をチェコスロヴァキアに要求した。この問題を討議するために、ドイツのヒトラー、イタリアのムッソリーニ、イギリスのネヴィル＝チェンバレン、フランスのダラディエが出席してミュンヘン会談が開かれ、ドイツの要求が事実上承認された。イギリス・フランスによるドイツに対する宥和政策の典型であったため、会議に招かれなかったソ連はイギリス・フランスに対する不信感を強めた。①ファシスト(ファシスタ)党を率いたムッソリーニは、第一次世界大戦後のイタリアで資本家や地主などに支持を広げ、1922年にローマ進軍と呼ばれるローマへの武装行進を行ってファシズム政権を成立させた。②国民(国家)社会主義ドイツ労働者党(ナチ党、ナチス)の党首ヒトラーは、1933年に首相となり、国会議事堂放火事件を口実としてドイツ共産党を弾圧したあと、政府に立法権を委ねる全権委任法を成立させた。さらにヒトラーは、ヒンデンブルク大統領が死去すると、大統領・首相・党首の権限を兼ねる総統(フューラー)に就任して独裁体制を確立した。③スペインで反ファシズムの人民戦線政府が成立すると、フランコ将軍がモロッコで反乱を起こし、1936年にスペイン内戦が勃発した。ドイツ・イタリアはフランコ側を支援し、これを機に両国は提携してベルリン＝ローマ枢軸を結成した。一方、イギリス・フランスは戦火の拡大を恐れて不干渉政策をとり、ソ連や国際義勇軍が人民戦線政府を援助した。また、内戦中にはドイツ空軍によるゲルニカに対する無差別爆撃が行われた。結局フランコ側が1939年に勝利し、以後フランコが長期にわたる独裁体制を維持した。

第7問 中国近現代史上の人々

【出題のねらい】

中国近現代史上の人々について、Aでは太平天国の乱鎮圧に活躍した漢人官僚と洋務運動を、Bでは新文化運動の中心となった知識人と五・四運動を、Cでは西安事件と事件を起こした人物のその後を、それぞれ

扱って出題した。

【設問別解説】

A

問1 59 ③

③ア. 洪秀全はキリスト教の影響を受けて拝上帝会を組織し、19世紀半ばに挙兵して太平天国を建設した。イ. 「滅満興漢」は太平天国が掲げたスローガンで、満州人の清を倒して漢民族の国を再興しようという意味。①②ア. 康有為は公用学派の儒学者で、19世紀末の清で立憲君主政の樹立をめざした戊戌の変法(変法自強)の中心人物。②④イ. 「扶清滅洋」は清を助けて外国勢力を打倒しようという意味で、19世紀末から20世紀初めにかけて排外運動を展開した義和団が掲げたスローガン。

問2 60 ①

①19世紀後半、フランスがカンボジアにつづいて、ユエ条約でベトナムを保護国化すると、ベトナムの阮朝に対する宗主権を主張する清との清仏戦争が勃発した。その結果、清は天津条約で宗主権を放棄し、フランスはベトナムとカンボジアを領土とするフランス領インドシナ連邦を成立させ、さらにラオスを保護国化してこれに編入した。②19世紀にマレー半島のペナン・マラッカ・シンガポールを海峡植民地としたのは、フランスではなくイギリス。③18世紀後半に成立したタイのラタナコーシン(チャクリ)朝は、フランスに植民地化されたのではなく独立を保持し、19世紀後半から20世紀初めのラーマ5世(チュラロンコン)のもとで、近代化と独立維持につとめた。④19世紀に起こったビルマ(イギリス=ビルマ)戦争で、フランスではなくイギリスがコンバウン(アラウンパヤー)朝を滅ぼし、ビルマ(ミャンマー)をインド帝国に編入した。

問3 61 ④

④1894年に朝鮮(朝鮮王朝、李朝)で甲午農民戦争(東学党の乱)が起こると、日本・清両軍が出兵して日清戦争が勃発した。日本が勝利して下関条約が結ばれ、朝鮮は清から独立し、その後国名を大韓帝国に変更した。また下関条約では、日本が遼東半島・台湾・澎湖諸島を清から獲得したが、ロシア・フランス・ドイツによる三国干渉で遼東半島を清に返還した。

B

問4 62 ①

①ア. 魯迅は、話し言葉で文学を表現しようとする白話運動を実践し、『狂人日記』や『阿Q正伝』を著した。イ. 五・四運動は、1919年にパリ講和会議で日本の二十一カ条要求を撤廃するよう中国政府が要

求したが、これが無視されたため、北京大学の学生たちなどが中心となって北京で起こったデモに始まる全国規模の反帝国主義・反封建主義の運動。中国政府は、この運動に直面してヴェルサイユ条約の調印を拒否した。②④ア. 林則徐は清の皇帝から派遣されて広州でイギリスの密輸アヘンを没収した。これに対し、イギリスが出兵して1840年にアヘン戦争が勃発した。②④イ. 三・一独立運動は、パリ講和会議で日本の統治下にある朝鮮にも民族自決が適応されると信じた人々が、1919年に朝鮮独立を叫んで起こした運動で、日本に弾圧された。

問5 63 ③

①②③④辛亥革命は、1911年に幹線鉄道国有化に反対して四川暴動が起こると、これにつづいて武昌の新軍が蜂起して勃発した。翌年、南京を首都に中華民国が成立し、帰国した孫文が臨時大總統の地位についた。清から対応を任された袁世凱は、清を裏切って革命派と取引し、光緒帝ではなく宣統帝(溥儀)を退位させて清を滅ぼし、引き替えに孫文から臨時大總統の地位を譲られた。その後、袁世凱は皇帝に即位したが、反発にあって退位し、失意のうちに没した。袁世凱の死後は、各地に割拠した軍閥が北京政府の実権を争うようになった。光緒帝は、康有為(問1 ①②ア. の解説参照)や梁啓超を登用して1898年に戊戌の変法と呼ばれる改革を行った皇帝で、西太后ら保守派による戊戌の政変で改革は失敗し、光緒帝は幽閉された。その死後に即位したのが宣統帝である。

問6 64 ②

②ロシアのソヴィエト政権は、1917年の十一月革命(ロシア暦十月革命)後に、国内政策として土地の私有を否定する「土地に関する布告」を、対外政策として無併合・無賠償・民族自決にもとづく即時講和を訴える「平和に関する布告」を発表した。①三月革命(ロシア暦二月革命)では、ケレンスキー政権が倒されたのではなく、ニコライ2世が退位してロマノフ朝が倒れた。三月革命後に社会革命党のケレンスキーが臨時政府の首相となったが、このケレンスキー政権はレーニンが指導するボリシェヴィキによって十一月革命で打倒された。③十一月革命後に行われた憲法制定議会の選挙では、ボリシェヴィキではなく社会革命党が第一党となった。翌年開かれた憲法制定議会で、ボリシェヴィキが提案した議案が否決されると、ボリシェヴィキは武力で議会を解散して独裁を開始した。④1918年に対ソ干渉戦争が始まると、ソヴィエト政権は私企業の禁止や穀物の強制徴発などを内容とする戦時共産主義を開始し

た。しかし、生産力が低下したため、穀物の強制徴発をやめ、小規模の私企業を認める新経済政策（ネップ）に転換した。

C

問7 65 ②

②③④中国共産党は、1931年に広州ではなく江西省の瑞金を首都とする中華ソヴィエト共和国臨時政府を建て、毛沢東を主席とした。しかし、中国国民党の攻撃を受けて、中国共産党は1934年に長征(大西遷)を開始し、その後陝西省の延安に拠点を移した。また、長征中の1935年には、内戦の停止や民族統一戦線の結成を呼びかける八・一宣言を出した。広州は、第1次国共合作によって広州(広東)国民政府が成立し、北伐の起点ともなった広東省の都市。①1924年に中国国民党の孫文が「連ソ・容共・扶助工農」を発表し、中国国民党が共産党員を受け入れる形で中国国民党と中国共産党が協力する第1次国共合作が成立した。1920年代から30年代の中国については下の地図を参照。

問8 66 ①

①張学良らが蒋介石を捕らえて軟禁し、一致抗日を迫った西安事件は、地図中aの陝西省西安で起こった。蒋介石は結局これを了承して解放され、翌年の盧溝橋事件をきっかけに日中戦争が本格化すると第2次国共合作が成立した。④bは上海。1927年に北伐中の蒋介石は上海クーデタを起こして共産党員を殺害し、これによって第1次国共合作は事実上崩壊した。

問9 67 ③

③第二次世界大戦において、イタリアは1943年に

無条件降伏し、ドイツは1945年5月に無条件降伏した。日本に対する無条件降伏を勧告するポツダム会談後、1945年8月、広島に原爆が投下され、ソ連が対日参戦し、さらに長崎にも原爆が投下され、日本は無条件降伏した。

## 第8問 ロシアの南下政策

【出題のねらい】

ロシアの南下政策について、Aではロシアのシベリア進出と北アメリカにおける南下政策を、Bでは地中海方面への南下政策を、Cでは西アジア・中央アジア・極東方面への南下政策を、それぞれ扱って出題した。

【設問別解説】

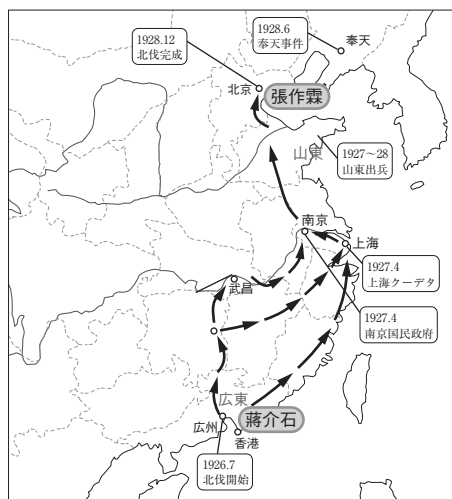
A

問1 68 ④

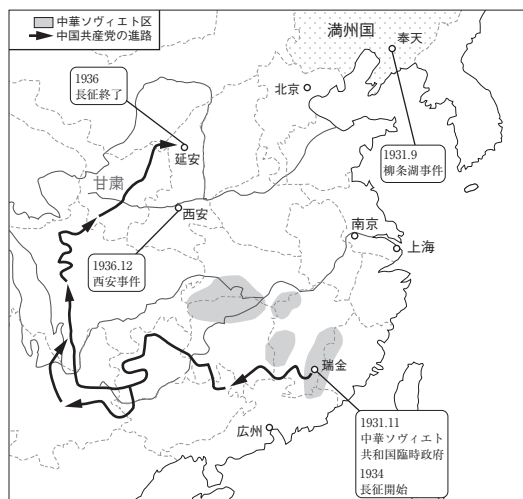
④イェルマークはコサックの首長で、16世紀後半にウラル山脈を越えてシベリアに進出した。モスクワ大公国のイヴァン4世は、このシベリアの一部を領土とし、これ以降、ロシアのシベリア征服が進展していった。①ポーランド人のコシュエシコは、18世紀後半にアメリカ独立戦争に参加したのち、第2回のポーランド分割に抵抗したが、弾圧された。②ラクスマンは、18世紀末にロマノフ朝のエカチェリーナ2世が日本に派遣した使節。③プガチョフは、エカチェリーナ2世の時代に反乱を起こしたコサックの指導者。

問2 69 ①

①オーストリアとロマノフ朝時代のロシアは、19世紀初めのアウステルリッツの戦い(三帝会戦)でフ



1920年代の中国



1930年代の中国



ランスのナポレオン1世に敗北し、これによって第3回対仏大同盟が崩壊した。②ウィーン会議後に、ロシア皇帝のピョートル1世(大帝)ではなくアレクサンドル1世が神聖同盟を提唱し、神聖同盟にはイギリス国王、ローマ教皇、オスマン帝国のスルタンを除く、ヨーロッパの君主が参加した。ロマノフ朝のピョートル1世は西欧化政策を推進した皇帝で、17世紀後半には清の康熙帝とネルチンスク条約を結んで両国の国境を画定し、18世紀前半にはスウェーデンとの北方戦争に勝利してバルト海への進出を実現した。また、北方戦争中に新都バテルブルクを建設して遷都した。③アレクサンドル2世ではなくニコライ1世が、1820年代に貴族の青年将校らが起こしたデカブリスト(十二月党员)の乱を鎮圧した。アレクサンドル2世は、クリミア戦争敗北後の1861年に農奴解放令を出した皇帝。④ロシアではなくドイツが、19世紀末にオスマン帝国からバグダード鉄道の敷設権を獲得し、ベルリン・ビザンティウム(イスタンブル)・バグダードを結ぶ3B政策を進め、カイロ・ケープタウン・カルカッタを結ぶイギリスの3C政策と対立した。ロマノフ朝の皇帝については、下の表を参照。

問3 70 ②

②メキシコから独立したテキサスをアメリカ合衆国が併合したのを機に、1840年代にアメリカ合衆国とメキシコの関係が悪化してアメリカ＝メキシコ戦争が起こった。勝利したアメリカ合衆国は、1848年にメキシコからカリフォルニアを獲得した。①アメリカ独立戦争は、ヨークタウンの戦いではなくレキシントンの戦いを発端として1775年に勃発した。ヨークタウンの戦いは、1780年代にイギリスが敗北した戦いで、その後パリ条約でイギリスはアメリカ合衆国の独立を認めた。③アメリカ合衆国の北部諸州は、自由貿易ではなく保護貿易を主張し、自由貿易を求めた南部諸州と対立した。また、奴隷制度については、北部は撤廃を、南部は存続を主張した。北部を基盤とする共和党のリンカンが大統領に就任すると、南部諸州はアメリカ連合国を結成し、1861年に南北戦争が勃発した。リンカンがホームステッド(自営農地)法で西部農民の支持を確保し、奴隷解放宣言で内外の支持を獲得すると、優勢となった北部がゲティスバーグの戦いで勝利し、1865年に北部の勝利で南北戦争は終結した。④第一次世界大戦後の1920年代に成立し、移民の受け入れを制限したのは、ワグナー法ではなく移民法である。この移民法で、日本からの移民は事実上全面的に禁止された。

皇帝名(在位)	おもな出来事など
ピョートル1世(大帝) (17C後半～18C前半)	清の康熙帝とネルチンスク条約を締結 北方戦争でスウェーデン王のカール12世に勝利 北方戦争中に新都バテルブルクを建設
エカチェリーナ2世 (18C後半)	ヴォルテールと交流した啓蒙専制君主 プガチョフの乱鎮圧後に反動化 アメリカ独立戦争で、武装中立同盟を提唱 日本にラクスマンを派遣
アレクサンドル1世 (19C前半)	アウステルリッツの戦い(三帝会戦)で敗北 ナポレオン1世のロシア(モスクワ)遠征を撃退 神聖同盟を提唱
ニコライ1世 (19C前半～半ば)	デカブリスト(十二月党员)の乱を鎮圧 ギリシア独立戦争でギリシアを支援 エジプト＝トルコ戦争でオスマン帝国を支援 クリミア戦争を起こす
アレクサンドル2世 (19C後半)	クリミア戦争に敗北してパリ条約を締結 農奴解放令を発布
ニコライ2世 (19C末～20C前半)	第1次ロシア革命後、ドゥーマ(国会)を開設 三月革命(ロシア暦二月革命)で退位し、ロマノフ朝滅亡

ロマノフ朝のおもな皇帝



ワグナー法は、アメリカ合衆国のフランクリン＝ローズヴェルト大統領が恐慌対策のニューディールの一環として1930年代に制定した法律。ニューディールでは、農業生産を制限する農業調整法(AAA)、工業生産の規制や労働者の保護などを内容とする全国産業復興法(NIRA)を制定して経済の回復をはかり、テネシー川流域開発公社(TVA)を設立して失業者の救済をめざした。ワグナー法は、全国産業復興法が違憲判決を受けたのちに労働者保護の内容を再立法したもので、労働者の団結権・団体交渉権を承認した。

## B

### 問4 71 ③

③ a オスマン帝国の、アブデュル＝ハミト2世ではなくアブデュル＝メジト1世が、19世紀前半にギュルハネ勅令を発し、行政・司法などの西欧化をめざすタンジマート(恩恵改革)を開始した。b ミドハト憲法は、オスマン帝国の宰相ミドハト＝パシャが1870年代に制定した憲法であるが、ロシア＝トルコ(露土)戦争の勃発を口実に、アブデュル＝ハミト2世が停止した。これに対し、憲法の復活を求めて「統一と進歩委員会(統一と進歩団、青年トルコ)」が結成された。

### 問5 72 ②

② ロシアは、1870年代に起こったロシア＝トルコ戦争に勝利し、**A**・サン＝ステファノ条約を結んだ。この条約で、オスマン帝国領のセルビア・モンテネグロと**I**・ルーマニアの独立が承認され、ロシアは、自治権を与えられたブルガリアに勢力をおよぼすことで地中海への南下を実現させた。これにイギリスやオーストリアが反発すると、ドイツ帝国宰相のビスマルクがベルリン会議を開いて利害を調整し、サン＝ステファノ条約を破棄して新たにベルリン条約が結ばれた。ベルリン条約では、セルビア・モンテネグロ・ルーマニアの独立は再承認されたが、ブルガリアの領域が縮小され、ロシアの南下は阻止された。また、オーストリアが①③**I**・ボスニア・ヘルツェゴヴィナの、イギリスがキプロス島の、それぞれ行政権を獲得することが認められた。のちにボスニア・ヘルツェゴヴィナは、オスマン帝国で20世紀初めに起こった青年トルコ革命を機に、オーストリアに併合された。③④**A**・パリ条約は、19世紀半ばに起こったクリミア戦争の講和条約で、黒海の中立化などが決められ、ロシアの南下政策は挫折した(問2③の解説参照)。その他のパリ条約には、七年戦争・フレンチ＝インディアン戦争などを終わらせた1763年の講和条約、イギリスがアメリカ

合衆国の独立を認めた1783年の条約(問3①の解説参照)などがある。

### 問6 73 ①

① フランスは、インド東岸にボンディシェリを、ガンジス川下流域のベンガル地方にシャンデルナゴルを建設した。一方、イギリスはインド東岸にマドラス(チェンナイ)を、西岸にボンベイ(ムンバイ)を、ベンガル地方にカルカッタ(コルカタ)を、それぞれ建設した。② プラッシーの戦いは、七年戦争中の1757年にベンガル地方で起こった戦いで、フランスとベンガル地方王侯連合軍を、クライヴが指揮したイギリス東インド会社軍が撃破した。これ以後東インド会社は、徴税権(ディーワーニー)を獲得してベンガル地方への支配を強化した。③ イギリスが1919年に制定したローラット法は、インドの自治を認めたのではなく、インドの民族運動を弾圧するための法律。これに対して国民会議派のガンディーが、非暴力・不服従運動を展開した。④ 英印円卓会議は、イギリスがインドの民族運動を懐柔するために1930年代に開催したが、この会議で全インド＝ムスリム連盟が結成されたのではない。全インド＝ムスリム連盟は、20世紀初めに国民会議カルカッタ大会で、英貨排斥・スワデーシ(国産品愛用)・スワラージ(自治獲得)・民族教育の4綱領が決議されたあと、ヒンドゥー教徒中心の国民会議派と対立させるためにイギリスが組織させた団体。

## C

### 問7 74 ④

④ カージャール朝では19世紀末、アフガーニーがとなえたパン＝イスラム主義の影響を受けて、国王の専制やイギリス資本への抵抗運動であるタバコ＝ボイコット運動が起こった。① レザー＝ハーン(レザー＝シャー)は、カージャール朝を創始したのではなく、第一次世界大戦後にカージャール朝を廃してパフレヴィー朝を創始した。② カージャール朝は19世紀前半、ロシアとカルロヴィッツ条約ではなくトルコマンチヤーイ条約を結び、アルメニアなどをロシアに割譲した。カルロヴィッツ条約は、17世紀末にオスマン帝国がオーストリアなどと結んだ条約で、この条約によってオスマン帝国はオーストリアにハンガリーを割譲した。③ サレカット＝イスラム(イスラム同盟)は、イランのカージャール朝ではなく東南アジアのオランダ領東インドで20世紀初めに結成され、オランダに対して自治を要求した。

### 問8 75 ②

② a アロー戦争(第2次アヘン戦争)は、19世紀半

ばにアロー号事件を機にイギリスとフランスが清と戦った戦争で、北京にあった円明園は戦争中にイギリス・フランス軍によって破壊された。円明園は、イエズス会のカスティリオーネが設計に参加した離宮。b アロー戦争に敗北した清は、1858年に天津条約を結んだが、戦闘が再開され、その後1860年に北京条約を結んだ。北京条約では、天津など多くの都市の開港、外国公使の北京駐在、キリスト教布教の自由のほか、膠州湾のドイツへの割譲ではなく九竜半島南部のイギリスへの割譲などが取り決められた。膠州湾は山東半島南部の地で、日清戦争後に中国分割が進むなかで、19世紀末にドイツが租借した。

問9 76 ㉓

㉓ ベトナムの**ア**・ファン＝ボイ＝チャウは20世紀初めに維新会を結成し、日露戦争での日本の勝利に影響を受けて、日本に留学生を送る**イ**・ドンズー(東遊)運動を進めたが、フランスと結んだ日本が留学生を国外に追放し、失敗に終わった。① ㉔ **ア**・アギナルドはフィリピン民族運動の指導者で、スペインからの独立を求めてフィリピン革命を進め、アメリカ＝スペイン(米西)戦争でフィリピンがアメリカ合衆国領になると、フィリピン共和国を樹立してアメリカ合衆国に対する闘争を展開したが、挫折した。② ㉕ **イ**・ラダイト運動は、産業革命期の1810年代にイギリスで起こり、産業革命で職を失った熟練労働者らが機械を打ちこわした運動。

●写真・図版提供

PPS 通信社

【解答・採点基準】

(100点満点)

問題番号	設問	解答番号	正解	配点	自己採点
第1問	A	問1	①	②	3
		問2	②	③	3
		問3	③	③	3
	B	問4	④	②	3
		問5	⑤	①	3
		問6	⑥	②	3
	第1問 自己採点小計			(18)	
第2問	A	問1	⑦	④	3
		問2	⑧	③	3
		問3	⑨	③	3
	B	問4	⑩	①	3
		問5	⑪	④	2
		問6	⑫	②	3
		問7	⑬	③	2
	第2問 自己採点小計			(19)	
第3問	A	問1	⑭	③	3
		問2	⑮	③	3
		問3	⑯	④	2
		問4	⑰	⑥	3
	B	問5	⑱	②	3
		問6	⑲	①	3
		問7	⑳	②	3
		問8	㉑	③	2
	第3問 自己採点小計			(22)	
第4問	A	問1	㉒	④	2
		問2	㉓	②	3
		問3	㉔	①	3
		問4	㉕	③	3
	B	問5	㉖	④	3
		問6	㉗	①	3
		問7	㉘	②	3
		問8	㉙	④	2
	第4問 自己採点小計			(22)	

問題番号	設問		解答番号	正解	配点	自己採点
第5問	A	問1	③	①	3	
		問2	③	④	3	
		問3	③	③	3	
	B	問4	③	③	2	
		問5	④	②	3	
		問6	④	④	2	
		問7	②	②	3	
		第5問 自己採点小計				(19)
自己採点合計				(100)		

【解説】

第1問 古代・中世前期の東北

【出題のねらい】

本問は、東北地方と中央の関係を話題とした会話文を素材に、古代～中世前期の政治を中心に問うたものである。出題形式は、センター試験の第1問が高校生や大学生を登場させた会話形式をとることが多いため、高校生と大学生の会話文とした。高2生段階ではあるが、徐々にこうした形式にも慣れていきたい。また、センター試験第1問では、本問のようにテーマ史が扱われることが多いが、そのテーマに関する特別な知識が必要なわけではないことも、この機会に知っておいてほしい。本問も基本的な知識があれば解ける問題ばかりなので、できなかった設問は、しっかりと復習しておいてほしい。

【設問別解説】

A ここでは、7世紀～9世紀の東北地方に焦点をあて、古代国家の蝦夷征討事業を中心に問うた。

問1 ① ②

正しい組合せは②。空欄「ア」には、阿倍比羅夫が入る。空欄の前後の「7世紀後半」と「秋田・津軽地方に派遣」といった情報から判断できる。なお、坂上田村麻呂は、平安時代初期に桓武天皇により征夷大將軍に任命され、蝦夷征討にあたった人物である。空欄「イ」には、桓武天皇が入る。空欄の前後の「9世紀初頭」と「征討事業」が「停止される」から判断したい。センター試験レベルでは、桓武天皇が805年の徳政相論(論争)により蝦夷征討事業を停止したという事項はやや難度が高いが、元明天皇は、平城京遷都時の天皇であり、奈良時代初期(8世紀初頭)の天皇であることから、こちらを排除

してもよい。

問2 **2** ③

正しいものは③。律令制下、中央から任期制で派遣された国司が地方政治の統轄にあたった。また地方豪族から世襲制・終身制で任命された郡司が、国司の監督のもと戸籍の作成や徴税などの実務を担当した。①は誤っている。律令制下の中央官制では、太政官が国政全般を統括し、そのもとに八省が置かれて政務を分担した。神祇官は神々の祭祀をつかさどった。②も誤っている。八省のうち中務省は天皇の命令である詔勅の作成などにあたった。戸籍の管理などおもに民政を担当したのは民部省である。八省ではこの他に、文官の人事や大学の管理を担当する式部省を押さえておきたい。その他の中央官庁として、風俗の取り締まりや官吏の監察にあたる弾正台などがある。④も誤っている。「外交・国防の要地」は、九州北部であり、西海道に属する。大宰府は現在の九州にあたる西海道諸国を統轄する官庁である。「南海道」は、現在の四国などである。この他にも要地である京と難波津にはそれぞれ、京内の行政を管轄する京職、難波津の管理にあたる摂津職が置かれた。

問3 **3** ③

正しい組合せは③。Xの「8世紀前半、出羽国に秋田城が置かれた」という事項そのものは、やや難度が高いが、出羽国が概ね現在の秋田・山形県に相当するということと、a(磐舟柵)が現在の新潟県であるということをあわせて考えれば、地図上のbの地点を選ぶことができるだろう。Yの胆沢城は、問1で既出の坂上田村麻呂が地図上のcの地に設置した城柵で、地図上のdの多賀城から鎮守府が移された。これは蝦夷征討の拠点が北上し、律令国家の支配領域が拡大したことを示している。以下に古代の蝦夷征討事業についてまとめておくので、地理的情報も参照しつつ、展開を確認しておいてほしい。

◆古代の蝦夷征討事業

- 大化改新後(7世紀半ば～後半)
  - 孝徳朝：淳足柵・磐舟柵の設置
  - 斉明朝：阿倍比羅夫を秋田・津軽地方に派遣
- 奈良時代前半(8世紀前半)
  - 元明朝：出羽国の設置
  - 聖武朝：多賀城の設置
    - 陸奥国府・鎮守府を設置
- 奈良時代末～平安初期(8世紀末～9世紀初頭)
  - 光仁朝：伊治磐麻呂の乱
  - 桓武朝：征夷大將軍坂上田村麻呂の遠征
    - 族長の阿弭流為を屈服
    - 胆沢城の設置 鎮守府を移す
    - 徳政相論(論争)
    - 蝦夷征討と平安京造営を停止
  - 嵯峨朝：文室綿麻呂の遠征

B ここでは、おもに11・12世紀の東北地方に焦点をあて、奥州藤原氏や鎌倉幕府について問うた。

問4 **4** ②

正しい組合せは②。前九年合戦・後三年合戦についての理解を問うた。Xは正しい。11世紀半ば、陸奥で強大な勢力をもった安倍氏の反乱を、源頼義・義家父子が出羽の豪族の清原氏の援助をうけ鎮圧した(前九年合戦)。Yは誤っている。前九年合戦後、陸奥・出羽で勢力を得た清原氏に内紛が発生した。これに介入して戦乱を鎮圧したのは義家である。2つの戦乱を通して東国武士との主従関係を強化した源氏は、東国における基盤を固めた。なお、源頼信は11世紀前半に東国で発生した平忠常の乱を鎮圧した人物である。また、本問とは直接関係ないが、源義家の後、清和源氏は一時勢力を後退させ、かわって院と結んだ桓武平氏が台頭した。以下に武士の台頭についてまとめておいたので、参考にしてほしい。

## ◆武士の台頭

[清和源氏の台頭 摂関家と結ぶ]

- ・源経基 藤原純友の乱の鎮圧に関わる
- ・源満仲 安和の変で摂関家に接近
- ・源頼信 平忠常の乱を鎮圧  
→清和源氏の東国進出の契機
- ・源頼義 前九年合戦を鎮圧
- ・源義家 後三年合戦を平定  
→東国武士団の棟梁となる

[桓武平氏の台頭 院と結ぶ]

- ・平正盛 白河上皇が北面の武士に登用
- ・平忠盛 鳥羽上皇の院の近臣
- ・平清盛 保元・平治の乱に勝利  
→平氏政権成立へ

### 問5 ⑤ ①

正しい組合せは①。空欄「ウ」には、平泉が入る。

問4で問った前九年合戦・後三年合戦を経て、東北地方に勢力を築いた奥州藤原氏は、陸奥の平泉(岩手県)に拠点を置いた。「十三湊」は、Bブロックの後半に登場する津軽地方の豪族安藤(安東)氏の拠点である。空欄「エ」には、金が入る。空欄の少し前に「中尊寺のお堂の中の様子」とあり、そこから「金色堂」を想起し、解答の糸口としたい。陸奥国は古代以来の産金地帯で、8世紀半ばに開眼供養が行われた東大寺大仏の鍍金にも陸奥国で産出した金を用いられた。また、中尊寺金色堂(阿弥陀堂)であり、陸奥の白水阿弥陀堂(福島県)や豊後の富貴寺大堂(大分県)などとともに、院政期における浄土教の地方波及の事例としても重要である。

### 問6 ⑥ ②

正しい配列は②。鎌倉幕府の政治機構については、源平の争乱や、幕府と朝廷との関係など、その時々の政治状況を意識しつつ、設置の経緯を押さえたい。以下、時代順に説明する。Ⅰ以仁王が平氏政権打倒をよびかけたことに応じ、源頼朝が東国で挙兵した(1180年)。鎌倉を拠点として東国の武士との主従関係の確立に努めた頼朝は、御家人の統率機関として侍所を設置し、和田義盛を別当(長官)に任命した。Ⅲ平氏が壇ノ浦の戦い(1185年)で滅びた後、平氏追討で戦功をあげた源義経と頼朝の対立が生じた。後白河法皇はこの対立に乗じて義経に頼朝追討の命令を下すが、頼朝は北条時政を京都に派遣し、法皇に圧力をかけて、義経追捕を名目として全国に守護・地頭を設置する権限を獲得した。Ⅱ朝廷の勢力挽回を図った後鳥羽上皇は、源実朝の暗殺を機に朝幕関係が不安定になったことをうけ、1221年に北

条義時追討の兵をあげた(承久の乱)。これに対し、幕府からは北条泰時・時房らが派遣され、幕府軍の圧倒的勝利により乱は終息した。乱の結果、京都には六波羅探題が置かれ、朝廷の監視や西国御家人の統轄にあたることとなった。

## 第2問 原始・古代の食料獲得手段の変遷

### 【出題のねらい】

本問は旧石器～古墳時代における食料獲得手段の変遷を素材として、当該期の社会などについて問うたものである。狩猟・漁労など採集中心の生活が、水稻耕作という生産の段階に移行・展開することで、当該期の社会がどのように変化したのかを考えて、理解を深めてほしい。

### 【設問別解説】

A 縄文時代の食料獲得手段である狩猟や自然環境の変化、縄文人の信仰について問うた。

### 問1 ⑦ ④

正しい組合せは④。aは誤っている。ナウマンゾウやオオツノジカなどの大型動物が狩猟対象だったのは、旧石器時代である。旧石器時代の人々はナイフ型石器や尖頭器を先端につけた石槍を用いて、大型動物を捕えた。bは正しい。縄文時代にはナウマンゾウなどの大型動物は絶滅し、ニホンシカ・イノシシなどの中小型動物が狩猟対象となった。cは誤っている。細石器が現れたのは、旧石器時代の終わりごろである。dは正しい。ニホンシカ・イノシシなどの中小型動物は動きが素早く石槍での狩猟は難しかったため、弓矢が用いられるようになった。矢の先端には黒曜石などを加工した石鏃が装着された。なお、弓矢の使用は縄文時代の大切なポイントなので、しっかりおさえておきたい。

### 問2 ⑧ ③

正しい組合せは③。Xは誤っている。落葉広葉樹林と針葉樹林が逆である。寒冷だった旧石器時代にはおもに亜寒帯性の針葉樹林が広がっていたが、温暖な気候に変化した縄文時代には、東日本には落葉広葉樹林が、西日本には照葉樹林が広がり、クリ・クルミなど食用可能な木の実が豊富に採集できるようになった。Yは正しい。温暖化により海水面が上昇し、日本列島が形成された。そして、海岸線が陸地に入り込み、入江が発達したため漁労がさかんになった。縄文時代の遺跡として貝塚が多く発見されていることから、海産物がさかんに摂取されたことがわかる。なお、関東地方内陸部の台地上に縄文時代の貝塚が多くみられるが、これは当時の海岸線が内陸まで入り込んでいたことを示している。



## ◆自然環境の変化と食料獲得手段

### 気候の変化

旧石器時代……寒冷な気候

縄文時代……温暖な気候

### 温暖化による自然環境の変化

#### ○生息する動物の変化

旧石器時代……大型動物が多く生息

縄文時代……中小型動物が増える

→狩猟における弓矢の使用

#### ○植生の変化

旧石器時代……針葉樹林

縄文時代……東日本は落葉広葉樹林

西日本は照葉樹林

→食用可能な木の実の採集

#### ○海水面の上昇

縄文時代に現在に近い形の日本列島が形成

海岸線が陸地に入り込む→漁労が発達

### 問3 9 ③

正しいものは③。③は土偶で、縄文時代の信仰に関するものである。土偶は女性をかたどったものが多いが、それは出産や豊かな収穫などを願ってのことと考えられている。なお、①の銅剣、②の銅鐸は弥生時代に用いられた青銅製祭器である。④の埴輪は古墳時代に古墳の埴丘などに並べられた。

B 弥生～古墳時代のおもな食料獲得手段である水稻耕作の技術やその展開を中心に、弥生時代の社会の変化、古墳時代の渡来人が果たした役割についても確認した。

### 問4 10 ①

誤っているものは①。弥生時代前期は低湿地に湿地が営まれ、後期になると鉄製刃先の鍬・鋤の普及により、生産性の高い乾田の開発が進んだ。②は正しい。弥生時代の水田で田植えが行われていたことは、岡山県の百間川遺跡などで確認されている。③も正しい。稲の収穫は、石包丁を用いて穂先を摘みとる穂首刈りにより行われた。なお、弥生時代後期には鉄鎌による収穫が行われるようになった。④も正しい。収穫された稲は高床倉庫や貯蔵穴に保存された。静岡県登呂遺跡などから、高床倉庫の跡が見つかっている。

## ◆水稻耕作の発展と農具

### ○弥生時代前期

水田……地下水位の高い湿地

農具……木製の鍬・鋤で耕作

田下駄なども使用

収穫……石包丁による穂首刈り

### ○弥生時代後期

水田……灌漑施設を要する乾田も開発(生産性が高い)

農具……鉄製刃先の鍬・鋤も使用

収穫……鉄鎌を使用

### 問5 11 ④

正しい組合せは④。空欄アには、東北地方が入る。青森県の砂沢遺跡では弥生時代前期の水田跡が、また、同県の垂柳遺跡では中期の水田跡が発見されている。なお、北海道には水稻耕作などの弥生文化は及ばず、続縄文文化とよばれる食料採集文化が続いた。空欄イには、群集墳が入る。古墳時代後期の6世紀には、一定地域に小規模な円墳などが多数群集する群集墳が築かれた。これは有力農民が台頭し、古墳を築くようになったことによると考えられている。なお、埴丘墓は弥生時代に築かれた盛り土をとまなう支配者層の墓である。

### 問6 12 ②

正しい組合せは②。Xは正しい。農耕社会が成立すると、蓄積された余剰生産物などをめぐり戦いが始まり、防御的施設である濠や土塁を備えた環濠集落が出現した。佐賀県の古野ヶ里遺跡や奈良県の唐古・鍵遺跡などが代表例である。また、瀬戸内海沿岸を中心とする西日本の丘陵や山頂に位置する高地性集落も、見張りなど防御的機能をもつ集落と考えられている。Yは誤っている。農耕社会の成立により支配者が出現したのは正しいが、支配者の墓である埴丘墓などの副葬品に馬具は含まれない。馬具は、古墳時代に馬の飼育や騎馬技術が渡来人などを通じて伝わり、古墳時代中期以降、おもな副葬品の一つとなった。

### 問7 13 ③

正しい組合せは③。X渡来系氏族名が問われており、「弓月君を祖とする」のは秦氏である。弓月君は、4～5世紀頃に渡来して養蚕や機織を伝えたとされる。秦氏は現在の京都市西部に居住し、進んだ土木・治水技術により灌漑のための堰を築き桂川流域を開発し、推古天皇の時代に氏寺として広隆寺を建立した。なお、大伴氏は軍事を職掌とする有力豪族であり、渡来系氏族ではない。Yおもに朝鮮半島

からやってきた渡来人たちは、様々な技術をもって  
いたが、ヤマト政権は技術別に集団に組織して、各  
地に居住させた。そのうち鉄器など金属加工技術を  
もつ者は韓鍛冶部に組織された。錦織部は高級織物  
の生産技術者の集団である。

### 第3問 古代国家と仏教

#### 【出題のねらい】

古代文化史の軸となる仏教史を中心に、当該期の政  
治史もあわせて問うた。文化史の学習というと、代表  
的な人物や作品を覚えるだけに終始する生徒が多い  
が、かえって効率が悪い。常に政治的・社会的背景を  
意識した学習をしたい。同時代の他分野との関係を理  
解しながら覚えていけば、知識を体系的に定着させる  
ことが出来る。本問を、今後の文化史学習の参考とし  
て利用してほしい。

#### 【設問別解説】

A 6世紀に仏教が公式に伝わり、飛鳥文化の時期の  
氏族仏教の段階を経て、白鳳文化の時期に国家仏教  
が成立するまでを扱った。

問1 14 ③

正しい組合せは③。空欄「ア」には、欽明天皇が  
入る。欽明天皇は6世紀の天皇であり、百済の聖明  
王から仏像や経論を伝えられた。その年代について  
は諸説あり、『上宮聖徳法王帝説』などでは538年、  
『日本書紀』では552年とされている。雄略天皇は5  
世紀の天皇であり、『宋書』倭国伝に見える「倭王  
武」(478年、宋皇帝に上表文を提出)や、埼玉県稻  
荷山古墳出土鉄剣銘に見える「ワカタケル大王」と  
同一人物とされる。空欄「イ」には、薬師寺が入る。  
天武天皇は、官立大寺院として薬師寺の建立を始め  
るなど、律令国家の建設と並行して仏教興隆を国家  
的に推進した。薬師寺は、天武が皇后(のちの持統  
天皇)の病氣平癒を願って建てたものである。興福  
寺は藤原氏の氏寺で、奈良時代には南都七大寺の一  
つとして栄えた。

問2 15 ②

正しい組合せは②。Xは誤っている。仏教公伝に  
際し、物部氏は伝統的な神祇信仰を重んじる立場か  
ら、仏教受容に反対の立場をとった。一方、蘇我氏  
は渡来人と結んで先進文化の摂取をはかり、仏教受  
容に積極的な立場をとった。両者の対立は、政治の  
主導権争いとも絡んで激しくなり、587年に大臣の  
蘇我馬子が大連の物部守屋を滅ぼした。Yは正しい。  
飛鳥文化の時期の仏教は呪術の一種として受容さ  
れ、豪族は一族の繁栄などを願って氏寺を建立し、  
氏寺は古墳に代わり豪族の権威を示すものと

なった。蘇我馬子は、礎石・瓦を用いた塔・金堂な  
どの本格的伽藍をもつ初めての寺院として法興寺  
(飛鳥寺)を建立した。氏寺としては、厩戸王(聖徳  
太子)の創建による四天王寺(大阪)・法隆寺(奈良)  
や、秦氏の広隆寺(京都)などを知っておきたい。

問3 16 ④

正しいものは④。代表的な仏像の図版は、その名  
称を想起できるようにするとともに、どの時期の文  
化に属するのかも判別できるようにしておこう。④  
が飛鳥文化の法隆寺金堂釈迦三尊像で、鞍作鳥によ  
り制作された金銅像である。彼が制作したとされる  
金銅像には、他に飛鳥寺釈迦如来像がある。①は弘  
仁・貞観文化の観心寺如意輪観音像で、密教の影響  
を受けた神秘的な雰囲気をもつ。②は天平文化の興  
福寺阿修羅像で、三面六臂(3つの顔に6本の腕)の  
仏像であり、表面を漆で塗り固めて制作された乾漆  
像である。③は国風文化の平等院鳳凰堂阿弥陀如来  
像で、浄土教の信仰の対象である阿弥陀仏を表現し  
た仏像であり、定朝が完成させた寄木造の技法で制  
作されている。

問4 17 ⑥

正しい配列は⑥。645年の乙巳の変で蘇我蝦夷・  
入鹿が滅ばされ、翌年の改新の詔で公地公民制の方  
針などが示されるとともに、中大兄皇子への権力集  
中が進んだ。百済滅亡後、その復興を支援するため  
大軍を派遣したが、663年の白村江の戦いで唐・新  
羅連合軍に惨敗した。これを機に国防強化と内政充  
実がはかられ、中大兄皇子は近江大津宮に遷都する  
とともに天智天皇として即位し、670年に初の全国  
的戸籍となる庚午年籍を作成した(Ⅲ)。天智天皇の  
死後、その後継をめぐる672年に壬申の乱が起こ  
り、大友皇子(天智の子)を倒した大海人皇子(天智  
の弟)が飛鳥浄御原宮で即位して天武天皇となり、  
豪族を抑えて天皇を中心とする中央集権化を推進し  
た。彼は国家体制整備の一環として富本銭の鑄造を  
行い(Ⅱ)、律令・国史の編纂開始を命じた。天武天  
皇の死後、皇后が持統天皇として即位して天武天皇  
の事業を継承した。飛鳥浄御原令を施行し(Ⅰ)、中  
国の条坊制を採用した藤原京への遷都を実施した。

B 天平文化の時期の国家仏教の発展と平安時代の天  
台・真言宗の隆盛を扱った。

問5 18 ②

正しい組合せは②。下線部に「鎮護国家思想」や  
「国家的な大事業」などとあり、かつ入試頻出の史  
料であることから、国分寺建立の詔であると判断で  
きてほしい。aは正しい。聖武天皇の治世下では、  
天然痘が流行し、政権を主導していた藤原4兄弟

(武智麻呂・房前・宇合・麻呂)が相次いで病死したり、次の橘諸兄政権のときに藤原広嗣が吉備真備・玄昉の排除を求めて九州で反乱を起こしたり(740年藤原広嗣の乱)と、政情不安や疫病などによる社会不安が高まっていた。そうした状況を受けて、聖武天皇は平城京から恭仁京に遷都するとともに、仏教の力で国家の安定をはかろうとし、741年に国分寺建立の詔を出して国分寺・国分尼寺を国ごとにつくらせた。**b**は誤っている。近江国紫香楽宮で出されたのは743年の大仏造立の詔である。**c**は誤っている。「朕」は聖武天皇で、文武天皇は701年の大宝律令制定時の天皇である。**d**は正しい。史料文中に「尼寺」とあることから、「法華滅罪之寺」は国分尼寺を指すと判断できる。

問6 **19** ①

正しい組合せは①。**X**は正しい。橘諸兄ののちに政権を主導した藤原仲麻呂は、橘奈良麻呂の変で反対勢力を抑えたのち、孝謙天皇に代わり淳仁天皇を擁立し、恵美押勝の名を賜り、権力を掌握した。しかし、後ろ盾であった光明皇太后が死去し、一方で道鏡が孝謙上皇の信頼を得るようになり、恵美押勝(藤原仲麻呂)・淳仁天皇と道鏡・孝謙上皇の対立が深まった。**Y**は正しい。764年、恵美押勝が挙兵したが孝謙上皇側に滅ばされ(恵美押勝の乱)、廃された淳仁天皇に代わって孝謙上皇が再び即位して称徳天皇となった。その支持を得た道鏡は、太政大臣・禪師、さらに法王となって権力を握った。道鏡は、九州の宇佐八幡宮の神託を利用して皇位につこうとしたが、神意を確認するため派遣された和気清麻呂が逆の内容を報告したため、その試みは挫折した。

問7 **20** ②

正しい組合せは②。桓武天皇は、律令制再建事業の一環として軍制改革を行った。東北や九州などの地域を除いて軍団と兵士を廃止し、国府の守備などを担うものとして、郡司の子弟を健児として組織した(**X** — **a**)。また、国司交替の際の不正を防止するため、新任国司と前任国司との間の事務引き継ぎを監督する勘解由使を設けた。これは、令に定められていない令外官として設けられたものである(**Y** — **d**)。なお、**b**の衛士は公民から徴発されて都の警備を担うものである。**c**の検非違使は嵯峨天皇が設けた令外官で、京内の治安維持を担うものである。桓武天皇の政策と嵯峨天皇の政策は間違えやすいので、以下のまとめを参考にしてほしい。

◆桓武天皇と嵯峨天皇の政策

○桓武天皇

遷都事業

長岡京へ遷都(784)

平安京へ遷都(794)

律令制の再建

雑徭の半減など農民の負担軽減

班田の励行

軍団廃止→健児の制(郡司の子弟を採用)

令外官の設置

征夷大將軍…蝦夷征討の最高責任者

勘解由使…国司交替の引継ぎを監督

○嵯峨天皇

令外官の設置

藏人頭…天皇の機密に参与する

(810年の葉子の変に際し藤原冬嗣を任命)

検非違使…京内の治安維持にあたる

法制の整備

弘仁格式…格・式を整理・編纂

問8 **21** ③

誤っているものは③。弘仁・貞観文化の時期の仏教は、最澄・空海がそれぞれ中国からもたらした天台宗・真言宗が中心となった。天台宗は法華経を中心経典としたが、最澄の死後、その門流の円仁・円珍によって天台宗に密教が本格的に取り入れられた(台密)。したがって、選択肢の「空海の弟子」「真言宗の密教化」の部分が誤りとなる。①は正しい。正式な僧侶となるための授戒の制度は、奈良時代に鑑真が唐から戒律をもたらしたことで整備が進み、東大寺に授戒の場として戒壇が設けられた(戒壇は下野薬師寺と筑紫観世音寺にも設けられた)。これに対し、最澄は独自の大乗戒壇の創設をめざし、南都仏教の勢力との論争を重ねた。彼の死後、大乗戒壇の設立が認められ、比叡山延暦寺は仏教教学の中心となっていった。②も正しい。空海は唐からの帰国後、高野山に金剛峰寺を建てて真言宗を開く一方、嵯峨天皇の保護を受けた。空海が平安京内に与えられた教王護国寺(東寺)は、密教の根本道場として発展していった。④も正しい。弘仁・貞観文化の時期の密教美術としては、大日如来を中心とした密教の宇宙観を仏の配置で表現した曼荼羅や、仏教を屈伏させる怒りを表現した不動明王像などがある。教王護国寺両界曼荼羅や園城寺不動明王像(黄不動)が代表的作品である。

## 第4問 菅原道真と藤原道長

### 【出題のねらい】

本問は、平安時代の2人の人物、菅原道真と藤原道長の人物史を素材に、平安時代前・中期を総合的に問うた。人物史を素材とすることは、センター試験でもよくあるが、その人物について特別な知識が必要なわけではない。漢文学の素養が重視された時代に、文人官僚として活躍した道真と、一族間の内紛を乗り切りながら天皇家との外戚関係を確立し、摂関政治の全盛期を築いた道長という好対照をなす2人の人物の足跡を追いながら、当該期の政治動向や社会の諸相の変化などを確認してほしい。

### 【設問別解説】

A 文人官僚の菅原道真に焦点をあてつつ、平安時代前期の諸相を広く扱った。

問1 22 ④

正しい組合せは④。空欄アには、凌雲集が入る。初の勅撰漢詩集で判断できたと思う。漢詩文が隆盛した弘仁・貞観文化の時期には、他に『文華秀麗集』や『経国集』が勅撰漢詩集としてまとめられた。また、空海の漢詩などを集成した『性霊集』もおさえておきたい。なお、『懐風藻』は、奈良時代に編纂された現存最古の漢詩集である。空欄イには、藤原時平が入る。最初の空欄では判断できなくても、2度目以降の空欄の前後で、醍醐天皇の治世下の「左大臣」で、道真を左遷に追い込んだ人物と判断できる。なお、藤原基経は、時平の父であり、宇多天皇の関白になる際に阿衡の紛議を起こしたことで知られる。

問2 23 ②

正しい配列は②。以下、年代順に説明していこう。Ⅰは「藤原冬嗣」などがキーワードであり、薬子の変(平城太上天皇の変)に関する文である。810年、平城上皇の寵を得た藤原薬子が、兄の仲成とともに上皇の重祚と平城京への遷都を企てた。嵯峨天皇は、藤原冬嗣らを蔵人頭に任じて機密保持をはかるなどして、この動きを抑えた。Ⅲは「承和の変」がキーワードである。842年、嵯峨上皇の没直後、伴健岑・橘逸勢らが仁明天皇の皇太子恒貞親王を擁して謀反を企てたとして、二人は流罪に処せられ、恒貞親王は皇太子を廃された。事件後、藤原良房の甥の道康親王が皇太子となり、この後、良房は娘を皇太子妃とし、天皇家との関係を深めた。Ⅱは「応天門」、「藤原良房」などがキーワードである。866年、大内裏の朝堂院の南面正門である応天門の炎上事件により、大納言伴善男らが放火犯であるとされ、流罪となった。この事件に際して、藤原良房

が正式に摂政に就任した。なお、この事件の様子は、院政期文化の絵巻物『伴大納言絵巻』に描かれている。

### ◆平安時代の政変と藤原北家の台頭

薬子の変(平城太上天皇の変) (810)

平城上皇と嵯峨天皇の対立

平城上皇：藤原薬子・仲成と重祚などを画策

嵯峨天皇：藤原冬嗣らを蔵人頭に任命

→藤原式家没落・藤原北家興隆の契機

承和の変 (842)

伴健岑・橘逸勢らが排斥される

道康親王(藤原良房の甥)が立太子

応天門の変 (866)

伴善男らが排斥される

藤原良房が正式に摂政に任じられる

阿衡の紛議 (887~888)

藤原基経が宇多天皇に勅書を撤回させる

→関白としての政治的地位が確立

菅原道真の左遷 (901)

藤原時平により菅原道真が大宰府に左遷される

安和の変 (969)

醍醐天皇の子源高明が大宰府に左遷される

→藤原北家による他氏排斥完了 摂関常置へ

問3 24 ①

誤っているものは①。遣唐使の派遣は630年、舒明天皇の時代に開始された。センター試験レベルでは舒明天皇を覚える必要はなく、天武天皇の時期ではないことを判断できればよい。なお、遣唐使は天武・持統天皇期は派遣されておらず、文武天皇期に再開されている。②は正しい。留学生としては阿倍仲麻呂や吉備真備らが著名。仲麻呂は帰国できず、唐で活躍した。③も正しい。8世紀に入り、日本と新羅との関係が悪化すると、遣唐使船の航路は、それまでの安全な北路(朝鮮半島西岸を通航)から、より危険な南路へと変更せざるを得なくなった。④も正しい。第3問問8(21)でも述べたが、奈良時代に唐僧鑑真が来日し、日本に戒律を伝えるなどした。鑑真は、日本からの招請に応え来日を決意し、数度の失敗ののち、帰国する遣唐使船に乗り、ようやく来日を果たした。

問4 25 ③

正しい組合せは③。醍醐天皇の治世は、摂政・関白を置かず、天皇親政の形をとり、のちに「延喜の治」と称された。aは誤っている。醍醐天皇の勅命による初の勅撰和歌集は『古今和歌集』であり、『新古今和歌集』ではない。『新古今和歌集』は、鎌



倉時代前期、後鳥羽上皇の命で編纂された。bは正しい。六国史は、奈良・平安時代に編纂された6つの勅撰史書の総称で、『日本書紀』に始まり、この『日本三代実録』が最後である。cは正しい。醍醐天皇により、最初の荘園整理令である延喜の荘園整理令が出された。dは誤っている。大宰府管内に公営田が設置されたのは9世紀前半である。

B 天皇家との婚姻政策を進め、天皇の外戚として権力を掌握した藤原道長とその時代の諸相について広く扱った。

問5 26 ④

正しい組合せは④。空欄[ウ]には、氏長者が入る。氏長者とは、氏の首長であり、氏中の官位第一の人物となるのが原則であり、氏神の祭祀、氏寺の管理、大学別曹や氏共有財産の管理などをつかさどった。藤原氏の氏長者は、氏神春日神社・氏寺興福寺での祭祀供養や勸学院の管理などに当たった。棟梁は、武士団の統率者を示す語である。空欄[エ]には、法成寺が入る。法成寺は、藤原道長が建立した阿弥陀堂を中心とする寺院である。道長は「御堂閏白」とよばれたが、この「御堂」とは法成寺のことである。なお、平等院は宇治にあった藤原氏の別荘を道長の子頼通が寺院に改めた。

問6 27 ①

正しい組合せは①。Xは、天皇の幼少時に政務を代行する地位であるから、aの摂政である。bの閏白は、天皇の成人後に政務を補佐した。Yは、内裏で実施された公卿会議のことであるから、cの陣定である。内裏の近衛の陣で開催されたことから、こうよばれた。陣定は、やや難度が高い用語であるが、dの遙任が、赴任せず在京して国司の収入のみを受け取ることだから、こちらを排除することでも正答を得ることができる。

問7 28 ②

正しい組合せは②。Xは正しい。史料1行目に「皇后」とあるが、(注2)から、実際には中宮であったことがわかる。なお、威子の入内先は、後一条天皇であった。Yは誤っている。史料の展開から「太閤」が道長であることは判断できよう。したがって、道長の和歌に対し、史料5～6行目の「余」、すなわち日記の記主藤原実實が「御歌優美なり。酬答に方無し」と応えているので、返歌をよまなかったことは読解できたと思う。

問8 29 ④

誤っているものは④。和様書道の能書家として知られるのは、小野道風・藤原佐理・藤原行成であり、三蹟とよばれた。三筆は、嵯峨天皇・空海・橘

逸勢であり、弘仁・貞観文化期の唐風書道の名手であった。①は正しい。清少納言は、一条天皇の中宮(皇后)定子に仕え、随筆『枕草子』を著した。なお、同じく一条天皇の中宮であった彰子に仕えた人物として、『源氏物語』を著した紫式部も重要である。②も正しい。国風文化期には、仮名文学が隆盛し、『竹取物語』や『伊勢物語』が著された。③も正しい。日記文学では、紀貫之の『土佐日記』が知られる。同書は、貫之が任国の土佐を出発して京都に到着するまでの見聞などを、女性に仮託して仮名で書いたものである。

## 第5問 中世の対外関係

### 【出題のねらい】

本問では、中世前期(おもに鎌倉時代)の対外関係について、日中関係を中心に扱った。10世紀以降、日本は諸外国と正式な国交を結ばない状態となったが、交流自体は活発に行われており、それは様々な面で日本に影響を及ぼしていた。それらを確認していきたい。

### 【設問別解説】

A 日宋関係を中心にとりあげた。公的な国家間の使節往来がなくなった時代では、私貿易がその交流の中心となった。宋成立以前も中国との私貿易は行われていたが、日宋間でも宋船が日本に来航する形で貿易が活発に行われた。ここではこうした交流が日本の社会・経済・文化に与えた影響を確認した。

問1 30 ①

正しい組合せは①。空欄[ア]には、平清盛が入る。平清盛は日宋貿易の利潤に着目し、活性化をはかった。従来、貿易は宋船が博多に来航し大宰府を中心に行われていたが、平清盛は、貿易船を畿内まで招き入れることができるように瀬戸内海航路を整備し、瀬戸内海交通における船舶の停泊場所であった摂津国の大輪田泊を修築した。平忠常は、11世紀前半に関東で反乱を起こした武士である。空欄[イ]には、大仏様が入る。東大寺再建の責任者であった重源は、宋出身の工人陳和卿の力を借りて大仏殿や南大門など主要な堂舎を再建していった。当時のものとしては、南大門が残っている。禅宗様は鎌倉時代に禅宗とともに日本に流入した建築様式で、円覚寺舍利殿などに採用されている。



◆鎌倉文化の建築様式・作品

大仏様…大陸的な雄大さ、豪放な力強さが特色  
東大寺南大門  
禅宗様…整然とした美しさが特色  
禅宗寺院に多い建築様式  
円覚寺舍利殿

問2 [31] ④

誤っているものは④。鎌倉時代に金融業を営んだのは借上である。問丸は港湾や都市に居住した運送業者で、諸国の荘園からの年貢などの保管・運搬などに従事した。①は正しい。荘園・公領からの年貢・公事は米や手工業品などが現物で納入されていたが、商品・貨幣経済の発展に伴って銭の流通量や使用頻度が増えたことなどにより、貨幣で納入する代銭納が行われるようになった。②も正しい。遠隔地の荘園などからの貢納物を運搬する煩わしさを除くため、決済には「割符」とよばれる手形が用いられるようになった。この仕組みを為替という。③も正しい。鎌倉時代になると、地方でも月に3回、特定の日(例えば、四のつく日など)に定期的に市が開かれるようになり、年貢や余剰作物などの売買が行われた。これを三斎市という。

問3 [32] ③

正しい組合せは③。**a**は誤っている。臨済宗を伝えた栄西は、北条政子や源頼家などの鎌倉幕府の要人の支持を得て布教を行った。源頼家の援助を受けて栄西が京都に開いた寺院は建仁寺である。本願寺は親鸞を開祖とする浄土真宗の中心的な寺院である。**b**は正しい。禅宗の一派である臨済宗では、坐禅を組んで修行を行う際に、中国の禅僧たちの問答や逸話など公案とよばれる課題を思考し、悟りに至る手助けとした。**c**は正しい。曹洞宗を伝えた道元は権力者との癒着を避けて修行を行うため、門人や懇意の地方武士らの勧めにより越前に永平寺を開いた。**d**は誤っている。道元は『正法眼蔵』を著して、公案の思考なども用いずにただひたすら坐禅を組んで修行を行う只管打坐を説いた。『選択本願念仏集』は浄土宗を開いた法然の著作である。

**B** 日元関係を中心にとりあげた。13世紀、高麗や宋を圧迫して膨張を続けるモンゴルは、国号を中国風の元とした。ここでは元寇という13世紀後半の対外戦争と、その日本社会への影響を確認した。なお、本問では触れないが、日元関係は元寇ばかりではなく、政治的緊張が強まる元寇の時期以外は私貿易が行われるなど、人と物の往来が行われていたことも知っておきたい。

問4 [33] ⑨

正しい組合せは⑨。空欄[ウ]には、高麗が入る。高麗は10世紀前半に新羅を倒して建国され、13世紀にはモンゴル帝国の侵入を受け、その支配下に入ったが、国自体は14世紀末に李成桂に滅ぼされるまで存続した。高句麗は朝鮮半島北部から中国東北部にかけて存在した国家で、7世紀後半に唐・新羅連合軍によって滅ぼされた。空欄[エ]には、北条時宗が入る。鎌倉幕府の8代執権北条時宗は、フビライからの朝貢要求黙殺を決定し、元寇に際しては御家人たちに防衛を指示するなど対応にあたった。なお、北条時頼は5代執権である。

問5 [34] ②

正しい組合せは②。高麗を支配下に置いた元は、日本攻略の基地として高麗を利用し、日本侵攻の際も高麗から出発した。1274年、元・高麗軍はまず(㉔)対馬の小茂田浜(地図上のア)に上陸し、対馬の宗氏らと戦い、続いて壱岐(イ)を襲撃し、平戸(ウ)を経由して、さらに(㉕)博多(地図上のエ)に上陸して御家人らとの戦闘になった。この戦火により博多の町は焼失するなど大きな損害を受けたが、結局、元・高麗軍は撤退した。これを文永の役とよぶ。なお、高2生の段階ではウがどこを示しているのか判断できなくても、対馬と壱岐の場所の区別、博多の場所の確認ができていればよい。

問6 [35] ④

誤っているものは④。鎌倉幕府が鎮西探題を設置したのは1293年であり、2度目の蒙古襲来(弘安の役)の10年以上後のことである。鎮西探題は、九州における御家人の統率や訴訟をつかさどる重要な機関であり、北条氏一門が派遣されたことで、北条氏の権力強化につながった。①は正しい。文永の役後、異国警固番役が強化され、九州の御家人および九州に所領をもつ御家人などが分担した。②も正しい。文永の役の後、元軍の再来に備え、その上陸を阻むため、御家人たちの負担によって博多湾沿岸に石塁が築かれた。③も正しい。蒙古襲来という対外的な危機に備えるため、従来幕府の統率下にはなかった非御家人(鎌倉幕府の将軍と主従関係を結んでいない武士)も動員できる権限を幕府は朝廷から獲得した。他にも幕府は、荘園領主(本所)が支配する本所一円地からの物資徴発権なども獲得している。

問7 [36] ②

正しい組合せは②。**X**は正しい。御家人は「御恩」として支配を認められた土地の収益を確保していたが、土地は分割して子孫に相続されたため、代

を重ねるごとに所領の細分化が進んだ。また、貨幣経済の浸透により出費が増大し、御家人たちは窮乏していった。それらに加えて元寇に参戦した御家人たちの戦費や、異国警固番役などは御家人たちの負担であり、元寇に際しての恩賞が十分に与えられなかったこともあり、御家人たちの窮乏は加速した。困窮した御家人は所領を質入れ・売却してしのぐなどの行動に出たため、幕府の支配を支える御家人たちを救済するため、執権北条貞時は、御家人たちが手放した所領の原則無償返還などを定めた永仁の徳政令を発した。しかし効果は限定的で、翌年には大

部分が撤回された。**Y**は誤っている。元寇への対応のなかで北条氏の勢力は拡大し、なかでも北条氏嫡流の家督である得宗の権力が強大化し、得宗がその家臣である御内人と結んで政治を行うようになった。こうしたなか、有力御家人の安達泰盛と御内人の代表である内管領の平頼綱との対立が表面化し、安達泰盛が滅ぼされた霜月騒動が起きた。この結果、得宗と御内人による得宗専制政治がほぼ確立した。なお、三浦泰村は執権北条時頼と対立し、宝治合戦で滅ぼされた有力御家人である。

●写真提供・協力

飛鳥園／観心寺／興福寺／東京国立博物館 Image: TNM Image Archives／新潟市文化財センター／平等院／法隆寺

【解答・採点基準】

(100点満点)

問題番号	設問	解答番号	正解	配点	自己採点
第6問	A	問1	④	3	
		問2	②	3	
		問3	③	3	
	B	問4	③	3	
		問5	⑤	3	
		問6	①	3	
	第6問 自己採点小計			(18)	
第7問	A	問1	②	3	
		問2	④	2	
		問3	③	3	
	B	問4	⑤	3	
		問5	②	3	
		問6	③	3	
		問7	①	3	
	第7問 自己採点小計			(20)	
第8問	A	問1	④	2	
		問2	②	3	
	B	問3	⑥	3	
		問4	①	2	
		問5	②	3	
	C	問6	③	2	
		問7	①	3	
		問8	①	3	
	第8問 自己採点小計			(21)	
第9問	A	問1	④	3	
		問2	③	3	
		問3	④	3	
	B	問4	②	3	
		問5	①	3	
		問6	③	3	
		問7	③	2	
	第9問 自己採点小計			(20)	

問題 番号	設 問	解 答 番 号	正解	配点	自己採点
第10問	A	問 1	④	3	
		問 2	③	2	
		問 3	③	3	
		問 4	②	3	
	B	問 5	③	3	
		問 6	④	2	
		問 7	①	3	
		問 8	②	2	
第10問 自己採点小計			(21)		
自己採点合計			(100)		

【解説】

第6問 近代における技術の発達

【出題のねらい】

センター試験の第1問は、高校生や大学生を登場させた会話の形式を取ることが多い。本問もそれにない、近代における技術発達をテーマとする会話文を素材に、近代の社会経済史を中心に基本事項の確認をはかった。あわせて、センター試験で高得点を得るために必要な解法の伝授も意図した。間違えた箇所については、解説を読んでしっかりと復習しておくこと。

【設問別解説】

A 明治時代における軽工業(製糸業・紡績業)の技術発達を扱った。

問1 ④ ②

正しい組合せは②。Xは、ドイツから招かれた医学者ということから、ベルツと判断したいが、やや難度が高いので、コンドルを消去してもよい。コンドルはイギリス出身の建築家で、鹿鳴館などを設計したことで知られる。Yは、アメリカから招かれた札幌農学校の初代教頭ということから、クラークと判断したい。ロエスレルはドイツ人の法学者で、大日本帝国憲法の草案作成などに協力した人物である。

問2 ④ ②

正しい組合せは②。空欄「ア」には、内務省が入る。内務省は、1873年の明治六年の政変(征韓論政変)後に創設された。初代内務卿は大久保利通であり、農・牧畜業や軽工業の育成のほか、地方行政・警察なども管轄した。工部省は1870年に創設され、鉄道・鉱山などの重工業を管轄した。空欄「イ」に

は、蒸気力が入る。産業革命期にヨーロッパから導入された機械の動力源は蒸気力である。なお、第一次世界大戦を背景とする大戦景気の時期には、水力発電の発達などを受けて電力が工業原動力の中心となるので注意したい。

問3 43 ㊦

正しい組合せは㊦。Ⅹは誤っている。日本の生糸は、主としてアメリカなど欧米に輸出された。中国・朝鮮へ輸出されたのは綿糸である。Ⅳは正しい。19世紀末の1897年、綿糸の輸出量が輸入量を超え、紡績業は輸出産業への転換を果たした。綿糸は、明治初期は輸入品であったが、大規模に輸入機械を導入した大阪紡績会社の成功を機に機械紡績が発展し、1890年には綿糸の国内生産量が輸入量を超え、さらに日清戦争後、中国・朝鮮への輸出が伸張し、1897年に輸出量が輸入量を超えたのである。なお、製糸業・紡績業については次のまとめも参照のこと。

◆製糸業・紡績業の発展

□製糸業

主にアメリカなど欧米に輸出

原料繭・器械ともに国産

1894 器械製糸の生産量>座繰製糸の生産量

1909 生糸の輸出量、中国を抜き世界1位に

□紡績業

中国・朝鮮に輸出

原料綿花・器械ともに輸入に依存

1890 綿糸の国内生産量>輸入量

1897 綿糸の輸出量>輸入量

B 明治中・後期～昭和初期における重化学工業の技術発達を扱った。

問4 44 ㊦

正しいものは㊦。政府は日清・日露戦間期に、造船業の育成をはかるため造船奨励法を制定し、大型鉄鋼船を造船する際に補助金を交付した。ただし、やや難度が高い事項なので判定を保留した上で、他の選択肢の誤りを確実に見抜きたい。㊦は誤っている。官営八幡製鉄所は日清戦争の賠償金の一部を用いて設立された。また、日露戦争では賠償金を獲得できなかったことから誤文と判断できる。㊦も誤っている。鞍山製鉄所は、第一次世界大戦期に満鉄が満州に設立した製鉄所である。ここは日本製鋼所が正しく、日露戦争後、日英合併で室蘭に設立された。㊦も誤っている。重要産業統制法は、1931年、昭和恐慌による企業間競争の激化を背景に出された法律で、各種産業部門におけるカルテルの結成

を助成した。

◆製鉄業の発達

1897 官営八幡製鉄所設立(1901操業開始)

1907 民間の日本製鋼所設立

1918 満鉄の鞍山製鉄所設立

1934 日本製鉄会社設立(半官半民の国策会社)

問5 45 ㊦

正しい配列は㊦。年代配列形式の問題は、時期を特定するキーワードを探せるかどうかのポイントである。Ⅰ「第1次加藤高明内閣」とあるので、1920年代半ばと判断したい。Ⅱ「ロンドン海軍軍縮条約」は浜口雄幸内閣の時期に調印された。1930年代初頭と判断したい。Ⅲ「ワシントン海軍軍縮条約」は、第一次世界大戦後に開催されたワシントン会議で調印された条約である。1920年代初頭と判断したい。以上から、Ⅲ→Ⅰ→Ⅱの順となる。

問6 46 ㊦

正しい組合せは㊦。空欄ウには、ドイツが入る。第一次世界大戦が勃発すると、日本はドイツに宣戦布告し参戦した。その関係で、ドイツからの化学製品の輸入が途絶えたため、国産化が進展し、化学工業が勃興した。空欄エには、朝鮮が入る。空欄の直前に「植民地」とある点や、日室が化学工場を設立するなど進出した場所という点から判断したい。なお、日室と並ぶ有力新興財閥の日産は、満州に進出した。

第7問 「三家」の動向から見た幕末史

【出題のねらい】

将軍家の親藩である「三家」の動向から、幕末の政治・外交について確認した。「三家」とは、徳川家康の存命中に創設された家で、家康の子息を祖とする尾張徳川家・紀伊徳川家・水戸徳川家をさし、将軍家の血筋が途絶えた際に跡継ぎを出した。8代将軍徳川吉宗、14代将軍徳川家茂は紀伊徳川家から出た将軍であった。幕末の動向は1年刻みで変化することから、苦手とする生徒が多い。本問は「三家」からの視点で構成されており少し変わってはいるが、基本的な政治・外交の流れがおさえられていれば、恐れることはない。解説を読んで復習してほしい。

【設問別解説】

A 水戸徳川家から出た徳川斉昭・慶喜の父子を中心に問題文を構成した。主としてペリー来航から大老井伊直弼が暗殺された桜田門外の変までを扱った。

問1 47 ㊦

正しい組合せは㊦。日米和親条約について確認し

た。アメリカ使節ペリーの再来航時に結ばれた同条約により、下田・箱館の2港の開港、アメリカ船への薪水給与などが約束され、日本は開国することになった。Ⅹは正しい。日本はアメリカに一方的な最恵国待遇を与えることを認めた。これは、日本にとって不平等な取り決めであり、日米修好通商条約にも引き継がれた。Ⅺは誤っている。日本がアメリカに領事裁判権を認めたのは、日米修好通商条約においてである。日米和親条約の取り決めに従い、下田に総領事として着任したハリスと井伊直弼との交渉の結果、1858年に日米修好通商条約が締結された。同条約では、領事裁判権の承認のほか、関税自主権の欠如(協定関税制)も日本にとって不平等な内容であった。

問2 48 ④

正しい組合せは④。空欄アには、阿部正弘が入る。ペリー来航時の老中首座である点から判断したい。ペリーの2度にわたる来航に対応し日米和親条約を締結したこと、その際、朝廷に報告し諸大名に諮問するなど独裁的なあり方を転換したこと、江戸湾に台場をもうけるなど海防強化をめざす安政の改革を実施したこと、以上を阿部正弘の施策としておさえておきたい。なお、堀田正睦は、阿部正弘の次の老中首座で、ハリスとの通商条約締結の交渉を担当した。空欄イには、桜田門が入る。堀田正睦がハリスとの交渉を進めていた頃、幕府内では13代将軍徳川家定の継嗣問題などをめぐって一橋派と南紀派の抗争が激化していた。井伊直弼は南紀派の中心人物で、大老に就任すると、幕府独裁の強権的な施策を展開したことから反発を招き、桜田門外の変(1860年)で暗殺された。なお、井伊の後は老中安藤信正が幕政を主導し、和宮降嫁など公武合体政策を推進したが、やはり反発を招き、坂下門外の変(1862年)で襲われ失脚した。ペリー来航時からこの時期までの幕政担当の中心人物の順番は、「阿部正弘→堀田正睦→井伊直弼→安藤信正」と整理しておこう。

問3 49 ③

正しいものは③。1858年に調印された修好通商条約(安政の五カ国条約)によって、翌59年から横浜・長崎・箱館で欧米諸国との貿易が本格的にはじまった。それは経済・社会の混乱を招き、井伊直弼が進める幕政に対して、尊王攘夷派を中心に反発が強まった。①は誤っている。問2でも書いたように、江戸湾に台場を築いたのは、阿部正弘が行った安政の改革の施策である。他に、大船建造の禁を解いたり、長崎に海軍伝習所を設立したりしている。②も

誤っている。参勤交代制が緩和されたのは、文久の改革においてである。文久の改革は、坂下門外の変後、薩摩藩の島津久光が勅使をともない江戸に行き、幕政改革を要求した結果、実施された。④も誤っている。孝明天皇の妹和宮と14代将軍徳川家茂の婚姻をすすめたのは、桜田門外の変後、実権を掌握した老中安藤信正である。

B 尾張徳川家の徳川慶勝を中心に問題文を構成した。徳川慶勝と会津藩主の松平容保が兄弟であるとか、幕末政治史において徳川慶勝がどのような働きをしたのかなど知らない話が多かったと思うが、設問は基本的なことを問うている。

問4 50 ⑥

正しい配列は⑥。下線部㉔は禁門の変(蛤御門の変)であり、その前後の状況を問うた。以下、時代順に説明する。Ⅲ生麦事件は、文久の改革を要求した薩摩藩の島津久光(藩主の父)の一行が江戸からの帰途に起こった事件であり、文久の改革と同じ1862年に起きている。Ⅰ八月十八日の政変に関する文である。八月十八日の政変は、1863年、薩摩・会津の両藩が朝廷から尊王攘夷派の勢力を追放した事件で、尊王攘夷派の長州藩が翌年朝廷奪還を企図し失敗したのが、下線部㉔の禁門の変であった。Ⅱ禁門の変後、朝廷は幕府に長州藩征討を命じ、幕府は第一次長州征討を実施した。ほぼ同じ頃、四国艦隊下関砲撃事件が起こり、長州藩は屈服を余儀なくされた。幕末の政治史については、次の整理も参照してほしい。

◆1863年以降の幕末の動向

□薩摩藩と長州藩が対立した時期

幕府が攘夷を命令(1863) 長州藩が主導  
八月十八日の政変(1863)  
薩摩・会津両藩が、朝廷から長州藩など  
尊王攘夷派勢力を追放  
禁門の変(1864)

長州藩が朝廷奪還に失敗

第一次長州征討(1864)

四国艦隊下関砲撃事件(1864)

□薩摩藩と長州藩が討幕で結んだ時期

薩長同盟(1866)

第二次長州征討は家茂の死で撤退(1866)

大政奉還、討幕の密勅(1867.10.14)

王政復古の号令(1867.12.9)

→小御所会議

問5 51 ②

正しい組合せは②。空欄ウには、京都守護職



が入る。会津藩主の松平容保が就いていた役職で、文久の改革で新設された。京ならびに畿内の治安維持にあたり、京都所司代を指揮し、その配下には新選組もいた。空欄 **工** には、東海道・中山道が入る。空欄の前後の文脈より、尾張藩が位置している地点が問われていると判断し、解答してほしい。尾張藩は、尾張国(現在の愛知県西部)を中心に、現在の岐阜県・長野県の一部も藩域に含んでいた。山陽道や北陸道と関係がないことは判断できたであろう。

問6 **52** ③

正しい組合せは③。幕末に起こった民衆の集団乱舞である点から「ええじゃないか」と判断したい。「オッペケペー」節は、自由民権運動の頃、壮士芝居により民権思想を広めようとした川上音二郎がはじめたものである。「ええじゃないか」は、東海道筋を中心に伊勢神宮の御札などが降ってきたとされ、それを契機にはじまったといわれる。この民衆乱舞は、結果として、1867年秋口から冬にかけての討幕派の動きを隠す役割を果たしたともされる。日光東照宮は、徳川家康を神として祀ったもので「ええじゃないか」とは無関係である。

問7 **53** ①

正しい組合せは①。史料の読み取り問題である。史料は、教科書などに掲載されることの多い王政復古の一大号令から引用した。史料の内容だけでなく、注にも着目し考えてほしい。**a** は正しい。史料の1行目から2行目にかけての内容である。大政奉還は1867年10月に、15代将軍徳川慶喜が自ら朝廷に政権を返上することを申し出たもので、討幕派にとって討幕の口実を失わせるものとなった。そこで、討幕派は同年の12月に朝廷でクーデターを断行し、明治天皇に出させたものが王政復古の一大号令であった。**b** は誤っている。「癸丑以来」の言葉に注目してほしい。(注2)によれば癸丑は1853年、ペリーが来航した年なので、「先帝」とは当時の孝明天皇をさす。**c** は正しい。史料の4行目に「摂関、幕府等廃絶」とある。**d** は誤っている。史料の(注4)から(注7)が付いている下から3行目に注目してほしい。身分の「別無く、至当ノ公議ヲ」尽くすとあるので、「身分別に会議を開いて」が誤りと判断できよう。

## 第8問 明治時代の朝鮮・韓国をめぐる対外関係

### 【出題のねらい】

本問は、明治時代における朝鮮・韓国をめぐる対外関係をテーマとする問題文を素材に、当該期の外交・

政治を中心に基本事項を問うた。日本が、同じアジアの国である朝鮮・韓国との関係を結ぶなかで、しだいに帝国主義国家としての道を歩みはじめる過程を理解してほしい。また、近年のセンター試験で頻出の地図や史料を用いた設問も用意した。こうしたタイプの設問にも慣れていってほしい。

### 【設問別解説】

**A** ここでは、主に明治初期の朝鮮開国問題を取り上げ、日朝修好条規などについて問うた。

問1 **54** ④

誤っているものは④。明治六年の政変(征韓論政変)で下野した西郷隆盛は、1877年に鹿児島島の士族とともに西南戦争を引き起こしたが、政府により鎮圧された。これを最後に士族の反乱は終息した。①・②はともに正しい。明治六年の政変で下野した板垣退助・後藤象二郎・江藤新平らは有司専制を打破するための国会開設を要求し、1874年、民権議院設立建白書を太政官の左院に提出した。これが自由民権運動の口火となった。また、江藤は同年、郷里の佐賀で反乱を起こしたが敗れて捕らえられ、斬罪となった。③も正しい。廃刀令が出され、ついで秩禄処分断行によって士族の特権をうしない、不満をもつ士族らは熊本で敬神党(神風連)の乱、福岡で秋月の乱、山口で萩の乱を起こしたが、いずれも政府によって鎮圧された。

問2 **55** ②

正しい組合せは②。**X** は正しい。1875年、日本の軍艦が朝鮮の首都漢城近くの江華島で朝鮮側を挑発し、朝鮮側砲台と交戦となった。日本は、この江華島事件を機に使節を派遣し、1876年に日朝修好条規を締結し、朝鮮を開国させた。朝鮮を「自主ノ国」として清国との宗主関係を否定させようとし、釜山など3港を開かせ、日本の領事裁判権や関税免除を承認させるなど日本に有利な不平等条約であった。**Y** は誤っている。日朝修好条規では日本の領事裁判権が認められた。日本が締結した初の対等条約で、相互に領事裁判権を認めあったのは1871年の日清修好条規である。

**B** ここでは、福沢諭吉の「脱亜論」を引用しながら壬午軍乱から日清戦争後にかけての日本・朝鮮・清国の関係を取り上げた。

問3 **56** ⑥

正しい配列は⑥。壬午軍乱から天津条約締結までの朝鮮国内の動向と日清間の対立について確認した。以下、時代順に説明する。**Ⅲ** 日朝修好条規締結以降、開化政策を推進していた閔氏一族は、日本との結びつきを強めたが、これに対立する勢力は保守

派の大院君(国王高宗の父)のもとに結束し、1882年に反乱を起こした(壬午軍乱)。反乱は、清国軍の介入で収束され、この後、閔妃らは清との関係を重視するようになり、事大党を形成した。II 事大党の勢力が強まると、日本と結んで国政改革を断行しようとする金玉均らの独立党は、1884年、日本公使館の支援を受けてクーデターを起こした。当時は清仏戦争中であり、清国に介入の余力はないとみでのクーデターであったが、清国軍の来援で失敗におわった(甲申事変)。I 甲申事変での日清両国の関係悪化を受けて、伊藤博文らは渡清し、清国の李鴻章と天津条約を結んだ。同条約では、日清両国軍の朝鮮からの撤兵や、今後朝鮮に出兵する際は相互に事前通告することなどを取り決めた。

問4 [57] ①

正しい組合せは①。空欄 [ア] には、時事新報が入る。『時事新報』は1882年に福沢諭吉により創刊された新聞である。朝鮮の独立党の支援者であった福沢は、甲申事変後の1885年にこの紙上に「脱亜論」とよばれる論説を発表した。『国民之友』は民友社を設立し、平民政化主義を提唱した徳富蘇峰が発行した雑誌である。空欄 [イ] には、フランスが入る。三国干渉における三国とはロシア・ドイツ・フランスである。日清戦争に勝利した日本に対して極東進出をもくろむロシアは危機感を強め、フランスと共同して干渉を計画し、ドイツもこれに参加した。三国は下関条約で定められた日本の遼東半島領有が「朝鮮の独立を有名無実に為す」として清国への返還を勧告し、日本はこれを受け入れた。以後日本政府は国民に対して「臥薪嘗胆」を合言葉にロシアへの敵意を高めさせ、いっそうの軍備増強を進めた。

問5 [58] ②

誤っているものは②。下関条約で日本が割譲を受けたのは「山東半島」ではなく「遼東半島」である。問4でも述べたように、この遼東半島の日本への割譲が東アジア進出をめざすロシアを刺激し、三国干渉につながった。①は正しい。清国は、朝鮮が「独立自主ノ国」であることを認めた。③も正しい。清国は、2億両(約3億1000万円)の賠償金を支払うことを決めた。日本は、この賠償金を対露戦を想定した軍拡費用に充て、一方で賠償金を準備金として貨幣法を制定し、金本位制を確立させた。④も正しい。日本は、沙市・重慶・蘇州・杭州の開港・開市を認めさせた。

C ここでは、日清戦争後の満州・韓国をめぐる日本とロシアとの対立から日露戦争に至る過程や、日露戦争後の韓国の植民地化を取り上げた。

問6 [59] ⑨

正しい組合せは⑨。Xは誤っている。日清戦争を機に政府と政党の関係は大きく変化した。自由党と提携したのは第2次伊藤博文内閣であり、板垣退助を内務大臣として入閣させた。つづく第2次松方正義内閣は、進歩党と提携し、大隈重信を外務大臣とした。Yは正しい。第2次山県有朋内閣は、憲政党と提携し、地租増徴案を成立させ、選挙資格の拡大も行った。その一方で、文官任用令改正や軍部大臣現役武官制制定を行い、国家機構に政党の影響が浸透するのを防ごうとした。軍部大臣現役武官制とは、陸海軍大臣の任用を現役の大将・中將に限定する制度で、政党の影響力が軍部におよぶのをはばんだ。

問7 [60] ①

正しい組合せは①。日露戦争で日本は日本海海戦などに勝利したものの、兵力や軍事費など国力の消耗がいちじるしく、またロシアも国内で革命運動が高まり、両国ともに戦闘の継続は困難になっていた。こうしたなか、アメリカ大統領セオドア・ローズヴェルトの斡旋によって1905年、アメリカのポーツマス(a)で講和条約(ポーツマス条約)が結ばれた。この条約によってロシアは日本に対して、韓国に対する日本の指導権を承認するとともに、旅順・大連の租借権と長春(c)以南の鉄道権益の譲渡、北緯50度以南の樺太の譲渡などを承認した。なお、賠償金は得られず、これに不満をもった国民が日比谷焼き打ち事件を起こした点もおさえておきたい。ちなみに、bはパリ、dは上海である。よってX — a, Y — cとなる。

問8 [61] ①

正しい組合せは①。史料中の「在東京外務省ニ由リ今後韓国ノ外国ニ対スル関係及ビ事務ヲ監理指揮スベク」「外交ニ関スル事項ヲ管理スル」などの部分から、この史料は日露戦争後に結ばれた第2次日韓協約と判断できてほしい。aが正しく、bが誤っている。この協約で日本は韓国の外交権を接收し、韓国を保護国とした。日本が韓国を完全に植民地化するのは、1910年の韓国併合条約においてである。cが正しく、dが誤っている。韓国の外交を統轄する統監府がおかれ、伊藤博文が初代の統監に就任した。総督は、韓国併合にともない設置された朝鮮総督府の長官である。なお、初代総督には寺内正毅が任命された。以下に韓国の植民地化にいたる過程をまとめておくので参考にしてほしい。

## ◆韓国の植民地化

### 日韓議定書(1904)

韓国内における日本の軍事行動の自由を確保

### 第1次日韓協約(1904)

日本政府推薦の財政・外交顧問の採用  
諸外国が日本の韓国保護国化を承認(1905)

桂・タフト協定(米)

第2次日英同盟協約(英)

ポーツマス条約(露)

### 第2次日韓協約(1905)

韓国の外交権を接収し保護国化

統監府…初代統監に伊藤博文

ハーグ密使事件(1907)

### 第3次日韓協約(1907)

韓国の内政権を掌握

韓国軍隊の解散 義兵運動の激化

伊藤博文が安重根により殺害される(1909)

### 韓国併合条約(1910)

朝鮮総督府…初代総督に寺内正毅

## 第9問 加藤高明の人物史

### 【出題のねらい】

本問は、大正時代末期に内閣を組織したことで著名な加藤高明の人物史を取り上げ、明治期から大正期にかけての政治・外交を扱ったものである。センター試験では、特定の人物の履歴を通して、当該期の動向を確認させる問題がよく出題されており、本問もその出題形式を採用した。人物史の場合、諸君が知らない履歴も記されるが、設問は通常の学習で得られる知識で解けるようになっている。加藤高明については、第2次大隈重信内閣のときの外相(第一次世界大戦時の外相)、憲政会の総裁、護憲三派連立内閣(第1次加藤内閣)の首相などとして教科書に登場する。これら以外の履歴については知らなくても、十分に高得点が取れることを確認してほしい。

### 【設問別解説】

A 加藤高明の三菱での時代や外交官として活躍した時代を中心に扱った。

問1 62 ④

正しい組合せは④。空欄アには、三菱の創始者ということから、岩崎弥太郎が入る。土佐藩出身の岩崎は、海運事業をはじめ、政府の台湾出兵の輸送などで利益をあげた。その後は、官営事業の払い下げを受けるなどして諸部門に進出し、三菱財閥の基礎を確立した。この岩崎の長女と加藤は結婚した。のち加藤が総裁をつとめた憲政会(のちの立憲

民政党)と三菱との結びつきの強さは、こうした事情にもよる。なお、渋沢栄一は、第一国立銀行・大阪紡績会社創立など近代産業の確立に尽力した実業家である。空欄イには、第1次西園寺公望内閣が進めた政策ということから、鉄道国有化が入る。第1次西園寺内閣は、日露戦後経営の一環として鉄道国有化を進め、1906年には鉄道国有法を公布した。加藤は財政問題などでこの法案に反対し、外相を辞職した。地租増徴については、日清戦後の第2次山県有朋内閣の時代、1898年に地価の2.5%から3.3%に地租が増徴されたことを確認しておきたい。

問2 63 ⑨

正しい配列は⑨。年代配列の問題は、各文のなかで時代を特定できるキーワードをおさえることが肝要である。以下、時代順に説明する。Ⅱは「台湾出兵」がキーワードである。台湾に漂着した琉球漁民の殺害事件(1871年)を機に、日本は1874年に台湾出兵(征台の役)を行った。これに対して清国は日本の撤兵を要求し、両国は緊張した。このようななか駐清イギリス公使の調停もあって、清国は日本の出兵を義挙と認め事実上の賠償金を支払った。Ⅰは「第1次日英同盟協約」がキーワードである。北清事変に際してロシアは満州を占領し、事変後も撤退せず勢力の拡大をはかった。このようなロシアを牽制しようとし、第1次桂太郎内閣は1902年に第1次日英同盟協約を結び、その2年後に日露戦争が勃発した。以下に、日英同盟協約の変遷について整理しておいたので、参照してほしい。Ⅲ「外相小村寿太郎」「関税自主権の完全回復」がキーワードである。条約改正交渉において、第2次桂内閣の外相小村寿太郎は、1911年にまずアメリカと日米通商航海条約を結んで懸案であった関税自主権の完全回復を実現した。その後、イギリスを含む関係各国とも同様な条約を結んだ。

# ◆日英同盟協約の変遷

## 第1次日英同盟協約 (1902)

日英いずれかが他国と交戦

→他の一方は中立を守る

第3国が介入

→他の一方は参戦

日露戦争の勃発(1904～05)

## 第2次日英同盟協約 (1905)

日本の韓国保護国化を承認させる

→第2次日韓協約締結

## 第3次日英同盟協約 (1911)

アメリカを事実上対象外とする

日本は日英同盟を理由に第一次世界大戦参戦

## 日英同盟協約の廃棄 (1923)

ワシントン会議の四カ国条約の発効で廃棄

### 問3 64 ④

正しいものは④。第3次桂太郎内閣は、大正政変で総辞職した。第2次西園寺内閣が陸軍によって倒された後、内大臣兼侍従長であった桂が、第3次内閣を組織すると、立憲政友会の尾崎行雄と立憲国民党の犬養毅らが「閥族打破・憲政擁護」をスローガンに倒閣運動を起こし、この運動は民衆の間にも広まっていった。この結果、桂内閣はわずか50日余りで総辞職した(大正政変)。①は誤っている。これはジューメンズ事件について述べた文で、この事件を機に第1次山本権兵衛内閣が総辞職した。②も誤っている。米騒動の鎮圧ということから、寺内正毅内閣に関する文である。③も誤っている。陸軍2個師団増設問題で総辞職に追い込まれたのは、先述した第2次西園寺内閣である。

B 加藤高明が立憲同志会の党首として活躍した時代から、第2次加藤内閣の総辞職までを扱った。

### 問4 65 ②

正しい組合せは②。Xは正しい。日本は日英同盟を理由に参戦し、ドイツの勢力範囲であった中国山東省や赤道以北のドイツ領南洋諸島を攻撃し、山東省の中心都市青島を占領した。Yは誤っている。日本は、大戦に参加したアメリカと利害を調整するために石井・ランシング協定を1917年に結んだ。この協定で、中国における日本の特殊権益を認めさせるかわりに、アメリカの主張する中国における領土保全・門戸開放の原則を受け入れた。桂・タフト協定は、日露戦争中の1905年に結ばれ、日本の韓国に対する保護・指導権をアメリカに認めさせたもので、中国問題に関するものではない。

### 問5 66 ①

正しい組合せは①。空欄「ウ」には、第2次大隈内閣の時代や第一次世界大戦勃発の翌年ということから、二十一カ条要求が入る。第2次大隈内閣の外相加藤は、袁世凱政権に対して1915年に二十一カ条要求を突きつけた。そのなかで、山東省のドイツ権益を日本が継承することなどを要求し、その要求の大部分を承諾させた。西原借款は、寺内正毅内閣の時代、袁世凱死後に実権を掌握した段祺瑞に対して、日本が巨額の借款を供与したもので、寺内内閣はこれによって中国に対する影響力の拡大をはかった。空欄「エ」には、貴族院を母体とした点や第二次護憲運動の展開ということから、清浦奎吾が入る。虎の門事件で第2次山本権兵衛内閣が倒壊すると、貴族院に基礎をおく清浦内閣が成立した。これに対して、憲政会・立憲政友会・革新倶楽部の護憲三派は内閣打倒をめざして第二次護憲運動を展開した。清浦内閣は議会を解散し総選挙を実施したが、その結果、護憲三派が圧勝し内閣は総辞職した。岡田啓介は、1934年に首相となった海軍出身の人物である。岡田内閣の事項としては、天皇機関説を否定する国体明徴声明を発したことや、二・二六事件で総辞職となったことをおさえておきたい。

### 問6 67 ③

誤っているものは③。史料の内容をよく読めば、③が誤っていることがわかる。史料中の下から5～4行目に「参政権を要求するの声は益々熾烈を加ふる」とあり、国民の普通選挙を求める要求は高揚していた。①は正しい。史料中の上から2行目に「今後警戒すべきは経済上の競争」とあり、原首相は列国との経済上の競争を警戒していた。②も正しい。史料中の上から6～7行目に「デモクラシーの思想と運動とが大いに起る」、下から5行目に「デモクラシーの盛なる」とあり、大戦後にはデモクラシーの思想や運動が高揚すると考えていた。④も正しい。史料中の下から4～2行目に「迫られて之に應ぜんよりは寧ろ自ら進んで与ふるの已むなきを感じ、実は心私かに意を普通選挙法に決した」とあり、普通選挙を求める動きを加藤自ら率先して行うことを決したことがわかる。

### 問7 68 ③

正しい組合せは③。aは誤っている。護憲三派とは、加藤の憲政会のほか、高橋是清の立憲政友会と犬養毅の革新倶楽部である。立憲国民党は、第一次護憲運動のときの犬養を中心とする政党である。bは正しい。幣原協調外交は、対中国内政不干渉のもとで米英との協調をはかる外交路線で、幣原が外相となった護憲三派内閣の時代からはじまった。cは



正しい。護憲三派内閣は公約通り、いわゆる普通選挙法を成立させ、満25歳以上の男性に選挙権を与えた。dは誤っている。護憲三派内閣は普通選挙法の制定と同時に、国体の変革と私有財産制の否定をめざすものを取りしめる治安維持法を制定した。しかし、日本最初の社会主義政党である社会民主党は、1901年に結成され、前年の1900年に公布された治安警察法によって、すぐに解散を命じられている。

## 第10問 大正・昭和戦前期の日本経済

### 【出題のねらい】

本問は、1910年代から1930年代にかけての経済状況を扱った問題である。1920年代は、第一次世界大戦にともなう大戦景気が終了し、戦後恐慌、震災恐慌、金融恐慌と恐慌が繰り返し起こった不況の時代であり、1930年代前半から半ばにかけては、昭和恐慌と高橋財政による復興期と位置づけることができ、その経済復興のなかで軍部が発言力を増していった時期でもある。この時期は外相幣原喜重郎による協調外交が崩壊し、日本が、満州事変にはじまるいわゆる十五年戦争に突入していった時期である。その背景には経済状況や経済政策があり、それを理解することは、日本の侵略戦争を正確に理解する第一歩である。本問を利用して、よく理解を深めてほしい。

### 【設問別解説】

A ここでは、大戦景気から金融恐慌までを扱った。

問1 69 ④

誤っているものは④。大戦景気の時期には、工業生産額が農業生産額を超えたが、この時期の工業は、製糸業や綿織物業などの繊維産業が多くの割合を占めていた。鉄鋼業や造船業などの重工業や化学工業は発展の端緒についたともいえるべき段階であり、重化学工業の生産額が軽工業の生産額を凌駕するのは1930年代半ばのことである。①は正しい。世界的な船舶不足から海運業が発展し、多くの船成金が現れた。なお、この時期は造船業も躍進している。②も正しい。水力発電が発展し、猪苗代・東京間の長距離送電に成功したことなどから工業原動力が蒸気力から電力に転換した。なお、電灯の農村への普及も進んだ。③も正しい。輸出が大幅に増え、輸出超過に転じるとともに、日本は債務国から債権国に転じた。その他、日本と同様好況になったアメリカ向けの生糸輸出が伸びて、製糸業が活況を呈し、アジア市場の独占により、紡績業・綿織物業が発展したこと、ドイツからの輸入が途絶え、化学工業が発展したことなどをおさえておきたい。

問2 70 ③

正しい組合せは⑨。Xは大杉栄(b)。関東大震災では、大混乱のなかで、「朝鮮人が暴動を起こした」などの流言が飛び交い、住民の自警団による朝鮮人・中国人の虐殺が行われたり、「朝鮮人を社会主義者や労働運動家が扇動している」などとして、東京亀戸署管内で労働運動家が殺害されたり、憲兵大尉甘粕正彦により無政府主義者の大杉栄と伊藤野枝が殺害されたりした。幸徳秋水は、社会主義運動家で、1910年の大逆事件で逮捕され、翌年処刑された。Yは第2次山本権兵衛内閣(c)。山本権兵衛は、前首相の加藤友三郎の死後、組閣命令を受けたが、組閣準備中に関東大震災が起こった。震災手形の認定による日本銀行の非常貸し出しを実施するなど震災復興に努めたが、無政府主義者による摂政宮裕仁親王(後の昭和天皇)の狙撃事件である虎の門事件が起き、その責任を負って総辞職した。斎藤実内閣は、五・一五事件で犬養毅首相が暗殺された後の内閣である。挙国一致を掲げて、満州事変の処理に当たったが、日満議定書で満州国を承認し、それを認めないリットン報告書に基づく国際連盟臨時総会の議決に反発して、国際連盟からの脱退を通告した。

問3 71 ③

誤っているものは③。張作霖爆殺事件では、その首謀者である関東軍の河本大作大佐らを厳しく処罰するように要求する元老西園寺公望らの主張を顧みず、陸軍の主張により、河本大作を停職処分にしただけで済ませてしまった。このため田中は昭和天皇の信任を失い総辞職した。田中義一内閣時代の出来事や政策は大変多く、正誤問題などで狙われやすいので、よく整理しておいてほしい。

### ◆田中義一内閣

#### 内政

初めての普通選挙実施  
治安維持法改正…最高刑を死刑に  
全国に特別高等課(特高)設置  
日本共産党への弾圧  
三・一五事件(1928)  
四・一六事件(1929)

#### 外交

不戦条約調印  
山東出兵  
東方会議…対中国強硬外交決定  
張作霖爆殺事件…関東軍の陰謀

問4 72 ②

正しい組合せは②。Xは正しい。金融恐慌後、銀



行法の制定もあって、中小銀行の統廃合が進み、銀行総数は減り続けた。グラフを読み取れば、正文と判断できよう。Yは誤っている。金融恐慌後、5大銀行に預金集中が進んだことは確かだが、グラフを見れば、1932年段階では、預金高中の5大銀行の占める割合は40パーセントをわずかに超えた程度である。ということは、残りの60パーセント弱が他の銀行の預金高の割合であり、5大銀行の預金高の合計が他の銀行の総預金高におよんでいないのは明らかである。

B ここでは、井上財政と世界恐慌、その後の高橋財政を扱った。

問5 73 ③

正しい組合せは③。空欄アには、井上準之助が入る。浜口雄幸内閣の蔵相井上準之助は慢性的不況状況を打開するため、金輸出解禁をめざした。日本は大戦景気の最中に金輸出を禁止していたが、戦後、欧米列強が次々と金輸出を解禁して金本位制に復帰するなか、日本だけは相次ぐ恐慌を乗り切るために日銀券を増発していたこともあって、復帰できずにいた。そのため、円相場は不安定で輸出減退の大きな理由となっていた。また、日銀券の増発は日本経済をインフレにしており、日本製品の価格が相対的に上昇して、内需・輸出の減退の原因になっていた。そこで井上は、緊縮財政によってデフレに誘導し、金解禁によって金本位制に復帰し、円相場を安定させて輸出を伸ばそうとした。しかし、折からの世界恐慌に巻き込まれて失敗し、日本は昭和恐慌に突入した。空欄イには、管理通貨制度が入る。満州事変以後の混乱のなかで第2次若槻礼次郎内閣が総辞職すると、代わった犬養毅内閣の蔵相高橋是清は、すぐに金輸出を再禁止して金本位制から離脱し、円相場の下落を放任して輸出伸張をはかった。また、管理通貨制度に移行して、赤字国債を大量発行し、軍事費を中心とした財政出動によって景気を回復させようとした。これらの政策は一定の成功をおさめ、日本はいち早く恐慌からの脱出に成功した。

問6 74 ④

誤っているものは④。米の配給制が実施されるのは、日中戦争が長期化した1941年で、昭和恐慌期ではない。①は正しい。昭和恐慌では、世界恐慌の発

端となったアメリカへの生糸の輸出が激減して繭価が暴落し、1930年の豊作で米価も暴落した。②と③も正しい。都市では企業の倒産が相次ぎ、失業者が帰農したため農村人口は増え、農家は兼業の機会を失って困窮化し、農業恐慌に陥った。特に東北の農村では冷害による大凶作も起こって深刻化し、欠食児童や娘の身売りなどが続出して社会問題化した。

問7 75 ①

正しい組合せは①。センター試験では表の読解問題も頻出である。下線の時期が高橋財政の時期である点、表が綿織物に関するものである点などから、高橋財政期の綿織物輸出の伸張が問われていることが推察できれば、正答にたどり着ける。先述したように高橋財政期には円安が進み、日本は特にアジア向けの綿織物の輸出を増加させ、イギリスに代わって世界第1位の輸出国となった。この知識があれば、表の1936～38年の輸出に注目して、aが、それまで一番多かったcを抜いていることから、aが日本、cがイギリスと確定できる。なお、こうした日本の動きに対し、イギリスなど列強は、ソーシャル＝ダンピングと非難した点もおさえておこう。

問8 76 ②

正しい配列は②。以下、時代順に説明する。Ⅰ1937年7月7日の盧溝橋事件をきっかけに日中戦争がはじまり、日本は年末には南京を占領した。そこで時の第1次近衛文麿内閣は、翌38年、「国民政府を対手とせず」の声明を発表したが、重慶に移転した国民政府は抵抗を続け、結局、自ら和平の道を閉ざす結果となった。Ⅱ1940年、第2次近衛文麿内閣は援蔣ルート遮断と資源確保のために北部仏印進駐を行う一方、日独伊三国軍事同盟を締結した。これは日米関係を悪化させ、翌41年、東条英機内閣のもとで日本は対米開戦に踏み切った。Ⅲ日本は戦争目的に「大東亜共栄圏」建設を掲げ、1943年、アジアの占領地域の代表者を東京に集めて大東亜会議を開き、「大東亜共同宣言」を採択して、「大東亜共栄圏」の結束を誇示しようとした。しかし、実際には占領地の住民らの反感・抵抗は激しく、各地で組織的抗日運動が盛んになっていった。日本は英米だけでなく、こうした抗日運動にも対峙せざるを得ず、敗戦に向かっていった。

# ●写真提供・協力

市立岡谷蚕糸博物館／東京都立中央図書館特別文庫室『豊饒御産参之図』／博物館明治村

地理 B

【解答・採点基準】

(100点満点)

問題番号	設問	解答番号	正解	配点	自己採点
第1問	問1	①	③	3	
	問2	②	①	2	
	問3	③	③	3	
	問4	④	②	3	
	問5	⑤	②	3	
	問6	⑥	④	3	
第1問 自己採点小計				(17)	
第2問	問1	⑦	③	2	
	問2	⑧	②	3	
	問3	⑨	③	3	
	問4	⑩	①	3	
	問5	⑪	④	3	
	問6	⑫	④	3	
第2問 自己採点小計				(17)	
第3問	問1	⑬	⑥	3	
	問2	⑭	①	3	
	問3	⑮	④	2	
		⑯	②	2	
	問4	⑰	①	3	
	問5	⑱	⑤	3	
第3問 自己採点小計				(16)	
第4問	問1	⑲	③	3	
	問2	⑳	④	3	
	問3	㉑	④	3	
	問4	㉒	④	3	
	問5	㉓	①	2	
	問6	㉔	②	3	
第4問 自己採点小計				(17)	
第5問	問1	㉕	③	2	
	問2	㉖	⑥	3	
	問3	㉗	①	3	
	問4	㉘	④	3	
	問5	㉙	④	3	
	問6	㉚	②	3	
第5問 自己採点小計				(17)	

問題番号	設問	解答番号	正解	配点	自己採点
第6問	問1	①	①	3	
	問2	②	④	2	
	問3	③	⑥	3	
	問4	④	①	3	
	問5	⑤	③	2	
	問6	⑥	①	3	
第6問 自己採点小計				(16)	
自己採点合計				(100)	

【解説】

第1問 世界の気候

【出題のねらい】

等温線の判定，海流，降水の季節変化，気温の年較差・日較差，地形性降雨，砂漠気候を出題した。気候は，センター試験では頻出分野であるが，苦手意識を持っている受験生は多い。今のうちに，気候要素（気温，風，降水など）と，それに影響を及ぼす気候因子の関係をしっかりと理解しておこう。大気の大循環などのメカニズムが理解できると，ケッペンの気候区分の分布などにも対応しやすくなる。

【設問別解説】

問1 ① ③

太陽からの受熱量が多い低緯度地域は気温が高く，少ない高緯度地域は気温が低くなるが，同じ緯度でも海陸の分布や海流，標高などの影響を受けて，気温の等温線は緯度と必ずしも平行にはなっていない。図1では，北アメリカ大陸で内陸部が沿岸部より気温が低くなっていること，ユーラシア大陸でも西部（ヨーロッパ西部）で高く（問2解説参照），東部（東シベリア）で著しく低くなっていることから，北半球が冬となる1月と判定できる。海陸の分布に注目すると，海洋を構成する水は比熱が大きく（熱しにくく・冷めにくい），大陸を構成する土や岩石は比熱が小さい（熱しやすく・冷めやすい）ため，冬は内陸部のほうが寒冷となる。北アメリカ大陸で沿岸部よりも内陸部のほうが気温が低くなるのはこのためである。また，東シベリアでは，冬に地面からの放射冷却も加わってきわめて寒冷となり，「北半球の寒極」とよばれる。放射冷却によって大気下層が冷やされて冬には寒冷な大気が下降して高気圧（シベリア高気圧）ができ，そこから周囲に向かって季節風を吹き出している。

次に等温線であるが，赤道付近には，ケッペンの

気候区分で最寒月平均気温が $18^{\circ}\text{C}$ 以上の熱帯(A)が主に分布し、標高の高い山岳地域(アンデス山脈やアフリカ大地溝帯一帯)を除いて冬でも $20^{\circ}\text{C}$ を上回る(冬に $30^{\circ}\text{C}$ を超えるところはない)。よって赤道に最も近い等温線が $20^{\circ}\text{C}$ であるため、Xの等温線は $10^{\circ}\text{C}$ となる。ほかに、温帯(C: 最寒月平均気温 $-3^{\circ}\text{C}$ 以上・ $18^{\circ}\text{C}$ 未満)に分類される東京(1月の平均気温 $6.1^{\circ}\text{C}$ 、7月の平均気温 $25.8^{\circ}\text{C}$ 、年平均気温 $16.3^{\circ}\text{C}$ )の北や、西部が温帯となるヨーロッパを南北に通る等温線が $0^{\circ}\text{C}$ であることを覚えておいて、そこから判断してもよい。地図帳や資料集で、全年、1月、7月の等温線の分布を確認しておいてほしい。

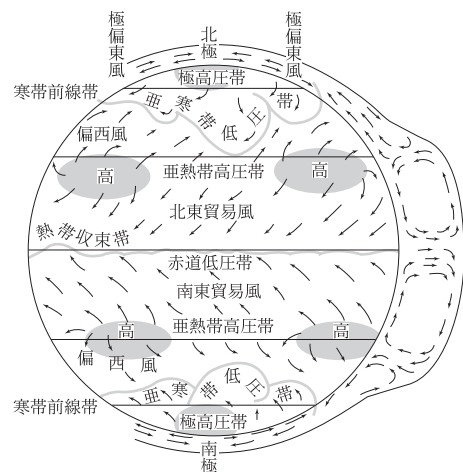
問2 2 ①

A付近で等温線が高緯度側に湾曲している(同緯度の他の地域より気温が高くなっている)のは、ヨーロッパの大西洋沿岸を暖流の北大西洋海流が北上しているためである。ヨーロッパは、暖流上を吹く偏西風が内陸部まで吹き込むことによって、西部は冬でも最寒月平均気温が $-3^{\circ}\text{C}$ を下回らずに、おもに温帯(C)となっている。北大西洋海流が沖合を流れるノルウェーの海岸部は、北極圏以北まで温帯となっていることを地図帳で確認しておこう。

問3 3 ②

大気中の水蒸気が上昇気流などによって冷却されることで雲が生じるため、上昇気流が発達する低気圧の発生する場所では降水が多く、下降気流となる高気圧が発生する場所では晴天となる。降水の季節変化は、まず大気の大循環を当てはめて考えてみよう(図①参照)。図①は、年間の平均的な状況を示したもののだが、太陽の南北回帰に合わせて夏と冬とで気圧帯が南北に移動することによって降水にも変化があらわれる。②は、1月、7月ともに極端に降水が少なくなっていないことから、赤道付近のQ(シンガポール)と判定できる。シンガポールは、年間を通して赤道低気圧帯(熱帯収束帯)の影響を受けて年中多雨となり、熱帯雨林気候(Af)となっている。シンガポール以外の3地点は、南北半球で季節が反対になることに気をつけよう。③は、1月に多雨となり、7月にほとんど降水がみられないことから、南半球でも低緯度に位置するR(ダーウィン)と判定できる。熱帯雨林気候周辺には、夏にはおもに赤道低気圧帯の影響によって雨季、冬には亜熱帯高気圧帯の影響によって乾季がもたらされるサバナ気候(Aw)がみられ、ダーウィンはサバナ気候となる代表的な都市である。③と④は、ともに7月に雨がが多く、1月に雨が少ないが、雨が多い7月の降水量に注目し

よう。③は、④より7月の降水量が少ないことから、オーストラリア南西部のS(パース)と判定できる。緯度 $30^{\circ}\sim 45^{\circ}$ 付近の大陸西岸には、夏(パースは南半球なので1月が夏にあたる)には亜熱帯高気圧帯の影響で少雨となり、冬には偏西風や寒帯前線の影響で降水量が多くなる地中海性気候(Cs)がみられる。ただし、冬は大気中の水蒸気量が夏ほど多くないため、降水量もそれほど多くはならない。④は、7月に $400\text{mm}$ 以上の多雨となっていることから、P(コルカタ)となる。海と陸では比熱が異なるため、陸地面積の大きなユーラシア大陸では、海洋(太平洋や南シナ海、インド洋)との間で海陸の温度差によってモンスーン(季節風)が特に発達する。コルカタ(北半球なので7月が夏にあたる)は、ダーウィンと同じくサバナ気候に分類されるが、こうしたモンスーンの影響を強く受け、夏は海洋からの湿潤な季節風によって多雨、冬は大陸からの乾いた季節風によって少雨となる。



図① 大気大循環の模式図

問4 4 ②

気温の年較差(最暖月平均気温と最寒月平均気温の差)を低緯度と高緯度で比較すると、太陽から受けるエネルギーの季節変化が大きい高緯度で年較差は大きくなり、赤道直下に位置するキトのような低緯度では小さくなる。南北回帰線の間の低緯度地域では、年較差よりも日較差(1日の最高気温と最低気温の差)のほうが大きくなることが多く、図3でも縦軸の気温の差(日較差)のほうが、横軸の気温の差(年較差)よりも大きいことが読み取れる(①は正しい)。気温は、海拔高度が $1,000\text{m}$ 上昇するごとに $5\sim 6^{\circ}\text{C}$ 低下する(気温<sup>ていげん</sup>通減率)が、年較差の小さい理由とはならない(よって②が誤り)。アンデ

ス山脈に位置するキト(標高 2,794 m)は、年間を通じて月平均気温が 13℃ となっている。また、日較差を図 3 から読み取ると、9 月には実線で囲まれた 20℃ 以上の時間帯が 12 時頃にあり、破線で囲まれた 6℃ 未満の時間帯が 4 時頃にあるが、3 月にはそれがないため、9 月の日較差のほうが大きい(㉔は正しい)。図 3 では、実線は 4℃ 間隔、破線は 2℃ 間隔で引かれていることがわかるので、実線で囲まれた 20℃ 以上の範囲は「20～24℃」、破線で囲まれた 6℃ 未満の範囲は「4～6℃」となる。そのため、図 3 から読み取れる 9 月の日較差は、最大で 20℃(24℃－4℃)、最小で 14℃(20℃－6℃)となる(㉔は正しい)。

問 5 **5** ㉔

イの島は、4,000 m を超える火山が 2 つあるハワイ島であり(第 2 問・問 3 参照)、図 4 から、降水量は北東部の山地斜面で多いことが読み取れる。海からの湿潤な風は、山地にぶつかると上昇気流となって雲を生じ、風上側に降水をもたらすため、風は北東から吹いているとわかる(よって㉔となる)。大気の大循環を当てはめて、ハワイ島(北部には北緯 20 度の緯線が通っている)は、北東貿易風が吹く緯度帯に位置すると判断してもよい。

問 6 **6** ㉔

ウは、オーストラリアの西部内陸部である。付近を南回帰線が通っていることを地図帳で確認してほしい。この緯度帯では、**亜熱帯高圧帯**(中緯度高圧帯)が形成され、年間を通して降水量は少なくなり、低緯度に位置して気温も高いため蒸発量も多い(よって㉑・㉒は正しい)。ケッペンの気候区分では、降水量よりも蒸発量が多くなるところを乾燥帯(B)に分類し(よって㉓は正しい)、この一帯は乾燥のきびしい砂漠気候(BW)となっている。そのため植生はほとんどみられない。また土壌は、砂漠土が分布している。ラトソルは熱帯に分布する赤色の土壌である(よって㉔が誤り)。オーストラリアは、南

回帰線が大陸のほぼ中央部を通り、乾燥帯が約 6 割を占めている。また、砂漠気候は、回帰線付近以外に大陸の内陸部などにもみられる。地図帳や資料集のケッペンの気候区分図をみながら、下の表①を参照して、成因とともに分布を確認しておこう。

第 2 問 地形

【出題のねらい】

地形の成因と変化、大陸別の大地形と資源の分布、火山とプレート境界、海岸地形の分布、カルスト地形・乾燥地域・氷河地形・サンゴ礁の特徴、扇状地の地形図読図を出題した。大地形とプレート境界は教科書や地図帳の図で分布を確認し、小地形は成因を理解して代表的な例を地図帳で確認しておこう。なお、使用した地形図は、国土交通省国土地理院発行 2 万 5 千分の 1 地形図「駒野」である。

【設問別解説】

問 1 **7** ㉓

地形をつくる力を営力といい、地球内部から働く**内的営力**と、外部から働く**外的営力**に分けられる。  
㉑正しい。内的営力には、**地殻変動と火山活動**があり、大陸、大山脈、列島、海溝などの大規模な地形である大地形を形成する。㉒正しい。外的営力は、岩石の**風化**や、河川や氷河、波などによる**侵食・運搬・堆積作用**で、さまざまな小地形を形成する。㉓誤り。侵食輪廻は、河食(河川による侵食・運搬・堆積作用)による地形の変化を人間の一生になぞらえたもので、内的営力によって隆起した原地形(平坦な高原状の仮想の地形)は、幼年期、壮年期、老年期を経て平坦な準平原に至り、準平原が隆起すると侵食が復活し、同じサイクルを繰り返すという考え方である。幼年期は、平坦な高原に谷が形成され始めた段階で、壮年期は、尾根と V 字谷が発達した険しい山々が連なり、老年期は侵食が進んで谷が広くなり、なだらかな山々が連なる段階である。一般に、**新期造山帯**は壮年期、**古期造山帯**は老年期に対

表① 砂漠の生じる原因

原 因	解 説	砂 漠 の 例
隔海度大きい	海から水平的に離れているため、降水のもとである水蒸気が届かない。	ゴビ砂漠、 タクラマカン砂漠
卓越風に対して山地の風下側に位置	山脈の風上側で降水、風下側では水分が失われてしまう。(日本の太平洋側の冬の天気と類似)	パタゴニア台地
亜熱帯高圧帯の支配	年中下降気流が卓越、雨を降らす原因である上昇気流が生じにくい。	カラハリ砂漠、サハラ砂漠、 グレートサンディー砂漠
沖合を寒流が流れる低緯度の大陸西岸に位置	寒流によって大気が冷却され、下層が冷涼、上層が温暖という安定構造ができ、上昇気流が生じない。	アタカマ砂漠、 ナミブ砂漠



応する。④正しい。大地形は、造山運動を受けた時期により三つに分けられる。安定陸塊は、先カンブリア時代に造山運動を受けた地域で、その後の侵食によって平坦な平野や高原になり、先カンブリア時代の岩石が露出した楕状地と、その上に古生代以降の地層が堆積した卓状地に分けられる。楕状地には、侵食輪廻の最終段階である準平原がみられ、卓状地には地層の構造が地形に反映された構造平野がみられる。

問2 [8] ②

鉱産資源の分布は大地形と関係が深く、安定陸塊には鉄鉱石、古期造山帯には石炭、新期造山帯およびその周辺には銅鉱や石油の埋蔵が多い。Aはアフリカ大陸で、北部には新期造山帯のアトラス山脈があり、付近のアルジェリアなどでは石油を産出する。南部には古期造山帯のドラケンスバーグ山脈があり、南アフリカ共和国は石炭の生産が多い。その他の地域は安定陸塊のアフリカ楕状地で、全体に台地状の大陸であるが、東部にはプレートの広がる境界に形成された大地溝帯が南北に走り、標高5,000 mを超える火山や断層湖がみられる。Iは南アメリカ大陸で、西部には太平洋に沿って新期造山帯のアンデス山脈が南北に走り、東部には安定陸塊のギアナ楕状地やブラジル楕状地が広がっている。アンデス山脈には銅鉱の埋蔵が多く、チリは世界一の生産国である。ブラジル楕状地に位置するブラジル高原には鉄鉱石の埋蔵が多く、ブラジルは世界有数の生産国である。しかし、古期造山帯はほとんどみられないため、石炭の産出は南極を除く全大陸の中で最も少ない。Uは北アメリカ大陸で、東部には古期造山帯のアパラチア山脈があり、付近にはアパラチア炭田が分布する。西部には新期造山帯が分布し、ロッキー山脈付近には銅鉱が多く埋蔵され、アメリカ合衆国は世界有数の生産国である。古期造山帯と新期造山帯にはさまれた中央部は安定陸塊で、北部のハドソン湾周辺に広がるカナダ楕状地には鉄鉱石が多く埋蔵されている。

問3 [9] ③

地球の表面は、厚さ100 km程度のプレートとよばれる十数枚の岩板で覆われ、マントル対流により移動している。プレートの境界は三種類に分けられ、プレートが新しく生まれ、両側に広がっているところが**広がる境界**で、大部分は海底にあり、長大な海底山脈である**海嶺**を形成している。プレートがぶつかり、沈み込んでいくところが**せばまる境界**で、**海溝**と**弧状列島**、**大山脈**が形成される。プレートがすれ違うところが**ずれる境界**で、カリフォルニア

の**サンアンドレアス断層**のような横ずれ断層が形成される。地震と火山は、このようなプレートの境界に多くみられるが、局部的にマントル物質が上昇する**ホットスポット**にも火山は分布する。①正しい。Aはハワイ諸島で、太平洋プレートの中央部に位置するが、ホットスポットにあたるため火山がみられる。②正しい。Bのアイスランド島は、プレートの広がる境界である大西洋中央海嶺上に噴出した火山島である。③誤り。Cはアフリカ大地溝帯付近の火山で、広がる境界に位置している。④正しい。Dのカムチャツカ半島は、プレートのせばまる境界にあたる千島・カムチャツカ海溝に並行し、活動的な火山が多くみられる。

問4 [10] ①

海岸地形は、陸地の隆起や海面の低下により形成される**離水海岸**と、陸地の沈降や海面の上昇により形成される**沈水海岸**に大別される。離水海岸には、**海岸平野**や**海岸段丘**があり、沈水海岸には、河食によるV字谷が沈水した**リアス海岸**や氷食によるU字谷が沈水した**フィヨルド**、河口が沈水してラップ状の入江となった**エスチュアリー**(三角江)がある。Oのセントローレンス川の河口部はラップ状に開いており、エスチュアリーがみられる。アルゼンチン・ウルグアイ国境に河口がある**ラプラタ川**や、ロンドンを流れる**テムズ川**、パリを流れる**セーヌ川**などの河口にもみられる。Pのチリ南部にはフィヨルドが発達している。**ノルウェー西岸**や**アラスカ**から**カナダ**にかけての太平洋岸、**ニュージーランド南島南西岸**などにもみられる。Qのナイル川河口には**三角州**が発達している。ミシシッピ川や**ガンジス川**などにも大規模な三角州がみられる。河川が運搬した土砂が河口に堆積して形成される三角州は、離水海岸にも沈水海岸にも分類されない。Rの韓国南西部には**リアス海岸**が発達している。リアス海岸は、**スペイン北西部のリアスバハス海岸**に因んだ名称である。以上の海岸の例は必ず地図帳で位置を確認しておこう。

問5 [11] ④

①正しい。**カルスト地形**は、石灰岩が二酸化炭素を含む雨水や地下水に溶かされて形成され、溶食地形ともよばれる。**ドリーネ**などのくぼ地や**鍾乳洞**が形成され、スロベニアのカルスト地方に典型的に発達することから名づけられた。②正しい。乾燥地域でまれに降る雨のときだけ水流がみられる**涸れ川**は**ワジ**とよばれ、地図帳のサハラ砂漠などでその例をみておこう。湿潤地域から砂漠に流れ込む河川は**外来河川**とよばれ、**ナイル川**や**ティグリス・ユーフラ**



テス川などのように、河川沿いにオアシスが形成されて農業が営まれ、都市も立地する。③正しい。氷河は、山岳氷河と大陸氷河(氷床)に分けられ、山岳氷河の侵食によって形成された谷頭部の半碗状のくぼ地はカール、山頂部の尖峰はホーン(ホルン)とよばれる。氷河は谷底が平坦で両側が急傾斜のU字谷を形成して流れ、末端部には運搬してきた砂礫が堆積したモレーンがみられる。④誤り。サンゴ礁は、サンゴの骨格が積み重なって形成された石灰質の地形である。サンゴ礁は、浅い海底でしか成長しないため、陸地の沈降や海面の上昇にともなって陸地を縁取る裾礁、陸地とサンゴ礁の間に礁湖(ラグーン)が形成された堡礁、サンゴ礁だけが環状に現れた環礁の順に発達する。サンゴ礁が隆起すると海岸平野や海岸段丘となり、石灰質であるため、ドリーネなどのカルスト地形がみられる。

問6 12 ④

①正しい。盤若谷を流れる河川は、標高130m付近から「かれ川」の記号で表され、平常は水流がみられない水無川(--)であることが読み取れる。扇状地は、谷口に形成される扇型の堆積地形で、砂礫質からなるため水はけがよく、河川水は伏流して水無川となることが多い。扇状地は、上流側から扇頂、扇尖、扇端に分けられ、盤若谷は扇の要にあたる扇頂から水無川となっている。扇状地を流れる河川は洪水時に流路を変えるが、堤防などで河道を固定すると、運搬される砂礫が河床に堆積して上昇し、周囲より高くなった天井川が形成されやすい。盤若谷の扇端付近では鉄道と道路が川の下を通っており、標高40m付近より下流では、河川沿いに等高線が下流側に張り出していることから、天井川であることが読み取れる。②正しい。扇状地は水はけがよいので、水田には適さず、畑や果樹園、茶畑などに利用されることが多い。図中では大部分が果樹園として利用されている。③正しい。扇状地は、同心円状の等高線で表され、南濃町太田や南濃町吉田の集落は、その等高線の末端部の扇端に位置している。扇端より低いところには平坦な氾濫原が広がり、水田に利用されている。④誤り。尾根は、進行方向に向かって左右両側が低くなっているところ、等高線が山頂から低いほうに向かって凸になっているところを連ねた線が尾根線である。一方、谷は、進行方向に向かって左右両側が高くなっているところで、等高線が低いところから高いほうに向かって凸になっているところを連ねた線が谷線である。自然状態では河川は必ず谷を流れるので、図中の盤若谷を流れる河川は谷線を示している。南濃町吉田か

ら西方の629.0mの三角点付近にある神社に登る道やその南側の道は、大部分が尾根を通っている。

第3問 ヨーロッパの自然環境と農牧業

【出題のねらい】

新期造山帯の分布、雨温図、地域ごとの農業の特徴、国別農産物生産、家畜の分布を出題した。地誌学習にまだ入っていないかもしれないが、系統地理で学習する地形や気候、農牧業などの基本的な知識を用いて、正答にたどりつけるように作成してある。地誌学習は、地図や資料集、統計をていねいに確認しておいてほしい。特にヨーロッパは、国ごとの特徴をしっかりと理解していこう。

【設問別解説】

問1 13 ⑥

ヨーロッパの地形は、南部を東西に延びる新期造山帯のピレネー山脈、アルプス山脈、カルパティア山脈を境に、安定陸塊や古期造山帯からなる比較的平坦な北・中部と、これら三つの山脈を含む高峻な新期造山帯や台地からなる南部に大別できる。北部に位置するア(スカンディナヴィア山脈)とイ(ペニン山脈)は、古期造山帯に属する山脈であり、南部に位置するウ(ピレネー山脈)とエ(アペニン山脈)は新期造山帯(アルプス・ヒマラヤ造山帯)に属する山脈である(よって⑥が正しい)。新期造山帯は、出題したピレネー山脈とアペニン山脈以外にも、アルプス山脈、バルカン半島のアドリア海沿岸を南北に延びるディナルアルプス山脈、東ヨーロッパのスロバキアからルーマニアにかけて南北に延びるカルパティア山脈を地図帳で確認しておこう。

問2 14 ①

ヨーロッパの気候は、年中湿潤な北・中部と、夏に降水が少ない南部に大別でき、さらに北・中部は冬の気温によって主に温帯に属する西部と主に亜寒帯(冷帯)に属する東部に分けることができる。②は、夏に乾燥し、冬に降水がみられることから、南部に位置するリスボンと判定できる。地中海沿岸を中心としたヨーロッパ南部は、主に地中海性気候(Cs)で、夏に亜熱帯高圧帯に覆われて少雨となり、冬に偏西風や亜寒帯低圧帯の影響で降水が多くなる。他と比べて気温が最も高いことから判断できる。①は、③・④より冬の気温が高く気温の年較差も小さいことから、北・中部でも西部に位置するダブリンと判定できる。第1問で確認したように、ヨーロッパの北西部は、沖合を流れる暖流の北大西洋海流と、その上を吹く偏西風の影響で、高緯度のわりには冬でも比較的温暖な気候となり、主に西岸

海洋性気候(Cfb・Cfc)に分類される。③と④の判定はやや難しいが、冬の気温がより低い④が、高緯度に位置するヘルシンキとなる。ヘルシンキは、最寒月平均気温が $-3^{\circ}\text{C}$ を下回り、亜寒帯湿潤気候(Df)に分類される。③のワルシャワは、温帯と亜寒帯の境界付近に位置し、最寒月平均気温は $-1.9^{\circ}\text{C}$ (1月)で、西岸海洋性気候(Cfb)に分類される。

問3 15 ④ 16 ②

A—⑤, B—④, C—①, D—⑥, E—③, F—②。ヨーロッパでは、冷涼で氷食を受けたやせ地が広がる北部では主に酪農が、中部では主に混合農業が、南部では主に地中海式農業が行われている。また、統一市場となったEUでは、共通農業政策もあり、地域ごとに特定の農産物への専門化も進んでいる。①は、Cのオランダについての説明である。オランダでは、ポルダーといわれる干拓地での酪農や、温室を利用した野菜やチューリップの球根、花卉を栽培する園芸農業がさかんで、アムステルダム郊外には世界最大規模の花弁卸売市場があり、花の取引価格に大きな影響を及ぼしている。②は、Fのスペイン東部、バレンシア地方の説明である。地中海沿岸地域では、夏の乾燥に耐える樹木作物を栽培し、湿潤な冬に自給用の小麦を栽培する地中海式農業が伝統的に行われ、ヨーロッパのなかでは生産性の低い地域であった。近年では灌漑の普及や機械化の進展によって商業化が進み、バレンシア地方ではオレンジの大規模な生産がみられる。また郷土料理のパエリアなどに使われる米が低平な地域では灌漑によって栽培され、イタリア北部のポー川流域とともにヨーロッパの代表的な稲作地域となっている。③は、Eのアルプス地域の説明である。アルプス山脈では牛や羊などの家畜を、冬は山ろくの畜舎で飼育し、夏は牧草の得られる高地(アルプ)で放牧する移牧がみられる。高低差を利用して季節ごとに家畜を移動させる移牧は、夏に牧草の不足する地中海沿岸地域でもみられ、牧草の得られる高地に移動させて羊やヤギの放牧を行っている。④は、Bのデンマーク、ユーラン半島の説明である。ヨーロッパ北部は、約1万年前まで続いた最終氷期には大陸氷河に覆われ、表層の土壌が削られてやせ地となっているところが多いが、低平なデンマークでは、農業協同組合のもとで化学肥料の投下や客土などの土壌改良を行い、耕地で飼料用作物を生産して乳牛や豚などの家畜を畜舎で集約的に飼育する酪農や混合農業が行われている。デンマークは耕地率が高く(57.2%:2010年)、混合農業による豚肉の生産(ベーコンなどに加工)がさかんで輸出も多い。⑤

は、Aのスカンディナヴィア半島北部にあるラップランドの説明である。高緯度に位置し寒冷な気候のため農耕には不向きで、サーミといわれる少数民族によってトナカイの遊牧や狩猟、採集が伝統的に行われてきたが、近年では観光業やサービス業に就く人も多くなり、伝統的な生活形態は変化しつつある。⑥は、Dのパリ盆地の説明である。パリ盆地では、もともと主に混合農業が行われてきたが、機械化、大規模化が進み、現在では小麦の大規模な単一耕作がみられる。また、パリ盆地では日当たりのよいケスタの傾斜地でのブドウ栽培が古くから行われ、シャンパーニュ地方で生産される発泡性のブドウ酒はシャンパンとして有名である。

問4 17 ①

資料集や地図帳でブドウの栽培限界を確認してみよう。ブドウは温暖な地域に生産が限定され、ちょうどパリ盆地付近が栽培の限界であり、ドイツでは中央部を東西に横切るように通過している。表1でブドウが多い①と④は、ブドウが生産できる地中海沿岸のイタリアと、南部を中心に栽培が行われているドイツのいずれかであると判別できる。そのうちブドウの生産が多い④が、地中海沿岸に位置するイタリアとなる。イタリアは、中国、アメリカ合衆国に次いで世界3位のブドウ生産国であり、ヨーロッパでは最も多い(フランスが4位、スペインが5位と続く)。次いでブドウ生産の多い①はドイツとなるが、4か国のなかで小麦生産が最も多いことでも判断できる。ヨーロッパでは、湿潤な気候に恵まれ人口の多いフランス、ドイツ、イギリスの3か国が小麦の生産上位国となっている。ブドウ生産がほとんどない②と③が、冷涼な気候となるイギリスかポーランドのいずれかで、判定はやや難しいが、小麦の多い②がイギリス、ジャガイモの多い③がポーランドとなる。ジャガイモは冷涼でやせた土地でも栽培できるイモ類で、混合農業の輪作作物の一つとして取り入れられており、ヨーロッパではドイツ(世界6位)、ポーランド(世界7位)で多い(生産統計はいずれも2012年)。

問5 18 ⑤

図形表現図をみる際には、地域的な偏りや規模に注目してみよう。Kは、スペインやバルカン半島など南部の国と、イギリスで多いことから羊となる。羊は粗食に耐え、草の少ない乾燥地域でも飼育が可能のため、乾燥地域での代表的な家畜となっている。ヨーロッパでは夏乾燥し年降水量も少ない南部で、移牧などによって飼育され、頭数が多くなっている。また、イギリスは毛織物工業に羊毛を供給す

るため古くから牧羊がさかんで、ヨーロッパで最も羊の飼育頭数が多い国となっている。カとキは、地域的な偏りが小さく判定がやや難しい。カはドイツやデンマーク、ポーランドなど北東部の国と、スペインで多く、キに比べてヨーロッパでの飼育頭数が多いことから豚となる(キが牛)。牛は、食用のほか、酪製品に加工する牛乳を得たり、皮革を利用したり、農耕に用いる役畜としても利用され、世界での飼育頭数は豚や羊に比べて多い。そのため各国で飼育され、偏りは小さく、EU最大の農業国であるフランスで飼育頭数が最も多くなっている。一方、豚は、食用としての利用が圧倒的に多い。豚は多産で、雑食でもあるため、食肉生産では効率的に肉を生産できる家畜であり、飼料に恵まれたところであるならば飼育が可能である。ヨーロッパではドイツやデンマークなど冷涼な北東部の国を中心に混合農業での飼育が多く、ヨーロッパ全体の飼育頭数は牛よりも多くなっている。

#### 第4問 エネルギー資源と工業

##### 【出題のねらい】

エネルギーの地域別輸出入、エネルギー自給率および1人当たり供給量と供給に占める化石エネルギーの割合、各種工業の立地、国別の工業生産、日本のエネルギー供給、都道府県別の業種別特化係数を問うた。各エネルギーの特徴や分布、各種工業の立地など、まずは教科書でしっかりと理解しよう。この單元では統計の学習が不可欠であるが、統計を丸暗記するのではなく、背景を押さえながら学習を進めるようにしよう。

##### 【設問別解説】

##### 問1 19 ②

アは、オーストラリアを含むオセアニアの輸出割合が高いことから、石炭と判定できる。石炭の生産は、中国が圧倒的に多く(55.0%)、以下インド、アメリカ合衆国、インドネシア、オーストラリアと続くが、上位3か国は国内での消費量が多いため、輸出では生産5位のオーストラリアが1位、生産4位のインドネシアが2位となっている(次ページ表②参照)。一方、輸入の上位国は、日本、中国、韓国、インドとアジアの国が占めており、エネルギーに恵まれない日本、韓国に加えて、エネルギー需要が増加している中国やインドの輸入が増加している(いずれも2010年)。イは、アメリカ合衆国を含む北中アメリカで輸出割合よりも輸入割合が大幅に高いことから、原油と判定できる。アメリカ合衆国は、ロシア、サウジアラビアに次ぐ世界第3位の原油生

産国(2013年)であるが、国内消費量が多く、世界最大の輸入国となっている(2011年)。サウジアラビアなど西アジアの産油国を含むアジアは輸出の割合が高いが、石炭と同じく、日本、韓国のほか、中国やインドの輸入が増加し、輸入の割合も高くなっている。ウは、輸出・輸入ともにヨーロッパの割合が高いことから、天然ガスと判定できる。天然ガスの生産は、アメリカ合衆国とヨーロッパに含まれるロシアで多いが(2012年)、国内需要が大きいアメリカ合衆国の輸出量は少なく、ロシアやノルウェーなどヨーロッパの国々が占める割合が高くなっている(オランダも6位)。輸入も、輸出国のロシアなどを起点としたパイプラインで結ばれたヨーロッパのドイツやイタリア、イギリスなどで多い(2011年)。

##### 問2 20 ④

工業化の進展やモータリゼーションなどによる生活水準の向上にともないエネルギー消費量は増加するので、1人当たりのエネルギー消費量は先進国で多く、途上国では少ない。表1中の1人当たりの一次エネルギー供給量(消費とほぼ等しいと考えてよい)の多い①と②は先進国のアメリカ合衆国かフランス、少ない③と④が中国かブラジルとなる。一次エネルギー供給に占める化石エネルギーの割合に注目すると、割合の低い④はサトウキビ由来のバイオエタノールや水力の利用が多いブラジルとなり、割合の高い③が石炭利用の多い中国となる。ブラジルは、1970年代の石油危機以降、バイオエタノールの利用を進め、水力発電が全発電量中の約8割を占めている。また、かつては原油の輸入国であったが、近年では南東部のリオデジャネイロ沖で海底油田の開発が進み、原油は自給を達成している。一方、中国は、問1でみたように、石炭の生産・輸入ともに多く、一次エネルギー供給量のうち、石炭が68.1%を占める(2011年)。中国は現在、アメリカ合衆国を抜いて世界最大のエネルギー消費国となり、1人当たりのエネルギー供給量も増加し、石炭や原油の輸入が増加している。①と②のうち、1人当たり一次エネルギー供給量が多い①がアメリカ合衆国で、②がフランスである。国土が広く、モータリゼーションの進んだアメリカ合衆国では1人当たりのエネルギー消費量は多くなる。フランスは、石油危機以降、原子力の利用を積極的に進めたため、化石エネルギーの割合は低く、原子力発電が全発電量中の約8割を占めている。

##### 問3 21 ④

企業は、利潤の最大化を考慮して、輸送費や労働費などの生産費が最も節約できる場所に工場を立地

しようとする。①正しい。セメント工業は、原料産地が限られる局地原料の石灰石を主原料として用いる。セメントは、石灰石を高温で処理し粉末にしたものであり、石灰石のほか熱処理の際に石炭も用い、製品重量に比べて原料の重量が大きいいため、工場は輸送費を節約できる原料産地に立地する。②正しい。石油化学工業は、局地原料の原油を精製・分解して、ナフサなどの各種製品を製造するが、現在はほぼ100%原料を無駄なく使用して製品をつくっているため、原料時の重量と製品時の重量は変化せず、原料で運んでも、製品にして運んでも、輸送量は大きな差がないため原料産地、消費地、あるいはその中間点でも立地は自由である。海外からの輸入原料を用いる場合、輸送費を節約できるのは、市場近くの港湾が整備された臨海部で、日本の千葉や四日市などがその例である。臨海部以外では原料産地のサウジアラビアや、中間地点のシンガポールなどでも行われている。③正しい。自動車工業は、約3万点の部品を流れ作業で組み立てる総合組立工業であり、関連工場が集積しているところに立地すれ

ば、輸送費を節約できるだけでなく、情報交換や交渉もしやすく各種設備の共同利用も可能となる。こうした集積がみられる顕著な例としては、ほかに古くから特定の業種を中小企業が連携しながら行う地場産業などが挙げられる。④誤り。ビール工業の場合、大麦やホップなど局地原料も用いるが、生産工程においてどこでも得られる普遍原料の水が加わることで製品の重量・容量ともに大幅に増加するため、工場は市場近くに立地すると輸送費を最も節約できる。また生産工程でも自動化が進み、それほど多くの労働力は必要としない。生産費に占める労働費の割合が高く、安価な労働力が確保しやすいところに立地するのは、衣類の縫製業や電気機械の組立工業などの労働集約型産業である。組立工業は、安価な労働力が得られるところに立地するため、先進国企業による途上国への工場の移転も進んでいる。

#### 問4 22 ④

カは、スウェーデンやフィンランド、カナダ、ロシアで多いことから、パルプ生産量となる。紙の原料となるパルプは、木材を細かくしたチップを化学

表② 石炭・原油・天然ガスの生産と輸出入

##### 石炭

生産	%	輸出	%	輸入	%
中国	55.0	オーストラリア	27.0	日本	18.9
インド	9.1	インドネシア	26.8	中国	16.6
アメリカ合衆国	7.8	ロシア	12.2	韓国	11.6
インドネシア	5.4	コロンビア	6.3	インド	7.0
オーストラリア	5.3	アメリカ合衆国	6.2	ドイツ	4.7

##### 原油

生産	%	輸出	%	輸入	%
ロシア	13.9	サウジアラビア	16.9	アメリカ合衆国	21.7
サウジアラビア	12.9	ロシア	11.8	中国	11.8
アメリカ合衆国	9.9	イラン	5.5	インド	8.0
中国	5.6	アラブ首長国連邦	5.5	日本	7.8
カナダ	4.5	ナイジェリア	5.3	韓国	5.8

##### 天然ガス

生産	%	輸出	%	輸入	%
アメリカ合衆国	19.6	ロシア	19.2	日本	11.3
ロシア	18.9	カタール	12.2	アメリカ合衆国	9.3
カタール	5.0	ノルウェー	9.4	ドイツ	8.7
イラン	4.7	カナダ	8.9	イタリア	6.7
カナダ	4.5	アルジェリア	5.2	イギリス	5.2

統計年次は、石炭はいずれも2010年、原油は生産が2013年、輸出入が2011年、天然ガスは生産が2012年(推定)、輸出入が2011年。  
『世界国勢図会』により作成。



溶剤で溶解させたもので、材質の柔らかい針葉樹が原料として適している。アメリカ合衆国や中国など、人口が多く、紙の需要が多くなる国のほか、**冷帯林の発達する国**での生産が多い。近年は化学溶剤の技術も向上し、材質の硬い広葉樹も用いられるようになったため、ブラジルやインドネシアでの生産も増加している。クは、中国、アメリカ合衆国、日本、ドイツで多いことから、自動車生産台数となる。自動車は、高度な技術と多くの資本を必要とするため、かつては先進国での生産が多かった。しかし2000年以降は、**中国やインドなどの新興国に先進国の自動車企業が巨大な市場を求めて進出したこと**で、これらの国での生産が増加し、**中国は2009年に世界一の自動車生産国**となっている。キは、ノルウェーやカナダ、ブラジルのほか、オーストラリアや中東の産油国が上位となっていることから、アルミニウム工業となる。アルミニウムは、原料のボーキサイトを加工した中間製品のアルミナからアルミニウムを製造する工程で大量の電力を必要とするため、**アルミニウム精錬業は安価な電力が得られるところに立地する。発電コストの安い水力発電がさかんな国に立地**することが多く、ノルウェーやカナダ、ブラジルはその代表例である。最近では、石炭生産の多いオーストラリアや石油や天然ガスの生産の多いアラブ首長国連邦、バーレーンなどで化石燃料による火力発電を利用したアルミニウムの生産も増加している。

問5 **23** ①

① 誤り。日本の一次エネルギー自給率は11.2 %と低く、石炭と天然ガスの輸入量は世界一であるが、**問1**でもみたように、原油輸入はアメリカ合衆国、中国、インドに次いで4位である(自給率は2011年、他は表②参照)。② 正しい。石炭は、火力発電や製鉄業に用いられ、日本はオーストラリア(63.6 %)、インドネシア(19.1 %)の**2か国からそのほとんどを輸入**している(2013年)。日本の一次エネルギー供給に占める石炭の割合は、原油や天然ガスの利用が増加したことで低下していたが、2000年以降の原油価格の高騰によって見直され、再び割合は上昇している。③ 正しい。原油のほぼ全量を輸入に依存する日本は、1960年代には西アジア地域からの輸入の割合が9割前後ときわめて高かった。1970年代になると、この地域において、中東戦争やイラン革命にともない石油価格が上昇する石油危機が起これ、供給不安が懸念されたため、中国やインドネシアなど西アジア以外からの輸入を増やして輸入先の分散化を図った。1987年には西アジア依存度は

67.9 %まで低下したが、中国やインドネシアで経済発展にともない国内需要が増加したことで、これらの国の輸出余力が小さくなったため、埋蔵量の多い西アジア地域への依存度は再び上昇している。現在の日本の原油輸入先上位国は、**サウジアラビア**(31.8 %)、**アラブ首長国連邦**(22.7 %)をはじめ、カタール、クウェートであり(2013年)、1990年代後半からは西アジア依存度は85 %を超えている。④ 正しい。天然ガスは、ヨーロッパなど陸続きで輸出入が行われる場合、パイプラインによる輸送が多いが、海に囲まれた日本が輸入する場合は、加圧をして液化した**液化天然ガス**(LNG)にして専用船で輸入している。

問6 **24** ②

特化係数は、問題文の注にあるように、産業分類別の都道府県における出荷額の構成比を、対応する全国の構成比で割ったものであり、各都道府県の産業構造がどの分野に偏っているかをみることができる(もし全国の構成比と同じならば1となる)。① は、愛知県や静岡県のほか、群馬県、広島県などで高いことから、輸送用機械器具となる。これらの県では、**豊田市**(愛知県)、**浜松市**や**磐田市**(静岡県)、**太田市**(群馬県)、**広島市**に自動車や二輪車を製造する工業が立地している。② は、北海道や東北地方、九州地方のほか、東京周辺の県で高いことから、食料品となる。**農業や畜産がさかんな北海道、東北、九州**のほか、大都市周辺の埼玉や千葉などでは大市場向けの食料品製造業が立地し、高位となっている。食料品製造業は、全国各地で行われ、ほぼ全国の出荷額と割合が等しい(特化係数が1に近い)中位(0.8~1.2)の都道府県が多いことも特徴である。③ は、北海道、茨城や千葉、瀬戸内地域で高いことから、鉄鋼業となる。これらの道府県では、**室蘭市**(北海道)、**鹿嶋市**(茨城県)、**千葉市**や**君津市**(千葉県)、**和歌山市**、**倉敷市**(岡山県)、**大分市**などに鉄鋼一貫工場が立地している。④ は、東京都や大阪府、宮城県などで高いことから、印刷・同関連業となる。市場の情報を重視する出版業との関連が強い**印刷・同関連業は、市場に近い大都市に立地**する傾向があり、地域の中心的な役割を果たしている大都市のある都府県で高い。特に東京都は、他の製造業の立地が少ないため、特化係数は6.964ときわめて高くなっている。印刷・同関連業は、輪転機や裁断機などを用い、敷地面積が広くなくても可能であり、大都市に立地することができる。



## 第5問 都市と余暇・消費行動

### 【出題のねらい】

都市については、都市の特徴的な機能、都市の人口規模、各種指標を用いての都市の特徴、都市に関する用語を、余暇・消費行動については、外国人観光客受入数と国際観光収支、日本の消費関連産業について問うた。都市は、用語の意味をしっかりと押さえるとともに、図表の読み取りにも慣れていこう。余暇・消費行動についても、教科書をよく読み、理解を深めておきたい。

### 【設問別解説】

#### 問1 25 ㉑

都市のなかには、宗教や学術、観光保養といった特徴的な機能が発達した都市も存在する。①正しい。**学術都市**は、大学や学術研究機関を中心に発展した都市で、創立が古く、世界的にも有名な大学があるイギリスのオックスフォードやドイツのハイデルベルクなどが代表例である。日本ではつくばが該当する。②正しい。**工業都市**は、工業が発達した都市で、イギリスのバーミンガムは炭田と鉄山を、アメリカ合衆国のピッツバーグは炭田を背景に鉄鋼業が発達した都市である。③誤り。カナダのオタワ、ブラジルのブラジリアともに首都であり、**政治都市**である。**宗教都市**は、宗教の聖地として宗教にかかわる機能が卓越した都市で、**イスラム教**のメッカやメディナ、**ヒンドゥー教**のヴァラナシ、**カトリック**のバチカンのほか、**ユダヤ教・キリスト教・イスラム教**の3つの宗教の聖地となっているエルサレムがある。④正しい。**保養都市**は、温泉地や気候に恵まれた避暑地・避寒地を有する都市で、長野県の軽井沢は避暑地として、温暖な気候に恵まれるフランス南東部のニースは海岸保養地として有名である。

#### 問2 26 ㉒

大小さまざまな規模の都市は、政治・経済・文化などさまざまな機能を通じて結びついており、こうした階層的な都市間相互の関係を都市システムという。都市を人口規模の順に並べると、人口順位と都市システムはほぼ対応している。**A**は、第1位の都市が首都となっており、人口が突出していることから、発展途上国のペルー(首都リマ)と判定できる。発展途上国では、インフラの整備された国内最大都市(首都であることが多い)に国内外からの投資が集まり、国内各地から職を求めて人々が流入してくるので、第1位と第2位以下の都市との差が大きくなる。このような第1位の都市を**首位都市(プライメート・シティ)**という。**I**と**ウ**は、第1位と第2位の都市の差がともに小さいが、**I**は、第1位の都

市が首都になっていることから、首都が人口最大となっているドイツとなる。ドイツは連邦制を採用しているため、機能が分散し、人口の偏りは小さいが、人口最大都市は首都のベルリンである。**ウ**は、第5位までに首都がなく、第1位と第2位の都市の人口規模の差が小さいことから、**シドニーとメルボルンが2大都市**となっているオーストラリアとなる。オーストラリアの首都**キャンベラ**は、独立時に2大都市が首都の選定をめぐる対立したため、その中間地点に建設された**計画都市**で、政治機能に特化しており、人口は36万人しかいない。

#### 問3 27 ㉓

愛知県の市町村がわからなくても、図表をもとに都市の立地や機能から考えていけば正解は得られる。昼夜間人口指数は、雇用(オフィスや商業施設、工場など)の場や教育機関(大学や高校)が多く立地する都市では、周辺地域から昼間に流入する人が多くなるため100を上回り、その周辺地域では流出する人が多いため100を下回る。よって昼夜間人口指数が100を上回る②と③は、三大都市の一つでもある県庁所在地の名古屋市か、工業都市の**豊田市(都市別工業出荷額が全国1位)**のいずれかとなる。②は、第二次産業就業者割合が高く、65歳以上人口割合(老年人口率)が低いことから、製造業に従事する生産年齢人口が多い豊田市であり、③が、**企業の本・支社が多く立地し、昼夜間人口指数の高くなる名古屋市**となる。100を下回る①と④のうち、①は人口増加率が高く、65歳以上人口割合も低いことから、名古屋市に隣接し、名古屋市の**衛星都市**としての性格を持つ春日井市となる。大都市周辺の都市は、大都市に通勤・通学をする人たちの**住宅都市**としての性格を持ち、昼夜間人口指数は100を下回り、老年人口率も低い都市が多い。④は人口増加率がマイナスで、65歳以上人口割合も高いことから、新城市となる。大都市圏にも含まれず、豊田市のような特徴的な産業を持たない日本の地方都市では、若年層の流出や高齢化の進行によって、人口が減少し、老年人口率の高い都市が多い。新城市の場合、製造業が立地し、第二次産業就業者割合は高いが、隣接する豊川市や豊橋市、隣県の静岡県浜松市に通勤する人が多く、昼夜間人口指数は100を下回っている。

#### 問4 28 ㉔

**a**誤り。**a**は、**スプロール現象**についての説明である。スプロール現象は、都市の周辺部で都市化の進行にともない、農地に無秩序に住宅や工場が虫喰い状に混在することで、生活環境の悪化や行政の財政負担が大きくなるなどの問題が指摘されている。

ジェントリフィケーションは、荒廃したインナーシティ(古くからの都心とその周辺部)やウォーターフロントを再開発することで高所得層が流入するようになる現象である。b 誤り。市街地の拡大によって、隣接する都市の市街地が連続して一つの都市域を形成する都市群をコナーベーション(連接都市)という。日本の京浜地域やドイツのルール地方、アメリカ合衆国の五大湖周辺などが、その代表例である。メガロポリスは、巨大都市が交通、通信などによって密接に結ばれた都市群地域であり、アメリカ合衆国の北東岸地域(ボストンからワシントンD.C.)、日本の東海道メガロポリス(京浜から阪神)が、その例である。

問5 29 ④

観光行動は、余暇活動がさかんな先進国で活発であり、国際観光支出(外国で宿泊や飲食などに支払う代金)も多くなる。最も国際観光支出の少ない②は、4か国中、所得水準が最も低いトルコとなる。地中海に面するトルコは、世界遺産のイスタンブールやカッパドキアなどがあり、国際滞在費も割安なため、夏を中心に多くの外国人観光客が訪れ、観光収入(外国人観光客が宿泊や飲食に支払う代金)は多い。②と同じく、国際観光収入のほうが多い①は、フランスとなる。フランスは、首都パリが世界的な観光地であり、コートダジュールなど地中海沿岸の海岸保養地で夏の長期休暇を過ごす外国人観光客も多く、観光客受入数は世界で最も多い国である。国際観光支出のほうが多い③と④がドイツか日本であるが、外国人受入数が最も少ない④が日本、受入数が多い③がドイツとなる。日本は、主にアジア諸国からの観光客が増加しているものの、滞在費が高く、英語が通じないなどの理由から受入数は少なく、国際観光収入も少ない。ヨーロッパは、国土が地続きで、EUによる移動の自由もあり、観光客の国際移動も活発であるため、③のドイツは、観光客受入数、収入・支出ともに日本より多いが、夏に観光を求めてフランスやイタリア、スペインなど地中海沿岸へと長期休暇で訪れる人が多く、国際観光支出のほう国際観光収入よりも多くなる。ヨーロッパでは、3～4週間の長期休暇(バカンス)が認められ、北部の人たちは夏のバカンスを陽光豊かな南部の国で過ごすことが多いため、北部では国際観光収支が赤字(支出のほうが多い)、南部では国際観光収支が黒字(収入のほうが多い)となっている国が多い。

問6 30 ②

①正しい。コンビニエンスストアは、原則終日営

業をしている小売業の業態で、売場面積が狭いため、食料品を中心に少量多品種の品揃えを多頻度配送によって維持し、消費者のさまざまな需要に対応している。コンビニエンスストアの販売額は増加しているが、こうした背景には労働時間の多様化や生活スタイルの多様化が挙げられる。販売情報を一元的に管理するPOS(Point of Sales)システムを活用して、店舗ごとの売れ筋商品を効果的に配送している。②誤り。モータリゼーションにともない大型ショッピングセンターが多く立地しているのは、郊外の幹線道路沿いである。自家用車で買い物に来る人向けに大型駐車場を併設し、食料品だけでなく衣類などの日用品も販売し、フードコートなども併設しているところが多く、まとめ買い(ワンストップショッピング)を可能にしている。大都市の中心部に多く立地しているのは、高級品や贈答品などを扱う百貨店であり、百貨店の販売額は1991年のバブル崩壊以降、大きく減少している。③正しい。②でみたモータリゼーションの進行によって地方の駅前商店街は、鉄道の利用客が減少し、道が狭く駐車場もないなどの理由から、顧客を郊外的大型ショッピングセンターに奪われて廃業を迫られた店舗が多い(シャッターを下ろしたままの商店街はシャッター通り商店街ともいわれる)。④正しい。携帯電話やスマートフォン、パソコンなどの情報端末が個人に普及し、情報通信技術の発達によって高速・大容量通信が可能になったことで、インターネットショッピングの販売額は増加している。顧客は場所や時間にとらわれることなく買い物ができ、販売側は店舗を持たずに遠隔地からの注文にも応じることができる。最近では、顧客情報の流出や不法品の取引など問題も指摘されている。

## 第6問 アジアの自然環境や人間生活

### 【出題のねらい】

地形断面図、自然と農牧業、三大穀物の生産、国別の産業の特徴、言語・宗教、土地利用や人口・経済規模の世界に占める割合を出題した。アジアは、モンスーンの影響を受けるモンスーンアジア(東アジア、東南アジア、南アジア)と、乾燥アジア(西アジア、中央アジア)に大別され、50か国近い国があり、その人口は世界全体の6割にもおよぶ。本問では、こうした広大で多様なアジアの地域的特徴に対する基本的な理解度を試した。地図帳や資料集を活用して、各地域の特徴を踏まえたうえで、主要国の特徴を確認してほしい。

【設問別解説】

問1 [31] ①

A(東経55度)は、南部の西アジアには**新期造山帯のイラン高原**が、北部の中央アジアは平坦な地域が広がるため、**A**となる。北部の西にあるカスピ海は、かつて現在の大陸がひとかたまりの大陸(パンゲア)だった時にあったテチス海という海の名残の一部と考えられており、カスピ海の湖面標高は海面より低く、沿岸は海面下の土地となっている。B(東経85度)は、南部が**安定陸塊のデカン高原**の東端、北部が**新期造山帯のヒマラヤ山脈とチベット高原**で、その間には**ガンジス川**が流れる標高の低いヒンドスタン平原が分布するため、**I**となる。C(東経105度)は、南部が**ユンコイ(雲貴)高原**、北部が**ホワンツー(黄土)高原**に至る高原地帯で、その間には**スーチョワン(四川)盆地**が広がるため、**U**となる。中国は、東部の華北平原や長江中下流平原は200m未満の低地となっているが、西部はユンコイ高原や黄土高原、チベット高原などの高原が広がっている。各地域の地勢は、地誌を学習する際に確認するようにしておこう。

問2 [32] ④

Pは、パキスタンとインドにまたがる**パンジャブ地方**で②となる。乾燥地域を外來河川のインダス川とその支流が流れ、河川流域では植民地時代に宗主国のイギリスが灌漑網を整備して、**小麦や綿花の栽培地**が広がった。Qは、モンゴル高原のステップ気候地域で①となる。南部にはゴビ砂漠が広がるが、Qは草原となっているため、住民は草と水を求めて羊とともに移動する**遊牧**を行ってきた。住居は、**ゲル**とよばれる**組立式のテント**で、これら家財や人の運搬には馬(現在は車も)が使われる。Rは、北部には長江の沖積平野が、南部には丘陵が広がり③となる。温暖で降水量も多いため、**長江沿いでは稲作**が行われ、南部では**茶の栽培が盛ん**である。Sは、カリマンタン島の低地で、赤道付近で熱帯雨林気候となっており④となる。もともと人口の多い地域ではなかったが、近年、人口密度の高いジャワ島などから入植する人々が増え、**熱帯雨林を伐採して天然ゴムや油ヤシのプランテーションが拡大**している。

問3 [33] ②

三大穀物は、アジアではいずれも主に食料として利用され、自給的な性格が強く、生産物は主に国内で消費される。このため、いずれの穀物も人口大国である中国(人口14億人)、インド(12.5億人)が生産1位、2位となっており判定しづらいが、上位2か国の占める割合や、3位以下の国に注目してみよ

う。キは、中国、インドで世界の5割弱を占め、インドネシア、バングラデシュ、ベトナムが上位にあることから、米と判定できる。米は、**高温多雨(年降水量1,000mm以上)の低湿**なところが栽培に適した穀物で、アジアの多くの地域で古くから主食となっている。そのためアジアでの生産、消費が多く、**世界生産量の9割弱がモンスーンアジアで生産**され、人口上位の**中国、インドで世界の5割弱**の生産を占める。中国、インド、インドネシア(2.5億人)の上位3か国は、モンスーンアジアの人口上位3か国であり、表1の上位5か国は、世界の米生産上位5か国でもある。クは、パキスタン、トルコ、イランが5位以内にあることから、小麦と判定できる。小麦は、**年降水量500~750mm程度の半乾燥地域**が栽培適地であり、国内に多雨地域と半乾燥地域がともに分布する中国、インドのほか、パキスタン(1.8億人)、トルコ(0.7億人)、イラン(0.8億人)と乾燥アジアで人口が多い国が続く(6~8位もカザフスタン、ウズベキスタン、アフガニスタンと乾燥アジアの国々となっている)。小麦の地域別生産量もアジアが最大で、中国、インドは世界生産でも1位、2位だが、米と違いヨーロッパや北アメリカでも生産が多いので、2か国の占める割合は米よりは低く、3位以下はアメリカ合衆国、フランス、ロシアとなっている。残った**力**がトウモロコシとなるが、トウモロコシは、先進国を中心に**家畜の飼料として利用が多く**、生産量も世界最大のアメリカ合衆国(31.4%)など飼料用に栽培しているアジア以外の国で多い。地域別生産量でもアジアは北アメリカより少なく、世界生産2位の中国以外は世界に占める割合は小さい。中国では近年、飼料用のトウモロコシ生産が急増している(生産統計の年次は2012年)。

問4 [34] ①

①誤り。サはサウジアラビアの油田である。サウジアラビアは、西アジア最大の産油国で、原油の生産量、埋蔵量ともに多い。石油採掘や精製など現場での労働は、その多くを**外国からの出稼ぎ労働者に依存**しており、サウジアラビア国民は管理部門やデスクワークに従事している。②正しい。シはインド南部の**バンガロール**のオフィスである。インドは、**英語を話せる理工系に強い労働力**に恵まれ、1980年代後半以降、アメリカ合衆国などから多くのIT企業が進出した。バンガロールには工科系の大学があり、コンピュータソフト開発に必要な人材に恵まれたことから、現在では「**インドのシリコンヴァレー**」とよばれ、世界的なIT産業の拠点の一つと

なっている。③正しい。スはシンガポールの港湾設備である。イギリス植民地時代から自由貿易港だったシンガポールは、中継貿易で発展した。1960年代から工業化も進み、アジア NIEs の一つとなっている。インド洋と太平洋を結ぶ海上交通の要衝に位置し、港湾別のコンテナ取扱量では、シャンハイに次いで世界 2 位となっている(2013年)。④正しい。セは中国のコワントン(広東)省のおもちゃ工場である。中国では農村部を中心に低賃金で雇用できる大量の労働力を抱えていたので、繊維、雑貨、電気機械などの労働集約的な工業が発達し、1990年代以降、世界中に商品を生産するようになった。コワントン(広東)省を中心とする華南では、こうした工業が特にさかんである。

問 5 [35] ③

①は韓国である。文字は日本でひらがな、カタカナが考案されたように、韓国では15世紀に表音文字のハングルが考案された。ただし日本と異なり、今では中国から伝わった漢字と組み合わせて使うことはほとんどない。儒教も中国から伝わったもので、近代化でその影響は徐々に小さくなっているとはいえ、今日でもさまざまな行事や慣習などが残り、生活のなかに根付いている。また、キリスト教、仏教の信者も多く、特にキリスト教は都市部を中心に信仰され、全人口の約 30 % を占める。②はサウジアラビアである。イスラームはこの国西部のメッカから世界各地に伝播した。アラビア語は同地域で使われていたアフリカ・アジア語族に属する言語だが、コーラン(クルアーン)がアラビア語で記されたため、イスラームとともにアフリカ・アジア語族の言語を使用する他の地域でも使われるようになった。③はフィリピンである。フィリピンでは、マレー半島や東南アジア島嶼部の他の国々(マレーシアやインドネシア)と同じく、マレー・ポリネシア語族の言語が主に話されている。国内には、独自の言語を持つ民族も多く共通語がなかったため、フィリピン語(首都マニラ付近で話されていた言語とほぼ同じ)と、アメリカ合衆国から独立した経緯から、英語を公用語としている。宗教は、アメリカ合衆国が宗主国となる以前にフィリピンを支配していたスペインの影響でカトリックを信仰する人が多い。④はタイである。タイ語はシナ・チベット語族に属し、中国語と共通性がある。しかし、宗教はインドから南方経由で伝播した上座仏教が信仰され、出家や托鉢の慣習など、今も人々の暮らしに根付いている。

問 6 [36] ①

日本のことが理解できていれば、日本に注目して、中国に次いで割合の高いチが経済規模を示す国内総生産、15位以内に入っていないタが耕地・樹園地面積、パキスタンやバングラデシュとほぼ同じ割合のツが人口と判断できるが、ほかの国にもぜひ注目してほしい。

チは、中国、日本、インドでの割合が高いことから国内総生産となる。国内総生産は、経済成長著しい中国が2009年以来、日本を上回っており、アメリカ合衆国に次ぐ世界 2 位、日本は 3 位で、その差は年々開いている。インドも経済成長で注目されるが、中国より遅く成長が始まったため、国内総生産はまだ少ない。ツは、中国、インドの 2 か国で割合がきわめて高く、以下、インドネシア、パキスタン、バングラデシュ、日本と続くことから、人口となる。アジアは、世界の人口の約 6 割を占め、中国(14億人)、インド(12.5億人)が世界の上位 2 か国であり、それぞれ世界人口(71.6億人)の 19.3 %、17.5 % を占める。アジアで 1 億人以上の国は、中国、インド、インドネシア、パキスタン、バングラデシュ、日本の 6 か国、5 千万人以上の国は、フィリピン、ベトナム、イラン、トルコ、タイ、ミャンマーの 6 か国ある。タは、インドのほうが中国よりも割合が高く、日本が含まれていないことから、耕地・樹園地面積となる。農牧業に利用される土地は、耕地・樹園地と牧場・牧草地に分けられる。一般に降水量の多い湿潤地域では耕地・樹園地面積が広く、降水量の少ない乾燥地域では牧場・牧草地面積が広い。中国はアジア最大の国土面積を有するが、中部から西部の内陸部は降水量が少なく乾燥している。このため、国土に占める耕地・樹園地の割合は低く(13.5 %)、牧場・牧草地の割合のほうが高い(42.1 %)。インドは、国土面積が中国の 3 分の 1 程度(329万 km<sup>2</sup> : 中国は 960万 km<sup>2</sup>)だが、乾燥地域が少なく、乾燥地域でもステップ気候に属し降水がやや多く、気温も高いため、畑作が可能である(耕地・樹園地率は 57.0 % と高い)。この結果、耕地・樹園地面積はインドのほうが広くなり、人口支持力も高く、人口密度はインドのほうが 2 倍以上高い(381人/km<sup>2</sup> : 中国は 144人/km<sup>2</sup>)。また、日本は、森林率が高く(68.5 %)、耕地・樹園地率は 12.6 % と低いため、耕地・樹園地面積は少ない(統計年次は、人口が2013年、面積が2012年、土地利用が2010年)。



# 【公 民】

## 現代社会

### 【解答・採点基準】

(100点満点)

問題番号	設 問	解 答 番 号	正解	配点	自己採点
第1問	問 1	1	③	3	
	問 2	2	③	3	
	問 3	3	②	3	
	問 4	4	②	3	
	問 5	5	①	3	
	問 6	6	②	3	
	問 7	7	②	2	
	問 8	8	④	2	
第1問 自己採点小計				(22)	
第2問	問 1	9	②	3	
	問 2	10	④	3	
	問 3	11	②	3	
	問 4	12	①	3	
	問 5	13	③	2	
第2問 自己採点小計				(14)	
第3問	問 1	14	②	2	
	問 2	15	④	3	
	問 3	16	①	3	
	問 4	17	①	3	
	問 5	18	②	3	
	問 6	19	①	3	
	問 7	20	①	2	
	問 8	21	⑥	3	
第3問 自己採点小計				(22)	
第4問	問 1	22	④	2	
	問 2	23	①	3	
	問 3	24	⑥	3	
	問 4	25	②	3	
	問 5	26	③	3	
第4問 自己採点小計				(14)	

問題番号	設 問	解 答 番 号	正解	配点	自己採点
第5問	問 1	27	③	3	
	問 2	28	④	3	
	問 3	29	③	3	
	問 4	30	①	2	
	問 5	31	②	3	
第5問 自己採点小計				(14)	
第6問	問 1	32	②	2	
	問 2	33	③	3	
	問 3	34	④	3	
	問 4	35	①	3	
	問 5	36	③	3	
第6問 自己採点小計				(14)	
自己採点合計				(100)	

### 【解説】

#### 第1問 民主政治と政治参加

##### 【出題のねらい】

本問は、校外学習をめぐる会話文を素材としながら、日本の統治機構や選挙制度、日本国憲法が保障する基本的人権、大日本帝国憲法(明治憲法)、民主主義や議会政治を支える政治思想など政治分野から幅広く出題し、これらの分野についての基本的な知識や理解を試すことをねらいとしている。

##### 【設問別解説】

##### 問1 1 ③

1991年の湾岸戦争を機に、日本の国際貢献のあり方をめぐる議論が巻き起こり、その後、1992年にPKO(国連平和維持活動)協力法が制定された。この法律により、自衛隊が部隊としてPKOに参加することが可能になり、同年、自衛隊が初めてPKOに参加することとなった。最初の派遣先はカンボジアであった。

①自衛隊が「東西冷戦が終結した後に」創設されたとする記述は誤り。自衛隊は、アメリカを中心とする資本主義陣営(西側陣営)とソ連を中心とする社会主義陣営(東側陣営)の対立(冷戦)が激化する情勢の下で、1954年に創設された。自衛隊の創設に至る動きを振り返ると、1950年に朝鮮戦争の勃発を機に、GHQ(連合国軍総司令部)の指令により警察予備隊が設立された。警察予備隊は1952年に保安隊に



改組され、また、同年には警備隊もつくられた。そして、1954年に、保安隊は陸上自衛隊に、警備隊は海上自衛隊に改組されるとともに、航空自衛隊が創設されて、今日の自衛隊がつくられた。②「防衛大臣」ではなく**内閣総理大臣**が正しい。自衛隊法では、**文民**である内閣総理大臣が自衛隊の最高指揮監督権を有し、その指揮監督の下、文民である**防衛大臣**が自衛隊の隊務を統括すると規定されている。④「砂川事件」において最高裁判所が「自衛隊は……合憲であるとの判断を示した」とする記述は誤り。まず、最高裁判所は自衛隊についての明確な司法判断、つまり合憲か違憲かの判断を下したことはない。また、**砂川事件**は、「自衛隊」ではなく、**日米安全保障条約**とそれに基づく**駐留米軍**の合憲性が争点となった事件である。砂川事件について少し詳しく解説しておこう。この事件の第一審判決で東京地方裁判所は、日米安全保障条約に基づく駐留米軍は、憲法第9条が禁じている戦力に該当し、違憲であると判断した。しかし最高裁判所は、駐留米軍は外国の軍隊なので憲法の禁止している戦力には該当せず、また、日米安全保障条約については**統治行為論**(高度に政治的な国家行為については、明白に違憲でない限り、裁判所は違憲・合憲の司法審査をすべきではないとする考え)に基づいて憲法判断を回避した。

## 問2 ② ②

日本国憲法は、**裁判官の職権の独立**を確保するために、**裁判官の身分保障**を定めている。その一つが裁判官の報酬を保障する規定であり、裁判官は、すべて定期に**相当額の報酬**を受け、在任中**減額**されることはない(第79条6項・第80条2項)。

①日本国憲法は**特別裁判所の設置を禁止**している。したがって、特別裁判所である**行政裁判所**は日本には存在せず、「特別裁判所である行政裁判所が裁判を行う」という記述は誤りである。なお、特別裁判所とは、通常の司法裁判所の系列外にあって、特定の身分の人や特定の事件を専門的に扱う裁判所のことを言い、大日本帝国憲法(明治憲法)下では、行政裁判所、皇室裁判所、軍法会議が設置されていた。②裁判員制度では、裁判員と裁判官が評議を行い、有罪・無罪の認定と量刑を行う。したがって、有罪・無罪の認定は裁判員が行い、量刑は裁判官が行うという役割分担の下で裁判が行われるとする記述は誤り。裁判員は衆議院議員の選挙権を有する者の中から抽選で選ばれること、**裁判員裁判**は重大な刑事事件の第一審において導入されていることも押さえておこう。④「下級裁判所」を**最高裁判所**に替

えれば正しい記述となる。**国民審査**は、**最高裁判所の裁判官**を審査の対象とするものであって、下級裁判所(高等裁判所、地方裁判所、家庭裁判所、簡易裁判所)の裁判官は、国民審査の対象とはならない。

## 問3 ③ ②

日本国憲法によれば、国会議員は、議院で行った演説や討論あるいは表決について、議院外で民事上・刑事上の責任を問われない(第51条、**免責特権**)。ただし、議院内ではその発言などが懲罰(第58条2項)の対象とされる場合があるなど、責任を問われることがある。

①「日本国憲法を改正しなければならない」という記述は誤り。日本国憲法は「両議院の議員の定数は、法律でこれを定める」(第43条2項)と規定している。この規定に基づき、**公職選挙法**は、衆参両議院の議員定数について定めている。したがって、各議院の議員定数は、憲法を改正することなく、公職選挙法の改正によって変更することが可能である。

③「参議院」を衆議院に入れ替えれば正しい記述となる。**内閣不信任決議権**は衆議院のみが有する権限であって、参議院にはこの権限はない。また、参議院には解散という制度が存在しない。日本国憲法によれば、衆議院が**内閣不信任決議案**を可決した場合、内閣は10日以内に衆議院を**解散**しない限り**総辞職**しなければならない(第69条)。④国の予算は、**内閣**に作成・(国会への)**提出権**があり、**国会**に**議決権**があるので、この選択肢では、「国会」と「内閣」を入れ替え、「決定」を「議決」に直せば正しくなる。

## 問4 ④ ②

**大日本帝国憲法(明治憲法)**では、「日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ言論著作印行集会及結社ノ自由ヲ有ス」(第29条)と規定し、表現の自由を法律の範囲内で保障していた。明治憲法では、この表現の自由や信教の自由など、自由権を中心に臣民の権利が保障されていたが、明治憲法上の臣民の権利は、日本国憲法が国民の権利を「侵すことのできない永久の権利」として保障するとしているのとは異なり、「**法律ノ範圍内ニ於テ**」という条件(**法律の留保**)付きで保障されるものにすぎなかった。ただし、信教の自由は、「安寧秩序ヲ妨ケス及臣民タルノ義務ニ背カル限ニ於テ」という制限の下に保障されていた。

①「内閣総理大臣」という部分を天皇に直せば正しい記述となる。明治憲法では「天皇ハ国ノ元首ニシテ統治権ヲ総攬シ此ノ憲法ノ条規ニ依リ之ヲ行フ」(第4条)と規定され、天皇が**統治権**の**総攬者**と

位置づけられ、立法権、行政権、司法権は天皇に帰属していた。③明治憲法下では、衆議院は民選議員で構成されていたが、貴族院は非民選の皇族・華族・勅任議員で構成されていた。したがって、両院とも民選議員で構成されていたとする記述は誤りである。④明治憲法には地方自治の規定はない。したがって、地方自治に関して「大日本帝国憲法は、…規定していた」とする記述は誤りである。なお、日本国憲法には、「地方公共団体の組織及び運営に関する事項は、地方自治の本旨に基いて、法律でこれを定める」(第92条)と規定されている。

問5 5 ①

衆議院議員選挙には、1選挙区から1名の議員を選出する小選挙区選挙(定数295名)と全国を11のブロックに分ける拘束名簿式比例代表選挙(定数180名)を組み合わせた小選挙区比例代表並立制が採用されている。拘束名簿式比例代表制とは、有権者は政党名を記入して投票し、政党が獲得した票数に従って各政党に議席が配分され、各政党の当選者の確定は、政党が提出した候補者名簿に記載されている順位に従って行うというものである。

②外国に居住する有権者は、衆議院議員選挙だけでなく参議院議員選挙においても投票することができる。外国に居住する有権者が大使館などで投票できる在外投票は、かつては国政選挙のうち、衆参いずれについても比例代表選挙に限定され、衆議院の小選挙区や参議院の選挙区選挙では投票を行うことができなかった。しかし、最高裁判所がこの限定を憲法違反であると判断し(2005年)、これを受けて公職選挙法が改正され、現在では外国に居住する有権者もすべての国政選挙で投票を行うことができるようになった。③「できない」という記述は誤り。2013年に公職選挙法が改正されて、ホームページやSNS(ツイッターやフェイスブックなどのソーシャルネットワーキングサービス)、動画サイトなど、インターネットを利用した選挙運動が可能になった。④参議院議員選挙には比例代表制のみが採用されているとする記述は誤り。参議院議員選挙は、都道府県を単位とする選挙区制(定数146名)と非拘束名簿式比例代表制(定数96名)が採用されている。この選挙区制では、選挙区間で一票の価値に格差が生じているので、「一票の価値に不平等が生じることはない」とする記述も誤り。参議院の選挙区制に関しては、選挙区間で生じている一票の価値の格差が裁判で争われたことが何度かある。こうした参議院議員定数不均衡問題をめぐる裁判の中で、最高裁判所は、選挙区間で生じている著しい票価の格差を憲

法が定める法の下での平等に照らして違憲であると判断したことはこれまで一度もないが、「違憲状態」であるという判断を示したことは2度ある(2014年10月現在)。なお、参議院の比例代表選挙で採用されている非拘束名簿式とは、政党の提出する候補者名簿には順位はつけられておらず、有権者は政党名または候補者名(名簿登載者の個人名)のいずれかを書いて投票し、当選順位は候補者名での得票数の多い順に決まるというものである。

問6 6 ②

ア：Aの「ルソー」の主張と合致する。ルソー(1712～78)は、私有財産制度の成立とともに失われた自由と平等を取り戻すためには、公共の利益を目指す全人民の意志(一般意志)に基づいて運営される共同社会を形成しなければならないと説いた。そしてルソーは、立法権は人民に帰属し、主権は分割することも代表されることもできないと説き、直接民主制を理想とした。

イ：Cの「ブライス」の主張と合致する。ブライス(1838～1922)の有名な言葉に「地方自治は民主主義の最良の学校である」というものがある。これは、地方自治は、住民が身近な地域の公共問題について考え、その解決に参加することを通して、主権者としての精神や能力を磨く場としての意義をもつ、ということを意味する。

ウ：Bの「ロック」の主張と合致する。ロック(1632～1704)は、専制的支配を防止するためには、議会の有する立法権が国王の有する執行権に優位するという立法権優位の権力分立制を採用すべきであると説いた。

以上のことから、最も適当な組合せは②となる。

問7 7 ②

「国会による改廃の手続を経ることなく、自動的に削除され失効する」という記述は誤り。最高裁判所が違憲と判断した法規であっても、ただちにその規定が削除され失効するわけではない。違憲とされた法規は、裁判の対象となった事件についてのみ無効となるのであって、将来にわたって無効とするためには、その法規の立法権を有する機関(法律の規定ならば国会)による改廃の手続が必要である。

①公法とは、国家の仕組みや国家・地方公共団体と国民との関係などについて定めた法のこと、憲法や刑法などがこれに該当する。私法とは、私人(民間人・民間団体)間の法律関係について定めた法のこと、民法や商法などがこれに該当する。③企業は、人間ではないが、財産権が保障されたり、納税が義務づけられたりするなど、権利や義務が帰属

する主体である。このように、**法人**とは、人間のよう  
に、法律上、権利や義務が帰属する主体と認めら  
れた組織体を言う。④日本国憲法は、「何人も、実  
行の時に適法であつた行為……については、刑事上  
の責任を問はれない」（第39条）と規定し、実行の後  
に制定・施行された法律（事後法）によって、その法  
律が制定・施行される以前の行為を処罰することが  
できないことを定めている。これを**遡及処罰の禁止**  
（**刑罰不遡及の原則**）と言う。

問8 **8** ④

「国が宗教教育などの宗教的活動を行うことは認  
められる」という記述は誤り。日本国憲法は、「国  
及びその機関は、宗教教育その他いかなる宗教的活  
動もしてはならない」（第20条3項）と規定し、国の  
宗教的活動を禁止している（**政教分離原則**）。選択肢  
の前半部分は、日本国憲法が、「いかなる宗教団体  
も国から特権を受け、又は政治上の権力を行使して  
はならない」（第20条1項）と定めていることから、  
正しい記述である。

①日本国憲法は、「何人も、自己に不利益な唯一  
の証拠が本人の自白である場合には、有罪とされ、  
又は刑罰を科せられない」（第38条3項）と規定して  
いる。自白がたとえ任意のものであっても、それを  
唯一の証拠として有罪とすることはできない。②日  
本国憲法は**財産権の保障**について、「私有財産は、  
正当な補償の下に、これを公共のために用ひること  
ができる」（第29条3項）と規定している。これは、  
例えば、私有地上に道路を建設する場合には、その  
所有者の損失を金銭などで補償しなければならない  
ことを意味している。③日本国憲法は、「何人も、  
抑留又は拘禁された後、無罪の裁判を受けたとき  
は、法律の定めるところにより、国に対して補償を  
求めることができる」（第40条）と規定し、**刑事補償  
請求権**を保障している。

第2問 現代社会の諸問題

【出題のねらい】

バイオテクノロジーの発展がもたらす功罪をテーマ  
にした本文をもとに、情報化、医療技術の発展、臓器  
移植などの各分野における知識を確認することをねら  
いとして出題した。また、近年のセンター試験におい  
て頻出の「調べ学習」に関しても出題しているので、  
これを機にこうした設問にも慣れておくとよいだろう。

【設問別解説】

問1 **9** ②

インフォームド・コンセントの説明が誤ってい

る。インフォームド・コンセントとは、患者の**自己  
決定権**を重視する観点から、医療を提供するに際し  
て、医師は患者に十分に説明した上で患者が納得し  
同意した医療を行うべきであるという考え方を言う。  
したがって、「患者の意思ではなく医師の見解  
を優先」するという記述は誤りである。

①**ES細胞**（胚性幹細胞）は受精卵を壊してつくら  
れるために、倫理的な問題が指摘されていた。しか  
し、**iPS細胞**（人工多能性幹細胞）は、受精卵を壊す  
ことによってつくられるのではなく、人間の皮膚な  
どの体細胞に少数の遺伝子を導入して様々な細胞に  
分化する能力をもつようにした細胞なので、その点  
での倫理上の問題は生じない。③**出生前診断**によっ  
て、分娩方法の決定や胎児の先天性疾患の発見が可  
能となる一方で、それに基づいて中絶という選択が  
行われた場合にはそれは生命の選別につながるの  
ではないかという倫理上の問題が指摘されている。④  
終末期の医療については、生命の維持を最優先する  
という考えがある一方で、現在では、治癒の見込み  
のない末期患者が残された人生をいかに有意義に過  
ごすことができるかという**生命の質（QOL）**を重視  
する考えが唱えられている。この生命の質を重視す  
るとともに**自己決定権**を尊重すべきとする観点か  
ら、もし回復の見込みのない末期の状態に至った場  
合、延命治療を拒否し、自然な死を選択することを  
予め書面に記しておく**リビング・ウィル**を残す人も  
現れている。またこの問題を共に考え、その普及を  
図ろうとする運動も行われている。

問2 **10** ④

**クラウド・コンピューティング**とは、インター  
ネットなどのネットワーク上で情報データの作成・  
管理・発信などを行えるシステムのことである。こ  
のシステムのおかげで、ネットワーク上のサーバー  
にアクセスできれば、情報を持ち歩かなくてもどこ  
にいても情報データの処理が行えるようになった。

①デジタル情報のコピーは、アナログ情報に比べ  
て、容易である。したがって、著作権などの知的財  
産権の侵害が起りやすい。②2003年に成立した**個  
人情報保護法**は、行政機関だけでなく、民間事業者  
などに対しても、個人情報の適切な保護・取扱いを  
義務づけている。③情報収集や情報活用能力の格差  
によって、就職の機会や所得に差が出ることを**情報  
格差（デジタル・デバйд）**と言う。『情報通信白書  
（平成23年度版）』でも高齢者や低所得者層でイン  
ターネット利用率が低いとし、デジタル・デバйд  
の解消に向けた取組みの必要性が指摘されており、  
また、自治体レベルでもデジタル・デバйдの解消

に向けた取組みが行われているように、「情報格差（デジタル・デバイド）は解消された」と言える状況にはない。

問3 11 ②

1997年に臓器移植法が制定され、一定の条件を満たせば脳死者から臓器を摘出し患者に移植することができるようになった。同法では当初、臓器移植の条件として、本人の書面による意思表示と、家族・遺族がいる場合にはその承諾が必要とされていた。しかし、2009年に同法は改正され、本人の生前の意思が不明であっても**家族・遺族の書面による承諾**があれば、脳死者からの臓器提供が認められるようになった。

①日本では、生体臓器移植(生きた人から臓器を取り出し、患者に移植すること)を禁止する法律は存在せず、実際、腎臓や肝臓など生体臓器移植は多数行われている。③臓器移植法では脳死を「**脳幹を含む全脳の機能が不可逆的に停止するに至った**」状態としている。したがって、脳死は、脳幹が機能しているいわゆる「植物状態」とは異なる。④現行の臓器移植法では、親族に対し臓器を優先的に提供する意思を書面に表示することを認めている。

問4 12 ①

A：ミルが入る。イギリス功利主義の哲学者ミル(1806～73)によれば、社会の進歩・発展は、社会が個性の多様性を認め、その個性が自由に発揮されることにありと、より良き社会の実現のためには、**言論の自由と行為の自由**は不可欠である。このように考えたミルは、他者に危害を及ぼさない限り、政府は、個人の自由を制約すべきではないと主張した。

ヘーゲル(1770～1831)は、功利主義ではなくドイツ観念論の哲学者である。その点でヘーゲルはこの空欄に該当しない。自由に関しては、ヘーゲルは、政府による自由の制約は必要最小限度にすべきであるとするミルとは異なり、国家の中で真の自由は実現されると考える。その点でもヘーゲルはこの空欄に該当しない。

B：アンガージュマンが入る。これは**社会参加**を意味するフランス語である。フランスの実存主義の哲学者サルトル(1905～80)は、モノが製作者によってつくられる存在であるのに対し、人間は自己の自由な意志決定によって自らのあり方を自由に選ぶことができる存在であるとした。そして、自己のあり方の選択は他者や社会の制度ともかかわっており、その点から、自己の選択は、同時に全人類のあり方を選ぶことでもあり、自由には全人類に対

する責任が伴うとした。こうした考えから、サルトルは積極的に社会にかかわることの大切さ、すなわち、社会参加(アンガージュマン)の大切さを説いた。

イデアは古代ギリシャの哲学者プラトン(前427～前347)の哲学の中核を占める概念で、見たり触れたりできる具体的な個物を超えた不変の真実在のことである。その点でこの空欄に該当しない。

C：他人指向型が入る。アメリカの社会学者リースマン(1909～2002)は、主著『**孤独な群衆**』において、社会を、第一次産業が社会の基調をなす伝統社会、第二次産業が社会の基調をなす近代社会、第三次産業が社会の基調をなす現代社会に区分し、それぞれに支配的な性格類型があるとした。リースマンによれば、**現代社会**、とくにアメリカの大都市では他人指向型と特徴づけられる性格類型が典型的となる。これは、個人の行動や態度の方向づけを決定しているのが同時代の他者であるという特徴をもつ。すなわち、自己の行動や態度を決定する際に、他者の行動や態度を規準とし、その承認が得られるような行動・態度を選択するというものである。

**伝統指向型**は、リースマンが近代以前の**伝統社会**に生きた人々の性格類型として指摘したもので、慣習や伝統を規準として行動や態度を決める性格を言う。その点で伝統指向型はこの空欄に該当しない。

以上のことから、最も適当な組合せは①となる。

問5 13 ③

アンケートをとる際に、調査対象者に対して、予想される回答の傾向をあらかじめ説明することは、調査対象者に「**先入観**」をもたせることにつながり、調査結果の客観性を大いに損なうことになる。

①インターネット上のWebサイトには大量の情報が存在しているが、そこには誤った情報もある。調査内容の信頼性を確保するためには、利用する情報の真偽を慎重に見極める必要がある。②アンケートが「**全体的な傾向**」を明らかにすることを目的とする場合、調査対象者もそれに応じて偏りのないように抽出する必要がある。④日本の著作権法上、著作物から引用することは可能であるが、それには、一定の条件がある。例えば、引用部分が著作物(この問題ではレポート)の主要部分を占めるようだと、もはや引用とは言えなくなり、著者に無断で使用する、著作権の侵害に当たるおそれがある。また、引用する際には、括弧をつけるなどして引用文であることを明らかにするとともに、その出所(著者名や著作名)を明示する必要がある。



### 第3問 国際政治・経済の動向

#### 【出題のねらい】

本問は、国際政治・経済に関する現状を中心として、それを支える歴史や理論の知識・理解を含めて、国際分野全般の学習の度合いを試すことが主なねらいである。併せて、図表の読み取り能力を試すことをねらいとする問いも設けた。

#### 【設問別解説】

##### 問1 14 ②

「アメリカとソ連の両国が直接に戦火を交えた」は不適当。冷戦期を通じて、**アメリカとソ連が直接に戦火を交えたことはない**。実際に戦火を交える「熱い戦争」にまでは至らないものの、緊迫化した対立が続いたことから「**冷戦**」と呼ばれたのである。

残る選択肢は、いずれも適当である。①ソ連と中国は当初、同じ社会主義国として同盟関係にあったが、1950年代後半ごろから徐々に対立が深まり、1969年には武力衝突も生じた(**中ソ対立**)。③1961年に、ユーゴスラビアのベオグラードで**第1回非同盟諸国首脳会議**が開催された。④1949年に、西側陣営の集団防衛機構である**NATO(北大西洋条約機構)**が結成された。それに対抗して、東側陣営のソ連と東ヨーロッパ諸国は、1955年に**ワルシャワ条約機構**を結成した。

##### 問2 15 ④

日本は1960年代半ば以降、輸入額以上に輸出額が大きかったことから、貿易収支は一時期を除いて黒字を続けてきた。しかし、**2011年からは貿易収支が赤字を記録**するようになった。

残る選択肢は、そもそも論理として成り立たず不適当である。①「円買いドル売り」は円高ドル安をもたらす要因であるから、これによって「円安ドル高傾向が生じた」という論理は成り立たない。なお、事実に照らしても誤っており、1985年の**プラザ合意**によって、1980年代後半には**円高ドル安**が急速に進んだ。②「輸入が急増」することは貿易収支を赤字方向へと誘導する要因であるから、これによって「貿易収支は大幅な黒字を記録」は不適当。また、「景気低迷」は国内における需要を停滞させる要因なのだから、これによって「輸入が急増」するというのも不適当である。③「日本に対する海外からの投資が活発化」することは、**円買いが活発化**するため為替相場に円高傾向をもたらすので、これにより「円安傾向が続いた」というのは不適当。

##### 問3 16 ①

リカード(1772~1823)は、**比較生産費説**に基づい

て、自由貿易を主張した。この説は、他国よりも比較優位にある財の生産に特化して貿易を行うことで、自国はもとより他国も利益を得ることができるという考えである。**比較優位**とは、次のことを意味する。すなわち、A国とB国について貿易の対象となる二つの財を比較して、A国におけるある財の他の財と比べた相対的な生産費がB国よりも低いとき、言い換えれば、B国に比べある財が他の財よりも相対的に少ない労働量で生産できるとき、B国との比較において、A国はその財に比較優位をもつという。設問に即して具体的にみていこう。

まず、P国について考えてみる。P国では食料品1単位を生産するのに必要な労働量は、衣類1単位を生産するのに必要な労働量の $\frac{16}{18}$ ( $\div 0.89$ )で済む。しかし、衣類1単位を生産するには食料品1単位を生産する労働量の $\frac{18}{16}$ ( $=1.125$ )が必要となる。次に、Q国について同様に考えてみる。Q国では、衣類1単位を生産するのに必要な労働量は、食料品1単位を生産するのに必要な労働量の $\frac{20}{24}$ ( $\div 0.83$ )で済む。しかし、食料品1単位を生産するには衣類1単位を生産する労働量の $\frac{24}{20}$ ( $=1.2$ )が必要となる。以上をまとめると、P国とQ国で、食料品1単位及び衣類1単位生産するのに必要な労働量を、自国内のもう一方の財を1単位生産するのに必要な労働量と比べた場合の倍率は、次の表ようになる。

	食料品	衣類
P国	0.89	1.125
Q国	1.2	0.83

**食料品**についてみると、衣類と比べ、P国では0.89倍、Q国では1.2倍の労働量が必要である。したがって、食料品については、P国の方が相対的に少ない労働量(生産費)で生産でき、**P国に比較優位**があるということになる。それに対し、**衣類**については、食料品と比べ、P国では1.125倍、Q国では0.83倍の労働量が必要である。したがって、衣類については、Q国の方が相対的に少ない労働量(生産費)で生産でき、**Q国に比較優位**があるということになる。そのためリカードによれば、P国は食料品生産に、Q国は衣類生産に、それぞれ特化するのが有利だということになる。

では、特化した場合を考えてみよう。P国でそれまで衣類生産を担っていた労働量は特化した食料品生産に、Q国でそれまで食料品生産を担っていた労働量は衣類生産に、それぞれ向けられるので、特化した場合、労働量の配分は次の表ようになる。



	食料品生産	衣類生産
P 国	34	0
Q 国	0	44

P 国では16労働量で1単位の食料品が生産できたのだから、34労働量となれば**2.125単位の食料品が生産**できる(労働量と生産量の比をとれば「16:1=34:2.125」となる)。特化前の食料品生産は、P 国で1単位とQ 国で1単位の合計2単位だったのが、特化すると2.125単位となり生産量が増加する。同様に、Q 国では20労働量で1単位の衣類が生産できるのだから、44労働量となれば**2.2単位の衣類が生産**できる(上と同様に比をとれば「20:1=44:2.2」となる)。特化前の衣類生産は、P 国で1単位とQ 国で1単位の合計2単位だったのが、特化すると2.2単位となり生産量が増加する。以上のように、食料品・衣類について「両国全体で両財の生産量が増加する」ことになる。

#### 問4 17 ①

**核拡散防止条約**は、アメリカ・ロシア・イギリス・中国・フランスの5か国についてのみ核兵器保有を認め、**それ以外の国の核兵器保有を禁止**する条約である。その実効性を確保するため、この条約には、核兵器の保有が禁止されている国に対する査察制度が設けられている。この査察を担っている機関が**IAEA(国際原子力機関)**である。

②「サービス貿易の自由化問題や知的財産権問題は交渉の対象としていない」は不適当。**WTO(世界貿易機関)**は、これらの分野についても対象としている。③「すべての加盟国が」という記述が不適当。EU(ヨーロッパ連合)加盟国であっても、**ユーロ**を法定通貨として導入していない国は、イギリスをはじめ複数ある(2014年10月現在では10か国)。④**国際刑事裁判所**は、「国家間の法的紛争」ではなく「犯罪を実行した個人を裁く」裁判所である。ただし、この裁判所が対象とする犯罪は、戦争犯罪・人道に対する犯罪・集団殺害犯罪(ジェノサイド)・侵略犯罪に限られる。なお、侵略犯罪については、少なくとも2017年以降にならないとその裁判を行うことはできない。また、国際連合(国連)の主要機関の一つである**国際司法裁判所**は、「国家間の法的紛争のみを扱う国際裁判所」であり、「個人を裁く権限はもたない」ということにも注意しよう。

#### 問5 18 ②

1996年から2003年まで、「ラジオの広告費」は「インターネット」よりも大きいので、これが「グラフの期間中……常に最も小さく」というのは不適

当。

残る選択肢の記述はいずれも、図のデータと合致しており、適当である。①テレビの広告費は、とりわけ2007年から2009年にかけて減少している。③1996年と2012年とを比べると、雑誌の広告費はおおよそ4000億円から2500億円へと1500億円ほどの減少だが、新聞の広告費はおおよそ12500億円から6000億円へと6000億円以上減少している。④インターネットの広告費と新聞のそれとは、2008年から2009年にかけて逆転している。

#### 問6 19 ①

2014年3月に、ウクライナに属している**クリミア自治州**において、ウクライナからの**分離独立**と**ロシアへの編入**の是非を問う**住民投票**が実施され、賛成が多数を占めたというクリミア自治州の「政府」の発表を受けて、**ロシアが編入を宣言**した、というのが正しい記述である。しかし、ウクライナ政府はこの住民投票の法的な正当性を否定し、ロシアがクリミアを違法に占拠しているとし、欧米諸国の多くもこの見解を支持している。

残る選択肢は、いずれも適当である。②2001年にアメリカで発生したいわゆる**同時多発テロ**に対する報復として、アメリカはアフガニスタンへの攻撃を行い、テロの首謀者を匿っているとされる政権を壊滅させた(2001年)。③**スーダン**では南部と北部との民族対立があったが、交渉や住民投票などを経て、同年に南部がスーダンから分離独立して新国家(南スーダン共和国)を樹立した(2011年)。④中東情勢が不安定化する中、「イスラム国」を名乗る勢力が現れ、シリアやイラクなどの地域に「新国家樹立」を一方的に宣言した(2014年)。しかし、シリアやイラクはもちろん、国際社会もこれを認めておらず、現地では激しい戦争状態が生じている(2014年10月現在)。

#### 問7 20 ①

韓国がその例。韓国は、かつては開発途上国として**ODA(政府開発援助)**を受けてきたが、現在ではODA 供与国(援助をする側の国)となっており、その援助額も増加傾向にある。

②「ナショナル・ミニマム」を**フェア・トレード(公正貿易)**とすれば正しい記述になる。**ナショナル・ミニマム**は、国家が国民に対して保障する最低限度の生活のことである。③「天然資源や農産物の耕作条件に恵まれていない」という記述は不適当。開発途上国は元々、天然資源や農産物といった特定の一次産品の輸出に依存する経済構造(**モノカルチャー経済**)に置かれていた。すなわち、それらの

生産を主としていたわけである。④「人口が急減しており」は不適当。開発途上国は、たしかに先進国に比べて「乳幼児死亡率が高い」ものの、出生率も高いことなどから、**人口爆発**とも呼ばれるほど人口が急増してきた。

問8 [21] ⑥

ア：カント(1724～1804)は、ドイツの哲学者。人間は単なるモノ(物件)とは異なり尊厳をもつ存在であるとして、**人格の尊重を旨とする道徳**のあり方と理想の社会のあり方を説いた。そして、カントは人格尊重の立場から、『永久平和のために』を著し、人格をモノのように手段として扱うことになる戦争を批判し、戦争を防ぐための国際組織の創設も説いており、これは国際連盟の先駆的な構想とされることがある。Cはこのことが述べられているので、Aと結びつく。

イ：ガンディー(1869～1948)は、イギリス支配下からのインド独立を指導した人物で、徹底した**非暴力主義**を唱えた。Bはこの非暴力主義について述べられているので、イと結びつく。

ウ：フロム(1900～80)は、著書『自由からの逃走』において、ナチスによる独裁政治を支持した当時のドイツ民衆の心理を分析した社会心理学者。彼によれば、自由から逃走しようとする心理から人々は権威に服従し、独裁政治を積極的に支えた。Aはこのことが述べられているので、ウと結びつく。

以上のことから、最も適当な組合せは⑥となる。

## 第4問 青年期と適応

### 【出題のねらい】

青年期の心理や適応の問題、さらに青年の人間形成に深くかわかる現代社会の動向に関する分野から出題した。基本的な用語の正確な理解に関する問題に加えて、判断力や文章の正確な読解によって対応することができる問題を配することで、この分野における知識と推論能力を試すことをねらいとしている。

### 【設問別解説】

問1 [22] ④

ホリングワース(1886～1939)は、乳児が離乳していくことにぞらえて、自我を意識しはじめた青年が、親や監督者から精神的に独立しようすることを**心理的離乳**と名づけた。

①青年期を「第二の誕生」と呼んだのは、「レヴィン」ではなくルソー。ルソー(1712～78)は、自我の誕生としての青年期を、肉体的な意味での最初の誕生と区別して**第二の誕生**と名づけた。②青年を「マージナルマン」としたのは、「ルソー」ではなく

レヴィン。レヴィン(1890～1947)は、それまで所属していた子どもの集団にも、これから所属することになる大人の集団にも完全に属していない不安定な存在という意味で、青年を**マージナルマン(境界人・周辺人)**と特徴づけた。③アイデンティティを確立できず、アイデンティティを見失った状態は、「モラトリアム」ではなくアイデンティティの拡散(危機)である。エリクソン(1902～94)は、人生をいくつかの発達段階に分けて、それぞれの時期に発達課題があるとした。彼が青年期の重要な発達課題としたのは自分についての一貫した自覚をもつこと、すなわち、**アイデンティティ(自我同一性)の確立**である。このような一貫した自己を見い出せず、将来への展望がもてずに生きることへの不安や無力感にとらわれたりする心理状態が**アイデンティティの拡散(危機)**である。モラトリアムとは、もともと金融の用語で「支払い猶予」を意味する。エリクソンはこれを、社会的義務や責任を猶予されている青年期を特徴づける言葉として用いた。

問2 [23] ①

高齢者の単独世帯数は2010年に約502万世帯に達し、ここ10年で約200万世帯近く増加した(厚生労働省「平成22年国民生活基礎調査の概況」より)。こうした単独世帯の高齢者の場合、誰にも看取られずに死亡し、死亡したこと自体が長期間気づかれない可能性があり、いわゆる**孤独死(孤立死)**を増やす原因になっているとされている。

②「核家族が全世帯の8割を超す」という記述は誤り。2010年の国勢調査によると、核家族世帯(夫婦のみ、夫婦と子、ひとり親と子)は全世帯の57%ほどである。③男女共同参画社会基本法が「歴史的に形成されてきた性別役割分業に関する通念」を尊重する法律であるとする記述は誤り。**男女共同参画社会基本法**(1999年制定)は、男女が対等の立場で社会活動に参画し、互いを尊重しながら個性と能力を発揮することができる社会の形成を目指し、社会における制度や慣行が、「歴史的に形成されてきた性別役割分業に関する通念」つまり「男は仕事、女は家庭」という考えにみられるような「性別による固定的な役割分担」を反映したものとならないように配慮することを求めている(第4条)。④「児童相談所への児童虐待の相談件数は減少傾向にある」が誤り。児童相談所への虐待の相談件数は、厚生労働省の調べによると、1990年度は1,101件であったが2012年度には66,701件となり、少なくともここ20年以上は毎年増加し続けている。

問3 [24] ⑥

A：催し物に参加することを「避けたいと思う」欲求と、催し物に参加しないことでクラスで浮いてしまうことを「避けたいと思う」欲求との間で葛藤が生じている。どちらも回避したい葛藤なので、ウが該当する。

B：海外留学には、語学が身につくことで「海外で就職」しやすそうだという「かなえたい要素」はあるが、学費が高い（「費用を考えると難しい」という「避けたい要素」もある。他方、「日本で進学」することには、「費用は安い」という「かなえたい要素」はあるが、語学習得への不安（「語学が身につくのか心配」という「避けたい要素」もある。つまり、「二つの対象」のどちらにも「かなえたい要素と避けたい要素が同時に存在している」。したがって、イがこれに該当する。

C：「部活を続ける」という一つの対象に、「レギュラーになる」という「かなえたい要素」と「勉強がおろそかになり、成績が下がってしまう」という「避けたい要素」が同時に存在している。したがって、アが該当する。

以上のことから、最も適当な組合せは⑥となる。

#### 問4 [25] ②

「使用者が、労働組合への加入を理由に労働者に対して不利益な取扱いをすること」は**労働組合法**が禁止している**不当労働行為**の一つ。不当労働行為とは、労働組合活動に対する使用者の妨害行為のこと。上記の例以外に、使用者が労働組合の結成を妨害することや、正当な理由なく団体交渉を拒否することなどが不当労働行為として挙げられている。

①「団結権はすべての公務員について認められていない」が誤り。**団結権**は、警察職員、消防職員、刑事施設職員、海上保安庁職員、自衛隊員を除いたすべての公務員に保障されている。すべての公務員に認められていないのは**争議権**である。③「労働組合も……産業別組合が主流となってきた」が誤り。日本ではバブル崩壊の前も後も**企業別労働組合**が主流である。④「法定労働時間の規制が撤廃された」という記述は誤り。労働基準法で、法定労働時間は1日8時間、1週40時間と規定されている。

#### 問5 [26] ③

就業することなく学生でい続ける教育のシステムを、リカレント教育としている点が誤り。**リカレント教育**は、生涯学習の一つのあり方で、社会に出ても、再び学校や他の教育機関で学ぶことのできる教育システムのことを言う。回帰教育、循環教育と訳されることがある。

①はボランティア活動、②はユースカルチャー

(若者文化)、④は個性化と社会化の関係についてのそれぞれ適当な記述。

### 第5問 国民経済と国民福祉

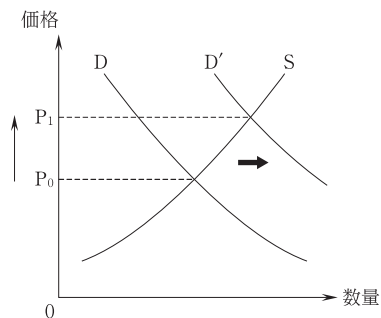
#### 【出題のねらい】

本問は、市場機構や企業活動、財政制度や日本の環境・社会保障政策についての基本的理解や知識、図表を使って推論する能力を試すことをねらいとしている。

#### 【設問解答】

##### 問1 [27] ③

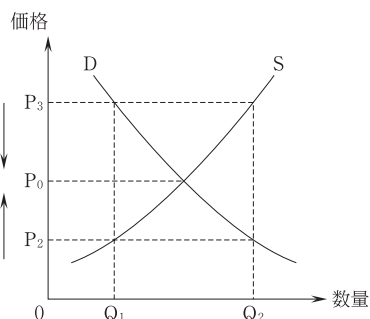
ある財について、売り手も買い手も多数存在する**完全競争市場**においては、財の価格は需要曲線と供給曲線の交わる価格、設問の図では $P_0$ になる。この交点における価格 $P_0$ を**均衡価格**と呼ぶ。この状態から、「国民の所得が増加」すると、国民は以前よりも商品を買うようになると考えられる。したがって、需要曲線は数量の増加する方向、すなわち**右に移動**(下の図ではDからD'へ移動)する。「他の条件が一定」とあるので、供給曲線Sの位置は変わらない。したがって交点の価格、すなわち均衡価格は**上昇**する(下の図では $P_0$ から $P_1$ へと上昇する)。



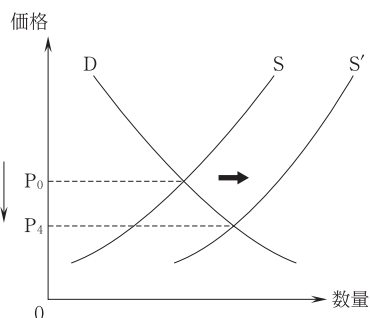
①次ページの上の図をみながら考える。完全競争市場において「この財の価格が $P_0$ を下回っている場合」、例えば次ページの上の図における $P_2$ の状態では、需要量が $Q_2$ で、供給量が $Q_1$ であり、需要量が供給量よりも多くなっている(**超過需要**)。したがって「供給量が需要量よりも多くなり」というのは誤り。なお、 $P_2$ では上で述べたように超過需要になっているので、これを解消するために、価格は需要量と供給量が一致する価格、すなわち $P_0$ まで**上昇**する。

②①と同様に、次ページの上の図をみながら考える。完全競争市場において「この財の価格が $P_0$ を上回っている場合」、例えば次ページの上の図における $P_3$ の状態では、需要量が $Q_1$ で、供給量が $Q_2$

であり、供給量が需要量よりも多くなっている(超過供給)。したがって「需要量が供給量よりも多くなり」というのは誤り。なお、 $P_3$ では上で述べたように超過供給になっているので、これを解消するために、価格は需要量と供給量が一致する価格、すなわち  $P_0$  まで下落する。



④下の図をみながら考える。完全競争市場において、「この財の生産コストが低下」とすると、財の供給者はより多くの財を生産できるようになると考えられる。したがって、供給曲線は数量の増加する方向、すなわち**右に移動**(下の図では  $S$  から  $S'$  へ移動)するので、「左に移動」は誤り。なお、「他の条件が一定」とあるので、需要曲線  $D$  の位置は変わらない。したがって、交点における価格、すなわち均衡価格は  $P_0$  から  $P_4$  へと**下落**する。



問2 **28** ④

ア 2011年以降、総合物価の上昇率を「常に上回っている」のは、**A**のみである。したがって、「光熱・水道」は**A**であると確定できる。

イ 「教育」の物価は2010年に比べ2013年は1.2パーセント下落している。**A**～**C**の中で2013年の物価が2010年に比べ、下落しているのは**C**のみで、その下落率は「教育」を上回る10.3パーセントとなっているので、**C**が「家具・家事用品」と確定できる。

以上のことから、最も適当な組合せは④となる。

問3 **29** ③

日本の社会保障政策は、四本の柱からなると言われている。その柱とは、社会保険料と公費を財源として、国民の疾病時や失業時などに金銭給付や現物給付(医療の給付や施設の利用、サービスの提供など)を行う**社会保険**、全額公費を財源に国民の最低限度の生活を保障する**公的扶助**、社会的保護や支援を必要とする障害者や高齢者などに対して施設やサービスを提供する**社会福祉**、国民の疾病予防や上下水道・清掃施設の整備などを行う**公衆衛生**である。

①**生活保護**は、公的扶助の一環として行われている制度で、**生活保護法**に基づいて実施されている。上で解説したとおり、公的扶助は全額公費を財源とするので、「生活保護は、保険料を財源として」行われているという記述は誤り。なお、給付の方法については、医療扶助や介護扶助などの分野では現物給付が行われているが、それ以外は金銭給付を原則としている。②「厚生年金や共済年金は廃止され、年金の一元化が実現した」という記述は誤り。厚生年金や共済年金は存続しており、年金の一元化は完成していない。1985年の**国民年金法**の改正により、年金の一元化のスタートとして、それまでの国民年金を全国民が加入するもの(**基礎年金**)に改め、民間被用者は**厚生年金**、公務員は**共済年金**を、この基礎年金に上乗せする制度とした。なお、2015年10月に、共済年金は厚生年金に統合され、被用者年金制度が厚生年金に一元化される予定である。④後期高齢者医療制度には自己負担がなく無償となっているとする記述は誤り。その加入者は保険料を拠出し、窓口で医療費の一部を負担しなければならない。

問4 **30** ①

「生産活動に伴う排出物をなくすことを目指す」企業の活動は、ディスクロージャーではなく、**ゼロエミッション**である。なお、ディスクロージャーとは、企業の経営実態などの情報を開示することである。

②2000年に制定された**循環型社会形成推進基本法**は、廃棄物の発生抑制を目指す**リデュース**、資源を製品として再使用する**リユース**、資源を製品の原料として再生利用する**リサイクル**の推進などを通して、天然資源の消費を抑制し、環境への負荷ができる限り低減される社会の構築を目指すものである。

③**汚染者負担の原則**(PPP)は、例えば、**公害健康被害補償法**に取り入れられている。④汚染物質を規制する環境基準は**濃度規制**を原則としているが、汚染の深刻な地域に関しては、一定地域で排出される総量を規制する**総量規制**を導入することができる。



問5 [31] ②

ビルトイン・スタビライザーについての正しい記述である。ビルトイン・スタビライザーとは、財政制度自体に備わっている**景気の自動安定化装置**のことである。例えば、所得税に**累進課税制度**が採用されていれば、不況期には国民の所得が減るが平均税率が低下するため、その分、消費や投資の落ち込みを防ぐことができる。また、不況期には**社会保障**の給付額は増加し、その分消費や投資の増加が期待できる。

①有効需要が増大すると、景気拡大につながるので「景気の過熱」を助長する。③建設国債の発行が禁止されているという記述も、建設国債の発行には特例法を制定する必要があるとする記述も誤り。公共事業費を調達するための国債である**建設国債**は、**財政法**で発行が認められているので、特例法を制定せずに発行できる。歳入不足を補うための国債である**赤字国債**は、**財政法**で発行が禁じられているので、**特例法**を制定した上で発行される。④「1割を下回る水準」は誤り。一般会計歳出に占める国債費の割合は、2012年度が24.3%、2013年度が24.0%、2014年度が24.3%となっている(いずれも当初予算ベース)。

## 第6問 日本経済の発展と現状

### 【出題のねらい】

本問は、日本経済の発展と現状を主題とする問題文をもとに、戦後復興期から現在に至るまでの戦後の日本経済史とそれにかかわる重要事項が習得できているかどうかを確認することをねらいとしている。

### 【設問別解説】

問1 [32] ②

「間接税」を直接税とすれば正しい記述となる。戦後日本の税制は、1949年、アメリカのシャープ税制使節団が日本の税制改革に関して行った勧告に基づいて作られた。**シャープ税制改革**と呼ばれるこの税制改革により、日本の税制体系は、従来の間接税中心のものから、**直接税中心の税制体系**へと変更された。

①1946年12月、政府は、**石炭や鉄鋼などの基幹産業**に重点的に資金や資材を投入し日本経済の復興を図る方針を閣議決定した。これが**傾斜生産方式**と呼ばれるものである。③**財閥解体**は、戦後、GHQの指令の下で実施された**経済民主化**の一つである。④1950年に起こった**朝鮮戦争**を契機に、日本経済は**特需景気**に沸いた。

問2 [33] ③

1960年、**池田内閣**は、国民生活の向上を図るため、10年間で実質GNP(国民総生産)を2倍にするという**国民所得倍增計画**を策定した。

①「農村から都市への人口移動は生じなかった」という記述は適当でない。高度経済成長期には、農村から都市への**人口移動**が活発になり、農村部における**過疎化**、都市部における**過密化**が進行した。②「人手不足の解消を図るため外国人労働者を積極的に受け入れる政策」が推進されたという事実はない。この時期、景気拡大とともに労働需要も増大したが、それは、農村からの労働供給で賄われた。④「欧米と比べて日本の貯蓄率が低く」という記述が事実に反しており、不適當。日本の高度経済成長の要因として、欧米と比べて**貯蓄率が高かった**ことが挙げられる。すなわち、高度経済成長期は企業の資金需要が高まったが、国民の貯蓄率が高かったため、**間接金融**を通じてその資金需要を賄うことができた。なお、間接金融とは、銀行からの借入れを通じて資金を調達することを言う。

問3 [34] ④

**GDP(国内総生産)**は国内で生産された付加価値の総額を算出したものであるから、日本在住の外国人が生産した付加価値額は算入されるが、海外在住の日本人が生産した付加価値額は算入されない。

①「下回る」という部分を上回るに直せば、正しい記述となる。**実質GDP**とは、**物価の変動の影響を除去したGDPの大きさ**を言う。すなわち、基準年の物価水準で計算した付加価値の総額である。それに対し、**名目GDP**は**物価変動をそのまま反映した付加価値の総額**である。したがって、名目GDPは物価が上昇した分がそのまま反映されるので、昨年に比べ物価が上昇した場合、今年の名目GDPは、昨년을基準年とする今年の実質GDPを上回ることになる。②世界第2位は第3位の誤り。GDPの規模で見ると、2010年に日本は中国に抜かれ、**アメリカ、中国に次ぐ第3位**となった。③国民所得は、生産、分配、支出の三つの面で捉えることができ、その値は等しくなる。これを**国民所得の三面等価の原則**と言う。したがって、「分配国民所得が生産国民所得を下回っている」という記述は不適當である。

問4 [35] ①

1980年代後半から90年代初頭まで、日本では、資産取引が活発化して**株価や地価**などの資産価格が**大幅に上昇**した。資産価格の上昇には、消費支出を拡大させる効果がある(**資産効果**)。その効果が働き、バブル経済期には消費支出が拡大した。



②アメリカは、1980年代後半から90年代半ばにかけて、対日貿易赤字の縮小を図るために、日本に対して**内需拡大を要求**した。したがって、日本の内需の増大が対日貿易赤字の要因とする記述も、アメリカが日本に内需縮小を要求したとする記述も誤りである。③「戦後初のマイナス成長」という記述が不適当。**戦後初のマイナス成長**を記録したのは、**第一次石油危機後の1974年**のことである。④「物価が高騰するスタグフレーションに見舞われた」という記述が不適当。**バブル経済崩壊後**、日本は極めて低い水準の物価上昇が続き、1990年代末頃からは物価が持続的に下落する**デフレーション**の状態に陥った。日本経済が景気停滞とインフレーションが同時進行する**スタグフレーション**の状態に陥ったのは、**第一次石油危機後の1970年代半ば**のことである。

問5 **36** ③

1996年、当時の橋本首相(在任1996～98)は、**フリー**(市場原理が働く自由な市場)、**フェア**(透明で信頼できる市場)、**グローバル**(国際的で時代を先取りする市場)を掲げ、日本の金融市場をニューヨークやロンドンと並ぶ国際金融市場とすることを目標として、**金融システム改革**の必要性を唱えた。これが**日本版金融ビッグバン**である。1980年代にイギリスにおいて実施された証券取引所を中心とする改革(**ビッグバン**)に範をとったことから、こう呼ばれた。

①「貸金業者の貸出金利の上限規制が撤廃され」という事実はない。貸金業者に対しては、貸出金利の上限金利が定められており、それに違反した場合は刑事罰の対象となる。なお、預金金利に関しては、金融の自由化の一環として、1990年代前半にその自由化が完了した。②「無担保コール翌日物金利」と「公定歩合」を入れ替えれば正しい記述となる。日本銀行はかつて、市中の金融機関に対する貸出金利である**公定歩合の操作**を**金融政策**の柱としていた。しかし、金利の自由化後は、公定歩合の上げ下げと市場金利とが連動しなくなったことから、現在では市中の金融機関相互間における短期資金の貸出金利である**無担保コール翌日物金利**を**政策金利**(中央銀行が金融政策において誘導目標とする金利)と位置づけるようになった。なお、公定歩合は、現在、**基準割引率及び基準貸付利率**と呼ばれている。④「業務分野の規制が強化」は業務分野の規制が緩和の誤り。また、「銀行は、子会社を通じて、証券業務に参入することができなくなった」は、銀行は、子会社を通じて証券業務に参入することができるようになったの誤りである。**業務分野規制の自由化**は、日本が進めてきた金融自由化の柱の一つであり、この自由化により、例えば、銀行業務と証券業務に関しては、銀行は子会社を通じて証券業務に、証券会社は子会社を通じて銀行業務に参入することができるようになった。

【解答・採点基準】

(100点満点)

問題番号	設 問	解 答 番 号	正解	配点	自己採点
第1問	問 1	1	④	3	
	問 2	2	③	2	
	問 3	3	①	2	
	問 4	4	①	3	
	問 5	5	④	3	
	問 6	6	⑤	3	
	問 7	7	②	3	
	問 8	8	③	3	
	問 9	9	⑤	3	
	問10	10	②	3	
第1問 自己採点小計				(28)	
第2問	問 1	11	⑦	2	
	問 2	12	③	3	
	問 3	13	①	3	
	問 4	14	③	3	
	問 5	15	⑨	2	
	問 6	16	②	3	
	問 7	17	②	2	
	問 8	18	③	3	
	問 9	19	④	3	
第2問 自己採点小計				(24)	
第3問	問 1	20	⑥	3	
	問 2	21	④	2	
	問 3	22	②	3	
	問 4	23	②	3	
	問 5	24	②	3	
	問 6	25	④	3	
	問 7	26	①	2	
	問 8	27	③	2	
	問 9	28	③	3	
第3問 自己採点小計				(24)	

問題番号	設 問	解 答 番 号	正解	配点	自己採点
第4問	問 1	29	③	2	
	問 2	30	④	2	
	問 3	31	①	2	
	問 4	32	③	3	
	問 5	33	④	3	
	問 6	34	⑥	3	
	問 7	35	⑧	3	
	問 8	36	②	3	
	問 9	37	③	3	
第4問 自己採点小計				(24)	
自己採点合計				(100)	

【解説】

第1問 現代社会の特質と倫理

【出題のねらい】

近年のセンター試験の第1問と同形式の、現代社会の特質と倫理に関わる総合問題である。日本と外国の違いをめぐる会話文や、青年期や人間心理など自己形成に関わる問題、情報化や環境問題など現代社会の抱える問題などを通じて、倫理という科目で学ぶ内容と現代社会の関わりを確認してもらいたい。また、センター試験と同様に、図表問題・資料問題も出題した。

【設問別解説】

問1 1 ④

ア：レヴィン(1890～1947)は、青年を、Dのように、子どもの集団に属することを望んでいないが、大人の集団にも受け入れられていない境界人(マージナルマン)として捉え、社会的な位置づけが不明確なため精神的に不安定な時期だと考えた。

イ：エリクソン(1902～94)は、青年期をCのように、大人としての責任や義務をある程度猶予されたモラトリアムの期間と捉えた。また、彼は人間の発達段階をいくつかに分けて、それをライフサイクル(人生周期)と呼び、このうち青年期の課題として自分が自分であることの確信、すなわちアイデンティティ(自我同一性)の確立をあげた。

ウ：ルソー(1712～78)は、社会契約説を唱えたことで知られているが、『エミール』において、青年期を、人間としてこの世に生まれるいわば第一の誕生に続いて、Bのように、男性あるいは女性として

知的にも感情的にも大きな節目を迎える「**第二の誕生**」の時期として重視した。

エ：オルポート(1897～1967)は、成熟した人間の条件として、Aのような人生観をもって人生設計ができることや自己を客観視できることのほか、自分を越えた社会的な事象に関心を向けること、他人と距離を保ちながら温かい関係を結ぶこと、現実を客観的に認識して問題解決の能力を身につけることなどを挙げている。

以上により、④の組合せが正解となる。

問2 **2** ③

防衛機制は、欲求不満に対して、無意識に社会への適応や自己の精神的安定を図ろうとする反応である。そのうち、**反動形成**は、抑圧した欲求と反対の行動をとることであり、子どもに対して嫌悪感を抱いているため、なるべく子どもとは関わりたくないのだが、その欲求を無意識に抑えて逆にやさしくあいさつしている③はこれにあたる。

①は**合理化**にあたる。合理化は、もっともらしい理由をつけて自分を納得させることで、採用されなくて悔しいという欲求不満を、「会社には将来性がない」というもっともらしい理由をつけて正当化している①はこれにあたる。②は**同一視**にあたる。同一視は、他人の長所を自分のものとみなして満足することで、超能力をもつキャラクターを自分に重ねて劣等感を解消している②はこれにあたる。④は**昇華**にあたる。昇華は、あきらめきれない欲求を価値の高い他の欲求に置き換えて満足することで、異性への執着を小説家としての大成に置き換えている④はこれにあたる。

問3 **3** ①

カント(1724～1804)はドイツ観念論の哲学者で、『**永遠平和のために**』(1795)を著し、各国が相互の契約に基づき平和連合を作ることを提唱した。国際連盟を生んだ直接の契機は、アメリカ大統領ウィルソン(1856～1924)の14か条の平和原則(1918)だが、カントの著作もこれに先駆けて世界平和のための国際組織を構想したと評価されている。

②米ソの核兵器開発競争が展開されていた1955年に、哲学者のラッセル(1872～1970)と物理学者のアインシュタイン(1879～1955)の呼びかけで、**核兵器の廃絶を求める宣言**(ラッセル＝アインシュタイン宣言)が発表された。この宣言には、日本の物理学者である湯川秀樹(1907～81)も含め世界の科学者11人が署名した。③**幸徳秋水**(1871～1911)は、社会主義者であり、キリスト教徒ではない。**『廿世紀之怪物帝国主義』**(1901)を著し、排外主義や軍備拡張を

もたらす愛国心を批判した。彼は、この選択肢とは逆に列強の経済競争を戦争の原因として指摘し、またキリスト教的人道主義の問題点も指摘している。

④**ガンディー**(1869～1948)はインドの独立運動の指導者で、暴力という非真理は同じ暴力によって破ることはできないと考えて**非暴力**を貫き、自らが真理を把握し(**サティヤーグラハ**)、自己浄化(**ブラフマチャリヤー**)と不殺生(**アヒンサー**)を実践することの大切さを説いた。

問4 **4** ①

図の左側に示されている実験参加者による評価をみると、Aさん(相互独立的)に対する評価の方がBさん(相互協調的)よりも高い。ところが、世間一般の評価として参加者が予想する右側のグラフをみると、Aさん(相互独立的)よりもBさん(相互協調的)の方が評価は高いだろうと予想している。つまり、この実験では、実験参加者は相互独立的な人物を高く評価するが、それは世間一般には受け入れられないだろうと考えているのである。

この結果を正しく説明しているのが①の選択肢であり、他の選択肢は本人または世間の評価について実際とは逆の記述になっている。

問5 **5** ④

**サルトル**(1905～80)は、「**実存は本質に先立つ**」と述べ、実存としての人間は自己の本質を自由に作り上げていく存在であると考えた。しかし、それは自己の選択に責任を負わざるを得ないということでもある。サルトルは、このような状態を「**自由の刑**」という言葉にたとえ、自由であることの責任を引き受け、自ら進んで社会に参加しながら生きる社会参加(**アンガージュマン**)を重要視した。

①は「主体性を疑問視し」たとあるからサルトルの説明ではない。**ドゥルーズ**(1925～95)の思想を想定した記述である。問6の解説にあるように、レヴィ＝ストロースらの**構造主義**は、人間の思考や行動を規定している普遍的な構造を明らかにすることによって、西洋近代思想が重視した人間の主体性を疑問視した。これに続くドゥルーズや**ガタリ**(1930～92)は、あらゆる事象を生成し変化するものだと考え、それを固定したものと捉える思考法を批判した。②は**キルケゴール**(1813～55)の思想である。キルケゴールは、個別的、具体的で主体的な自分自身の本来的なあり方としての**実存**を重視し、「私にとって真理であるような真理」(**主体的真理**)を追求した。そして、本来的な実存に至る道を**美的実存**、**倫理実存**、**宗教実存**の三段階で説明し、宗教的

実存の段階で**単独者**として神の前に立つことによって本来の自己が回復されると考えた。③は**フランク**ル(1905～97)の思想を想定したものである。彼は、ナチスのユダヤ人収容所での極限的な体験から、希望を失った者はストレスを抱えて死に至ることもあるが、これからの人生に何かが待っているという希望をもてば死を思いとどまることができる」と述べ、人間らしく威厳をもった生き方の大切さを説いた。

問6 **6** ⑤

ア：誤文。内容が逆になっている。**中根千枝**(1926～)は日本の社会人類学者で、その著作『**タテ社会の人間関係**』(1967)のなかで、日本社会を上下関係や序列を重視する「**タテ社会**」、イギリス・中国など日本以外の多くの国を人々が同列になる「**ヨコ社会**」として分析した。中根千枝の名は教科書にあまり登場しないが、「**タテ社会**」の認識は日本の特徴としてしばしば指摘されるので、その内容から判断できるだろう。

イ：正文。**レヴィ＝ストロース**(1908～2009)は、人間の思想や行動の根底には、それを規定している普遍的な構造があると考え、**構造主義**の提唱者である。彼は未開社会の神話にも西洋の科学と同様に特有の合理的な構造があると考え、西洋文明のみを優れたものとみなす発想を批判した。

ウ：正文。**サイード**(1935～2003)は、近代西洋社会が東洋(オリエント)を後進的な他者とみなすことによって、逆に自分たちを先進化され文明化された存在だと考え、植民地支配や人種差別を正当化してきたと批判した。彼はこのような思考方法を、**オリエンタリズム**と呼んだ。

以上により、⑤の組合せが正解となる。

問7 **7** ②

資料文は、『加藤周一著作集11 芸術の精神的考察Ⅰ』(平凡社、1979年)に収められている「芸術と現代」からの引用である。**加藤周一**(1919～2008)は、日本文化の特徴を「**雑種文化**」と呼んだことで知られる。資料文では、現代日本の芸術家の「創造力は、コンクリートの構造や、管弦楽曲や、映画において発揮されるようになった」と言っているから、選択肢②の「欧米の素材や技法を用いながら発揮されてきた」という記述は正しい。また、資料文は「外国の模倣を避けようとして」木造家屋や民謡やチャンバラを取り入れても「それは一時の思いつきにすぎず、積み重ねられてゆく芸術的創造ではなかった」と言っているから、選択肢の後半の記述も正しい。

①資料文の最後に「模倣は創造ではない」と言っ

ているから、選択肢の「模倣こそが創造であった」という記述は誤りである。また、「模倣の対象が外国であるか自国(の過去)であるかは、『ナショナリズム』の問題であって、芸術の問題ではない」と言っているから、選択肢の「ナショナリズムの問題ではなく芸術の問題なのである」という要約は正反対である。③選択肢の「自国の過去の文化の模倣こそ、本当の芸術を創造する源泉だったのである」という評価は、自国の文化の模倣を否定的に評価し、しかも模倣は創造ではないと言っている資料文の趣旨に二重に反している。④資料文では「木造の日本家屋……三味線……歌舞伎というところで、日本の芸術家の創造力は発揮されなかった」と言っているから、選択肢の前半の「現代日本の芸術家の創造力は、自国の文化の生み出した素材……を現代化することによって生まれてきた」という記述は誤りである。

問8 **8** ③

一般に、大衆扇動、情報操作、ステレオタイプなどを生み出すのは、従来型の**マスメディア**、つまり新聞や雑誌、テレビなどがもつ問題点と言われてきた。大量の情報を一方的に伝えることのできる点、利点にも危険性にも結び付いているのである。これに対して、携帯電話やスマートフォンのような**双方向型のメディア**では、反論や異なる意見の発信などが容易なので、このような問題点は生じにくいと言われているから③の選択肢は誤り。また、携帯電話やスマートフォンの双方向性は固定電話などの通信機器が基本的にもつ性質であり、「これまでの通信機器と異なり」という評価も誤りである。

①**インターネット**で情報を発信する際に、電子メールで使うアドレスも、Webサイトで使うURLも、個人や企業の実名である必要はない。そのため、こうした匿名性に隠れて、他人を中傷したり、いい加減な情報を無責任に流したりする傾向も生じている。②たびたびニュースにも登場するように、パスワードなどのセキュリティ情報や、住所などの個人情報大量に流出する事件が起きている。しかも多くの場合、個人や企業の故意や過失が原因であることが多い。④コンピュータやインターネットが生み出す**情報空間(サイバースペース)**では、現実から切り離された**仮想現実(バーチャルリアリティ)**が形成されるが、そのなかに閉じこもって社会から遊離してしまう若者の出現などが問題視されている。

問9 **9** ⑥

**a**に入るアメリカの経済学者**ポールディン**グ



(1910～93)は、閉じられた有限な環境としての地球を宇宙船にたとえ(『宇宙船地球号』)、その内部で排出された物質が地球を汚染してしまうとして、自然の自浄能力を超えた汚染物質の排出の弊害を警告した。カーソン(1907～64)は海洋生物学者で、著書『沈黙の春』のなかで、農薬や殺虫剤など化学物質の大量使用による生態系の破壊を告発した人物。

**b**に入る「持続可能な開発」は、1992年の国連環境開発会議(地球サミット)の共通理念として知られるが、将来世代の必要を満たせるような条件を損なわずに、現在世代の必要を満たすような開発を進めるべきだという、世代間倫理を説いている。「最大多数の最大幸福」は、功利主義の思想家ベンサム(1748～1832)が、私益の追求を公共の利益に一致させるために、道徳と立法の原理として提唱した言葉である。

**c**に入る地球温暖化は、二酸化炭素などの温室効果ガスが地球を取り巻き、太陽から来る熱が再び地球の外へ出ていくのを妨げるために起こる。二酸化炭素を増加させている主な原因は、工業化などの経済活動による化石燃料の使用である。温室効果ガスの排出量を削減して地球温暖化を防止するために、気候変動枠組条約(1992)や京都議定書(1997)が締結された。オゾン層の破壊は、フロンガスなどの排出によるもので、オゾン層がささぎっていた紫外線が増加し、皮膚がんなどを引き起こす。これを防止するための条約は、ウィーン条約(1985)やモントリオール議定書(1987)である。

以上により、⑥の組合せが正解となる。

問10 **10** ②

Zの3番目の発言では「相手の文化を学んで尊重することで、お互いに本当に分かり合うことができる」と言い、4番目の発言では、「優れた芸術作品なら、世界中どこでも普遍的に人を感動させるはずよ」と言っているので、②の要約は正しい。また、Yは4番目の発言で、「自分の国の歴史や文化をしっかりと理解しなければ、本当の国際人にはなれない」と言い、留学先の美術や音楽が「さっぱり分からなかったけど、それも仕方ないことだ」と言っているので、後半の要約も正しい。

①前半は、YではなくZの2番目の発言である。後半は、ZではなくYの3番目の発言である。③前半は、YではなくZの4番目の発言である。後半は、ZではなくYの5番目の発言である。④Zは、最後の発言で留学を希望しているが、経験や感受性の普遍性について4番目の発言で述べている。Yは、2番目の発言で様々な国の人と出会う経験が、

「勉強になって楽しかった」と述べている。

## 第2問 源流思想総合

### 【出題のねらい】

本問のねらいは、「人類の教師」と呼ばれるイエス、ブッダ、ソクラテス、孔子の言行を伝える文書が、その「死」をどのように伝えているかをテーマとする本文のもとに、東西の源流思想の要点を整理することにある。設問は、上記の四聖の思想を問う問題を中心とし、さらに資料文の読み取り問題や本文の趣旨に照らして空欄を補充させる形式の問いを設け、センター試験でも比較の出題されることの多い宗教関連の資料文の理解力や、哲学・思想的な文章の推論力を試した。

### 【設問別解説】

問1 **11** ⑦

ア：誤文。イエス(前4?～30?)ではなく、モーセ(生没年未詳)についての説明である。『旧約聖書』の出エジプト記によれば、モーセは、エジプトにおいて奴隷生活を強いられていた古代イスラエルの民を率いて、神がアブラハムとその子孫に与えると約束した地カnaan(パレスティナ)に向かう途中、シナイ山において、神から神の民にふさわしい生き方の指針である十戒を授かった。

イ：誤文。「自由意志に基づく信仰生活を送ることによってのみ救われる」が不適當。『告白』や『神の国』で知られ、「最大の教父」とされるアウグスティヌス(354～430)は、原罪(生まれながらの罪)を負っている人間を救うのは神の恩寵(恵み)のみだと考え、教会こそがその救いを与える神の国の代理人であると説いた。

ウ：正文。『神学大全』で知られ、スコラ哲学の大成者とも言われるトマス・アクィナス(1225?～1274)は、イスラーム世界を通じて逆輸入されたアリストテレス哲学を駆使して、キリスト教の信仰内容を理性的に説明しようとした。すなわち、理性と信仰との調和を図り、神・人間・自然を調和的に捉えようとした。

以上により、⑦の組合せが正解となる。

問2 **12** ③

資料文は、『新約聖書』に収められているパウロ(?～60?)の「ローマ人への手紙」(青野太潮訳、岩波文庫『新約聖書Ⅳ パウロ書簡』)からの引用である。資料文の趣旨は、「私は自分が欲していることを為すことをせず、むしろ憎んでいることを行なっている」として、理性的欲求と身体的欲求の乖離を嘆き、その原因を「神の律法」を喜ぶ心とは別に肢体にそなわっている「罪の法則」、すなわち肉

欲に求めている。この趣旨に合致する⑨が正解となる。

①パウロは、自分には肉欲に従っている側面があることを告白しており、「全身全霊で神の律法に従っている」とは言えず、正解とならない。また、資料文からは「いまだ救世主に会えないでいる」ことを嘆いているということも読み取れない。②資料文には「内なる人に従えば、神の律法を〔心のうちで〕喜んでいる」とあり、理性においては理解できているのであり、「神の律法がまったく理解できず」とは言えないので、正解とならない。④資料文には、「自分の肢体のうちにある罪の法則の中に私を捕虜にしている」とあるので、「常に神の律法を遵守している」とは言えず、正解とならない。また、資料文からは「死後の世界に確信をもてないでいる」ということも読み取れない。

問3 13 ①

仏教の開祖ゴータマ・ブッダ(ゴータマ・シッダッタ、前463?～前383?)は、人々は、生・老・病・死に加え、愛別離苦(愛する者と別離する苦しみ)・怨憎会苦(怨み憎んでいる者に会う苦しみ)・求不得苦(求める物が得られない苦しみ)・五蘊盛苦(人間を構成する五つの物質的・精神的な要素に由来する苦しみ)といった四苦八苦に苦しんでいるという認識から思索を展開した。そして、その苦しみの原因は、この世を貫く真理(法、ダルマ)を知らないこと(無明)にあるのだから、苦しみから解放され(解脱)、涅槃の境地に至るには、その真理を洞察しなければならないと言う。その真理こそが、「いかなるものも必ず他のものに縁って成立し、それ自体で独立して存在しているものはない」という縁起の法、すなわち諸行無常(この世のすべてのものは絶えず変化し消滅する)、諸法無我(すべてのものは、様々な原因・条件によって生じたものであって、それ自体で存在している不変の実体は一つもない)である。

②古代ギリシアにおいて原子論を唱えたデモクリトス(前460?～前370?)を想定した文である。③「厳しい戒律や苦行を実践」が不適當。ブッダは、苦悩を無くして涅槃に至るための修行方法として、快樂主義と苦行主義の両極端を否定する中道を旨とする八正道(正見・正思・正語・正業・正命・正精進・正念・正定)を説いた。④ブッダは諸法無我(それ自体で存在している不変の実体は一つもない)を唱えており、「真実の自己である……を悟れば」が不適當。これは、古代インドのウパニシャッド哲学が説いた梵我一如の教えを想定した文である。ウパ

ニシャッド哲学は、輪廻転生の苦しみから解放されるためには、真実の自己であるアートマン(我)と宇宙の原理であるブラフマン(梵)が本来一体であるということ(梵我一如)を自覚する必要があると説いた。

問4 14 ③

ソクラテス(前470?～前399)は、同時代の相対主義的な立場をとるソフィストとは異なり、人間のあるべき姿について徹底した思索を行った。彼は、自分が善美の事柄について何も知らないという自覚(無知の知)を原点に、デルフォイのアポロン神殿に刻まれていた「汝自身を知れ」という言葉をモットーとして、生涯アテネの人々に、ただ生きるのではなく、善く生きることが大切であると説いた。そして、よく生きるためには魂(プシュケー)への配慮を怠ってはならないとした。

①「人間は万物の尺度である」と述べたプロタゴラス(前494?～前424?)など、古代ギリシアにおいて、相対主義的な見方を唱えることで啓蒙的な働きをしたソフィストを想定した文である。②万物の根源(アルケー)を「『水』であると主張」したのは、タレス(前624?～前546?)である。タレスをはじめとする自然哲学者の探究が、古代ギリシアの人々を「絶えず変化する自然の現象を神々の働きから説明する」ミュトス(神話)の世界観から「〔絶えず変化する自然の現象を〕筋道の通った論理で説明」しようとするロゴス的世界観へと誘った。④ヘレニズム期の思想家エピクロス(前341?～前270?)を想定した文である。彼は「隠れて生きよ」を信条とし、「公共の生活から遠ざかり、身分や性別の違いを越え、心の通じ合う人々と簡素に暮らす」ことで、「心の静けさと安らぎ」(アタラクシア)のうちに生きることを理想とした。

問5 15 ③

a:「民主政治」が入る。ソクラテスは、アテネの市民が参加する民主的な裁判によって死刑判決を受けている。したがって、「独裁政治」は不適當。「哲人政治」は、哲学者が国家の支配者となるか、支配者が哲学者となって行われる政治であり、ソクラテスの死を目の当たりにした弟子のプラトン(前427～前347)が理想とした政治形態。

b:「正義」が入る。プラトンは、国家は統治者・軍人(防衛者)・生産者からなり、それぞれが知恵・勇気・節制という徳(アレテー)を実現し、哲人たる統治者の指導のもとに、知恵・勇気・節制の三つの徳が調和したとき国家は最もよい状態となって正義を実現できると考えた。なお、この知恵・勇

気・節制・正義を**四元徳**と言うこともある。

以上により、⑨の組合せが正解となる。

問6 **16** ②

ムハンマド(570?～632)に下された神アッラーの啓示を記した『クルアーン(コーラン)』は、イスラム文化の基幹をなし、ムスリムは、これを規範として日常生活を送らなければならない。したがって、『クルアーン』には、「信仰に関わる戒律」のみならず「世俗の生活を律する定め」もある。

① イスラム教において、ムハンマドは、モーセ、イエスらに続く、**最後にして最大の預言者**かつ使徒であり、その教えには最後の審判などユダヤ教やキリスト教と共有する部分も多い。ただし、『神の子』という考え方はない。キリスト教において「神の子」と見なされるイエスは、イスラム教においては預言者の一人である。③ イスラム教徒(ムスリム)には、アッラー・天使・聖典・預言者・来世・天命を信じること(六信)が求められる。また、**信仰告白・礼拝・断食・喜捨・巡礼**を实践すること(五行)も宗教的義務として課される。④ イスラム教にもキリスト教などと同様に**終末思想**があり、世界の終末においてアッラーによる最後の審判が行われることを説く。これに対して、キリスト教は、世界の終末におけるキリストの再臨と、そのキリストによる最後の審判を説く。

問7 **17** ②

本文中にもあるように、「周の文化の復興」を求め、「革新家というよりも、復古主義的な傾向」をもつ**孔子**(前551?～前479)は、**温故知新**(古い物事を研究して新しい知見を得ること)を人の師となる条件であると考えた。

① 『荀子』に収められている**荀子**(前298?～前235?)の言葉。「人がよい行いをしようとするのは、後天的な努力によるものである」という意味である。孔子は、「性」については「性相近し、習相遠し」(人の性質は生まれた時にはあまり差はないが、習慣や教育などの違いによって、次第に差が大きくなる)と述べるにとどまり、「性の悪なる」という認識はない。③ 『老子』に収められている**老子**(生没年不詳)の言葉。道徳や社会秩序を説く儒家を批判したもので、「大道が行われていた時は人情が淳朴で仁義を唱える必要はなかったが、後世、大道が廃れてくると世の中に虚偽が多くなり、仁義を強調する者があらわれる」という意味である。④ 『韓非子』に収められている、**法治主義**を唱えた**韓非子**(?～前233?)の言葉。「賢い君主は二つの柄を握るだけで、臣下を統制する。二つの柄とは**刑と徳**であ

る」という意味である。この場合の「徳」は賞を与えることであるが、若干迷ったかもしれない。しかし、「刑」に注目すれば、孔子は道徳と礼儀に基づいた**徳治主義**を理想としているから、正解とはならない。

問8 **18** ③

**孟子**(前372?～前289?)は、孔子の思想を継承し、人は本来的に善に赴こうとするという**性善説**を唱えた。この立場から、彼は、人には生まれながらに、他者に対する同情心である**惻隠**の心、不善を憎む**羞惡**の心、他者を崇敬する**辞讓**の心、善惡を見分ける**是非**の心という**四端**の心があるとし、これらを養い育てていくことで、**仁・義・礼・智の四徳**が実現されると説いた。さらに、孟子は、基本的な人間関係のあり方として、父子の**親**・君臣の**義**・夫婦の**別**・長幼の**序**・朋友の**信**という五倫の道を説き、それによって社会秩序の回復を目指した。

① **朱子**(朱熹、1130～1200)を想定した文である。朱子によれば、天地万物は**理**(宇宙の規範原理)と**気**(物質的要素)から構成されている(**理気二元論**)。この認識に立って、彼は万物に宿る理を窮め(**窮理**)、心身を修養してこの理に従うべきこと(**居敬、持敬**)を説き、このような努力によって自らの知を高度におしすすめること(**格物致知**)を重視した。② **墨子**(生没年不詳)を想定した文である。墨子は、親や兄弟への親愛(**孝悌**)を強調する儒家の仁の思想は、差別的な愛(**別愛**)であると批判し、自他を区別しない平等な愛(**兼愛**)の必要性を主張した。この兼愛に基づいて人々が互いに利益をもたらし合い(**交利**)、節約(**節用**)に努める博愛主義の社会を目指し、他国への侵略を否定する**非攻**を説いた。④ **莊子**(生没年不詳)を想定した文である。莊子は、老子の思想を徹底して、心の平安と自由の境地に至ることの必要性を説いた。すなわち、彼にとって、ありのままの世界は、本来、万物が平等で**斉**しい世界である(**万物斉同**)。にもかかわらず、人は功績や名声などを追い求めて自己へ執着することで苦しんでいるとして、こうしたことから自由となり、虚心になって天地自然と一体となる境地に生き(**逍遙遊**)、与えられた天寿をまっとうする人を**真人(至人)**と呼んで、賢明な生き方の理想とした。

問9 **19** ④

本文は、「人類の教師」と呼ばれる偉大な人物として、イエス、ブッダ、ソクラテス、孔子を取り上げている。ただし、彼らの言動を伝える文書のなかでの彼らの「死」に注目したとき、イエス、ブッダ、ソクラテスの「死」には教説の核心となるよう

な重大な意義が与えられているのに対して、孔子の場合にはその死の様子が伝わっていないと述べている(第5段落)。この本文の趣旨に合致する④が正解である。

①前半は、孔子にはあてはまらない。また、本文は「死に関する逸話のない」孔子も「人類の教師」であるとしているから(第5段落)、「死に関する逸話のない人物を『人類の教師』と呼ぶことはできない」という後半の記述も孔子にあてはまらない。②本文は「復古主義的な傾向」をもつ孔子も「人類の教師」であるとしているから(第5段落)、「方事において本質的に革新家であるという側面をそなえていることが必要である」とは言えず正解とはならない。③前半は、孔子にはあてはまらない。また、本文は「死や魂の問題を重要視しなかった」孔子も「人類の教師」であるとしているから(第5段落)、「まったく死に向き合おうとしない人物を『人類の教師』と呼ぶことはできない」という後半の記述も孔子にあてはまらない。

### 第3問 日本の思想

#### 【出題のねらい】

本問のねらいは、日本人の宗教意識をテーマとする本文をもとに、神道や国学、さらに外来思想として受容された仏教、儒学、近代西洋思想、キリスト教など日本思想全体にわたる基本事項を取り上げ、その理解度を各自でチェックしてもらうことにある。

#### 【設問別解説】

##### 問1 20 ②

ア：本居宣長(1730～1801)は、師である賀茂真淵(1697～1769)と同様、日本人が生き方や為政の理想としての古道を求めるためには、**儒学や仏教などの漢意を排斥**して、古典を実証的に研究すべきであると主張した。そして、その古道とは、『古事記』に描かれているような人為を加えない自然のままの古代人の生き方(惟神の道)であると説いた。また彼は、『源氏物語』や和歌の研究を通じて、文芸の本質は、物事に触れた時に自然にわきあがる心の動き、すなわち「もののあはれ」であるとした。

イ：本居宣長の死後の弟子を自称した平田篤胤(1776～1843)は、古道を神道と結び付けた神道説である復古神道の体系化を行った。彼の国学や復古神道は、天皇尊崇と日本中心主義の考え方が強く、幕末の尊王攘夷思想や倒幕運動に影響を及ぼした。

ウ：賀茂真淵は、『万葉集』の注釈書である『万葉考』を著し、そのなかで『万葉集』の歌には、男性的でおおらかな気風である「ますらをぶり(益荒

男振)」がみられると指摘した。また、そこには天地自然になった素朴で力強い古代の精神である「高く直き心」が示されているとし、それを高く評価した。

以上により、⑥の組合せが正解となる。

##### 問2 21 ④

空海(774～835)は、即身成仏(人間がこの身のままで成仏できること)を説いている。したがって、「現世において悟りを得ることは不可能」という記述は誤り。

①推古天皇の摂政として国政に参与したとされる聖徳太子(574～622)が、律令国家の形成にあたり官吏が身につけるべき心得を示したのが「**憲法十七条**」である。そこには、儒学の影響とともに、仏教の影響が色濃くみられる。例えば、「我必ず聖にあらず、彼必ず愚にあらず。ともに凡夫ならくのみ」(自分は聖人で、相手が愚かだというわけではない。仏の目からみれば、ともにみな凡人にすぎない)(第十条)として謙虚な自己反省(凡夫の自覚)を促し、「夫れ事は独り断むべからず。必ず衆と与に論ふべし(ものごとを独断で行ってはならない。必ず人々とよく議論を尽くしてからきめよ)」と論している。②奈良時代の仏教は、国家の安泰を図る鎮護国家の呪術としての側面が強く、聖武天皇(701～756)によって全国に国分寺や国分尼寺が建立された。奈良の寺院では様々な仏教理論の研究も行われ、南都六宗と呼ばれる学派が形成された。また、寺院や僧侶が国家の統率下に置かれる一方で、行基(668～749)のように民間への布教や社会事業に尽力する僧もあらわれた。③日本天台宗を開いた最澄(767～822)は、「一切衆生、悉有仏性」(一切の生きとし生けるものは、ことごとく真理を悟って仏になる可能性を有する)という法華経の一乗思想(法華一乗)を説き、奈良仏教にみられた差別的な救済観を批判した。

##### 問3 22 ②

ア：正文。修験道は、古来の山岳信仰が密教の修行法と習合して成立したものであり、その行者は修験者あるいは山伏と呼ばれる。

イ：正文。平安時代に盛んになった本地垂迹説とは、仏が本地(真理の根源)であり、神は仏が人々を救済するために垂迹した(仮の姿をとってこの世にあらわれた)ものであるという説である。これに対して、鎌倉時代以降は反本地垂迹説(神が本地で、仏を垂迹したものとする説)も広まった。

ウ：誤文。山崎闇斎(1618～82)が創唱した垂加神道は、朱子学の居敬窮理の思想を神道と結び付けた儒家神道であるから、「仏教の思想を結び付けた」



という記述は誤り。

以上により、②の組合せが正解となる。

問4 [23] ②

法然(1133～1212)は、比叡山に登り修行したがそれに満足できず、長い修行を経たのち、「南無阿弥陀仏」とひたすら念仏をとなえること(専修念仏)で阿弥陀の慈悲<sup>あずか</sup>に与ることができるという確信を得た。そして末法の世に生きる人々は、念仏をとなえることで阿弥陀の本願(すべての衆生を救済するための誓願)にかない、極楽往生できるという他力の教えを説いた。なお、本文中にもあるように、その弟子である親鸞(1173～1262)は、こうした法然の教えをさらに徹底させて、自力のはからいを捨て去り、すべてを阿弥陀仏の本願の力にまかせきる絶対他力の信仰に到達した。

①源信(942～1017)についての記述である。平安時代末期の天台宗の僧である源信は、『往生要集』を著し、そのなかで観想念仏(心のなかに仏の姿や浄土を念ずること)によって極楽浄土に往生できると説き、人々に浄土信仰を広めた。③明恵(1173～1232)を想定した記述である。華嚴宗の僧である明恵は、鎌倉新仏教に対抗して旧仏教(奈良仏教)の革新を図り、『摧邪輪<sup>さいじりん</sup>』を著し、法然の称名念仏を「菩提心を軽視するもの」として厳しく批判した。④日蓮(1222～82)についての記述である。彼は、『法華経(妙法蓮華経)』こそが真に仏の教えを説く經典であると捉えた。そして、末法に生まれて苦しむ人々は、来世ではなく、この現世において救われるべきであり、「南無妙法蓮華経」と法華経の題目を唱えること(唱題)により救済される(成仏できる)と説いた。また、『立正安国論』において法華経に基づく仏国土の建設を唱えるとともに、人々を法華経に帰依させることを目的に「念仏無間・禪天魔・真言亡国・律国賊」(四箇格言)を説いて、他宗を厳しく攻撃した。

問5 [24] ②

荻生徂徠(1666～1728)によれば、儒学で重視される道とは、古代中国の聖人君子が、経世済民(国を治め民衆の生活の安定を図ること)を目的として人為的に作った社会制度、すなわち礼・楽・刑・政に示されている先王の道のことである。彼は、こうした先王の道を探求するために、古代中国の六経(儒学の經典)を実証的に研究する必要性を説いた(古文辞学)。

①林羅山(1583～1657)についての記述。林羅山は、宇宙には万物を上下に分ける理があり、同様に人間社会も上下の身分秩序が定まっているとする上

下定分の理を説いた。また、欲望を捨てて理に従う心をもち続けて生きること、すなわち存心持敬が人間にとって最も大切なことであるとした。こうした考え方は幕府の封建的な身分秩序を支える思想として受け入れられ、林家の朱子学は幕府公認の官学となった。③中江藤樹(1608～48)についての記述。日本陽明学の祖である中江藤樹は、朱子学の厳格で形式的な道德観を批判し、道德や規範に囚われない自発的な心情である孝の徳を重視した。彼によれば孝は、親子関係だけでなく、夫婦・兄弟・朋友などすべての人間関係において通じる根源的な道德であり、その孝は時・処・位(時・場所・身分)に応じて実践していくべきであるとされる。④山鹿素行(1622～85)についての記述。山鹿素行は、為政者であり指導者である武士は、単に武芸を誇るのではなく、古代中国の聖人の道德を学ぶことによって高貴な人格を身につけ、農工商三民の道德的手本(師表)とならなければならないとする士道を説いた。

問6 [25] ④

資料文は、夏目漱石(1867～1916)が1914年に行った講演『私の個人主義』(三好行雄編『漱石文明論集』、岩波文庫)からの引用である。資料文では、「自分の個性が発展出来るような場所に尻を落ち付けべく……邁進しなければ」ならないとして個性を発揮して生きることの大切さが述べられ、また、「自分がそれだけの個性を尊重し得るように……他人に対してもその個性を認めて、彼らの傾向を尊重」しなければならぬと主張している。これは、彼が重んじた自己本位の立場を説明したものと言える。このような資料文の趣旨に合致するのは④である。

①「他人に配慮することなく」という記述は、資料文に示された他人の個性をも尊重するという漱石の立場に反する。②「自分にふさわしい職業に就けなくても満足できる」という記述は、資料文に示された「自分とぴたりと合った仕事」を見つけることを重視する漱石の考え方に反する。③「相手の考え方が自分と異なる場合……相手を説き伏せる」という内容は、資料文に示された他人の個性を尊重するという漱石の立場に反する。

問7 [26] ①

a:「社会」が入る。和辻哲郎(1889～1960)は、西洋近代の個人主義的な倫理学を批判して、「人間の学としての倫理学」を確立しようとした。文中の「孤立した存在」と対比する用語として最も適当なものは、「社会(のなかに埋没した存在)」である。なお、「理想(のなかに埋没した存在)」「創造(のな

かに埋没した存在)」「現実(のなかに埋没した存在)」は、「孤立的な存在」と対比する用語としては不適当である。

**【b】**：「間柄的存在」が入る。和辻哲郎によれば、人間とは個人を意味するとともに、(家庭や職場など)社会における人と人との関係のなかで生きる存在(間柄的存在)でもある。彼は、こうした個人と社会の相互の関わり合いのなかに人間倫理のあり方を求めることによって、利己的な個人主義に陥ることの危険性を指摘した。なお、「世界-内-存在」とは、実存主義の哲学者ハイデッガー(1889～1976)が用いた概念で、世界における他者や事物に配慮しながら関わっている人間存在のあり方を示す言葉である。

以上により、①の組合せが正解となる。

問8 **27** ③

「幸徳秋水」ではなく、**安部磯雄**(1865～1949)についての記述である。安部磯雄は、**片山潜**(1859～1933)、**木下尚江**(1869～1937)とともに、キリスト教の人道主義の立場から社会主義運動に参加した。なお、**幸徳秋水**(1871～1911)はキリスト教徒ではない。彼は、**中江兆民**(1847～1901)に師事して**自由民権運動**に加わり、さらには**社会主義**に共鳴して安部磯雄らと社会民主党を結成(1901)した。その後、**大逆事件**(1910)の首謀者に仕立てあげられ、処刑された。

①**内村鑑三**(1861～1930)は、教会や儀礼によらず直接に聖書と向き合う**無教会主義**を説き、**武士道精神**に根ざす**日本的キリスト教**の普及を目指した。そして、「二つのJ」すなわちイエス(Jesus)と日本(Japan)への献身を誓い、日露戦争に際しては非戦論を主張するなど、日本を神の意志にかなう国にするために活動した。②**植村正久**(1857～1925)は、キリスト教(プロテスタント)の伝道と教会の設立に尽力し、**東京神学社**を創立して伝道者の養成を行った。④**新渡戸稲造**(1862～1933)は、クエーカー(プロテスタントの一派)の信仰に基づく人格主義教育に尽力し、英文で『**武士道**』を著すなど海外への日本文化の紹介に努めた。また、国際連盟の事務次長としても活躍した。

問9 **28** ③

本文の第3段落では、「仏教を独自の強固な信念の体系へと高めようとする」人物の例として、親鸞が挙げられている。したがって、前半の記述はこのことと合致する。また、本文の第1段落では、年中行事の一つである初詣の事例を挙げ、「参詣する神社や寺に何が祀られているかについては、あまり意に介さない」と述べている。さらに、最終段落で

は、通過儀礼の一つである結婚式の事例を挙げ、「結婚式をキリスト教式で挙げる日本人のカップルは多い」と述べている。つまり、現代の日本人の生活のなかでは、神道、仏教、キリスト教などが共存しているというわけである。したがって、このような本文の内容に合致する④が正解となる。

①後半の「日本人の間では、仏教やキリスト教に帰依する傾向が強まり、土着の宗教は衰退していった」という記述が本文の内容に反する。②後半の「今日でも毎年の初詣を欠かさないまでに日本人の宗教意識を高めることになった」という記述が本文の内容に反する。本文では、初詣は今日の日本人の宗教意識の高さを示す例として挙げられているわけではない。④後半の「土着の宗教である神道の影響が強かったため……外来の宗教が広まることはなかった」という記述が、本文の第2段落の「仏も古来の神々も……信仰対象となった」という記述や、第3段落の江戸時代における幕府の政策についての記述と合致しない。

## 第4問 西洋の近現代思想

### 【出題のねらい】

本問は、「自由」をテーマとする本文をもとに西洋近現代思想の基本的事項について問い、この分野の学習の進捗度を確認してもらうことをねらいとしている。

### 【設問別解説】

問1 **29** ③

**カント**は、自ら打ち立てた**道徳法則**に自ら従う**自律的自由の主体**を**人格**と呼び、人格であることの中に人間の尊厳があるとした。道徳法則とは、いつでもどのような場合でも、誰にでも当てはまる**普遍的に妥当する行為の準則**のことである。

①人間には「自らの本質を自ら決めていく**創造的自由**」があると主張したのは、フランスの実存主義の哲学者**サルトル**である。サルトルによれば、道具などの物の場合は本質が存在に先立つが、人間の場合には、自らの自由な選択が自己のあり方を決定する(「**実存が本質に先立つ**」)のである(第1問・問5の④の解説も参照)。②「一般意志に従うことによって得られる**市民的自由**」について論じたのは**ルソー**である。ルソーの言う「**市民的自由**」とは、**公益を目指す全人民の意志**である**一般意志**に基づく政治によって実現される自由であり、不平等に満ちた文明社会の成立とともに失われた個人の「**自然的自由**」に代わるものであった。④「**人倫の完成の場としての国家**において実現される自由」について論じ

たのはヘーゲル(1770～1831)である。ヘーゲルによれば、家族の共同性と市民社会における個人の独立性を統合した**人倫の最高形態**である**国家**において、市民社会の不平等が克服され、真の自由が生まれるとされる。なお、人倫とは、客観的な法と主観的な道徳性をともに生かしつつ統一した共同体の倫理であり、ヘーゲルはこれを家族・市民社会・国家という三つの段階に分けて考察した。

問2 [30] ④

**a**：「延長(ひろがり)」が入る。デカルト(1596～1650)は、「思惟(考える働き)」を本質とする精神と、空間における「延長(ひろがり)」を本質とする物体(身体)を、相互に独立したもの(実体)として捉える**物心二元論**を唱えた。

**b**：「機械論的自然観」が入る。デカルトの物心二元論は、一方に精神的主体としての自我を置き、他方に数量化できる客体としての物体を置くことによって、自然を物体とその運動とみなす**機械論的自然観**を哲学的に基礎づけるものであった。

以上により、④の組合せが正解となる。なお、「階層的秩序」は「目的論的自然観」に関連する用語である。すなわち、中世のスコラ哲学では、自然は神の目的に沿った階層的秩序を成しているという**目的論的自然観**が唱えられていた。

問3 [31] ①

フランスのモラリストである**モンテーニュ**(1533～92)は、カトリックとプロテスタントの間で繰り広げられた宗教戦争(ユグノー戦争)を身近に体験し、その悲惨な事態をもたらした原因は、自己省察の欠如から生まれる人々の偏見・独断・傲慢・寛容にあると考えた。そこで彼は、「**私は何を知るか(ク・セ・ジュ)**」という**自己省察の精神**を大切にしながら人間性の探求に向かい、『**エッセー(随想録)**』を著して、人々はソクラテスの無知の自覚と対話の精神に学び、謙虚さと寛容を心がけるべきであると説いた。

②フランスのモラリストである**パスカル**(1623～62)についての記述である。彼は、『**パンセ(瞑想録)**』のなかで、人間は「**考える葦**」であると述べたことで知られる。彼によれば、人間は、広大な宇宙のなかでは水辺に生える一本の葦のように弱くみじめな存在であるが、そのみじめさを自覚し、考えることができる点で、人間は宇宙よりも偉大であるとされる。このように、パスカルは人間を「**偉大と悲惨**」の間を揺れ動く**中間者**として捉え、人間の尊厳のすべては、「考える」ことのなかにあると主張した。③イギリス経験論の祖と呼ばれるベーコン

(1561～1626)についての記述である。彼は、中世のスコラ哲学が空理空論に陥っていることを批判し、学問は人間の生活向上に役立つ力となるものでなければならないと考えた。「**知は力なり(知識と力とは合一する)**」という言葉は、そのような彼の思想を端的に示すものである。④イギリスの哲学者ヒューム(1711～76)についての記述である。彼は、**人間の心は「知覚の束」にすぎない**と主張し、精神や自我を経験から独立した存在(実体)とみなす考え方を否定した。

問4 [32] ③

資料文は、ルソーの『エミール』(戸部松実訳、『世界の名著30 ルソー』中央公論社、1966年、所収)からの引用である。資料文の趣旨は、真の幸福への道は、過分な欲望を能力に応じて減らし、力と意志とを完全に等しくすることで、すべての能力が発揮されながらも心が**安穩**に保たれ、平衡のとれた状態にすることにある、というものである。したがって、この趣旨に合致する③が正解となる。

①資料文は、私たちの欲望が、能力の拡大よりも「もっと大きな比率で拡大していったとしたら、そのためにわれわれはもっと不幸になるにすぎない」と述べている。したがって、真の幸福への道が、「自らの能力を拡大すると同時に、能力を上回る欲望をもつようにするところにある」とする選択肢の記述は資料文と合致しない。②資料文は、真の幸福への道が「必ずしも、われわれの欲望を減らすことにあるのではない」としたうえで、「もし欲望が、われわれの能力よりも低いところにとどまっているとしたら、われわれの能力の一部分は遊んでいることになり、われわれは、自分の存在全体を享受することにならない」と述べている。したがって、真の幸福への道が「常に欲望を能力に比べて小さくすることによって、過分な欲望が発生しないようにするところにある」とする選択肢の記述は資料文と合致しない。④資料文は、「力と意志とを、完全に等しくすること」、すなわち能力に見合った欲望をもつことで、「すべての能力が発揮されながらも、心は**安穩**に保たれることとなり、人間はうまく平衡のとれた状態に置かれる」と述べている。したがって、「欲望が能力よりも低いところにある」状態が真の幸福への道であるとする選択肢の記述は資料文と合致しない。

問5 [33] ④

議会を通じた代表民主制を批判し**直接民主制**を主張したのは、ロック(1632～1704)ではなく**ルソー**であるから、④が誤ったものとして正解となる。ロッ

クは、立法権をもつ議会を国政の最高機関として位置づけるなど、議会制民主主義の提唱者であり、彼が『統治論(市民政府論)』を著して**名誉革命**を理論的に擁護した目的もそこにあった。

① ロックは『人間知性論』を著した経験論の哲学者としても知られ、人間の心はもともと何も書かれていない「白紙(タブラ・ラサ)」であり、すべての**観念は経験と内省に由来すると主張した**。それは、人間が、物、数、神、真理などの観念を生まれつきもっているとするデカルトらの**生得観念説を否定する**ものであった。② 国家が設立される以前の**自然状態**を、ホッブズ(1588～1679)が「万人の万人に対する戦争」状態として捉えたのに対し、ロックは**自然法が支配する平和な状態**として捉えた。そのうえで彼は、人々の自然権である**所有権(生命・自由・財産に対する権利)**の保障をより確実にするためには、人々は社会契約を結んで国家を設立し、所有権を守るための権力を政府に**信託**する必要があると主張した。③ ロックは、政府が国民の信託に反して権力を乱用した場合には、人々は政府に抵抗してこれを交代させる権利(**抵抗権・革命権**)をもつと主張した。

問6 [34] ㉔

**a**：「見えざる手」が入る。**アダム・スミス**(1723～90)は、『**国富論(諸国民の富)**』を著し、人々の利己心に基づく行動が、「(神の)見えざる手」に導かれて**社会全体の利益の増進につながると主張した**。この「見えざる手」とは、具体的には、需要と供給を自動的に調節して資源の最適配分をもたらす市場の働きのことである。なお、「功利の原理」とは、イギリス功利主義の思想家である**ベンサム**(1748～1832)が、政府の政策や立法の指針として掲げた「**最大多数の最大幸福**」という原理のことである。

**b**：「道徳感情論」が入る。**アダム・スミス**は、イギリスで産業革命が始まる18世紀後半に、いわゆる自由放任主義(レッセ・フェール)的な経済思想を説いたことで知られるが、同時に『**道徳感情論**』を著した道徳哲学者としても注目すべき思想を展開した。なお、『**精神現象学**』は**ヘーゲル**の著作である。

**c**：「共感」が入る。**アダム・スミス**は、『道徳感情論』において、人間には自分の行為を観察する**公平な第三者(観察者)**の「共感」を得ようとする道徳感情がそなわっているため、そのような観察者の反感を買うような行為を避けようとする自己規制が自然に働く**と主張した**。なお、「善意志」は、**カント**が重視したものである。道徳法則の核心は行為の結果ではなく行為の動機にあると考えたカントは、

無条件に善とみなすことができるのは**善意志(動機の善さ)**だけである、と考えた。

以上により、㉔の組合せが正解となる。

問7 [35] ㉔

**ア**：イギリスの社会主義者**オーウェン**(1771～1858)についての説明である。オーウェンは、イギリスの**ニューラナーク紡績工場**の経営者として労働条件の改善に努め、労働時間の短縮、厚生施設の整備、労務管理の近代化などによって工場経営の模範を示した。その後、アメリカのインディアナ州に渡って**ニュー・ハーモニー村**と呼ばれる共同所有の生活共同体の建設を試みたが失敗した。全資産を失って帰国した後も、彼は労働組合や生活協同組合の運動を指導し、終生、労働者、女性、子どもたちの生活改善に尽力した。

**イ**：ドイツの社会主義者**マルクス**(1818～83)についての説明である。マルクスは、人間の歴史の原動力は物質的な**生産力**の発展であるという**唯物史観(史的唯物論)**を唱えた。そして彼は、資本主義的な**生産関係**(土地・工場・機械などの生産手段を私有する資本家と、自分の労働力を商品として売らざるを得ない労働者という関係)はすでに生産力の発展を阻害するものとなっていると考えた。その上で、彼は、**労働者階級**が団結して資本家階級を打倒し、生産手段を社会的所有へと変革するための**社会主義革命**が起こることが歴史的な必然であると主張した。

**ウ**：ドイツで社会民主党を指導した**ベルンシュタイン**(1850～1932)についての記述である。19世紀末から20世紀にかけての西欧の資本主義国では、マルクスの予想に反して、労働者が参政権を獲得するなどその地位を向上させ、中産階級の成長もみられるようになった。そこで西欧の社会主義者たちは、マルクスが唱えた革命によってではなく、**議会制民主主義を通じた漸進的な改革**によって社会主義の理想を実現しようとした。こうした考え方を**社会民主主義**と呼ぶ。ベルンシュタインのほか、イギリスで社会主義者の団体(**フェビアン協会**)を結成した**ウェッブ夫妻**(夫シドニー：1859～1947、妻ベアトリス：1858～1943)や**バーナード・ショウ**(1856～1950)らが、その代表的な人物である。

以上により、㉔の組合せが正解となる。

問8 [36] ㉔

**セン**(1933～)は、現代世界における貧困や富の分配の**不平等**という問題に取り組んでいる経済学者である。彼は、所得や資産の分配に重点を置く従来の**経済的平等論**が人間の多様性(生活環境や能力の違



い)を考慮していないことを批判し、人々の福祉の水準を決定する指標は、各人が自ら**自由に選択できる生き方**の幅である**ケイパビリティ(潜在能力)**の大きさであると主張した。ケイパビリティ(潜在能力)は、例えば「十分な栄養をとれるか」「避けられる病気にかかっていないか」という基本的なものから、「社会生活に参加できるか」「自尊心をもてるか」というものまで、様々な要素からなっている。彼は、このようなケイパビリティ(潜在能力)を各人に均等に保障することが、真の意味での自由と平等を保障することになると考えたのである。このようなセンの考え方は、先進国による発展途上国への開発援助のあり方の指針ともなっている。

①現代フランスの哲学者で、『狂気の歴史』などを著し「知の考古学」を提唱したフーコー(1926～84)の思想を想定した記述である。フーコーは、合理主義の名のもとに人間を苦しめている近代社会の権力構造を批判した。彼によれば、近代社会は自らの規範から逸脱するようにみえるものを「**狂気**」として封じ込めてきたが、それは、人間を同質化して社会に順応させようとする権力の都合によるのだと言う。例えば、近代に誕生した学校・工場・軍隊は、いずれも人間を規律でしぼり、調教することによって同質の人間を作りだすための装置であり、それに順応できない人間を病院や刑務所に隔離して、権力的に抑圧してきたと言うのである。③現代ドイツの思想家で、**フランクフルト学派**の第二世代に属するハーバーマス(1929～)の思想を想定した記述である。彼は、近代の合理主義がもたらした矛盾を克服する道を、人々の間の望ましいコミュニケーションを可能にする「**対話的理性**」のうちに求めた。対話的理性とは、人々が公共の場での自由な討論を通じて、互いに納得できる合意に達しようとするときに働く理性のことである。ハーバーマスは、このような対話的理性の力によって、巨大な行政組織や資本主義のもとで歪められた人間関係や、人間性に対する抑圧から現代人を解放し、より人間的で民主的な社会を築くことができると主張した。④現代アメリカの政治学者・倫理学者で、『公正としての正義』や『正義論』を著した**ロールズ**(1921～2002)の思想を想定した記述である。彼は、誰も<sup>だれ</sup>が関わらざるを得ない社会的な基本財(自由、機会、所得と富、自尊心など)の公正な分配を正義の問題として考えた。そして、それらの公正な分配を実現するためには、あらゆる社会制度において、「各人に基本的な自由の権利が平等に与えられ(**平等な自由の原理**)」、また、社会的・経済的不平等は「公正な競争や参加の

機会が誰にも均等に与えられたうえで生じたものに限られ(**公正な機会均等原理**)」、「社会的に最も不遇な人々の状況を改善する限りにおいて認められる(**格差の原理**)」という、**正義の二原理**が採用されなければならないと説いた。

#### 問9 [37] ㊸

本文の趣旨は、次の通りである。近代の思想家は、様々な歴史的・社会的な現実のなかで自由の概念を軸に思索を重ねてきた。デカルトの「理性に導かれた意志の自由」、ホッブズの「自己保存のために自分のあらゆる力を使う自由」、アダム・スミスの「経済的自由」はその例である。しかし、19世紀以降、対外的侵略への道をたどる近代国民国家の問題点や労働者の窮乏などの資本主義の矛盾が顕在化してくると、「人間的自由」とは何かを改めて問い直そうとする機運の高まりとともに、社会主義や実存主義などの現代思想が登場してきた。以上の趣旨を踏まえれば、空欄[A]には、現代の私たちにも「本当の人間の自由への問いは引き継がれている」という内容の㊸を入れるのが最も適当である。

①本文の第4段落は、「19世紀になり、……政治的自由や経済的自由の拡大だけでは、人間らしい自由を実現できないのではないかという反省が生まれた」と述べている。したがって、「現代の私たちに求められているのは、近代社会が発展する原動力となった政治的自由と経済的自由の双方を拡大していくことに尽きる」という選択肢の記述は、空欄[A]に入れるには適当でない。②本文の第4段落は、現代思想が登場する背景として、「『人間的自由』とは何かを改めて問い直そうとする機運の高まりがあった」と述べているが、「問い直す」ことが近代の自由概念をすべて否定することになるわけではない。したがって、「近代的な自由の概念が、いずれも人間的な自由の実現を妨げるものでしかなくことが明らかとなった」という選択肢の記述は、空欄[A]に入れるには適当でない。④本文の第1段落は、「近代以降、……それぞれの思想家によって説かれる自由の内容を理解するには、その歴史的・社会的な文脈を知る必要がある」と述べている。言い換えれば、近代の様々な自由概念は、いずれも歴史的・社会的現実と切り離して理解することはできないということである。したがって、「あらゆる束縛から解放された状態という近代的自由の本質に立ち返り、自己を歴史的・社会的現実から切り離して生きる必要がある」という選択肢の記述は、空欄[A]に入れるには適当でない。

【解答・採点基準】

(100点満点)

問題番号	設問	解答番号	正解	配点	自己採点
第1問	問1	①	④	3	
	問2	②	④	3	
	問3	③	①	3	
	問4	④	④	2	
	問5	⑤	②	3	
	問6	⑥	③	3	
	問7	⑦	③	3	
	問8	⑧	②	3	
	問9	⑨	③	3	
	問10	⑩	①	2	
第1問 自己採点小計				(28)	
第2問	問1	⑪	③	3	
	問2	⑫	④	3	
	問3	⑬	①	3	
	問4	⑭	①	3	
	問5	⑮	④	2	
	問6	⑯	②	3	
第2問 自己採点小計				(17)	
第3問	問1	⑰	①	3	
	問2	⑱	②	2	
	問3	⑲	③	3	
	問4	⑳	②	3	
	問5	㉑	②	3	
	問6	㉒	④	3	
	問7	㉓	③	2	
第3問 自己採点小計				(19)	
第4問	問1	㉔	③	2	
	問2	㉕	④	3	
	問3	㉖	①	2	
	問4	㉗	②	3	
	問5	㉘	②	3	
	問6	㉙	②	3	
	問7	㉚	④	3	
第4問 自己採点小計				(19)	

問題番号	設問	解答番号	正解	配点	自己採点
第5問	問1	⑳	①	3	
	問2	㉑	③	3	
	問3	㉒	④	3	
	問4	㉓	③	3	
	問5	㉔	③	3	
	問6	㉕	②	2	
第5問 自己採点小計				(17)	
自己採点合計				(100)	

【解説】

第1問 国際社会における日本の役割

【出題のねらい】

本問は、国際社会における日本の役割をテーマとして、国際社会の現状や日本の国際貢献に関する基本事項を、政治・経済の両面から問うものである。あわせて、近年のセンター試験でしばしば出題されている知識を前提とした図表問題も出題した。

【設問別解説】

問1 ① ④

ア 1962年のキューバ危機についての記述である。1959年のキューバ革命を契機にキューバはアメリカとの対立を深め、1961年に社会主義国となった。1962年にソ連がキューバにミサイル基地を建設しようとしたことから、アメリカがその撤去を要求してキューバ周辺の海上封鎖を行い、米ソ間に核戦争の危機が生じた。この事件はキューバ危機と呼ばれる。その後、ソ連がキューバから核ミサイルを撤去することに同意したため、危機は回避された。

イ 1947年のトルーマン・ドクトリンについての記述である。ギリシャとトルコにおける反政府共産主義武装勢力の拡大に対抗して、1947年にアメリカ大統領トルーマン(在位1945～53)は、共産主義封じ込め政策を内容とするトルーマン・ドクトリンを発表した。また、同年、アメリカ国務長官マーシャル(在位1947～49)は、ヨーロッパの経済復興援助を内容とするマーシャル・プランを発表した。

ウ 1955年に開催されたアジア・アフリカ会議についての記述である。第二次世界大戦後、民族自決の原則に基づき、アジア・アフリカで多くの独立国が誕生した。これらの新興独立国はしだいに国際社会での発言力を強めた。たとえば、1955年にインドネシアのバンドンで開催されたアジア・アフリカ会議(バンドン会議)では、平和5原則(1954年の周恩

来とネルーの会談で示された原則)を発展させた**平和10原則**(主権と領土保全の尊重, 諸国民の平等, 内政不干渉など)が採択された。

問2 **2** ④

「黒字」ではなく「赤字」が正しい。**貿易収支**は、輸出額から輸入額を差し引いたものである。したがって、輸入額が輸出額を上回った場合には、貿易収支の額は赤字となる。

①**変動為替相場制**の下では、通貨の交換比率である外国為替相場は、外国為替市場におけるその通貨に対する需要と供給によって決まる。たとえば、外国為替市場において、円に対する需要が増大すれば、円高になる。②**GATT(関税と貿易に関する一般協定)**では、数次にわたり**多国間貿易交渉(ラウンド)**が開かれた。1986年から1994年にかけて開催された**ウルグアイ・ラウンド**では、(1)サービス貿易(旅行、金融、情報通信など)の**自由化**、(2)知的財産権(特許権、商標権、著作権など)の**保護**、(3)農業分野における**貿易自由化**(非関税障壁の関税化と関税率の引下げ、輸出補助金の削減など)について一定の合意が成立した。③GATTを継承した**WTO(世界貿易機関)**は、「自由、無差別、多角」を一般原則としつつ、多国間貿易交渉を通じて、貿易制限の撤廃や縮小あるいは関税引下げなどを進め、自由貿易の実現に努めてきた。ただし、GATTと同様にWTO協定は、無差別原則の例外として、**一般特惠関税**を認めている。一般特惠関税とは、開発途上国からの輸入品に対して一般の税率よりも低い税率を適用する関税のことをいう。

問3 **3** ①

民主政治は古代ギリシャに始まる。紀元前5世紀ごろ、アテネなどのポリス(都市国家)では、市民が集会を開いて直接政策を議論し決定する**直接民主制**が行われていた。

②「すべての人が生まれながらに一定の権利をもつという考え方に立って」という記述が誤り。1215年に成立した**マグナ・カルタ(大憲章)**は、イギリス国王が**封建領主**などの**特権を確認した文書**であって、すべての人が生まれながらに一定の権利をもつとする**自然権**の思想に立脚したものではない。③「新興の産業資本家を中心とする市民階級が中心となって」という記述が誤り。1917年の**ロシア革命**は、**ブルジョワジー**(新興の産業資本家を中心とする市民階級)が中心となって国王の専制支配を打倒した**市民革命**ではなく、労働者や農民が中心となって国王の専制支配を打倒した**社会主義革命**である。

④「20歳以上の国民」を「25歳以上の男子」にし、

また、「男女平等の普通選挙」を「男子普通選挙」にすれば正しい記述になる。日本では、大正デモクラシーを背景として、**1925年**に普通選挙法が成立し(衆議院議員選挙法が改正され)、25歳以上の国民の男子に選挙権を与える**男子普通選挙**が確立した。20歳以上の国民に選挙権が与えられ、**男女平等の普通選挙**が確立したのは、第二次世界大戦後の**1945年**である。

問4 **4** ④

安全保障理事会の決議のうち、**手続事項**(どの議案から審議するかなど)に関する決議は、15の理事国(5の常任理事国と10の非常任理事国)のうち**9理事国の賛成**で成立するが、手続事項以外の**実質事項**(侵略の認定や経済制裁の実施など)に関する決議は、**すべての常任理事国の同意投票を含む9理事国の賛成**が必要である。したがって、常任理事国が1か国でも反対すれば、実質事項に関する決議は成立しない。その結果として、常任理事国は**拒否権**をもつことになる。

⑤「最初の」を取れば正しい記述となる。国連も**集団安全保障**の仕組みを採用しているが、それを最初に採用した国際組織は、1920年に設立された**国際連盟**である。なお、集団安全保障は、**勢力均衡**の失敗を踏まえて考案されたものであり、(1)敵対し合っている国家も含めた世界的規模の国際機構を作り、(2)すべての加盟国に武力攻撃を行わないことを約束させ、(3)これに違反した国家に対して集団的制裁を加えるという仕組みである。②「1か国でも反対する国があれば成立しない」という記述が誤り。国際連盟の総会・理事会における決議は、全会一致によって成立するとされていたため、加盟国間の重大な対立に際しては、有効な決定が困難であった。そこで、国連では、投票する国のすべての賛成を要する(1か国でも反対する国があれば決議が成立しない)**全会一致制**に代わって**多数決制**が採用された。

**総会の決議**は、**1国1票**を前提に原則として出席し投票する加盟国の**過半数の賛成**により成立する。ただし、新加盟国の承認や加盟国の除名などの**重要事項**については、出席し投票する加盟国の**3分の2の賛成**が必要である。③「国際犯罪を行った個人の裁判」を「国家間の紛争についての裁判」にすれば正しい記述となる。**国際司法裁判所(ICJ)**は、国家間の国際法上の紛争について裁判を行う。ただし、(1)国家のみが訴えを提起することができ、(2)紛争当事国双方の合意がある場合にのみ裁判を開始することができるという制約がある。なお、**国際刑事裁判所(ICC)**は、国際犯罪を行った個人を裁く常設の国際

裁判所として、2003年にオランダのハーグに設置された。国際刑事裁判所が裁判を行うことができる国際犯罪は、現在、**集団殺害犯罪**、**人道に対する犯罪**、**戦争犯罪**である。

問5 **5** ②

自衛隊の防衛出動には、「最高裁判所の承認」ではなく「**国会の承認**」が必要である(自衛隊法第76条)。この制度は、政府や議会が軍隊を民主的にコントロールすることで、その独走を防ごうとする**文民統制(シビリアン・コントロール)**の原則を具体化したものである。なお、国会の承認は、原則として事前に得る必要があるが、特に緊急の必要がある場合は事後でもよいことになっている。

①日本国憲法は、過去の侵略戦争の反省の上から立て、徹底した平和主義の精神を採用し、第9条は、その第1項で、「日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。」、また、その第2項で、「前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない」と定め、**戦争の放棄**、**戦力の不保持**、**交戦権の否認**の原則を明らかにしている。③核兵器を「**持たず、作らず、持ち込ませず**」という**非核三原則**は、1967年に佐藤首相が国会で初めて表明し、1971年の衆議院決議で確認された。歴代内閣は、この非核三原則を堅持する立場を取ってきた。④1960年に全面改定された**日米安全保障条約**は、旧条約と同じく日本の米軍基地提供義務を定めるとともに、新たにアメリカの日本防衛義務を明示した。

問6 **6** ③

**バーゼル条約**は、PCBや水銀などの有害廃棄物の国境を越える移動などを規制している。この条約は、1980年代にヨーロッパの先進国から輸出された有害廃棄物がアフリカの開発途上国に放置されて環境汚染が生じるなどの問題が発生したことが契機となって、1989年に**UNEP(国連環境計画)**で採択された。

①フロンガスの排出を規制する条約は存在する。1987年に採択された**モントリオール議定書**は、フロンガスなど**オゾン層**を破壊するおそれのある物質を特定し、当該物質の生産・消費および貿易の規制を定めた。日本では、同議定書への加入にあわせて、1988年に**オゾン層保護法**が制定され、オゾン層破壊物質の生産や輸出入の規制、排出抑制の努力義務などが定められた。②「生物学者カーソン」を「経済

学者**ボールディング**」にすれば正しい記述になる。アメリカの経済学者**ボールディング**(1910～93)は、地球環境を「宇宙船」のような閉鎖的なものであると捉え、人類が**宇宙船地球号**の乗組員の意識をもって限られた資源を有効に使い、循環的な生態系システムと調和した経済を目指さなければならないと説いた。なお、アメリカの生物学者**カーソン**(1907～64)は、『**沈黙の春**』において、**食物連鎖**の過程で農薬の生体濃縮が生じ、**生態系**が破壊される危険性を警告した。④京都議定書で温室効果ガスの削減が義務づけられているのは先進国のみであり、開発途上国には温室効果ガスの削減義務はない。**京都議定書**は、1997年に京都において開催された**気候変動枠組条約第3回締約国会議(京都会議)**で採択されたもので、1990年を基準として2008年から2012年までの間に、温室効果ガスをEU 8%、アメリカ 7%、日本 6%、先進国全体で少なくとも5%を削減するという目標が定められた。

問7 **7** ③

Aーイ 1980年代に入ると**アメリカは貿易赤字と財政赤字の「双子の赤字」**に悩まされるようになり、とくに巨額の貿易赤字は世界経済の不安定要因となっていた。そこで、1985年にニューヨークのプラザホテルにおいて**先進5か国財務相・中央銀行総裁会議(G5/米・日・西独・仏・英)**が開催され、アメリカの貿易赤字の削減を図るため、**ドル高是正**を目指して主要国が外国為替市場でドル売り介入をするという内容の**プラザ合意**が成立した。

Bーア アメリカ大統領の**ニクソン**(在位1969～74)は、1971年8月にドル防衛策として、**金とドルとの交換の一時停止**を宣言した。その結果、外国為替市場は、暫定的に変動為替相場制に移行した。1971年12月にニクソン・ショック後の国際通貨体制の混乱を收拾するために、西側先進国10か国の財務相による会議が開催され、固定為替相場制への復帰に合意した**スミソニアン協定**が成立した。しかし、金との交換が約束されていない米ドルの価値を維持することは困難であり、1973年2月に入ると主要国は相次いで**変動為替相場制**に移行し、1976年にジャマイカのキングストンで開催されたIMFの暫定委員会で、変動為替相場制が正式に承認された(**キングストン合意**)。

Cーウ 1930年代の世界不況の時期に、各国は輸出の拡大によって不景気から脱出しようと試み、**平価(自国通貨の対外価値)の切下げ競争**に走った。その結果、外国為替相場は大混乱に陥って世界貿易は縮小し、かえって不況が長引くことになってし



まった。このような歴史を踏まえ、1944年に外国為替相場の安定を目的としてブレトンウッズ協定が締結され、これに基づき翌年、IMF(国際通貨基金)とIBRD(国際復興開発銀行／世界銀行)が設立された。このブレトンウッズ体制(IMF体制)では、金1オンス(約31g)=35ドルで金との交換が保証された米ドルが基軸通貨とされた。そして、自国通貨と米ドルとの交換比率(外国為替相場)の変動幅を為替平価(自国通貨の価値を米ドルで表した交換比率)の上下1%以内に維持することを加盟国に義務づける固定為替相場制が採用された。

問8 8 ㊦

「COMECON(経済相互援助会議)」を「IDA(国際開発協会)」にすれば正しい記述になる。ブレトンウッズ協定によって設立されたIBRD(問7の解説を参照)は、戦後の経済復興と途上国の開発のため、長期資金の融資を行うという役割を担っていたが、商業ベースの融資が中心であり、開発途上国にとっては融資条件が厳しかった。そこで、1960年に貧しい開発途上国へ極めて緩やかな条件(無利子あるいは極めて低い金利)の融資を行うIDA(国際開発協会)が設立された。なお、COMECON(経済相互援助会議)は、1949年に設立されたソ連と東欧の社会主義諸国の経済協力のための機関である(1991年解体)。

㊦第二次世界大戦後、アジアやアフリカにおいて、欧米諸国の植民地であった地域の多くが政治的独立を達成した。しかし、現在でも、経済的自立が困難な国が多く存在している。その要因としては、開発途上国が特定の一次産品(農林水産物や鉱物資源)の生産や輸出に依存するモノカルチャー経済から脱却することができず、一次産品の価格低迷に伴って南北間の経済格差が拡大したことが指摘されている。㊦開発途上国における資源ナショナリズムの高まりを受け、1974年の国連資源特別総会においてNIEO(新国際経済秩序)樹立宣言が採択された。この宣言は、天然資源に対する恒久主権、多国籍企業に対する規制、開発途上国に不利な交易条件の改善などを内容としている。㊦かつて開発途上国であったシンガポールは急速な経済発展を遂げ、現在一人当たりのGDP(国内総生産)はアメリカや日本を上回っている。2012年の一人当たりのGDPは、シンガポールが52,141ドルであり、アメリカが51,163ドル、日本が46,838ドルである。

問9 9 ㊦

中国は高い経済成長率を実現し2010年にGDPが日本を抜いて世界第2位になった。この知識から、

高い経済成長率が見込まれているCが「中国」と判断できる。また、現在の日本のGDPは中国より小さいことから、Bが「日本」と判断できる。残りのAがEUということになる。以上から、正しい組合せは㊦である。

問10 10 ㊦

日本政府は、日本のNGO(非政府組織)が開発途上国で行う経済社会開発事業に無償資金協力を行っている。たとえば、2014年度では、NGOのピースウィンズ・ジャパンが実施するケニアの難民キャンプにおける仮設住宅建設事業に約7,750万円の資金協力を行うなど、合計で約4億1400万円の資金協力を行った。

㊦日本のODA(政府開発援助)には、贈与だけでなく政府貸付(円借款)も含まれている。㊦「国益に反する援助も積極的に行うと定めている」という記述が誤り。ODAの拡大に伴って、1992年に援助政策の基本方針を定めるODA大綱(政府開発援助大綱)が閣議決定された。2003年にODA大綱が改定され、ODAの目的が、「国際社会の平和と発展に貢献し、これを通じて我が国の安全と繁栄の確保に資すること」であるとされ、従来の「人道援助」から「国益重視」に理念が変更された。なお、2014年中を目途にODA大綱の見直しが行われることになっているが、国際貢献と国益の両立の観点に変更はない。㊦「上回っている」を「下回っている」にすれば正しい記述になる。日本のODAの対GNI比は、0.2%程度(2013年は0.23%)であり、国際的な目標の0.7%を大きく下回っている。

## 第2問 今日の国民生活をめぐる諸問題

### 【出題のねらい】

本問は、今日の国民生活をめぐる諸問題をテーマとして、消費者問題、労働問題、社会保障問題について、基礎的な知識や理解を試すことをねらいとしている。

### 【設問別解説】

問1 11 ㊦

近年、インターネットバンキングやオンラインショッピングの普及を背景として、フィッシング詐欺による被害が問題となっている。その一般的な手口は、実在する銀行やクレジット会社などの名を騙って電子メールを送り、そこから偽のホームページに誘導してパスワードやID番号などの個人情報を入力させるというものである。これによって、預金不正に引き出されるなどの被害が生じている。

㊦「取り消すことはできない」という記述が誤

り。一般的に、消費者と事業者の間には情報量や交渉力の面で差があり、消費者が不当な契約を結ばされることも少なくない。こうした問題に対処するために、2000年に**消費者契約法**が制定された。この法律では、重要事項について事実と異なることを告げられ、これを事実と誤認して結んだ契約は、取り消すことができると定めている。②「公正取引委員会」を「消費者庁」にすれば正しい記述になる。**消費者庁**は、2009年に内閣府の外局として発足した機関であり、消費者行政の司令塔として、**国民生活センター**などの機関と連携して情報の集約・分析などを行っている。なお、**公正取引委員会**は**独占禁止法**の運用機関として1947年に発足した行政委員会であり、公正で自由な競争を促進するために、カルテルや入札談合の取り締まりなどを行っている。④「企業の過失を立証しなければならない」という記述が誤り。1994年に制定された**製造物責任法(PL法)**では、**無過失責任**が採用されている。欠陥商品で被害を受けた消費者がこの法律に基づいてメーカー企業に損害賠償を求めるには、企業の過失を立証する必要はなく、商品に欠陥があることと、欠陥と被害の間に因果関係があることを立証すればよい。

## 問2 12 ④

「賦課方式から積立方式に移行している」という記述が誤り。年金の財源に関しては、**積立方式**と**賦課方式**とがある。積立方式は、現役時代に拠出した保険料を財源として、本人の老後の給付を賄うという方法である。これに対して、賦課方式は、現役世代が拠出する保険料で、現在の高齢者への年金給付を賄うという方法である。戦後日本の公的年金制度は積立方式で出発したが、やがて賦課方式を採用されるようになり、現在は実質的に賦課方式となっている。

①1997年に制定された**介護保険法**に基づき、2000年から介護保険制度がスタートした。これは、保険料と公費を財源として、介護の必要な者に原則1割負担で介護サービスを提供する仕組みであり、40歳以上の者が加入を義務づけられている。②1985年の国民年金法の改正によって、翌年に**基礎年金制度**が実施された。基礎年金は、職業に関係なく20歳以上の者が加入する公的年金の共通部分である。③**国民皆保険**とは、すべての国民が何らかの公的医療保険に加入する体制のこと。戦後の日本では、しばらくの間、どこの公的医療保険にも加入できない無保険者が少なくなかったが、1958年の国民健康保険法改正によって、国民健康保険が導入され、国民皆保険の体制が実現した。

## 問3 13 ①

「実質経済成長率が戦後初のマイナスを記録した年度」とは、第一次石油危機の翌年の**1974年度**のことである。図をみると、この年度の年間総実労働時間は、前年度よりも減少していることが確認できる。

②「一貫して減少が続けている」という記述が誤り。1950年代半ばから始まった高度経済成長期は、1973年度の第一次石油危機の発生で終わり、1979年度には第二次石油危機が発生している。図をみると、この1973年度から1979年度までの年間総実労働時間はおよそ横ばいで推移しており、やや上昇している年度(1976年度など)もある。③「平成のバブル景気の時期に横ばいで推移しているが、バブル崩壊後に減少に転じている」という記述は誤りである。**バブル景気**は、1980年代後半に始まり、1991年度まで続いた。この間の年間総実労働時間を図でみると、1987年度に少し上昇しているものの、1988年度からは減少している。④「およそ200時間減少している」という記述が誤り。**ニクソン・ショック**とは、1971年8月にアメリカ大統領のニクソンが**金とドルの交換停止**を突然発表し、これによって世界経済が混乱に陥った出来事のことである。他方、**リーマン・ショック**とは、2008年9月にアメリカの大手証券会社であるリーマン・ブラザーズが経営破綻した出来事のことである。これを機に**世界金融危機**が発生した。この二つの時期の年間総実労働時間を比べると、ニクソン・ショックの起こった1971年度には2200時間を上回っているが、リーマン・ショックの起こった2008年度は1800時間程度であるから、その差は400時間ほどである。

## 問4 14 ①

**EPA(経済連携協定)**とは、物品の貿易やサービス貿易の自由化に加えて、投資、労働力の移動、知的財産権の保護など、幅広い分野で相手国と協力を進めるものである。近年の日本は、2002年の**シンガポール**を皮切りとして、さまざまな国々とEPAを結んでいる。フィリピン、インドネシア、ベトナムとそれぞれ結んだEPAでは、**看護師**や**介護福祉士**の国家資格を取得しようとする者を受け入れることを定めており、これに基づいてすでに多くの候補者が来日している。これらの人びとが日本で国家資格を取得できれば、引き続き日本で看護師・介護福祉士として就労できることになっている。

②「製造業で派遣労働者を用いることは禁止されている」という記述が誤り。2008年の世界金融危機では、日本経済も大きな打撃を受け、派遣労働者の

雇い止めが社会問題となった。その後、派遣労働者が安易に使い捨てされることのないよう、2012年に**労働者派遣法**が改正され、雇用契約期間30日以内の**日雇い派遣が原則禁止**されるなどの一定の措置がとられたが、製造業で派遣労働者を用いること自体は禁止されていない。③「アルバイトやパートタイム労働者には適用されない」という記述が誤り。**労働者災害補償保険(労災保険)**で対象となる労働者とは、事業に使用されて賃金を支払われる者のことであり、正社員かどうかは関係ない。したがって、アルバイトやパートタイム労働者の場合も労災保険は適用される。④「男性と女性とでその取得率に大きな差はみられない」という記述が誤り。**育児・介護休業法**に基づき、労働者には性別に関係なく一定期間の育児休業が保障されている。ただし、取得率をみると、女性は83.6%であるのに対して、男性は1.89%であり、大きな差がある(2012年)。

問5 **15** ④

A 正文。**労働組合法**では、労働組合活動に対する使用者の妨害行為を、**不当労働行為**として禁止している。その例としては、労働組合活動を理由として労働者に対して解雇その他の不利益な取扱いをすること、正当な理由がないのに団体交渉を拒むこと、労働組合に加入しないことを雇用の条件とすること、労働組合の運営経費を援助すること、などがある。

B 正文。**セクシュアル・ハラスメント**については、2006年の**男女雇用機会均等法**の改正で、事業主に防止のために必要な「措置」をとる義務が課された。

C 誤文。**障害者雇用促進法**は、障害者の雇用を支援するために、国や地方公共団体、一定規模以上の民間企業に対して、職員・従業員の一定割合を障害者の雇用に割り当てることを義務づけている(法定雇用率は、国・地方公共団体は2.3%、教育委員会は2.2%、民間企業は2.0%)。したがって、「民間企業には雇用の義務を課していない」という記述は誤りである。なお、法定雇用率を達成していない企業からは納付金を徴収しており、これをもとにして、雇用率を達成した企業に調整金の支給などを行っている。

以上から、正しい組合せは④である。

問6 **16** ②

「65歳から60歳に引き下げられている」という記述が誤り。近年の年金制度改革で、**厚生年金の支給開始年齢は60歳から65歳へと段階的な引き上げ**が進んでいる(定額部分については、男性は2001年から

2013年、女性は2006年から2018年にかけて引き上げられ、報酬比例部分については、男性は2013年から2025年、女性は2018年から2030年にかけて引き上げられる)。

①**合計特殊出生率**は、1人の女性が生涯に産む子どもの数の平均値である。日本社会の少子化が進む中、その数値は低下し、2005年には統計データとして確認できる1947年以降**最低の1.26**を記録したが、その後、数値はやや上向いており、2013年は**1.43**となっている。③65歳以上の人口が全人口に占める割合を**高齢化率**という。2013年の高齢化率は過去最高の**25.1%**であり、65歳以上の人口が全人口の約4分の1を占める状態になっている。④2008年度に、従来の老人保健制度は廃止され、**後期高齢者医療制度**が導入された。**75歳以上**の国民はこの新たな制度に加入し、保険料を納めることを義務づけられている。

### 第3問 人権保障の歴史と現代における課題 【出題のねらい】

本問は、人権保障の歴史と現代における課題をテーマとして、センター試験で繰り返し出題されている、人権にかかわる基本的な知識を問うことをねらいとしている。

#### 【設問別解説】

問1 **17** ①

イギリスの思想家**ロック**(1632～1704)は、自然状態を不安定な平和状態と捉え、個人の自然権の確実な保障のためには、人民は権力を政府に信託する必要があると説いた。そして、政府がこの信託に反した場合には、人民は、政府をつくりかえる権利(**抵抗権・革命権**)を行使しようと主張した。

②**ルソー**の思想である。フランスの思想家**ルソー**(1712～78)は、自然状態を自由と平等が確保された理想的な状態と捉えた。しかし、私有財産制を基礎とする文明の発達により不正・悪徳・不平等が生じるようになり、その状態を克服するためには、公共の利益を目指す**一般意志**を形成し、これに全面的に服従する契約を結ぶ必要があるとした。③**ホッブズ**の思想である。イギリスの思想家**ホッブズ**(1588～1679)は、自然状態を「**万人の万人に対する闘争**」状態と捉え、この状態を脱し平和と秩序を実現するためには、各人は**自然権(自己保存権)**を主権者に全面的に譲渡する必要があるとした。④**モンテスキュー**の思想である。フランスの思想家**モンテスキュー**(1689～1755)は、権力濫用を防止するために、国家権力を**立法・行政・司法**に分け、それぞれ

を議会・国王・裁判所に帰属させて権力相互の抑制と均衡を図る三権分立論を説いた。ただし、モンテスキューは社会契約説を唱えてはいない。

問2 18 ②

最高裁判所は、愛媛玉ぐし料訴訟において、愛媛県が靖国神社などに玉ぐし料を公金から支出したことについて、政教分離原則(日本国憲法第20条・第89条)に反すると判断した。

①「法務大臣」を「裁判官」にすれば正しい記述になる。日本国憲法第33条・35条は、原則として「権限を有する司法官憲」の発する令状によらなければ、逮捕や搜索・押収を行うことができないと規定している(令状主義)。ここで「権限を有する司法官憲」とは裁判官を指す。捜査機関から独立した裁判官に、逮捕や搜索・押収の正当性を事前にチェックさせるためである。③「本人の意思に反して財産権を制限することはできない」という記述が誤り。日本国憲法第29条3項は「私有財産は、正当な補償の下に、これを公共のために用ひることができる」と規定しており、本人の意思に反したとしても、「正当な補償」を行うことにより財産権を制限することができる。④「検閲を認めている」という記述が誤り。日本国憲法第21条2項は「検閲はこれをしてはならない」と規定し、行政機関による事前の検閲を無条件に禁止している。

問3 19 ②

「法律に基づく行政を重視するもので、法律の内容は問わない考え方」とは、19世紀のドイツで発達した法治主義である。これに対し、イギリスやアメリカで発達した法の支配は、法の内容を重視し、国家権力を法によって拘束することにより国民の権利や自由を擁護しようとする考え方である。

①17世紀、イギリスの裁判官クック(コーク/1552～1634)は、13世紀の法律家ブラクトン(?～1268)の「国王といえども神と法の下にある」という言葉を引用し、国王の恣意的な支配を諷めた。これは、「法の支配」の考えを示した有名なエピソードとして知られる。②アメリカでは、判例に基づき、通常の司法裁判所に、法令などが憲法に適合しているかどうかを審査する違憲立法審査権を認めることによって、「法の支配」を確保しようとしている。④日本国憲法は、「法の支配」を確保するため、「天皇又は摂政及び国務大臣、国会議員、裁判官その他の公務員」に憲法尊重擁護義務を負わせている(第99条)。

問4 20 ②

日本国憲法は、すべての国民に対して、「その能

力に応じて、ひとしく教育を受ける権利」(第26条)を保障している。

①「国民に対して具体的権利を保障したものである」という記述が誤り。最高裁判所は、朝日訴訟において、憲法第25条1項の「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」との規定は、国の責務を宣言したにとどまり、直接個々の国民に具体的な権利を賦与したものではないとした(プログラム規定説)。③「労働基本権に対する不当な制約に当たり違憲である」という記述が誤り。最高裁判所は、すべての公務員に争議権が認められていないことについて、公務員の職務の公共性などを理由として、労働基本権に対する不当な制約には当たらず合憲であるとしている。④「労働時間や賃金など勤労条件に関する具体的な基準を規定している」という記述が誤り。日本国憲法第27条は、国民に、勤労の権利を保障しているが、「賃金、就業時間、休息その他の勤労条件に関する基準」については、「法律でこれを定める」としており、同条には具体的な規定は置かれていない。

問5 21 ②

日本は、1985年に女子差別撤廃条約(1979年採択)を批准する際に、男女雇用機会均等法の制定や国籍法の改正など国内法の整備を行った。

①「国際法上の拘束力がある」という記述が誤り。世界人権宣言は条約ではないので、国際法上の拘束力はない。③「B規約(自由権規約)を批准していない」という記述が誤り。日本は、国際人権規約(1966年採択)について、主に社会権に関するA規約について、公務員のストライキ権、中等・高等教育の無償化、公休日の給与支払いの3点につき留保(中等・高等教育の無償化については2012年に留保を撤回)した上で批准するとともに、主に自由権に関するB規約については留保を付けずに批准した(1979年)。なお、国際人権規約は、世界人権宣言を具体化した条約であり、批准した国に対して国際法上の拘束力をもつ。④「経済的理由から国外に逃れた難民を保護の対象としている」という記述が誤り。難民条約(1951年採択)は、人種や宗教、政治的意見の違いなどから国外に逃れた政治難民を保護の対象としているが、それ以外の経済的な理由から国外に逃れたいいわゆる経済難民などは保護の対象としていない。

問6 22 ④

A — イ 1689年に成立したイギリス権利章典は、国王に対する「臣民」(イギリス国民)の請願権などを保障している。



**Bーウ** 1789年に成立した**フランス人権宣言**(**人および市民の権利宣言**)の第16条は、憲法には、権利を保障する規定だけでなく、権利保障を制度的に確保するための権力分立規定がおかれていなければならないと定めている。

**Cーア** 1919年に成立した**ワイマール憲法**(**ドイツ共和国憲法**)は、**生存権**の保障(人間たるに値する生活の保障)をはじめとする**社会権**の保障を掲げた。

問7 [23] ③

国民の**知る権利**は、新聞やテレビなどのマスメディアによる報道によって充足される場合が少なくない。したがって、国民の知る権利を実質的に保障するためには、マスメディアによる**取材・報道の自由**を確保することが必要である。

①「アクセス権」を「知る権利」にすれば正しい記述になる。**アクセス権**は、マスメディアを利用して国民が反論をしたり意見を表明したりする権利である。②「自己情報を管理する権利」と「私事をみだりに公開されない権利」を入れ替えれば正しい記述になる。**プライバシー権**は、従来、私事をみだりに公開されない権利とされてきたが、近年では、**自己情報を管理する権利**として広く捉えられるようになっている。④「環境権を国民の権利として認め、夜間飛行の差止めを命じた」という記述が誤り。最高裁判所は、大阪空港公害訴訟において、良好な環境を享受する権利である**環境権**を国民の権利として認めておらず、また、夜間飛行の差止めも命じなかった。

## 第4問 市場経済と企業

### 【出題のねらい】

本問は、市場メカニズムや経済思想に関する問題を通じて経済の基本的な考え方の理解を深めること、および、日本の企業や日本経済全体の現状についての基本知識を確認することをねらいとしている。

### 【設問別解説】

問1 [24] ②

**アダム・スミス**(1723~90)は、イギリスの経済学者であり、『**諸国民の富**(**国富論**)』において、市場では、「**見えざる手**」によって自動的に需要と供給の不均衡が調節されると説き、政府は経済に介入すべきでないとする**自由放任**(**レッセ・フェール**)を主張した。

①「フリードマン」を「シュンペーター」にすれば正しい記述になる。**シュンペーター**(1883~1950)は、オーストリアの経済学者であり、企業が**イノベーション**(**技術革新**／**新機軸**)によって生産や販売

における新しい効率的な方法を開発すれば、従来の方法が駆逐されて「**創造的破壊**」が進み、経済は発展していくと主張した。②「**ケインズ**」を「**フリードマン**」にすれば正しい記述になる。**フリードマン**(1912~2006)は、アメリカの経済学者であり、通貨量の管理を重視する**マネタリズム**という考え方の提唱者である。**アダム・スミス**と同様に市場メカニズムの有効性を信奉し、多くの国の経済政策に影響を及ぼしている。④「**シュンペーター**」を「**ケインズ**」にすれば正しい記述になる。**ケインズ**(1883~1946)は、イギリスの経済学者であり、『**雇用・利子および貨幣の一般理論**』において、不況期に失業を解消して**完全雇用**を実現するには、政府が**公共投資**を拡大して**有効需要**(貨幣支出の裏づけのある需要)の増大を図ることが必要だと主張した。ケインズの考え方に基づく経済政策は、第二次世界大戦後の欧米や日本で広く採用された。

問2 [25] ④

株式会社の最高意思決定機関は、「取締役会」ではなく「株主総会」である。株式会社では、会社の所有者である株主によって組織される**株主総会**が最高意思決定機関であり、株式会社の経営に関する基本事項について決定する。この株主総会によって選任された**取締役**が、会社の経営を担当する。

①**株主有限責任**の原則についての記述である。株主は、株式会社の債務について出資額の範囲内で責任を負えばよい。このように株主が有限責任であることで、株式会社は、広く資金を調達することができる。②**所有と経営の分離**についての記述である。企業の規模が大きくなると、企業の経営には高度の専門性が要求されるようになる。その結果、大企業では、株主が企業の経営にかかわることは少なくなり、企業の経営は専門の経営者に委ねられるようになる。③現代の企業は、経済活動を通じて利益を上げるだけでなく、社会の一員として社会に貢献することが求められている。そうした貢献活動のうち、文化活動や芸術活動などに対する企業の支援は**メセナ**と呼ばれている。

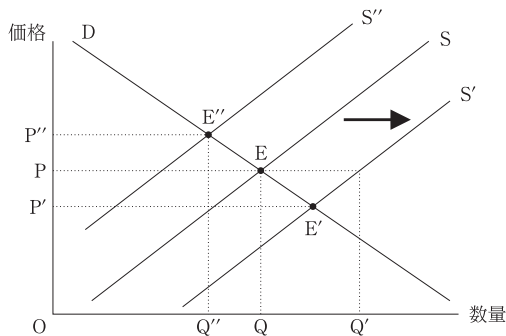
問3 [26] ①

次ページの図のように、当初の需給の**均衡点**はEである。このとき企業の生産コストが低下すると、企業はより多くの財を生産して利益を拡大しようとする。そのため、当初の**供給曲線**Sは右方向に移動してS'となる。この場合、**需要曲線**に変化はないため、均衡点はEからE'に移り、価格はPからP'へと下落する。

この過程をより詳しく確認しておこう。供給曲線

が  $S'$  へと移動すれば、価格  $P$  のままでは  $QQ'$  だけの**超過供給**(売れ残り)が発生する。そのため、価格を引き下げて売れ残りを解消しようとする企業が現れる。こうして、財の価格が徐々に下落していくと、一方で消費者の購入量(需要量)は増加し、他方で企業の生産量(供給量)は減少していく。最終的には、超過供給(売れ残り)が解消して価格の下落がストップする価格  $P'$  において新しい均衡点  $E'$  が成立する。

②④ 需要曲線は移動しない。財の生産コストが変化した場合、その影響を受けるのは財を生産する企業であり、供給曲線が移動する。③「右」を「左」にすれば正しい記述になる。生産コストが上昇した場合、企業は価格  $P$  では十分な利益が得られないため、生産量を減少させる。したがって、供給曲線  $S$  は左に移動して  $S''$  となり、均衡点は  $E$  から  $E''$  に移り、価格は  $P$  から  $P''$  へと上昇する。



問4 [27] ②

不況期に所得税の減税が行われると、家計が自由に使うことができる**可処分所得**が増える。その結果、家計の消費が増えて、有効需要(貨幣支出の裏付けのある需要)が拡大し、景気が回復する。また、不況期に法人税の減税が行われると、企業の手持ち資金が増える。その結果、企業の投資が増えて、有効需要が拡大し、景気が回復する。なお、不況期の財政政策としては、減税以外にも、公共投資を拡大するという政策がある。

① 増税は、景気過熱期に行われる財政政策である。③「高めに誘導」を「低めに誘導」にすれば正しい記述になる。日本銀行は、**公開市場操作**(オープン・マーケット・オペレーション)を通じて、物価や景気の安定を図っている。不況期に日本銀行は、市中銀行から国債などを買い入れる**資金供給**(買い)オペレーションを行ってコール市場に資金を供給し、政策金利である**無担保コール翌日物の金利**を低めに誘導する。その影響を受けて、市中銀行の貸出金利が低下し、企業の設備投資や家計の住宅投

資が増えて、景気は回復することになる。④「資金吸収(売り)オペレーション」を「資金供給(買い)オペレーション」にすれば正しい記述になる。景気過熱期に日本銀行は、**資金吸収(売り)オペレーション**を行ってコール市場から資金を吸収し、無担保コール翌日物の金利を高めに誘導する。その影響を受けて、市中銀行の貸出金利が上昇し、企業の設備投資や家計の住宅投資が減って、景気の過熱が抑制されることになる。

問5 [28] ②

景気波動には、**技術革新**などによる50年程度の周期の長期波動である**コンドラチェフの波**、**建設投資**の変化による20年程度の周期の中期波動である**クズネツの波**、**設備投資**の変化による10年程度の周期の中期波動である**ジュグラーの波**、企業の**在庫投資**の増減による**40か月程度**の周期の短期波動である**キチンの波**の4種類がある。

①「コンドラチェフ」を「キチン」にすれば正しい記述になる。③「生産力の増強を目指す企業が増えるため、投資が拡大する」という記述が誤り。不況期には、商品の需要量が減少するので、企業は**余剰生産力**を抱えることになる。その結果、企業は**投資を控える**ことになる。④「物価が下落する」という記述が誤り。好況期には、企業が生産量を増加させるが、需要の拡大に供給の拡大が追いつかなくなることから、**超過需要**(=商品の不足)が発生するので、一般に物価は上昇する。

問6 [29] ②

1986年から1994年にかけて行われた **GATT** の **ウルグアイ・ラウンド**の合意に基づいて、日本は**ミニマム・アクセス**(最低輸入量)を設定して**コメ**の輸入を受け入れた。その後、1999年には**コメの関税化**が実施された。これにより、コメの輸入数量制限は撤廃され、原則として、関税を支払えばコメはいくらでも輸入できることになった。しかし、高い関税が課されているため、ミニマム・アクセスを超えた分の輸入量はごくわずかである。

① **JAS 法**(農林物資の規格化及び品質表示の適正化に関する法律)および**食品衛生法**に基づき、大豆、トウモロコシ、馬鈴薯(じゃがいも)などの一部農産品およびその加工品に関して、**遺伝子組み換え**であることの表示が義務づけられている。③日本の航空業界では、長らく、市場への参入、便数、運賃などに関して政府による規制が行われてきた。しかし、1986年以降、**規制緩和**が徐々に進められ、1997年には航空会社の新規参入が認められるようになり、2000年には国内の航空運賃の設定が自由化された。

こうした規制緩和の進展で、現在ではLCC(ローコストキャリア)と呼ばれる格安運賃で就航する航空会社が登場している。④医薬品のインターネットを通じた販売は1990年代末頃から活発になったが、2009年に厚生労働省は一般用医薬品のほとんどの品目に関してインターネットを通じた販売を禁止する省令を発した。これに対して、規制緩和を求める声が強まり、規制緩和反対派との激しい議論がなされたが、最高裁判所が省令を違法と判断したこともあって、2013年に薬事法が改正され、インターネットでの販売が解禁された。

問7 30 ④

農業就業人口は2009年に約289万人であったが、その後も減少を続け、2013年には約239万人になっている。また、農業就業人口の平均年齢は2009年に65.3歳であったが、2013年には66.2歳となっており、農業従事者の高齢化が進展している。さらに、農業への新規就労者数は2009年に約6万7千人であったが、2013年には約5万1千人へと減少しており、後継者不足の問題に直面している。

①「年々減少している」という記述が誤り。産業は、**第一次産業**(農業、漁業、林業)、**第二次産業**(製造業、鉱業、建設業)、**第三次産業**(電気・ガスなどのエネルギー、商業、通信業、金融業、飲食業など)に分類される。**経済のサービス化**の進展に伴って第三次産業の産業別所得は増加している。1994年は第一次産業が9兆7216億円(2%)、第二次産業が152兆2419億円(30.7%)、第三次産業が279兆4002億円(56.4%)であったが、2012年は第一次産業が5兆7301億円(1.2%)、第二次産業が112兆5966億円(23.8%)、第三次産業が298兆3963億円(63.0%)である(なお、カッコ内は所得総額に占める割合)。

②「黒字」を「赤字」にすれば正しい記述となる。**貿易収支**は2010年に9兆5160億円の黒字であったが、2011年に3302億円の赤字に転じ、2012年には4兆2719億円の赤字、2013年には8兆7734億円の赤字と、赤字幅が拡大し続けている。③「大きく伸びている」を「大きく落ち込んでいる」にすれば正しい記述となる。総務省の『家計調査』によれば、二人以上の世帯の**消費支出**(前年同月比)は、**消費税増税**直後の2014年4月が-4.6%、5月が-8.0%、6月が-3.0%、7月(速報値)が-5.9%である。

## 第5問 日本の統治機構

### 【出題のねらい】

本問は、日本の統治機構の仕組みや行政の民主化、諸外国の政治体制についての基本的な知識の確認をね

らいとしている。この分野は、日本国憲法に定められた統治機構に関する知識だけでなく、近年実施された改革など時事的色彩の強い問題も出題されるので、それらについても知識を整理しておく必要がある。

### 【設問別解説】

問1 31 ①

予算を作成するのは内閣であるが、予算を執行するためには、国会の議決を経る必要がある(日本国憲法第73条5号、第86条)。なお、**予算**に関しては、**衆議院に先議権**が付与されており、衆参両院の議決が一致せず、両院協議会を開いても意見が一致しない場合や、参議院が30日以内に議決しない場合には、衆議院の議決が国会の議決となる(**衆議院の優越**)。

②「衆議院の議決が優越する」という記述が誤り。憲法改正の発議についての議決には、衆議院の優越は認められていない。衆議院の議決が優越するのは、**法律案の議決**(日本国憲法第59条)、**予算の議決**(日本国憲法第60条)、**条約の承認**(日本国憲法第61条)、**内閣総理大臣の指名**(日本国憲法第67条)の四つである。③「国務大臣」を「裁判官」にすれば正しい記述となる。**弾劾裁判所**とは、衆議院議員と参議院議員から各7名ずつ選ばれた裁判員によって組織され、**裁判官を罷免**するかどうか判断する裁判所である。④「非公開にすることはできない」という記述が誤り。衆参両院の本会議は、各議院の**出席議員の3分の2以上の賛成**があれば非公開(秘密会)にすることができる(日本国憲法第57条1項)。

問2 32 ③

**閣議**とは、内閣の首長である内閣総理大臣が主宰し、内閣の意思決定を行うためにすべての国務大臣が出席して開かれる会議のことである。慣行上、審議は**非公開**であり、議決は**全会一致制**をとっている。

①「国会の同意が必要である」という記述が誤り。内閣総理大臣は各国務大臣を**任命し任意に罷免**する権限をもつ(日本国憲法第68条)ため、国会の同意は不要である。②「全員が国会議員でなければならない」という記述が誤り。内閣総理大臣が国務大臣を任命するが、国務大臣の**過半数が国会議員**であればよい(日本国憲法第68条)。④「衆議院議員」を「国会議員」にすれば正しい記述になる。内閣総理大臣は、参議院議員の中から選んでもよい。

問3 33 ④

「国政に関する調査を行うこと」とは**国政調査権**のことで、国会の各議院に付与された権限であって、内閣の権限ではない。**国政調査権**とは、衆参両

議院が国政全般について調査することができる権限で、必要に応じて、証人の出頭・証言、記録の提出を要求することができる(日本国憲法第62条)。また、証人の出頭・証言は公開で行われ、虚偽の発言をした場合、議院証言法により偽証罪に問われる。

①条約を締結するのは内閣であるが、**事前か事後**に国会の承認を必要とする(日本国憲法第73条3号)。**②行政権が制定する法を命令**といい、**内閣**が制定する命令を**政令**という(日本国憲法第73条6号)。政令は、法律の規定を執行する場合や法律の委任がある場合に制定することができる。**③恩赦**とは、裁判で確定した刑罰を特別な恩典によって免除したり減じたりすることである(日本国憲法第73条7号)。

問4 **34** ③

「特別裁判所である行政裁判所が裁判を行う」という記述が誤り。日本国憲法では、**特別裁判所**の設置は**禁止**されている(第76条2項)。**特別裁判所**とは、特別な身分の人や事件について裁判を行う裁判所で、通常の司法裁判所の組織系列から独立した裁判所である。大日本帝国憲法下においては、行政裁判所、皇室裁判所、軍法会議などの特別裁判所が置かれていた。

①**裁判員裁判**は、地方裁判所における**重大な刑事裁判**の第一審において、裁判官3人と有権者から無作為に選ばれた裁判員6人が合議体を形成して、**事実認定と量刑**を行う制度である。**②再審**のことである。再審とは、有罪判決が確定した事件について判決に重大な欠陥がある場合や無罪を証明する新たな証拠が発見された場合に、裁判のやり直しを行うことである。再審により、**冤罪**(えんざい無実の罪)と認められ無罪になった確定死刑囚もいる。**④有権者**は、衆議院議員選挙の際に、最高裁判所の裁判官の国民審査を行い、個々の最高裁判所裁判官について罷免するかどうかを判断することができる。ただし、これまで**国民審査で罷免された裁判官はいない**。

問5 **35** ②

イギリスは、内閣が議会の信任に基づいて存立す

る**議院内閣制**を採用している。議会は上院と下院の**二院制**で、**上院(貴族院)**は**非民選**の議員で組織されるが、**下院(庶民院)**は**国民による直接選挙で選出される議員によって組織される**。また、イギリスは単一の憲法典をもたない(**不文憲法**)。以上のことからイギリスに当てはまる選択肢は**BとC**である。

アメリカは、議会から独立した大統領が行政権を担当する**大統領制**を採用している。議会は上院と下院の**二院制**で、**上院**は国民による直接選挙で選出される各州2名・合計100名の議員によって組織され、**下院**は国民による直接選挙で選出される435名の議員によって組織される。アメリカは**モンテスキュー**が説いた厳格な**三権分立制**を採用しており、行政府の長である大統領は議会の解散権や法案提出権をもたないが、**法案拒否権**や**教書**を送付する権限をもつ。以上のことからアメリカに当てはまる選択肢は**AとB**である。

したがって、アメリカの政治機構には当てはまらず、イギリスの政治機構に当てはまるものは**C**である。

問6 **36** ②

「行政機関の保有する情報を国民が入手しやすく」すれば、国民は行政を監視・監督しやすくなる。

①「公務員の数的大幅に増やす」という記述が誤り。公務員の数が大幅に増えれば、一般に、行政権の肥大化がもたらされることになるので、行政の民主的統制が困難になる。**③「行政権の裁量を拡大し、…行政が積極的に介入する」という記述が誤り**。行政権の裁量が拡大すれば、法律によって行政権の行使を制限することが困難になるので、行政の民主的統制は後退する。**④「委任立法を増やす」という記述が誤り**。**委任立法**とは、法律の委任に基づき、行政府が法律を具体化するため法規を定めることをいう。したがって、委任立法が増加すると具体的な法律の内容を行政権が決定することが多くなり、法律によって行政権の行使を制限することが困難になるので、行政の民主的統制は後退する。



倫理，政治・経済

【解答・採点基準】

(100点満点)

問題番号	設問	解答番号	正解	配点	自己採点
第1問	問1	①	④	2	
	問2	②	①	3	
	問3	③	⑤	3	
	問4	④	③	3	
	問5	⑤	⑤	3	
第1問 自己採点小計				(14)	
第2問	問1	⑥	⑥	3	
	問2	⑦	①	2	
	問3	⑧	②	2	
	問4	⑨	②	3	
	問5	⑩	③	2	
	問6	⑪	④	3	
	問7	⑫	③	3	
第2問 自己採点小計				(18)	
第3問	問1	⑬	③	2	
	問2	⑭	②	3	
	問3	⑮	①	2	
	問4	⑯	③	3	
	問5	⑰	⑥	3	
	問6	⑱	②	2	
	問7	⑲	③	3	
第3問 自己採点小計				(18)	
第4問	問1	⑳	④	2	
	問2	㉑	③	3	
	問3	㉒	④	2	
	問4	㉓	①	2	
	問5	㉔	④	2	
	問6	㉕	①	3	
第4問 自己採点小計				(14)	

問題番号	設問	解答番号	正解	配点	自己採点
第5問	問1	㉖	①	3	
	問2	㉗	②	2	
	問3	㉘	③	3	
	問4	㉙	②	3	
	問5	㉚	②	3	
	問6	㉛	④	2	
	問7	㉜	③	2	
第5問 自己採点小計				(18)	
第6問	問1	㉝	③	2	
	問2	㉞	④	3	
	問3	㉟	①	2	
	問4	㊱	②	3	
	問5	㊲	②	2	
	問6	㊳	②	3	
	問7	㊴	④	3	
第6問 自己採点小計				(18)	
自己採点合計				(100)	

【解説】

第1問 現代社会の特質と倫理的課題

【出題のねらい】

本問は，青年期の特徴，民族・宗教・文化の多様性を説いた思想，高度情報社会の特徴，環境倫理など現代社会が抱える問題を通じて，「倫理」という科目で学ぶ内容と現代社会の関わりを確認することをねらいとしている。

【設問別解説】

問1 ① ④

ア：レヴィン(1890～1947)は，青年を，Dのように，子どもの集団に属することを望んでいないが，大人の集団にも受け入れられていない境界人(マージナルマン)として捉え，社会的な位置づけが不明確なため精神的に不安定な時期だと考えた。

イ：エリクソン(1902～94)は，青年期をCのように，大人としての責任や義務をある程度猶予されたモラトリアムの期間と捉えた。また，彼は人間の発達段階をいくつかに分けて，それをライフサイクル(人生周期)と呼び，このうち青年期の課題として自分が自分であることの確信，すなわちアイデン

ティティ(自我同一性)の確立をあげた。

ウ：ルソー(1712～78)は、社会契約説を唱えたことで知られているが、『エミール』において、青年期を、人間としてこの世に生まれるいわば第一の誕生に続いて、Bのように、男性あるいは女性として知的にも感情的にも大きな節目を迎える「**第二の誕生**」の時期として重視した。

エ：オルポート(1897～1967)は、成熟した人間の条件として、Aのような人生観をもって人生設計ができることや自己を客観視できることのほか、自分を越えた社会的な事象に関心を向けること、他人と距離を保ちながら温かい関係を結ぶこと、現実を客観的に認識して問題解決の能力を身につけることなどを挙げている。

以上により、④の組合せが正解となる。

問2 **2** ①

図の左側に示されている実験参加者による評価をみると、Aさん(相互独立的)に対する評価の方がBさん(相互協調的)よりも高い。ところが、世間一般の評価として参加者が予想する右側のグラフをみると、Aさん(相互独立的)よりもBさん(相互協調的)の方が評価は高いだろうと予想している。つまり、この実験では、実験参加者は相互独立的な人物を高く評価するが、それは世間一般には受け入れられないだろうと考えているのである。

この結果を正しく説明しているのが①の選択肢であり、他の選択肢は本人または世間の評価について実際とは逆の記述になっている。

問3 **3** ②

ア：誤文。内容が逆になっている。中根千枝(1926～)は日本の社会人類学者で、その著作『タテ社会の人間関係』(1967)のなかで、日本社会を上下関係や序列を重視する「**タテ社会**」、イギリス・中国など日本以外の多くの国を人々が同列になる「ヨコ社会」として分析した。中根千枝の名は教科書にあまり登場しないが、「タテ社会」の認識は日本の特徴としてしばしば指摘されるので、その内容から判断できるだろう。

イ：正文。レヴィ＝ストロース(1908～2009)は、人間の思想や行動の根底には、それを規定している普遍的な構造があると考え、**構造主義**の提唱者である。彼は未開社会の神話にも西洋の科学と同様に特有の合理的な構造があると考え、西洋文明のみを優れたものとみなす発想を批判した。

ウ：正文。サイード(1935～2003)は、近代西洋社会が東洋(オリエント)を後進的な他者とみなすことによって、逆に自分たちを先進化され文明化された

存在だと考え、植民地支配や人種差別を正当化してきたと批判した。彼はこのような思考方法を、**オリエンタリズム**と呼んだ。

以上により、⑤の組合せが正解となる。

問4 **4** ③

一般に、大衆扇動、情報操作、ステレオタイプなどを生み出すのは、従来型の**マスメディア**、つまり新聞や雑誌、テレビなどがもつ問題点と言われてきた。大量の情報を一方的に伝えることのできる点が、利点にも危険性にも結び付いているのである。これに対して、携帯電話やスマートフォンのような**双方向型のメディア**では、反論や異なる意見の発信などが容易なので、このような問題点は生じにくいと言われているから③の選択肢は誤り。また、携帯電話やスマートフォンの双方向性は固定電話などの通信機器が基本的にもつ性質であり、「これまでの通信機器と異なり」という評価も誤りである。

①インターネットで情報を発信する際に、電子メールで使うアドレスも、Webサイトで使うURLも、個人や企業の実名である必要はない。そのため、こうした匿名性に隠れて、他人を中傷したり、いい加減な情報を無責任に流したりする傾向も生じている。②たびたびニュースにも登場するように、パスワードなどのセキュリティ情報や、住所などの個人情報が大量に流出する事件が起きている。しかも多くの場合、個人や企業の故意や過失が原因であることが多い。④コンピュータやインターネットが生み出す**情報空間**(サイバースペース)では、現実から切り離された**仮想現実**(バーチャルリアリティ)が形成されるが、そのなかに閉じこもって社会から遊離してしまう若者の出現などが問題視されている。

問5 **5** ⑥

**a**に入るアメリカの経済学者**ポールディング**(1910～93)は、閉じられた有限な環境としての地球を宇宙船にたとえ(「**宇宙船地球号**」)、その内部で排出された物質が地球を汚染してしまうとして、自然の自浄能力を超えた汚染物質の排出の弊害を警告した。**カーソン**(1907～64)は海洋生物学者で、著書『**沈黙の春**』のなかで、農薬や殺虫剤など化学物質の大量使用による生態系の破壊を告発した人物。

**b**に入る「**持続可能な開発**」は、1992年の**国連環境開発会議(地球サミット)**の共通理念として知られるが、将来世代の必要を満たせるような条件を損わずに、現在世代の必要を満たすような開発を進めるべきだという、**世代間倫理**を説いている。「**最大多数の最大幸福**」は、**功利主義**の思想家ベン

サム(1748～1832)が、私益の追求を公共の利益に一致させるために、道徳と立法の原理として提唱した言葉である。

【c】に入る地球温暖化は、二酸化炭素などの温室効果ガスが地球を取り巻き、太陽から来る熱が再び地球の外へ出ていくのを妨げるために起こる。二酸化炭素を増加させている主な原因は、工業化などの経済活動による化石燃料の使用である。温室効果ガスの排出量を削減して地球温暖化を防止するために、気候変動枠組条約(1992)や京都議定書(1997)が締結された。オゾン層の破壊は、フロンガスなどの排出によるもので、オゾン層がささぎっていた紫外線が増加し、皮膚がんなどを引き起こす。これを防止するための条約は、ウィーン条約(1985)やモントリオール議定書(1987)である。

以上により、⑥の組合せが正解となる。

## 第2問 日本の思想と東洋源流思想

### 【出題のねらい】

本問は、仏教、儒学、国学など日本の思想と、ブッダ、孟子など古代の中国やインドの思想についての基本的な知識を問うことをねらいとしている。

### 【設問別解説】

#### 問1 【6】 ②

ア：本居宣長(1730～1801)は、師である賀茂真淵(1697～1769)と同様、日本人が生き方や為政の理想としての古道を求めるためには、儒学や仏教などの漢意を排斥して、古典を実証的に研究すべきであると主張した。そして、その古道とは、『古事記』に描かれているような人為を加えない自然のままの古代人の生き方(惟神の道)であると説いた。また彼は、『源氏物語』や和歌の研究を通じて、文芸の本質は、物事に触れた時に自然にわきあがる心の動き、すなわち「もののあはれ」であるとした。

イ：本居宣長の死後の弟子を自称した平田篤胤(1776～1843)は、古道を神道と結び付けた神道説である復古神道の体系化を行った。彼の国学や復古神道は、幕末の尊王攘夷思想や倒幕運動に影響を及ぼした。

ウ：賀茂真淵は、『万葉集』の注釈書である『万葉考』を著し、そのなかで『万葉集』の歌には、男性的でおおらかな気風である「ますらをぶり(益荒男振)」がみられると指摘した。また、そこには天地自然にかなった素朴で力強い古代の精神である「高く直き心」が示されているとし、それを高く評価した。

以上により、⑥の組合せが正解となる。

#### 問2 【7】 ①

仏教の開祖ゴータマ・ブッダ(ゴータマ・シッタダッタ、前463?～前383?)は、人々は、生・老・病・死に加え、愛別離苦(愛する者と別離する苦しみ)・怨憎会苦(怨み憎んでいる者に会う苦しみ)・求不得苦(求める物が得られない苦しみ)・五蘊盛苦(人間を構成する五つの物質的・精神的な要素に由来する苦しみ)といった四苦八苦に苦しんでいるという認識から思索を展開した。そして、その苦しみの原因は、この世を貫く真理(法、ダルマ)を知らないこと(無明)にあるのだから、苦しみから解放され(解脱)、涅槃の境地に至るには、その真理を洞察しなければならないと言う。その真理こそが、「いかなるものも必ず他のものに縁って成立し、それ自体で独立して存在しているものはない」という縁起の法、すなわち諸行無常(この世のすべてのものは絶えず変化し消滅する)、諸法無我(すべてのものは、様々な原因・条件によって生じたものであって、それ自体で存在している不変の実体は一つもない)である。

②古代ギリシアにおいて原子論を唱えたデモクリトス(前460?～前370?)を想定した文である。③「厳しい戒律や苦行を実践」が不適当。ブッダは、苦悩を無くして涅槃に至るための修行方法として、快楽主義と苦行主義の両極端を否定する中道を旨とする八正道(正見・正思・正語・正業・正命・正精進・正念・正定)を説いた。④ブッダは諸法無我(それ自体で存在している不変の実体は一つもない)を唱えており、「真実の自己である……を悟れば」が不適当。これは、古代インドのウパニシャッド哲学が説いた梵我一如の教えを想定した文である。ウパニシャッド哲学は、輪廻転生の苦しみから解放されるためには、真実の自己であるアートマン(我)と宇宙の原理であるブラフマン(梵)が本来一体であるということ(梵我一如)を自覚する必要があると説いた。

#### 問3 【8】 ②

法然(1133～1212)は、比叡山に登り修行したがそれに満足できず、長い修行を経たのち、「南無阿弥陀仏」とひたすら念仏をとなえること(専修念仏)で阿弥陀の慈悲に与ることができるという確信を得た。そして末法の世に生きる人々は、念仏をとなえることで阿弥陀の本願(すべての衆生を救済するための誓願)にかなひ、極楽往生できるという他力の教えを説いた。なお、本文中にもあるように、その弟子である親鸞(1173～1262)は、こうした法然の教えをさらに徹底させて、自力のはからいを捨て去

り、すべてを阿弥陀仏の本願の力にまかせきる**絶対他力**の信仰に到達した。

①源信(942～1017)についての記述である。平安時代末期の天台宗の僧である源信は、『往生要集』を著し、そのなかで**観想念仏**(心のなかに仏の姿や浄土を念ずること)によって極楽浄土に往生できると説き、人々に浄土信仰を広めた。②明恵(1173～1232)を想定した記述である。華嚴宗の僧である明恵は、鎌倉新仏教に対抗して旧仏教(奈良仏教)の革新を図り、『**摧邪論**』を著し、法然の称名念仏を「菩提心を軽視するもの」として厳しく批判した。

③日蓮(1222～82)についての記述である。彼は、『法華經(妙法蓮華經)』こそが真に仏の教えを説く經典であると捉えた。そして、末法に生まれて苦しむ人々は、来世ではなく、この現世において救われるべきであり、『南無妙法蓮華經』と法華經の題目を唱えること(唱題)により救済される(成仏できる)と説いた。また、『立正安国論』において法華經に基づく**仏国土**の建設を唱えるとともに、人々を法華經に帰依させることを目的に「**念仏無間・禪天魔・真言亡国・律国賊**」(四箇格言)を説いて、他宗を厳しく攻撃した。

#### 問4 9 ②

荻生徂徠(1666～1728)によれば、儒学で重視される道とは、古代中国の聖人君子が、**経世済民**(国を治め民衆の生活の安定を図ること)を目的として人為的に作った社会制度、すなわち**礼・楽・刑・政**に示されている**先王の道**のことである。彼は、こうした先王の道を探求するために、古代中国の**六經**(儒学の經典)を実証的に研究する必要性を説いた(**古文辞学**)。

①林羅山(1583～1657)についての記述。林羅山は、宇宙には万物を上下に分ける理があり、同様に人間社会も上下の身分秩序が定まっているとする**上下定分の理**を説いた。また、欲望を捨てて理に従う心をもち続けて生きること、すなわち**存心持敬**が人間にとって最も大切なことであるとした。こうした考え方は幕府の封建的な身分秩序を支える思想として受け入れられ、林家の**朱子学**は幕府公認の**官学**となった。③中江藤樹(1608～48)についての記述。日本陽明学の祖である中江藤樹は、朱子学の厳格で形式的な道德観を批判し、道德や規範に囚われない自発的な心情である**孝**の徳を重視した。彼によれば孝は、親子関係だけでなく、夫婦・兄弟・朋友などすべての人間関係において通じる根源的な道德であり、その孝は**時・処・位**(時・場所・身分)に応じて実践していくべきであるとされる。④山鹿素行

(1622～85)についての記述。山鹿素行は、為政者であり指導者である武士は、単に武芸を誇るのではなく、古代中国の聖人の道德を学ぶことによって高貴な人格を身につけ、**農工商三民の道德的手本(師表)**とならなければならないとする**士道**を説いた。

#### 問5 10 ③

孟子(前372?～前289?)は、孔子の思想を継承し、人は本来的に善に赴こうとするという**性善説**を唱えた。この立場から、彼は、人には生まれながらに、他者に対する同情心である**惻隱**の心、不善を憎む**羞惡**の心、他者を崇敬する**辞讓**の心、善惡を見分ける**是非**の心という**四端**の心があるとし、これらを養い育てていくことで、**仁・義・礼・智**の**四徳**が実現されると説いた。さらに、孟子は、基本的な人間関係のあり方として、父子の**親**・君臣の**義**・夫婦の**別**・長幼の**序**・朋友の**信**という五倫の道を説き、それによって社会秩序の回復を目指した。

①朱子(朱熹, 1130～1200)を想定した文である。朱子によれば、天地万物は**理**(宇宙の規範原理)と**気**(物質的要素)から構成されている(**理気二元論**)。この認識に立って、彼は万物に宿る理を窮め(**窮理**)、心身を修養してこの理に従うべきこと(**居敬, 持敬**)を説き、このような努力によって自らの知を高度におしすすめること(**格物致知**)を重視した。②墨子(生没年不詳)を想定した文である。墨子は、親や兄弟への親愛(**孝悌**)を強調する儒家の仁の思想は、差別的な愛(**別愛**)であると批判し、自他を区別しない平等な愛(**兼愛**)の必要性を主張した。この兼愛に基づいて人々が互いに利益をもたらし合い(**交利**)、節約(**節用**)に努める博愛主義の社会を目指し、他国への侵略を否定する**非攻**を説いた。④莊子(生没年不詳)を想定した文である。莊子は、老子の思想を徹底して、心の平安と自由の境地に至ることの必要性を説いた。すなわち、彼にとって、ありのままの世界は、本来、万物が平等で**斉**しい世界である(**万物斉同**)。にもかかわらず、人は功績や名声などを追い求めて自己へ執着することで苦しんでいるとして、こうしたことから自由となり、虚心になって天地自然と一体となる境地に生き(**逍遙遊**)、与えられた天寿をまっとうする人を**真人(至人)**と呼んで、賢明な生き方の理想とした。

#### 問6 11 ④

資料文は、**夏目漱石**(1867～1916)が1914年に行った講演『**私の個人主義**』(三好行雄編『漱石文明論集』, 岩波文庫)からの引用である。資料文では、「自分の個性が発展出来るような場所に尻を落ち付けべく……邁進しなければ」ならないとして個性を



発揮して生きることの大切さが述べられ、また、「自分がそれだけの個性を尊重し得るように……他人に対してもその個性を認めて、彼らの傾向を尊重」しなければならないと主張している。これは、彼が重んじた**自己本位**の立場を説明したものと言える。このような資料文の趣旨に合致するのは④である。

①「他人に配慮することなく」という記述は、資料文に示された他人の個性をも尊重するという漱石の立場に反する。②「自分にふさわしい職業に就けなくても満足できる」という記述は、資料文に示された「自分とぴたりと合った仕事」を見つけることを重視する漱石の考え方に反する。③「相手の考え方が自分と異なる場合……相手を説き伏せる」という内容は、資料文に示された他人の個性を尊重するという漱石の立場に反する。

問7 12 ③

本文の第3段落では、「仏教を独自の強固な信念の体系へと高めようとする」人物の例として、親鸞が挙げられている。したがって、前半の記述はこのことと合致する。また、本文の第1段落では、年中行事の一つである初詣の事例を挙げ、「参詣する神社や寺に何が祀られているかについては、あまり意に介さない」と述べている。さらに、最終段落では、通過儀礼の一つである結婚式の事例を挙げ、「結婚式をキリスト教式で挙げる日本人のカップルは多い」と述べている。つまり、現代の日本人の生活のなかでは、神道、仏教、キリスト教などが共存しているというわけである。したがって、このような本文の内容に合致する③が正解となる。

①後半の「日本人の間では、仏教やキリスト教に帰依する傾向が強まり、土着の宗教は衰退していった」という記述が本文の内容に反する。②後半の「今日でも毎年の初詣を欠かさないまでに日本人の宗教意識を高めることになった」という記述が本文の内容に反する。本文では、初詣は今日の日本人の宗教意識の高さを示す例として挙がっているわけではない。④後半の「土着の宗教である神道の影響が強かったため……外来の宗教が広まることはなかった」という記述が、本文の第2段落の「仏も古来の神々も……信仰対象となった」という記述や、第3段落の江戸時代における幕府の政策についての記述と合致しない。

第3問 西洋の思想

【出題のねらい】

本問は、カント、モンテーニュ、センなど西洋近現

代思想と、古代ギリシア、キリスト教といった西洋源流思想の基本的な知識を問うことをねらいとしている。

【設問別解説】

問1 13 ③

カント(1724～1804)は、自ら打ち立てた**道徳法則**に自ら従う**自律的自由**の主体を**人格**と呼び、人格であることのうちに人間の尊厳があるとした。道徳法則とは、いつでもどのような場合でも、誰にでも当てはまる**普遍的に妥当する行為の準則**のことである。

①人間には「自らの本質を自ら決めていく**創造的自由**」があると主張したのは、フランスの実存主義の哲学者**サルトル**(1905～80)である。サルトルによれば、道具などの物の場合は本質が存在に先立つが、人間の場合には、自らの自由な選択が自己のあり方を決定する(「**実存が本質に先立つ**」)のである。

②「一般意志に従うことによって得られる**市民的自由**」について論じたのは**ルソー**である。ルソーの言う「**市民的自由**」とは、**公益を目指す全人民の意志**である**一般意志**に基づく政治によって実現される自由であり、不平等に満ちた文明社会の成立とともに失われた個人の「**自然的自由**」に代わるものであった。④「**人倫の完成の場としての国家**において実現される自由」について論じたのは**ヘーゲル**(1770～1831)である。ヘーゲルによれば、家族の共同性と市民社会における個人の独立性を統合した**人倫の最高形態である国家**において、市民社会の不平等が克服され、真の自由が生まれるとされる。なお、人倫とは、客観的な法と主観的な道徳性をともに生かしつつ統一した共同体の倫理であり、ヘーゲルはこれを家族・市民社会・国家という三つの段階に分けて考察した。

問2 14 ②

aには「律法」が入る。**パウロ**(?～60?)は、イエスの十字架上の死の意味を、神が人類の根源的な罪(**原罪**)をあがなう(**贖罪**)ために、ひとり子であるイエスを人類のもとに送り、十字架にかけて「いけにえ」としたものと理解した。そして彼は、人間が救われる道は、自らを犠牲にして人類を罪から救ったイエスの愛(神の愛)を信じるほかにないと考え、「人間が義とされるのは、律法によるのではなく、信仰による」(「ローマ人への手紙」)と述べた(**信仰義認説**)。律法(神の意志・命令)の形式的で厳格な遵守を求めるユダヤ教への批判が込められている。「贖罪」は、上で述べたように、パウロの思想の根本にあるものであり、否定的なものではないの

で、この空欄には入らない。

**[b]**には「愛」が入る。パウロは、地中海世界の様々な地域を旅し、**信仰・希望・愛**をもって生きるべきことを人々に説いた。この三つは**キリスト教の三元徳**と呼ばれる(したがって、「理性」はこの空欄には入らない)。仮に、このことを知らなかったとしても、キリスト教では**神の無差別無償の愛(アガペー)**に倣<sup>なら</sup>って、**神への愛と隣人愛**を実践すべきことが説かれるということから判断できる。

**[c]**には「恩寵」が入る。**アウグスティヌス**(354～430)は、人間は原罪を負っているがゆえに、どうしても悪を欲してしまい、**神の恩寵**(神から与えられる無償の恵み)によらなければ善を欲することさえできないと説いた。「**喜捨**」は、**信仰告白**、**礼拝**、**断食**、**巡礼**とともにイスラーム教徒が実践すべき五つの宗教的義務(**五行**)に含まれるものである。

以上により、②の組合せが正解となる。

問3 **[15]** ①

フランスのモラリストである**モンテーニュ**(1533～92)は、カトリックとプロテスタントの間で繰り広げられた宗教戦争(ユグノー戦争)を身近に体験し、その悲惨な事態をもたらした原因は、自己省察の欠如から生まれる人々の偏見・独断・傲慢・不寛容にあると考えた。そこで彼は、「**私は何を知るか(ク・セ・ジュ)**」という**自己省察の精神**を大切にしながら人間性の探求に向かい、『**エッセー(随想録)**』を著して、人々はソクラテスの無知の自覚と対話の精神に学び、謙虚さと寛容を心がけるべきであると説いた。

②フランスのモラリストである**パスカル**(1623～62)についての記述である。彼は、『**パンセ(瞑想録)**』のなかで、**人間は「考える葦」**であると述べたことで知られる。彼によれば、人間は、広大な宇宙のなかでは水辺に生える一本の葦のように弱くみじめな存在であるが、そのみじめさを自覚し、考えることができる点で、人間は宇宙よりも偉大であるとされる。このように、パスカルは人間を「**偉大と悲惨**」の間を揺れ動く中間者として捉え、人間の尊厳のすべては、「考える」ことのなかにあると主張した。③**イギリス経験論の祖**と呼ばれる**ベーコン**(1561～1626)についての記述である。彼は、中世のスコラ哲学が空理空論に陥っていることを批判し、学問は人間の生活向上に役立つ力となるものでなければならないと考えた。「**知は力なり(知識と力とは合一する)**」という言葉は、そのような彼の思想を端的に示すものである。④イギリスの哲学者**ヒューム**(1711～76)についての記述である。彼は、**人間の**

**心は「知覚の束」にすぎない**と主張し、精神や自我を経験から独立した存在(実体)とみなす考え方を否定した。

問4 **[16]** ③

資料文は、ルソーの『エミール』(戸部松実訳、『世界の名著30 ルソー』中央公論社、1966年、所収)からの引用である。資料文の趣旨は、真の幸福への道は、過分な欲望を能力に応じて減らし、力と意志とを完全に等しくすることで、すべての能力が発揮されながらも心が**安穩**<sup>あんのおん</sup>に保たれ、平衡のとれた状態にすることにある、というものである。したがって、この趣旨に合致する③が正解となる。

①資料文は、私たちの欲望が、能力の拡大よりも「もっと大きな比率で拡大していったとしたら、そのためにわれわれはもっと不幸になるにすぎない」と述べている。したがって、真の幸福への道が、「自らの能力を拡大すると同時に、能力を上回る欲望をもつようにするところにある」とする選択肢の記述は資料文と合致しない。②資料文は、真の幸福への道が「必ずしも、われわれの欲望を減らすことにあるのではない」としたうえで、「もし欲望が、われわれの能力よりも低いところにとどまっているとしたら、われわれの能力の一部分は遊んでいることになり、われわれは、自分の存在全体を享受することにならない」と述べている。したがって、真の幸福への道が「常に欲望を能力に比べて小さくすることによって、過分な欲望が発生しないようにするところにある」とする選択肢の記述は資料文と合致しない。④資料文は、「力と意志とを、完全に等しくすること」、すなわち能力に見合った欲望をもつことで、「すべての能力が発揮されながらも、心は**安穩**<sup>あんのおん</sup>に保たれることとなり、人間はうまく平衡のとれた状態に置かれる」と述べている。したがって、「欲望が能力よりも低いところにある」状態が真の幸福への道であるとする選択肢の記述は資料文と合致しない。

問5 **[17]** ⑥

**ア：ゼノン**(前335?～前263?)についての記述。彼によれば、人間は自然の理性(**ロゴス**)を種子として宿しており、これに従って生きる(「**自然に従って生きる**」)ことによって情念に惑わされない状態(**アパテイア**)にいたることができる。

**イ：プラトン**(前427～前347)についての記述。彼は、人間の魂の三部分(理性・気概・欲望)に対応する徳として知恵・勇気・節制を挙げた。そして、この三つの徳に対応するポリスの階級は統治者・防衛者・生産者であるとし、**知恵**の徳を備えた統治者

(哲学者)が**勇氣**の徳を備えた防衛者と**節制**の徳を備えた生産者を正しく指導し全体が調和するとき、**正義**の徳を体現する理想国家が実現すると主張した。

ウ：アリストテレス(前384～前322)についての記述。彼は、人間にとって最も幸福な生活とは、日常生活における実用的な関心から離れ、理性に従って純粋に真理を求める生活(**観想的生活**)であると主張した。

以上により、⑥の組合せが正解となる。なお、**プロタゴラス**(前494?～前424?)は、ものごとの真偽や善悪を決める基準は個々人の判断であって、万人に通用する普遍的な真理は存在しないと主張したソフィストの一人。彼はこのような立場を、「人間は万物の尺度である」という言葉で表した。

問6 **18** ②

セン(1933～)は、現代世界における貧困や富の分配の不等という問題に取り組んでいる経済学者である。彼は、所得や資産の分配に重点を置く従来の経済的平等論が人間の多様性(生活環境や能力の違い)を考慮していないことを批判し、人々の福祉の水準を決定する指標は、各人が自ら**自由**に**選択**できる**生き方**の幅である**ケイパビリティ**(潜在能力)の大きさであると主張した。ケイパビリティ(潜在能力)は、例えば「十分な栄養をとれるか」「避けられる病気にかかっていないか」という基本的なことから、「社会生活に参加できるか」「自尊心をもてるか」というものまで、様々な要素からなっている。彼は、このようなケイパビリティ(潜在能力)を各人に均等に保障することが、真の意味での自由と平等を保障することになると考えたのである。このようなセンの考え方は、先進国による発展途上国への開発援助のあり方の指針ともなっている。

① 現代フランスの哲学者で、『狂気の歴史』などを著した**フーコー**(1926～84)の思想を想定した記述である。フーコーは、合理主義の名のもとに人間を苦しめている近代社会の権力構造を批判した。彼によれば、近代社会は自らの規範から逸脱するようにみえるものを「**狂気**」として封じ込めてきたが、それは、人間を同質化して社会に順応させようとする権力の都合によるのだと言う。例えば、近代に誕生した学校・工場・軍隊は、いずれも人間を規律でしぼり、調教することによって同質の人間を作りだすための装置であり、それに順応できない人間を病院や刑務所に隔離して、権力的に抑圧してきたと言うのである。③ 現代ドイツの思想家で、**フランクフルト学派**の第二世代に属する**ハーバーマス**(1929～)の思想を想定した記述である。彼は、近代の合理主義

がもたらした矛盾を克服する道を、人々の間の望ましいコミュニケーションを可能にする「**対話的理性**」のうちに求めた。対話的理性とは、人々が公共の場での自由な討論を通じて、互いに納得できる合意に達しようとするときに働く理性のことである。ハーバーマスは、このような対話的理性の力によって、巨大な行政組織や資本主義のもとで歪められた人間関係や、人間性に対する抑圧から現代人を解放し、より人間的で民主的な社会を築くことができると主張した。④ 現代アメリカの政治学者・倫理学者で、『公正としての正義』や『正義論』を著した**ロールズ**(1921～2002)の思想を想定した記述である。彼は、誰もが関わらざるを得ない社会的な基本財(自由、機会、所得と富、自尊心など)の公正な分配を正義の問題として考えた。そして、それらの公正な分配を実現するためには、あらゆる社会制度において、「各人に基本的な自由の権利が平等に与えられ(**平等な自由の原理**)」、また、社会的・経済的不平等は「公正な競争や参加の機会が誰にも均等に与えられたうえで生じたものに限られ(**公正な機会均等原理**)」、「社会的に最も不遇な人々の状況を改善する限りにおいて認められる(**格差の原理**)」という、**正義の二原理**が採用されなければならないと説いた。

問7 **19** ③

本文の趣旨は、次の通りである。近代の思想家は、様々な歴史的・社会的な現実のなかで自由の概念を軸に思索を重ねてきた。デカルト(1596～1650)の「理性に導かれた意志の自由」、ホッブズ(1588～1679)の「自己保存のために自分のあらゆる力を使う自由」、アダム・スミス(1723～90)の「経済的自由」はその例である。しかし、19世紀以降、対外的侵略への道をたどる近代国民国家の問題点や労働者の窮乏などの資本主義の矛盾が顕在化してくると、「人間的自由」とは何かを改めて問い直そうとする機運の高まりとともに、社会主義や実存主義などの現代思想が登場してきた。以上の趣旨を踏まえれば、空欄**A**には、現代の私たちにも「本当の人間の自由への問いは引き継がれている」という内容の③を入れるのが最も適当である。

④ 本文の第4段落は、「19世紀になり、……政治的自由や経済的自由の拡大だけでは、人間らしい自由を実現できないのではないかという反省が生まれた」と述べている。したがって、「現代の私たちに求められているのは、近代社会が発展する原動力となった政治的自由と経済的自由の双方を拡大していくことに尽きる」という選択肢の記述は、空欄

【A】に入れるには適当でない。②本文の第4段落は、現代思想が登場する背景として、『『人間的自由』とは何かを改めて問い直すとする機運の高まりがあった』と述べているが、『問い直す』ことが近代の自由概念をすべて否定することになるわけではない。したがって、『近代的な自由の概念が、いずれも人間的な自由の実現を妨げるものでしかなくことが明らかとなった』という選択肢の記述は、空欄【A】に入れるには適当でない。④本文の第1段落は、『近代以降、……それぞれの思想家によって説かれる自由の内容を理解するには、その歴史的・社会的な文脈を知る必要がある』と述べている。言い換えれば、近代の様々な自由概念は、いずれも歴史的・社会的現実と切り離して理解することはできないということである。したがって、『あらゆる束縛から解放された状態という近代的自由の本質に立ち返り、自己を歴史的・社会的現実から切り離して生きる必要がある』という選択肢の記述は、空欄【A】に入れるには適当でない。

#### 第4問 国際社会の動向と日本の課題

##### 【出題のねらい】

本問は、国際政治と国際経済の動向、日本の労働問題・社会保障問題など「政治・経済」の幅広い分野の知識を確認することをねらいとしている。

##### 【設問別解説】

##### 問1 【20】 ④

ア 1962年のキューバ危機についての記述である。1959年のキューバ革命を契機にキューバはアメリカとの対立を深め、1961年に社会主義国となった。1962年にソ連がキューバにミサイル基地を建設しようとしたことから、アメリカがその撤去を要求してキューバ周辺の海上封鎖を行い、米ソ間に核戦争の危機が生じた。この事件は**キューバ危機**と呼ばれる。その後、ソ連がキューバから核ミサイルを撤去することに同意したため、危機は回避された。

イ 1947年のトルーマン・ドクトリンについての記述である。ギリシャとトルコにおける反政府共産主義武装勢力の拡大に対抗して、1947年にアメリカ大統領トルーマン(在位1945～53)は、共産主義封じ込め政策を内容とするトルーマン・ドクトリンを発表した。また、同年、アメリカ国務長官マーシャル(在位1947～49)は、ヨーロッパの経済復興援助を内容とする**マーシャル・プラン**を発表した。

ウ 1955年に開催されたアジア・アフリカ会議についての記述である。第二次世界大戦後、民族自決の原則に基づき、アジア・アフリカで多くの独立国

が誕生した。これらの新興独立国はしだいに国際社会での発言力を強めた。例えば、1955年にインドネシアのバンドンで開催された**アジア・アフリカ会議(バンドン会議)**では、**平和5原則**(1954年の周恩来とネルーの会談で示された原則)を発展させた**平和10原則**(主権と領土保全の尊重、諸国民の平等、内政不干渉など)が採択された。

##### 問2 【21】 ③

中国は高い経済成長率を実現し2010年にGDPが日本を抜いて**世界第2位**になった。この知識から、高い経済成長率が見込まれているCが「中国」と判断できる。また、現在の日本のGDPは中国より小さいことから、Bが「日本」と判断できる。残りのAがEUということになる。以上から、正しい組合せは③である。

##### 問3 【22】 ④

安全保障理事会の決議のうち、**手続事項**(どの議案から審議するかなど)に関する決議は、15の理事国(5の常任理事国と10の非常任理事国)のうち**9理事国の賛成**で成立するが、手続事項以外の**実質事項**(侵略の認定や経済制裁の実施など)に関する決議は、**すべての常任理事国の同意投票を含む9理事国の賛成**が必要である。したがって、常任理事国が1か国でも反対すれば、実質事項に関する決議は成立しない。その結果として、常任理事国は**拒否権**をもつことになる。

⑤「最初の」を取れば正しい記述となる。国連も**集団安全保障**の仕組みを採用しているが、それを最初に採用した国際組織は、1920年に設立された**国際連盟**である。なお、集団安全保障は、**勢力均衡**の失敗を踏まえて考案されたものであり、(1)敵対し合っている国家も含めた世界的規模の国際機構を作り、(2)すべての加盟国に武力攻撃を行わないことを約束させ、(3)これに違反した国家に対して集団的制裁を加えるという仕組みである。②「1か国でも反対する国があれば成立しない」という記述が誤り。国際連盟の総会・理事会における決議は、全会一致によって成立するとされていたため、加盟国間の重大な対立に際しては、有効な決定が困難であった。そこで、国連では、投票する国のすべての賛成を要する(1か国でも反対する国があれば決議が成立しない)**全会一致制**に代わって**多数決制**が採用された。**総会の決議**は、**1国1票**を前提に原則として出席し投票する加盟国の**過半数の賛成**により成立する。ただし、新加盟国の承認や加盟国の除名などの**重要事項**については、出席し投票する加盟国の**3分の2の賛成**が必要である。③「国際犯罪を行った個人の裁



判」を「国家間の紛争についての裁判」にすれば正しい記述となる。**国際司法裁判所(ICJ)**は、国家間の国際法上の紛争について裁判を行う。ただし、(1)国家のみが訴えを提起することができ、(2)紛争当事国双方の合意がある場合にのみ裁判を開始することができるという制約がある。なお、**国際刑事裁判所(ICC)**は、国際犯罪を行った個人を裁く常設の国際裁判所として、2003年にオランダのハーグに設置された。国際刑事裁判所が裁判を行うことができる国際犯罪は、現在、**集団殺害犯罪、人道に対する犯罪、戦争犯罪**である。

問4 **23** ①

**EPA(経済連携協定)**とは、物品の貿易やサービス貿易の自由化に加えて、投資、労働力の移動、知的財産権の保護など、幅広い分野で相手国と協力を進めるものである。近年の日本は、2002年のシンガポールを皮切りとして、さまざまな国々とEPAを結んでいる。**フィリピン、インドネシア、ベトナム**とそれぞれ結んだEPAでは、**看護師や介護福祉士**の国家資格を取得しようとする者を受け入れることを定めており、これに基づいてすでに多くの候補者が来日している。これらの人々が日本で国家資格を取得できれば、引き続き日本で看護師・介護福祉士として就労できることになっている。

②「製造業で派遣労働者を用いることは禁止されている」という記述が誤り。2008年の世界金融危機では、日本経済も大きな打撃を受け、派遣労働者の雇止めが社会問題となった。その後、派遣労働者が安易に使い捨てされることのないよう、2012年に**労働者派遣法**が改正され、雇用契約期間30日以内の**日雇い派遣が原則禁止**されるなどの一定の措置がとられたが、製造業で派遣労働者を用いること自体は禁止されていない。③「アルバイトやパートタイム労働者には適用されない」という記述が誤り。**労働者災害補償保険(労災保険)**で対象となる労働者とは、事業に使用されて賃金を支払われる者のことであり、正社員かどうかは関係ない。したがって、アルバイトやパートタイム労働者の場合も労災保険は適用される。④「男性と女性とでその取得率に大きな差はみられない」という記述が誤り。**育児・介護休業法**に基づき、労働者には性別に関係なく一定期間の育児休業が保障されている。ただし、取得率をみると、女性は83.6%であるのに対して、男性は1.89%であり、大きな差がある(2012年)。

問5 **24** ④

「賦課方式から積立方式に移行している」という記述が誤り。年金の財源に関しては、**積立方式**と賦

課方式とがある。積立方式は、現役時代に拠出した保険料を財源として、本人の老後の給付を賄うという方法である。これに対して、賦課方式は、現役世代が拠出する保険料で、現在の高齢者への年金給付を賄うという方法である。戦後日本の公的年金制度は積立方式で出発したが、やがて賦課方式を採用されるようになり、**現在は実質的に賦課方式となっている**。

①1997年に制定された**介護保険法**に基づき、2000年から介護保険制度がスタートした。これは、保険料と公費を財源として、介護の必要な者に原則1割負担で介護サービスを提供する仕組みであり、40歳以上の者が加入を義務づけられている。②1985年の国民年金法の改正によって、翌年に**基礎年金制度**が実施された。基礎年金は、職業に関係なく20歳以上の者が加入する公的年金の共通部分である。③**国民皆保険**とは、すべての国民が何らかの公的医療保険に加入する体制のこと。戦後の日本では、しばらくの間、どこの公的医療保険にも加入できない無保険者が少なくなかったが、1958年の国民健康保険法改正によって、国民健康保険が導入され、国民皆保険の体制が実現した。

問6 **25** ①

予算を作成するのは内閣であるが、予算を執行するためには、国会の議決を経る必要がある(日本国憲法第73条5号、第86条)。なお、**予算**に関しては、**衆議院に先議権**が付与されており、衆参両院の議決が一致せず、両院協議会を開いても意見が一致しない場合や、参議院が30日以内に議決しない場合には、衆議院の議決が国会の議決となる(**衆議院の優越**)。

②「衆議院の議決が優越する」という記述が誤り。憲法改正の発議についての議決には、衆議院の優越は認められていない。衆議院の議決が優越するのは、**法律案の議決**(日本国憲法第59条)、**予算の議決**(日本国憲法第60条)、**条約の承認**(日本国憲法第61条)、**内閣総理大臣の指名**(日本国憲法第67条)の四つである。③「国務大臣」を「裁判官」にすれば正しい記述となる。**弾劾裁判所**とは、衆議院議員と参議院議員から各7名ずつ選ばれた裁判員によって組織され、**裁判官を罷免**するかどうか判断する裁判所である。④「非公開にすることはできない」という記述が誤り。衆参両院の本会議は、各議院の**出席議員の3分の2以上の賛成**があれば非公開(秘密会)にすることができる(日本国憲法第57条1項)。

## 第5問 人権保障の歴史と現代における課題

### 【出題のねらい】

本問は、人権保障の歴史と現代における課題をテーマとして、センター試験で繰り返し出題されている、人権にかかわる基本的な知識を問うことをねらいとしている。

### 【設問別解説】

#### 問1 26 ①

イギリスの思想家ロック(1632～1704)は、自然状態を不安定な平和状態と捉え、個人の自然権の確実な保障のためには、人民は権力を政府に信託する必要があると説いた。そして、政府がこの信託に反した場合には、人民は、政府をつくりかえる権利(抵抗権・革命権)を行使しようと主張した。

②ルソーの思想である。フランスの思想家ルソー(1712～78)は、自然状態を自由と平等が確保された理想的な状態と捉えた。しかし、私有財産制を基礎とする文明の発達により不正・悪徳・不平等が生じるようになり、その状態を克服するためには、公共の利益を目指す一般意志を形成し、これに全面的に服従する契約を結ぶ必要があるとした。③ホブズの思想である。イギリスの思想家ホブズ(1588～1679)は、自然状態を「万人の万人に対する闘争」状態と捉え、この状態を脱するためには、各人は自然権(自己保存権)を主権者に全面的に譲渡する必要があるとした。④モンテスキューの思想である。フランスの思想家モンテスキュー(1689～1755)は、権力濫用を防止するために、国家権力を立法・行政・司法に分け、それぞれを議会・国王・裁判所に帰属させて権力相互の抑制と均衡を図る三権分立論を説いた。ただし、モンテスキューは社会契約説を唱えてはいない。

#### 問2 27 ②

最高裁判所は、愛媛玉ぐし料訴訟において、愛媛県が靖国神社などに玉ぐし料を公金から支出したことについて、政教分離原則(日本国憲法第20条・第89条)に反すると判断した。

①「法務大臣」を「裁判官」にすれば正しい記述になる。日本国憲法第33条・35条は、原則として「権限を有する司法官憲」の発する令状によらなければ、逮捕や搜索・押収を行うことができないと規定している(令状主義)。ここで「権限を有する司法官憲」とは裁判官を指す。捜査機関から独立した裁判官に、逮捕や搜索・押収の正当性を事前にチェックさせるためである。③「本人の意思に反して財産権を制限することはできない」という記述が誤り。日本国憲法第29条3項は「私有財産は、正当な補償

の下に、これを公共のために用ひることができる」と規定しており、本人の意思に反したとしても、「正当な補償」を行うことにより財産権を制限することができる。④「検閲を認めている」という記述が誤り。日本国憲法第21条2項は「検閲はこれをしてはならない」と規定し、行政機関による事前の検閲を無条件に禁止している。

#### 問3 28 ③

「法律に基づく行政を重視するもので、法律の内容は問わない考え方」とは、19世紀のドイツで発達した法治主義である。これに対し、イギリスやアメリカで発達した法の支配は、法の内容を重視し、国家権力を法によって拘束することにより国民の権利や自由を擁護しようとする考え方である。

①17世紀、イギリスの裁判官クック(コーク/1552～1634)は、13世紀の法律家ブラクトン(?～1268)の「国王といえども神と法の下にある」という言葉を引用し、国王の恣意的な支配を諷めた。これは、「法の支配」の考えを示した有名なエピソードとして知られる。②アメリカでは、判例に基づき、通常の司法裁判所に、法令などが憲法に適合しているかどうかを審査する違憲立法審査権を認めることによって、「法の支配」を確保しようとしている。④日本国憲法は、「法の支配」を確保するため、「天皇又は摂政及び国務大臣、国会議員、裁判官その他の公務員」に憲法尊重擁護義務を負わせている(第99条)。

#### 問4 29 ②

日本国憲法は、すべての国民に対して、「その能力に応じて、ひとしく教育を受ける権利」(第26条)を保障している。

①「国民に対して具体的権利を保障したものである」という記述が誤り。最高裁判所は、朝日訴訟において、憲法第25条1項の「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」との規定は、国の責務を宣言したにとどまり、直接個々の国民に具体的な権利を賦与したものではないとした(プログラム規定説)。③「労働基本権に対する不当な制約に当たり違憲である」という記述が誤り。最高裁判所は、すべての公務員に争議権が認められていないことについて、公務員の職務の公共性などを理由として、労働基本権に対する不当な制約には当たらず合憲であるとしている。④「労働時間や賃金など勤労条件に関する具体的な基準を規定している」という記述が誤り。日本国憲法第27条は、国民に、勤労の権利を保障しているが、「賃金、就業時間、休息その他の勤労条件に関する基準」について

は、「法律でこれを定める」としており、同条には具体的な規定は置かれていない。

問5 **30** ②

日本は、1985年に**女子差別撤廃条約**(1979年採択)を批准する際に、**男女雇用機会均等法の制定**や**国籍法の改正**など国内法の整備を行った。

①「国際法上の拘束力がある」という記述が誤り。**世界人権宣言**は条約ではないので、国際法上の拘束力はない。③「B規約(自由権規約)を批准していない」という記述が誤り。日本は、**国際人権規約**(1966年採択)について、主に社会権に関するA規約について、公務員のストライキ権、中等・高等教育の無償化、公休日の給与支払いの3点につき留保(中等・高等教育の無償化については2012年に留保を撤回)した上で批准するとともに、主に自由権に関するB規約については留保を付けずに批准した(1979年)。なお、国際人権規約は、世界人権宣言を具体化した条約であり、批准した国に対して国際法上の拘束力をもつ。④「経済的理由から国外に逃れた難民を保護の対象としている」という記述が誤り。**難民条約**(1951年採択)は、人種や宗教、政治的意見の違いなどから国外に逃れた**政治難民**を保護の対象としているが、それ以外の経済的な理由から国外に逃げたいいわゆる**経済難民**などは保護の対象としていない。

問6 **31** ④

Aーイ 1689年に成立した**イギリス権利章典**は、国王に対する「臣民」(イギリス国民)の請願権などを保障している。

Bーウ 1789年に成立した**フランス人権宣言**(人および市民の権利宣言)の第16条は、憲法には、権利を保障する規定だけでなく、権利保障を制度的に確保するための権力分立規定がおかれていなければならないと定めている。

Cーア 1919年に成立した**ワイマール憲法**(ドイツ共和国憲法)は、**生存権**の保障(人間たるに値する生活の保障)をはじめとする**社会権**の保障を掲げた。

問7 **32** ③

国民の**知る権利**は、新聞やテレビなどのマスメディアによる報道によって充足される場合が少なくない。したがって、国民の知る権利を実質的に保障するためには、マスメディアによる**取材・報道の自由**を確保することが必要である。

①「アクセス権」を「知る権利」にすれば正しい記述になる。**アクセス権**は、マスメディアを利用して国民が反論をしたり意見を表明したりする権利である。②「自己情報を管理する権利」と「私事をみ

だりに公開されない権利」を入れ替えれば正しい記述になる。**プライバシー権**は、従来、私事をみだりに公開されない権利とされてきたが、近年では、**自己情報を管理する権利**として広く捉えられるようになってきている。④「環境権を国民の権利として認め、夜間飛行の差止めを命じた」という記述が誤り。最高裁判所は、大阪空港公害訴訟において、良好な環境を享受する権利である**環境権**を国民の権利として認めておらず、また、夜間飛行の差止めも命じなかった。

## 第6問 市場経済と企業

### 【出題のねらい】

本問は、市場メカニズムや経済思想に関する問題を通じて経済の基本的な考え方の理解を深めること、および、日本の企業や日本経済全体の現状についての基本知識を確認することをねらいとしている。

### 【設問別解説】

問1 **33** ③

**アダム・スミス**(1723~90)は、イギリスの経済学者であり、『**諸国民の富**(**国富論**)』において、市場では、「**見えざる手**」によって自動的に需要と供給の不均衡が調節されると説き、政府は経済に介入すべきでないとする**自由放任**(**レッセ・フェール**)を主張した。

①「フリードマン」を「シュンペーター」にすれば正しい記述になる。**シュンペーター**(1883~1950)は、オーストリアの経済学者であり、企業が**イノベーション**(**技術革新**／**新機軸**)によって生産や販売における新しい効率的な方法を開発すれば、従来の方法が駆逐されて「**創造的破壊**」が進み、経済は発展していくと主張した。②「**ケインズ**」を「**フリードマン**」にすれば正しい記述になる。**フリードマン**(1912~2006)は、アメリカの経済学者であり、通貨量の管理を重視する**マネタリズム**という考え方の提唱者である。**アダム・スミス**と同様に市場メカニズムの有効性を信奉し、多くの国の経済政策に影響を及ぼしている。④「**シュンペーター**」を「**ケインズ**」にすれば正しい記述になる。**ケインズ**(1883~1946)は、イギリスの経済学者であり、『**雇用・利子および貨幣の一般理論**』において、不況期に失業を解消して**完全雇用**を実現するには、政府が**公共投資**を拡大して**有効需要**(貨幣支出の裏づけのある需要)の増大を図ることが必要だと主張した。ケインズの考え方に基づく経済政策は、第二次世界大戦後の欧米や日本で広く採用された。

問2 **34** ④

株式会社の最高意思決定機関は、「取締役会」ではなく「株主総会」である。株式会社では、会社の所有者である株主によって組織される**株主総会**が最高意思決定機関であり、株式会社の経営に関する基本事項について決定する。この株主総会によって選任された**取締役**が、会社の経営を担当する。

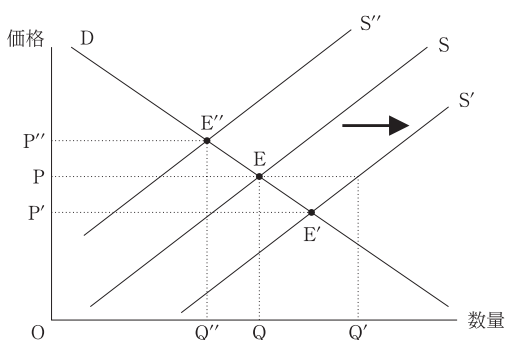
①**株主有限責任**の原則についての記述である。株主は、株式会社の債務について出資額の範囲内で責任を負えばよい。このように株主が有限責任であることで、株式会社は、広く資金を調達することができる。②**所有と経営の分離**についての記述である。企業の規模が大きくなると、企業の経営には高度の専門性が要求されるようになる。その結果、大企業では、株主が企業の経営にかかわることは少なくなり、企業の経営は専門の経営者に委ねられるようになる。③現代の企業は、経済活動を通じて利益を上げるだけでなく、社会の一員として社会に貢献することが求められている。そうした貢献活動のうち、文化活動や芸術活動などに対する企業の支援は**メセナ**と呼ばれている。

### 問3 [35] ①

右の図のように、当初の需給の均衡点はEである。このとき企業の生産コストが低下すると、企業はより多くの財を生産して利益を拡大しようとする。そのため、当初の**供給曲線S**は右方向に移動して**S'**となる。この場合、**需要曲線**に変化はないため、均衡点はEからE'に移り、価格はPからP'へと下落する。

この過程をより詳しく確認しておこう。供給曲線が**S'**へと移動すれば、価格Pのままでは**QQ'**だけの**超過供給**(売れ残り)が発生する。そのため、価格を引き下げて売れ残りを解消しようとする企業が現れる。こうして、財の価格が徐々に下落していくと、一方で消費者の購入量(需要量)は増加し、他方で企業の生産量(供給量)は減少していく。最終的には、超過供給(売れ残り)が解消して価格の下落がストップする価格P'において新しい均衡点E'が成立する。

②④**需要曲線**は移動しない。財の生産コストが変化した場合、その影響を受けるのは財を生産する企業であり、供給曲線が移動する。③「右」を「左」にすれば正しい記述になる。生産コストが上昇した場合、企業は価格Pでは十分な利益が得られないため、生産量を減少させる。したがって、供給曲線Sは左に移動して**S''**となり、均衡点はEからE''に移り、価格はPからP''へと上昇する。



### 問4 [36] ②

不況期に所得税の減税が行われると、家計が自由に使うことができる**可処分所得**が増える。その結果、家計の消費が増えて、有効需要(貨幣支出の裏付けのある需要)が拡大し、景気が回復する。また、不況期に法人税の減税が行われると、企業の手持ち資金が増える。その結果、企業の投資が増えて、有効需要が拡大し、景気が回復する。なお、不況期の財政政策としては、減税以外にも、公共投資を拡大するという政策がある。

①増税は、景気過熱期に行われる財政政策である。③「高めに誘導」を「低めに誘導」にすれば正しい記述になる。日本銀行は、**公開市場操作**(オープン・マーケット・オペレーション)を通じて、物価や景気の安定を図っている。不況期に日本銀行は、市中銀行から国債などを買い入れる**資金供給**(買い)オペレーションを行ってコール市場に資金を供給し、政策金利である**無担保コール翌日物の金利**を低めに誘導する。その影響を受けて、市中銀行の貸出金利が低下し、企業の設備投資や家計の住宅投資が増えて、景気は回復することになる。④「**資金吸収**(売り)オペレーション」を「**資金供給**(買い)オペレーション」にすれば正しい記述になる。景気過熱期に日本銀行は、**資金吸収**(売り)オペレーションを行ってコール市場から資金を吸収し、無担保コール翌日物の金利を高めに誘導する。その影響を受けて、市中銀行の貸出金利が上昇し、企業の設備投資や家計の住宅投資が減って、景気の過熱が抑制されることになる。

### 問5 [37] ②

**景気波動**には、**技術革新**などによる**50年程度**の周期の長期波動である**コンドラチェフの波**、**建設投資**の変化による**20年程度**の周期の中期波動である**クズネツの波**、**設備投資**の変化による**10年程度**の周期の中期波動である**ジュグラーの波**、企業の**在庫投資**の増減による**40か月程度**の周期の短期波動である**キチンの波**の4種類がある。



①「コンドラチェフ」を「キチン」にすれば正しい記述になる。③「生産力の増強を目指す企業が增えるため、投資が拡大する」という記述が誤り。不況期には、商品の需要量が減少するので、企業は余剰生産力を抱えることになる。その結果、企業は投資を抑えることになる。④「物価が下落する」という記述が誤り。好況期には、企業が生産量を増加させるが、需要の拡大に供給の拡大が追いつかなくなることから、超過需要(＝商品の不足)が発生するので、一般に物価は上昇する。

問6 **38** ②

1986年から1994年にかけて行われた GATT のウルグアイ・ラウンドの合意に基づいて、日本はミニマム・アクセス(最低輸入量)を設定してコメの輸入を受け入れた。その後、1999年にはコメの関税化が実施された。これにより、コメの輸入数量制限は撤廃され、原則として、関税を支払えばコメはいくらでも輸入できることになった。しかし、高い関税が課されているため、ミニマム・アクセスを超えた分の輸入量はごくわずかである。

① JAS 法(農林物資の規格化及び品質表示の適正化に関する法律)および食品衛生法に基づき、大豆、トウモロコシ、馬鈴薯(じゃがいも)などの一部農産品およびその加工品に関して、遺伝子組み換えであることの表示が義務づけられている。③日本の航空業界では、長らく、市場への参入、便数、運賃などに関して政府による規制が行われてきた。しかし、1986年以降、規制緩和が徐々に進められ、1997年には航空会社の新規参入が認められるようになり、2000年には国内の航空運賃の設定が自由化された。こうした規制緩和の進展で、現在では LCC(ローコストキャリア)と呼ばれる格安運賃で就航する航空会社が登場している。④医薬品のインターネットを通じた販売は1990年代末頃から活発になったが、2009年に厚生労働省は一般用医薬品のほとんどの品目に関してインターネットを通じた販売を禁止する

省令を発した。これに対して、規制緩和を求める声が強まり、規制緩和反対派との激しい議論がなされたが、最高裁判所が省令を違法と判断したこともあって、2013年に薬事法が改正され、インターネットでの販売が解禁された。

問7 **39** ④

農業就業人口は2009年に約289万人であったが、その後も減少を続け、2013年には約239万人になっている。また、農業就業人口の平均年齢は2009年に65.3歳であったが、2013年には66.2歳となっており、農業従事者の高齢化が進展している。さらに、農業への新規就労者数は2009年に約6万7千人であったが、2013年には約5万1千人へと減少しており、後継者不足の問題に直面している。

①「年々減少している」という記述が誤り。産業は、第一次産業(農業、漁業、林業)、第二次産業(製造業、鉱業、建設業)、第三次産業(電気・ガスなどのエネルギー、商業、通信業、金融業、飲食業など)に分類される。経済のサービス化の進展に伴って第三次産業の産業別所得は増加している。

1994年は第一次産業が9兆7216億円(2%)、第二次産業が152兆2419億円(30.7%)、第三次産業が279兆4002億円(56.4%)であったが、2012年は第一次産業が5兆7301億円(1.2%)、第二次産業が112兆5966億円(23.8%)、第三次産業が298兆3963億円(63.0%)である(なお、カッコ内は所得総額に占める割合)。

②「黒字」を「赤字」にすれば正しい記述となる。貿易収支は2010年に9兆5160億円の黒字であったが、2011年に3302億円の赤字に転じ、2012年には4兆2719億円の赤字、2013年には8兆7734億円の赤字と、赤字幅が拡大し続けている。③「大きく伸びている」を「大きく落ち込んでいる」にすれば正しい記述となる。総務省の『家計調査』によれば、二人以上の世帯の消費支出(前年同月比)は、消費税増税直後の2014年4月が-4.6%、5月が-8.0%、6月が-3.0%、7月(速報値)が-5.9%である。

傍線部Eは、世祖の命令に背いた古弼の真意を知って、世祖が述べた言葉。まず前半のポイントは「如<sub>レ</sub>此」の読み方である。これは重要語であり、「このようである」の意味で「かくのごとし」と読む。②・③「これにしく」、④「これのごとき」はいずれも誤りである。

次に後半のポイントは「也」の読み方である。「也」が傍線部のように文末に置かれた場合には、断定の助動詞として「なり」と読む用法と、疑問または反語の助詞として「か」または「や」と読む用法とがある。直接に「賜<sub>フ</sub>衣一襲<sub>そふ</sub>・馬二匹・鹿十頭<sub>ト</sub>」（衣類一そろい・馬二匹・鹿十頭を賜与した）とあるように、世祖は古弼に褒美を与えたのであるから、「国之宝也」は「国家にとつての宝である」と古弼を高く評価した言葉であると判断できる。したがって「也」は「なり」と読むのがふさわしい。②・④「宝ならんや」（未然形＋んや）は反語の意味の場合の読み方、③「宝なるか」（連体形＋か）は疑問の意味の場合の読み方で、ともに誤りである。正解は①である。

前半の「有<sub>レ</sub>臣如此」は、直訳すると「臣下でこのような者がいるのは」の意味なので、この意味に即して「臣」に同格の「の」を送り、「臣のかくのごとき有るは」と読む。④「臣にかくのごとき有るは」はやや紛らわしいが、このように読むのは「臣有<sub>レ</sub>如此」のように「臣」が「有」の前に置かれた場合である。以上の点についても覚えておこう。

#### 問7 理由説明の問題

本問では、「世祖はなぜ『歎』じたのか」と問うているが、まず「歎」の意味を考えよう。「歎」は「嘆」と同じで、(一)「悲しみ嘆く」の意味と、(二)「ひどく感心する」の意味を持つが、ここでは古弼のことを「国之宝也」と称賛しているので、(二)の意味である。それでは世祖はなぜ古弼に感心したのか。よく肥えた馬を騎兵たちに与えよという自分の命令に古弼が背いたことに対して、世祖は腹を立てたのだが、部下に対して古弼が語った言葉を聞いてその真意を知った結果、ひどく感心したのであった。した

がつて古弼の言葉の内容に着目すれば、世祖が感心した理由が明らかにになる。古弼は、「北方の異民族や南方の敵が北魏を侵略する機会を窺っていることこそ、私の心配の種なのであり、よく肥えた馬を軍に装備して不測の事態に備えるのだ」と述べている。つまり、今国家が異民族や敵国と緊張関係にある以上、狩猟という皇帝の楽しみよりも辺境における不測の事態に備えることの方を優先すべきだとの考えから、世祖の命令に背いたことを明らかにしたのだ。さらに古弼は、「国家が利益を得られるのなら、自分は死も避けたりはしない」と、死も覚悟のうえで世祖に逆らったことを表明している。これを聞いて古弼の真意を知った世祖は、古弼が将来のことまで見通して適切な判断を下すことができる思慮深い人物であり、また自分の命よりも国家の利益を優先する忠義な臣下であることを改めて認識し、ひどく感心したのである。正解は以上の内容と一致する⑤である。

①は、「異民族や敵国に敗れた屈辱をすっかり忘れて狩猟に夢中になっている自分の誤りに気づかせるために」が、古弼が世祖の命令に背いた理由として誤りであり、また「自分の愚かさを恥じたから」が、世祖が感心した理由としてふさわしくない。

②は、「屈強な兵士を大量に辺境に送っているために自分の要求に応えられなかった」が本文の内容と一致していないし、また「自分の不明を恥じたから」が、世祖が感心した理由としてふさわしくない。

③は、「異民族や敵国と戦い、一気に打ち破るべき時機だと考えている」が、古弼の考えと一致していない。

④は、「国家が異民族や敵国と熾烈<sub>しれつ</sub>な戦いを繰り返している今」が、古弼の指摘している情勢と一致していないし、また「狩猟にうつつを抜かししていることが大きな過ちであることを皇帝に気づかせたいと考え」が、古弼が世祖の命令に背いた理由として誤りである。

給させようとしたが、古弼は命令を下して貧弱な『もの』を支給させた」となる。ここで注意すべきは「弱者」の意味である。「者」は「こと・もの・人」などの意味を持つが、「弱者」は、騎兵によく肥えた馬を支給せよと世祖から命じられた時に、古弼が支給するように部下に命じたものであるから、「貧弱な『もの』」＝「貧弱な馬」の意味であると判断できる。次に傍線部の直後の世祖の発言「尖頭奴、敢裁量朕也」を訳すと、「頭の尖ったやつは、私の命令をむやみに自分の考えで処理したのだ」となる。以上の内容から、世祖は、狩猟を行うに際してよく肥えた馬を騎兵に支給せよと古弼に命じたにもかかわらず、古弼が自分の判断で命令に背いて貧弱な馬しか支給しなかったことに対して腹を立てたことがわかる。

①「貧弱な兵士と馬しか用意しなかった」、②「貧弱な兵士ばかりをよこした」、④「貧弱な兵士と馬ばかり準備した」は、ともに「給<sub>二</sub>弱者<sub>一</sub>」の意味を取り違えていて、誤りである。古弼が自分の判断で世祖の命令に背いたことに対して世祖は腹を立てたのであるから、⑤「古弼が無能で、……自分の要求に応えられず」も誤りである。正解は③。

#### 問4 内容説明の問題

ここは、よく肥えた馬を騎兵たちに支給せよという世祖の命令に背いた理由について古弼が部下たちに語った言葉である。傍線部C「不虞」とは「思いがけないこと・不慮の事態」の意味であるが、この意味がわからなくとも、文脈からその具体的な内容を決定することができる。傍線部を含む一文を直訳すると、「『不虞』に備えようとせず、異民族を勝手気ままに振る舞わせた場合は、罪は重大である」となる。このことから、本来「不虞」に備えておかねばならないのに、備えを怠ってしまった場合には、「異民族が勝手気ままに振る舞う」という事態を招いてしまうということがわかる。したがって「不虞」とはまさに「異民族が勝手気ままに振る舞う」という事態を指しているとみなすことができる。それでは「異民族が勝手気ままに振る舞う」とは具体的にどのようなことなのか。直後の

記述に着目すると、「今北狄孔熾、南虜未滅、狡猾之志、窺<sub>二</sub>向<sub>一</sub>辺境、是吾憂也。故選肥馬備軍実」(現在北方の異民族は勢いが盛んであり、南方の敵もまだ滅びておらず、狡猾な心を持って辺境の様子を窺っているということこそ、私の心配の種なのだ。だから、よく肥えた馬を選んで軍の装備として用意しておく)とある。この内容を踏まえて考えると、「異民族が勝手気ままに振る舞う」とは、具体的には「北方の異民族や南方の敵国が北魏に戦争を仕掛けてくる」という事態、つまり「北魏」を主体にして言いかえると「北魏が北方の異民族や南方の敵国に侵略される」という事態のことであると判断できる。正解は②である。

#### 問5 現代語訳の問題

まず傍線部の前半の意味を考える。「苟<sub>一</sub>」は「もし――ならば」という順接の仮定条件を表す。「使<sub>二</sub>□<sub>一</sub>」は使役形で「□に――させる」の意味であるが、「使<sub>二</sub>□<sub>一</sub>」は「もし□が――ならば」という順接の仮定条件を表す。以上の点を踏まえて前半を直訳すると、「もし国家が(に)利益があるのならば」となる。②「たとえ……としても」、④「としても」はともに逆接の仮定条件で、誤りである。また⑤「……から」は順接の原因条件で、誤りである。

次に後半の意味を考える。「何<sub>一</sub>――乎」は、文末を「ん乎」と読んであるので反語形で、「どうして――しようか、いや――しない」の意味である。これを踏まえて直訳すると、「私はどうして死を避けたりしようか、いや死を避けたりはしない」となる。①「是非とも死を避けなければなりません」、④「死を避けられないかもしれません」、⑤「きつと死を避けられることでしょう」はいずれも明らかな誤りである。正解は③である。

#### 問6 書き下し文の問題

重要語の読みに注意を払うとともに、文意にふさわしい読み方を考えることが大切である。

- 事<sup>つか</sup> 仕える  
 ○ 故<sup>ゆゑ</sup> だから  
 ○ 遠慮<sup>えんりょ</sup> 遠い将来まで見通した深い考え  
 ○ 可<sup>べ</sup> できる・——するのがよい・——してもよい  
 ○ 理<sup>り</sup> 道理  
 ○ 如此<sup>ごとし</sup> このようである

## II 基本句形

- 将<sup>まさ</sup> ① いまにも——しようとする・——するつもりだ  
 (再読文字)  
 ○ 命<sup>めい</sup> ② □に命令して——させる (使役形)  
 ○ 使<sup>し</sup> ③ □に——させる (使役形)  
 ○ 未<sup>いま</sup> ④ まだ——しない (再読文字)  
 ○ 苟<sup>い</sup> ⑤ もし——ならば (仮定形)  
 ○ 使<sup>し</sup> ⑥ もし□が——ならば (仮定形)  
 ○ 何<sup>なん</sup> ⑦ どうして——しようか、いや——しない (反語形)

## 【設問解説】

### 問1 語句の意味の問題

- (1)・(2)ともに漢文にはしばしば出てくる語句である。  
 (1)「遠慮」は、日本語では「関係者に不都合な事柄が起こることを考えて、行いを控えめにする」「人からの申し出を辞退する」などの意味で用いられるが、漢文では、「深謀遠慮」(深く考えて計画を立て、遠い将来まで十分に考えをめぐらすこと)という四字熟語から明らかのように、「遠い将来まで見通した深い考え」の意味で用いられる。正解は④。③の選択肢に惑わされないこと。

- (2)「理」は、動詞としては「をさむ」と読んで「玉を磨く」、(三)「治める」、(四)「処理する」、(五)「法によつて裁く」などの意味を表す。また名詞としては(六)「玉の表面の模様」、(七)「木目」、(八)「物事のすじみち・道理」、(九)「裁判官」などの意味を表す。傍線部を含む一文を直訳すると「賢明な君主に対しては、『理』によつて(に基づいて)反抗するのがよいのだ」となるので、この「理」は名詞で(七)の意味であると判断できる。正解は③。「理」は、名詞としては多く「道理」の意味で用いられることを覚えておこう。

### 問2 返り点と読み方の問題

ポイントは二点。まず「将」は再読文字であり、「いまにも——しようとする・——するつもりだ」の意味で、「まさに——せんとす」と読む。

①「校獵せん」、②・④「校獵すべし」はともに誤り。

次に「於」に着目する。前置詞的な働きをする「於」が述語の後に用いられた「述語於」の形は、「於」が置き字となり、「」に「より・よりも・を」の送り仮名を送つて述語に返つて読む。「校獵於河西」は、「河西」が地名であるから、「於」は場所を示す用法で、「校」獵於河西」と返り点を施して「河西に校獵す」と読む。③・④「河西に於て」は誤り。「」に於て」と読むのは、「於」が述語より前に置かれた「於」——「述語」の形の場合である。全体では「河西地方で、柵に獣を追い込んで捕える狩猟をしようとした」の意味で、「将校獵於河西」と返り点を施して「将に河西に校獵せんとす」と読む。正解は⑤である。

### 問3 理由説明の問題

傍線部の前後の内容に根拠を求めて解答することが大切である。

傍線部B「世祖大怒」は「世祖はひどく腹を立てて」の意味であるから、本問では、世祖がなぜ腹を立てたのかが問われている。傍線部の前後の内容に着目する。まず直前の「詔以肥馬給」騎人、弼命給「弱者」を直訳すると、「(世祖は)命令を下してよく肥えた馬を騎兵に支



に仕向けることよりもはるかに大きな罪なのだ、と。このように皇帝の個人的な楽しみよりも国家の安全を優先すべきであるとの考えから、古弼は世祖の命令に背いたのである。しかも古弼は、国家の利益のためであれば、わが身が犠牲になってもかまわないと、死を覚悟のうえで世祖に逆らったのである。これを知った世祖は、古弼が常に遠い将来まで見通して適切な判断を下すことのできる思慮深い人物であり、また国家のためであれば死ぬことも厭わない忠義な臣下であることを改めて認識し、「国家にとつての宝である」と称賛したのである。

忠義な臣下とは君主の命令に盲目的に従う臣下のことを言うのではない。古弼のように、国家や君主のためであれば、死も覚悟のうえで君主を諫めたり反抗したりする臣下のことなのである。

### 【書き下し文】

世祖大いに聞し、將に河西に校獵せんとす。弼留守す。詔して肥馬を以て騎人に給せしむるに、弼命じて弱き者を給せしむ。世祖大いに怒りて曰はく、「尖頭奴、敢へて朕を裁量するなり。朕台に還らば、先づ此の奴を斬らん」と。弼の頭尖れば、世祖常て之に名づけて筆頭と曰ふ。是を以て時人呼びて筆公と為す。弼の属官惶怖して誅せられんことを懼る。弼之に告げて曰はく、「吾以為へらく、君に事へて敗獵して盤遊に適はざらしむるは、其の罪小なり。不虞に備へずして、戎寇をして恣逸せしむるは、其の罪大なりと。今北狄孔だ熾にして、南虜未だ滅びず、狡焉の志、辺境を窺伺ふは、是れ吾が憂ひなり。故に肥馬を選びて軍実に備へ、不虞の遠慮を為すなり。苟くも國家をして利有らしめば、吾何ぞ死を避けんや。明主は理を以て干すべし。此れ吾が罪に自る。卿等の咎に非ず」と。世祖聞きて歎じて曰はく、「臣の此くのごとき有るは、国の宝なり」と。衣一襲・馬二匹・鹿十頭を賜ふ。

### 【全文解釈】

世祖は盛大に軍隊の検閲を行い、河西地方で、柵に獣を追い込んで捕える

狩獵をしようとした。古弼は都の留守を預かることになった。（世祖は）よく肥えた馬を騎兵に支給せよという命令を下したが、古弼は（部下に）貧弱な馬を支給するように命令した。世祖はひどく腹を立てて言った、「頭の尖ったやつは、私の命令をむやみに自分の考えで処理したのだ。私が朝廷に帰ったら、真っ先にあいつを殺してやる」と。古弼の頭は尖っていたので、世祖は古弼のことを筆頭という名前で呼んでいた。こういうわけで当時の人々は（彼のことを）筆公と呼んでいた。古弼の部下たちは恐れ、（自分たちも）処刑されるのではないかと心配した。古弼は部下たちに告げた、「主君にお仕えして、（主君を）節度なく狩獵にふけることがないようにさせた場合は、罪は小さいのである。不測の事態に備えようとせず、異民族を勝手気ままに振る舞わせた場合は、罪は重大である」と私は考える。現在北方の異民族は勢いが盛んであり、南方の敵もまだ滅びておらず、狡獪な心を持って辺境の様子を窺っているということこそ、私の心配の種なのだ。だから、よく肥えた馬を選んで軍の装備として用意しておき、将来不測の事態が起りかねないことを見通して備えているのだ。もし国家が利益を得られるのなら、私は死を避けようとは思わない。賢明な君主に対しては、道理に基づいて反抗するのがよいのだ。これは私の罪であって、そなたたちの罪ではない」と。世祖はこの話を聞いて感嘆して言った、「これほど優れた臣下がいるのは、国家にとつての宝というものである」と。（世祖は古弼に）衣類一そろい・馬二匹・鹿十頭を賜与した。

### 【重要語・基本句形】

#### I 重要語

○ 以て

○ 敢

○ 是以

○ 以為

——を——によって——のために——とし

て

|| 思い切つて・むやみに

|| こういうわけで

|| ——と思う

なる。ちなみに、この「あはれにことわりなり（＝しみじみと感慨深くもつともなことである）」というのは『栄花物語』の作者の感想である。物語においては、このように、登場人物の心情や行動に対する作者の視点が書き加えられることもあるので、これを機に覚えておくといよい。

④が正解である。第三段落に「宮の御前、単の御衣の袖もしぼるばかりにておはします」、「宮たち、さまざまにいみじうつくしうおはします」とある。

⑤は、「互いの幸運を喜んで泣き、その様子は『よろづ一つ涙』というように見えた」が誤りである。「一つ涙」は、（注14）にある『後撰和歌集』の「うれしく感じるのもつらく感じるのも一つの心であって、それを区別できなくしているのはどちらの場合にも流れる涙であったよ」という意の和歌を踏まえた表現である。第三段落では、再会に際し涙を流す宮の御前の様子とともに、「故上の御ことをかへすがへす聞こえさせ給ひつつ、誰もいみじう泣かせ給ふ（＝亡き母上の御事を繰り返し申し上げなされては、誰もがたいそうお泣きになる）」様子が描かれ、帥殿が生きて戻った喜びの涙と母の逝去への悲しみの涙を「よろづ一つ涙」と表現していると考えられるので、「互いの幸運を喜んで泣き」流れる涙だけではない。また、「誰も御命をたまたせ給ふ」がゆえに」の部分も、本文では「誰も御命をたまたせ給ふのみこそ、世にめでたきことなりけれどのみぞ、見えさせ給ふ（＝無事に誰もが命を長らえなせることだけが、本当にすばらしいことであつたとばかり、お見えになる）」とあり、帥殿と宮の御前が「命を長らえていたからこそだ」と思って互いの幸運を喜んで泣いたという流れではなく、傍目からは「生きながらえるのはすばらしいと見えた」ということであり、その部分も誤りといえる。ここにも、③の部分で解説したように、作者の視点が述べられているのである。

#### 第4問 漢文

##### 【出典】

『魏書』全百十四巻。北齊の魏収の撰。南北朝時代の北魏の歴史を記した正史で、帝紀十二巻、列伝九十二巻、志十巻から成っている。三国時代の魏と区別するために『後魏書』とも言う。北齊にへつらって北魏をおとしめるなど、記事や論説に公平さを欠く部分があり、「穢史」（事実を歪曲した歴史書）と評されている。魏収は若い頃から文才を知られ、北魏・北齊の両朝廷に仕えて高官となったが、自分の才能を鼻にかけるなど、度量の小さい人物で、軽薄な行いも多かった。本文は、巻二十八・古弼伝の一節である。

##### 【本文解説】

北魏（三八六―五三四）は、北方民族である鮮卑の拓跋部が華北（北部中国）に建てた国である。統一王朝である西晋（二六五―三一七）の末期、その内乱に乗じて北方民族の匈奴が北漢国を建国して以来、華北の各地では百三十五年間にわたって匈奴・鮮卑・羯・氐・羌の五つの民族や漢民族の国の興亡が繰り返された。これを五胡十六国という。このような状況にあった華北を四三九年に統一することに成功したのが北魏である。本文は、北魏の太宗明元帝・世祖太武帝の二人の皇帝に重用され、政治と軍事の両面で活躍した名臣、古弼に関する話である。

世祖は狩猟を楽しむために、騎兵たちによく肥えた馬を支給するよう尚書省（中央行政官庁）の長官である古弼に命じたが、古弼はなんと貧弱な馬ばかりを支給した。世祖は古弼を殺してやると言い放つほど激怒した。古弼はなぜ世祖の命令に背いたのか。古弼はその真意を部下に対して語った。わが国北魏の対外関係は今緊張状態にある。北方には異民族がおり、南方には漢民族の王朝が今も存続しており、ともに北魏を侵略する機会を窺っているのだ。だからよく肥えた馬を軍に装備して、常に不測の事態に備えておかねばならない。万が一南北の脅威に対する備えを怠って異民族や敵国の侵略を招いたとしたら、それは世祖が狩猟を思う存分楽しむことができないよう

季節がら、桜が咲いているはずはなく、ここでは激しく降る雪を桜に見立てている。また、「桜本」は、母の墓のある場所であることから、散ってしまったのは、桜にたとえた母の命だとも考えられる。そして、五句目で「見るぞ悲しき」と強意の係助詞「ぞ」と「悲しき」を係り結びとし、深い悲しみを強調しているのである。このことを踏まえて解釈すると、

ほんの少し色香を残して散ってしまった(母上のような)この桜本の桜の木の根元を見るのが悲しいことだ。

となる。

帥殿の和歌は、「桜もと／降るあは雪を／花と見て／折るにも袖ぞ／ぬれまさりける」と句に分けられ、こちらも句切れはない。中納言の和歌と同じく「桜もと」を掛詞とし、また雪を桜の花に見立てている。「ぬれまさり」は「いっそう濡れ」の意だが、「袖が濡れる」というのは、「袖を濡らす」という表現が「泣く」の意であるのと同様に、涙を流し袖が濡れているということ、「折るにも袖ぞぬれまさりける」で「枝を折るにも涙で濡れる袖がいっそう雪で濡れることよ」などと解釈できる。涙の理由は、中納言と同様に、母の死への悲嘆である。詠嘆の助動詞「ける」が強意の係助詞「ぞ」の結びとなっていて、ここでも深い悲しみを強調している。以上のことから解釈すると、

桜本の墓に降る淡雪を桜の花のように見て、その枝を折るにも涙で濡れる袖がいっそう雪で濡れることよ。

となる。二人の和歌には、ともに「母の死を悲しむ」という気持ちが含まれているのである。以上の、「おはせましかば」に込められた心情と和歌の内容をとらえている選択肢は③であり、これが正解である。④は、前半の内容に誤りはないが、「母の死があらためて世の無常を自分たちに気づかせてくれたことだ」という部分が不適当である。⑤は、「桜の花と見間違えるように散る雪を皆でながめることもできたろうに」が「おはせ

ましかば」の後の省略部分の内容としては不適当であるし、「配流されていたことを恨めしく思っている」が和歌の内容とは違うものとなっている。

#### 問6 内容に関する説明問題

センター試験の古文では、内容の理解を確かめる設問が最後に出題される。近年は、選択肢に鉤括弧で文章中の表現が引用されていることもあるので、その前後をしっかりと検証するとよい。また、このような出題にそなえて、本文を読む際に神経を集中させ、どの辺りに何が書いてあるか、おおまかにでも記憶にとどめ、すばやく該当する箇所に戻れるようにしたい。

選択肢の内容を確認していこう。

①は、全体が誤りである。第一段落最終部の「今はおはし着かせ給ひぬらむ」の直後に「いっしかと待ち聞こえさせ給ふ」とあるが、ここには尊敬の補助動詞「給ふ」が用いられている。問3でも述べたが、大次の動作には尊敬語は用いられていない。よって、「いっしか(＝はやく)」と帥殿の帰京を待ちわびているのは、都で待つ帥殿の近親者たちだと考えられる。

②は、「自らがかつての権勢を失ったことを思い知り、落胆した」が誤りである。「荒れはてた邸」には、少なからず「没落」という印象があるものの、帥殿が邸を見てすぐにそのように感じたかどうかということは、本文からは判断できない。

③は、まず、「帥殿の妻の父である大納言は」が誤りだといえる。第二段落の最初に大納言邸の記述はあるが、大納言がその場にいるかどうかは本文から判断できない。かりに「殿の内の人々」に、大納言が含まれていると考えたとしても、そこで流される涙は、帰京した帥殿を待ち迎えた喜びの涙であり、松君の様子を見て流されたものではなく、「それも『あはれにことわりなり』と自らもあふれる涙をぬぐった」という部分も誤りと

いて、飾りとする技巧のことである。例えば、「弓……張る・引く・射る・かへる」というようなものである。これらの語が「弓」との連想でつながっているのがわかる。しかし、「松原」と「いきて」が「身」と連想でつながっているとはとうてい言えない。したがって、㊦は、修辭法の説明も誤っている。

以上の検討から、㊦が正解である。

#### 問5 心情の説明問題

心情の説明問題は、傍線部が解釈できればそれで解答が得られる場合もあるが、そうでない場合は、その心情に至るまでの流れを丁寧に読み取っていく必要がある。その時、注意すべきは、会話文・胸の内の思いを描く心中表現・和歌などである。また、形容詞・形容動詞の意味にも注意しよう。

ここでは、傍線部Y「泣く泣く帰らせ給ふ」を解釈しても解答は得られない。そこで、次に傍線部の前の部分を見てみると、心中表現と和歌が見える。

まず、心中表現としては、実際に考えたこととして「おはせましかば」があるが、その前後と合わせて見ていくと、「あはれに悲しう思されて、おはせましかばと思さるるにも」とあり、ここにも二人の気持ちが表されている。帥殿と中納言は、桜本の亡き母の墓に参り、しみじみと悲しく思い、「おはせましかば」と思いながら涙を流したのである。この「ましか」は、重要な助動詞である。

#### まし(助動詞)

1 反実仮想(もし〜たなら……ただろうに)

\* 事実と反対のことを仮に想像し、その結果を推量する。次のような構文をとることが多い。

ましかば  
ませば  
せば  
未然形+ば  
……まし

2 ためらいの意志(〜しようかしら。〜したものでしょうか)

\* 疑問語の「いかに」「なに」「や」などと呼応する。

ここは、前記1の反実仮想の意で「……まし」を含む述部が省略された形となっている。「おはせ」は「あり・をり」の尊敬語で、「おはせましかば」で「もしいらつしやつたならば」と直訳できるが、そのように仮定されるのは、現実には「いらつしやらない」ということであり、よってその主体は、帥殿と中納言がその墓前にいる亡き母であると考えられる。「あり」は「生きている」とも訳出するので、ここは「もし母が生きていらつしやつたならば」と解釈できる。帥殿と中納言が帰京して、「母がもし生きていたら」再会できたのであるから、省略部分には、「よかっただろうに」などの表現を補うとよい。しかし、現実としては、母はもうこの世にはいない。二人は「母の不在」をこの上なく悲しく思い、涙を流すのである。したがって、「もし生きていたならば」「亡くなってしまったので」と表現される人物が母でなく祖父だとなっている㊦と㊧は誤りであるとわかる。

次に傍線部の前の和歌を解釈していこう。

中納言の和歌は、「つゆばかり／にほひとどめて／散りにける／桜がもとを／見るぞ悲しき」と句に分けられ、句切れはない。「つゆばかり」は「ほんの少し」の意の連語、「にほひ」は「つやのある美しさ・かおり」の意の名詞、「散りにける」の「に」は、ラ行四段活用動詞「散る」の連用形「散り」に接続しているので完了の助動詞「ぬ」の連用形、「ける」は過去の助動詞「けり」の連体形、四句目の「桜がもと」には、「桜が本」(＝桜の木の根元)と地名の「桜本」が掛けられている。十二月頃という



と、

これまで住んでいた筑紫にあった、「生の松原」の名の通りに、そこに行っただけで生きて戻って来て古い都を見るとせつないことだ。

となるが、この「せつなさ」とは都そのものに対する思いではなく、生きながらえて戻って来て、古い都、つまり慣れ親しんだ都を目にした時の、自身と家族の身の上にこれまで起こったさまざまな出来事に対する感慨を詠んでいると考えられる。よって、③の「相変わらず保守的で代わり映えのしない都の様子を目にした時の失望感」は、「古き都」の状況説明と、帥殿の心情説明がともに誤りである。さらに、修辞法についても確認しよう。「序詞」とは、ある語句を導くためにその上に置かれる修飾句である。序詞の部分は自然描写であることが多く、和歌の主意とは直接関わりがない。序詞は、一般的に次の三つに分類することができる。

### 序詞

多くは初句から始まり、七音節以上である。ここでは、傍線部(序詞)が波線部の内容を導いている。

1 「の」(比喩。ののように・ののような)で終わるもの。

あしひきの 山鳥の尾の しだり尾の 長々し夜を ひとりかも寝む

2 序詞の直下が掛詞となるもの。

風吹けば 沖つ白波 龍田山 夜半にや君が ひとり越ゆらむ  
立つ

3 同音・類音が反復するもの。

みかの原 わきて流るる いづみ川 いつ見きとてか 恋しからむ

③の説明は、右のどの形にもあてはまらず、また、「いきで来て」が表現すべき心情であることから、「来し方の生の松原いきで来て」が「古き

の序詞とは言えないとわかる。③は修辞法についても誤りである。

最後に、Cの和歌を見てみよう。「そのかみの／生の松原／いきで来て／身ながらあらぬ／心地せしかな」と句に分けられ、句切れはない。「そのかみ」は「その当時・その昔」の意の名詞、「いきで」はBの和歌と同じく「行きて」と「生きて」の掛詞となっている。「身」は「自分・わが身」の意の名詞、「ながら」は接続助詞で、ここでは逆接で訳出する。「あら」はラ行変格活用動詞「あり」の未然形、それに接続している。「ぬ」は打消の助動詞「ず」の連体形であり、ここでは「あらぬ」の形で「別の・他の」と訳出する慣用句となっている。「せ」はサ行変格活用動詞「す」の未然形、「し」は過去の助動詞「き」の連体形(過去の助動詞「き」はサ変・力変には未然形にも接続するので注意しよう)、「かな」は詠嘆の終助詞である。これらを踏まえて解釈すると、

その昔、あなたは「生の松原」に行き、その名の通りに生きて戻って来たが、その当時はわが身ながらわが身でないような気持ちがしていたことだ。

となる。この和歌は、やっと夫の帥殿と対面できた妻が詠んだもので、「わが身ながらわが身でない気持ち」とは、妻の気持ちをさす。「その当時」とは、帥殿が筑紫に流された当時のことであるから、妻が感じた「わが身ながらわが身でない気持ち」とは、「夫と離れていることが現実とは思えず、悲しみのあまり何もわからなくなる気持ち」を表していると考えられる。以上のことから、④は、「いきで」に「行きて」と「生きて」が掛けられているというの正しいが、詠まれている趣旨が「帥殿の姿が昔とはまるで別人のようだ」と、その配流先での苦労を思いやる気持ち」というのは誤りである。⑤は、「自分もともに筑紫に行きたいと涙した」が和歌の趣旨とは違い、また「これからはずっと一緒にいられると安堵する気持ち」も読みとれない。したがって、⑤も誤りである。また、⑥で修辞法として問われた「縁語」は、ある語に関係のある語を和歌中で意識的に用

#### 問4 和歌の説明問題

和歌に関する問題は、センター試験の古文において頻出である。和歌の解釈や趣旨、そこに込められた心情などに加えて、修辭法などの表現方法が問われることもある。枕詞・序詞・掛詞・縁語といったものがどういうものかを一通り学んでおくことが必要である。

今回は、三首の和歌の修辭法と和歌の趣旨について問うている。和歌は、内容抜きに技巧だけがあるわけではない。和歌そのものを十分に分析・吟味し、それに加えて、その和歌を、誰が、どのような状況で詠んだのかを押さえていかななくてはならない。ここは、筑紫に配流されていた帥殿がようやく帰京し、致仕の大納言邸で、妻と成長した息子の松君に対面した場面であり、その時に詠まれた帥殿と妻の和歌である。

まず、Aの和歌について考えてみよう。

和歌は、「五／七／五／七／七」と句ごとに分け、まず句切れ（最終句を除く各句の末に終止形・命令形・係り結びの結びの語・終助詞などがあり、そこで文意が切れているとみなせる箇所）があるかどうかを確認してから、解釈するとよい。Aは「浅茅生と／荒れにけれども／ふる里の／松は木高く／なりけるかな」と句に分けられ、句切れはない。「浅茅生」は「浅茅（浅い茅）の低い茅。茅とは雑草の一種」の生えるような荒れた所」の意の名詞、「荒れ」はラ行下二段活用動詞の連用形、「木高くなり」は、ク活用形容詞「木高し」の連用形とラ行四段活用動詞「なる」の連用形、二句と五句の「に」は、ともに連用形に接続しているので、完了の助動詞「ぬ」の連用形、それに接続している「けれ」・「ける」は過去・詠嘆の助動詞「けり」の已然形と連体形、「かな」は詠嘆の終助詞である。これを踏まえて直訳すると、

浅茅の生える野原となり荒れてしまったけれども、ふるさとの松は高くなつたことだなあ。

となる。荒れてしまったのは、前述の状況から考えると「致仕の大納言邸

の庭」となり、意味は一応通る。しかし、この和歌が帥殿の心情を訴えるものである以上、そのことを踏まえて解釈する必要がある。和歌は、帥殿がようやく帰京し、妻と息子の松君に対面した直後に詠まれている。選択肢②に「掛けられており」とあるのは、「掛詞」のことだが、「掛詞」は、同音異義語を利用し、一語または語の一部に二つの意味を持たせる技巧であるから、和歌中の「松」に「松君」を掛けているのではないかということが推測できる。このことから、下の句を解釈してみると、

松が高く生長したように、わが子、松君も成長したことだ。

と、「松」に「松君」の意味を持たせて訳出でき、息子松君の成長への感慨を詠んだ和歌であることがわかる。感動の中心はこの「松君の成長」という点であり、①の「松もずいぶん高く伸びたものだ」と、自分が邸を留守にしていた時間の長さにあらためて驚く気持ちを詠んでいる」という内容では不十分で、誤りだといえる。また、④では「枕詞」についても言及されている。「枕詞」とは、ある特定の語句を導き出すために用いられる五音節の修飾句であり、文意に関わらないので訳出する必要はない。ここでは、「浅茅生と」が「荒れ」の枕詞とあるが、「浅茅生」は荒れた場所を表す語で、この和歌では「浅茅の生える野原となり…」と訳出する必要がある。この「枕詞」とは言えない（但し、「浅茅生の」であれば、「小野」を導く枕詞である）。⑤は修辭法の点でも誤りといえる。⑥は、前述の通り「松」が「松君」の意を掛けており、内容的にも適切である。

次に、Bの和歌を考えてみよう。「来し方の／生の松原／いきて来て／古き都を／見るぞ悲しき」と句に分けられ、句切れはない。「来し方」は「過ぎてきた方向」と「過去」の意をもつ名詞、「いきて」は、直前に帥殿が行っていた筑紫の地名である「生の松原」があることから、「帥殿が、筑紫に行つて、生きて帰京した」と解釈でき、「行きて」と「生きて」が掛詞であるとわかる。「悲しき」はシク活用形容詞「悲し」の連体形で、強意の係助詞「ぞ」の結びとなっている。以上のことを踏まえて解釈する

ふ」のかということである。「せ」は助動詞「す」の連用形であるが、問1のイ・ウで述べた「させ」と同様、使役と尊敬の意を持つ。この場合は直下に尊敬の補助動詞「給ふ」を伴っているため、どちらの意の可能性もあり、「せ」が使役ならば「大貳が帥殿を上京させなさる」、尊敬ならば「帥殿が上京なさる」と考えられるが、ここでは使役の対象が書かれておらず、また、本文2行目にある大貳の動作「申しければ」には尊敬語が用いられていないのに対し、帥殿の動作には常に尊敬語が用いられている。すると「上らせ給ふ」の主体は、「大貳」ではなく、「帥殿」だと判断され、傍線部は「帥殿がこうして上京なさる」の意であるとわかる。

次に、それに至るまでの経緯を考えていこう。冒頭から傍線部の直前までの箇所に注目すると、「帥殿、急ぎ立たせ給へども、大貳の、『このごろ過ごして上らせ給へ。道のほどいと恐ろしう侍り。御送りに参らむ下人なども、いと不便に侍らむ』など申しければ、げにと思しめして、心もとなく思しながら、立ちどまらせ給ひて、世の人すこし病みさかりて上らせ給ふ」という一文がある。この末尾に「上らせ給ふ」と、傍線部と同様の表現があることから、この文に具体的な状況の経過が述べられていると考えられる。ポイントとなるのは、「不便に」「げに」「心もとなく」である。

不便なり（ナリ活用形容動詞）

- 1 不都合だ。困る。
- 2 かわいそうだ。気の毒だ。
- 3 かわいい。

げに（副詞）

- 1 なるほど。いかにも。本当に。（他人の言葉に賛成、共感する）
- 2 まったく。実に。（程度を強調する）

心もとなし（ク活用形容詞）

- 1 気がかりだ。不安だ。

- 2 待ち遠しい。じれったい。

- 3 はっきりしない。ぼんやりしている。

帥殿は、「急ぎ立たせ給へども」、すなわち、上京を急ぐけれども、大貳から「このごろ過ごして上らせ給へ。道のほどいと恐ろしう侍り。御送りに参らむ下人なども、いと不便に侍らむ」と言われる。「下人」とは、ここでは都まで帥殿を送っていく召使いのことであるが、病が流行しているなかで上京するのは、道中で病にかかるかもしれない、その召使いたちにとっても「いと不便に侍らむ」というのだから、この「不便に」は前記1の「不都合だ・困る」の意であると考えられる。帥殿のみならず、送っていく者にとっても不都合な状況だということである。そして帥殿は、その言葉に対し「げに」と思う。「げに」は前記1の用法で、帥殿は、その忠告に対し、「いかにも」と納得したのである。そうはいうものの、上京を急いでいたのだから、帥殿は「心もとなく」感じる。その流れから考えると「心もとなし」は前記2の「待ち遠しい・じれったい」の意がふさわしい。帥殿は、大貳の忠告を受け入れ、じれったく思いつつとどまって、そして（注3）にあるように、病が沈静化してから上京したのである。この直前部分が正しく述べられているのは③だけで、正解は⑤となる。

①と②は、帥殿の上京の経緯を大貳の側から述べた形になっている。大貳は、上京を急ぐ帥殿を「道中が危険だし、召使いにも不都合だから、病の流行をやり過ごしてから上京なさい」と忠告してひきとめた、ということまでは言えるが、それ以上のことは本文からは判断できず、①は「帥殿がいらいだつ様子を恐ろしく感じて、やむなく出立を許可した」、②は「しっかりと召使いにお供をさせれば大丈夫だと、自らの不安を押し殺して」が誤りとなる。③は「大貳の説得に耳を貸しなくなかったが、流人の立場では逆らうこともできず」、④は「祖父が赤瘡で亡くなったという知らせを受けて、葬儀に駆けつけるために、急いで出立した」がそれぞれ誤りである。

て「いかで」は前記3の「どうかして・なんとかして」の意になり、また、将来に向けての計画を述べていることから、「今」は前記4の「近いうちに」ととらえるのがふさわしく、すると、正解は⑨の「なんとかして近いうちにそこに御堂を建てさせよう」であるとわかる。この傍線部のみを考えるなら、⑩の「どうやってこの先そこに御堂を建てさせるのだろうか」と訳すこともできるが、直下の「思し掟てける」と内容的につながらないので不適切である。

## 問2 文法問題

センター試験の古文の問2では、ほぼ毎年、文法問題が出題される。語の識別が中心であるが、敬語に関する問が出題されることもある。基本的なものばかりなので、確実に解答できるよう練習しておこう。今回は「に」の識別を出題した。

「に」は多様な識別を要する語であるが、今回は、選択肢で扱った「完了の助動詞・断定の助動詞・格助詞・形容動詞の一部」について確認しよう。

### 「に」の識別

- 1 完了の助動詞「ぬ」の連用形  
↓連用形に接続し、直下に助動詞「き」「けり」「たり」「けむ」が続く。
- 2 断定の助動詞「なり」の連用形  
↓連体形・非活用語に接続し、下に補助動詞の「あり」「おはす」「侍り」「候ふ」などを伴うことが多い。「ゝにあり」で「ゝである」と訳出する。
- 3 格助詞  
↓体言・連体形に接続し、「に」を訳出する。
- 4 ナリ活用形容動詞の連用形活用語尾  
↓上の語が、物事の状態や性質を表している。

### a 「失せにけり」

直上の「失せ」は、サ行下二段活用動詞「失す」の未然形か連用形と考えられるが、未然形に接続する「に」は存在せず、また直下に過去の助動詞「けり」があることから、この「に」は前記1の完了の助動詞だとわかる。

### b 「いかに思すにか」

直上の「思す」は、サ行四段活用動詞「思す」の終止形か連体形と考えられるが、終止形に接続する「に」は存在しないので、前記2の断定の助動詞「なり」の連用形、3の格助詞のいずれかと判断される。「に」の直下に係助詞「か」があるが、この「いかに思すにか」は、前後に読点があり、作者の感想などをはさみこむ挿入句となっていて、「か」の結びにあたる語を含む部分は省略されている。このような「結びの省略」の場合、一般的には、ラ行変格活用動詞「あり」に推量の助動詞が接続した「あらむ」が省略されていると考えられるが、こもそれに該当し、このような場合における「に」は、格助詞ではなく、断定の助動詞である。省略された部分を含め、前後の文脈と合わせて訳してみると、「松君も、どのようなにお思いになるのであろうか、目をこすりなさり」となり、内容的にも適切ななので、この「に」は断定の助動詞だとわかる。

### c 「桜本に詣らせ給ふ」

体言である「桜本」に接続しているので、前記2の断定の助動詞「なり」の連用形、3の格助詞のいずれかと判断されるが、下に補助動詞の「あり」などがなく、また、「桜本にお参りなさる」と訳出できるので、この「に」は格助詞である。

以上の検討から、正解は⑩である。

## 問3 経緯の説明問題

傍線部「かくて上らせ給ふ」に至るまでの経緯を説明する問題である。まず、傍線部を正しく確認する。その際のポイントは、誰が「上らせ給



(イ) 「え聞こえさせ給はず」

「え／聞こえさせ／給はず」と品詞分解される。

え (副詞)

(打消の表現と呼応して) できない。

聞こえさす (サ行下二段活用動詞)

- 1 申し上げる。(謙譲の本動詞)
- 2 (手紙を) 差し上げる。(謙譲の本動詞)
- 3 申し上げる。おゝする。(謙譲の補助動詞)

給ふ (ハ行四段／下二段活用動詞)

- 1 お与えになる。(尊敬の本動詞)
  - 2 くなさる。おゝになる。(尊敬の補助動詞)
  - 3 ます。ゝさせていただく。(謙譲の補助動詞)
- \* 1・2は四段で、3は下二段で活用する。

「聞こえさせ」は、副詞に接続しているので前記1か2の謙譲の本動詞だが、帥殿は帰京し、妻の父の邸宅を訪れているのだから、帥殿に手紙を「差し上げる」必要はなく、1の「申し上げる」の意と考えられる。「給は」は、四段活用の未然形で、動詞に接続していることから、尊敬の補助動詞と判断でき、「えゝず」の不可能の要素も加えて全体を直訳すると、「申し上げなすることができなくて」となり、正解は㊸だとわかる。帥殿の妻が、「何も申し上げなすることができなくて、ただ涙にむせんで(帥殿に)会い申し上げなさる」と解釈するのは、文脈にも合う。ちなみに、「聞こえさせ」を「聞こえ／させ」と品詞分解し、「させ」を使役・尊敬の助動詞「さす」の連用形だと考えることも可能であるが、今回の選択肢には「させ」を使役の意で訳出しているものはないため、ここでは尊敬の意と解すればよい。また、ヤ行下二段活用動詞「聞こゆ」に「申し上げる」

の意があることから、「聞こえ／させ／給ふ」と品詞分解して二重尊敬で訳したとしても、「申し上げなさる」となり、やはり正解は㊸でよい。

(ウ) 「いかで今はそこに御堂建てさせん」

「いかで／今／は／そこ／に／御堂／建て／させ／ん」と品詞分解される。

いかで (副詞)

- 1 どうやって。どのようにして。どういうわけで。(疑問)
- 2 どうしてゝか、いやゝない。(反語)
- 3 どうにかして。なんとかして。(願望)

\* 1・2は推量表現と呼応することが多く、3は意志や願望表現と呼応する。

今 (名詞／副詞)

- 1 現在。
- 2 新しいもの。
- 3 すぐに。ただいま。
- 4 近いうちに。まもなく。
- 5 さらに。もう。
- 6 新しく。今度。

\* 1・2は名詞で、3ゝ6は副詞である。

多義語である「いかで」「今」を考える前に、「させ」「ん」の二つの助動詞の意味を確定させよう。「させ」は(イ)でも述べた、使役・尊敬の意を持つ助動詞「さす」の未然形であるが、今回のように直下に「給ふ」「おはします」などの尊敬語を伴わない場合は、使役の意となる。「ん(む)」は「推量、意志、適当・勧誘、仮定・婉曲」の意をもつが、今回は直下に「とぞ、思し掟てける(Ⅱと、お心に決めなされた)」という表現があることから、意志だと考えられる。「ん」が意志だとわかれば、それと呼応し

との（＝住みなれた家の）松は高くなったことだなあ。（わが子、松君も成長したことだ。）

また、帥殿、

これまで住んでいた筑紫にあった、「生の松原」の名の通りに、そこに行ったらどこ生きて戻って来て古い都を見ると（さまざまな思いが去来して）せつないことだ。

とおっしゃると、奥方、

その昔、あなたは「生の松原」に行き、その名の通りに生きて戻って来たが、その当時はわが身ながらわが身ではないような（悲しい）気持ちを感じていたことだ。

とおっしゃる。「何はともあれ中宮の御所へ参上しよう」と言って、急いでお出かけになるにつけても、奥方は、涙がこぼれなされる。

中宮定子は、単衣の御衣の袖もしぼるほどに（涙に濡れて）いらつしやる。「何事も落ち着いて（からお話ししましょう）」と（帥殿は）申し上げなされる。宮様たちが、それぞれにたいそうかわいらしくていらつしやるが、（帥殿は）一の宮（＝若宮）をまず抱き申し上げたいようにお願いになるけれど、「（身内の喪に服している間は）不吉なようにばかり、何かと思われまして（一の宮を抱くのは遠慮されます）」と申し上げなされる様も、やはりとても世の中は無常なもの、無事に誰もが命を長らえなされることだけが、本当にすばらしいことであつたとばかり、お見えになる。亡き母上の御事を繰り返し申し上げなすつては、誰もがたいそうお泣きになる。何事につけても流れる涙は同じだというようにお見えになるのも、感慨深くお見えになる。

そのころ吉日を選んで、亡き母上のお墓を拜むために、帥殿と、中納言は、一緒に桜本にお参りなされる。しみじみと悲しくお思ひになって、（母上が）生きていらつしやつたならば（どんなにかよかつただろうに）とお思ひになるにつけても、涙にむせびなされる。ちょうどその時、雪が激しく降る。中納言、

ほんの少し色香を残して散ってしまった（母上のような）この桜本の桜

の木の根元を見るのが悲しいことだ。

帥殿、

桜本の墓に降る淡雪を桜の花のように見て、その枝を折るにも涙で濡れる袖がいつそう雪で濡れることよ。

何事もしみじみと（墓の中の母上に向かって）申し上げておいて、（帥殿と中納言は）泣く泣くお帰になる。なんとかして近いうちにそこに（母上を弔う）御堂を建てさせようと、お心に決めなされた。

### 【設問解説】

#### 問1 短語句の解釈の問題

センター試験の古文の問1では、短語句の解釈が三つ出題される形式が定着している。短語句の解釈についての設問は、多くの大学入試問題にみられるが、センター試験では特に古語の意味や文法・語法に基づいた正確な解釈が求められる。まずは古語の基本的な意味や文法的知識をしっかりと押さえ、その上で文脈判断をすることが肝要である。

#### ア 「若宮の御験」

「若宮／の／御験」と品詞分解される。

#### 験（名詞）

- 1 靈験。ご利益。
- 2 ききめ。効果。かい。
- 3 前兆。（この場合は「徴」とも表記される）

語の意味がわかっていれば、①の「お言葉」、②の「お許し」、③の「栄達」、④の「ご幸運」は間違いだ判断できるが、文脈を確認すると、帥殿が「かくて上らせ給ふも、ただ若宮の御験」だとある。前書きに、帥殿が罪を許されたのは若宮誕生という慶事によるとあることから、帰京は「若宮誕生」がもたらした「効果」であると解釈でき、「験」は前記2の意で、訳語としては②の「おかげ」がふさわしいとわかる。

伊周の父である関白藤原道隆亡き後、様々な出来事があり、権力は父の弟の道長に移っていた。そんな中、伊周が事件を起こす。伊周は、藤原為光の三女のもとへ通っていた。花山院は、為光の四女に求愛をしていたのだが、伊周は、花山院が自らの通う三女に恋慕していると誤解し、弟の隆家とはかつて、花山院に矢を射かけた。また、伊周が、臣下には禁じられている秘法を行ったり、一条天皇の母で、自身の叔母にあたる詮子を呪詛しているという噂が流れたこともあり、それらの処罰として、翌長徳二（九九六）年、伊周は筑紫に、隆家は出雲にそれぞれ配流されることと決まったが、詮子が二人の罪を軽減するよう道長に訴えたこともあって、伊周は播磨、隆家は但馬と、当初の配流地よりは都に近い土地に留め置かれることになった。ところが同年の秋、伊周は、病の重くなった母を心配するあまり、ひそかに都に戻り、母と妹の中宮定子に直面する。そのことが露見し、あらためて筑紫へと配流されてしまった。この配流の間に都では、母の逝去、中宮定子の脩子内親王出産、再びの懷妊、そして敦康親王出産と、たて続けに凶事、吉事が起こる。そして敦康親王の誕生により伊周・隆家はともに罪を許され、長徳四（九九八）年四月、帰京の運びとなった。

ここからが本文の場面となる。

【第一段落】 同年五月に但馬から帰京した隆家に続き、伊周も帰京を急ぐが、折しも、筑紫では赤瘡（あかがさ）（Ⅱはしか）が大流行していた。当時は、死を覚悟するような病である。伊周は、大式の忠告もあり、じれったく思う気持ちを抑えながら、病が静まるのを待ち、陸路で上京する。都では伊周の近親者たちが伊周の帰京を待ち望んでいた。

【第二段落】 十二月、伊周は都に戻った。妻の父である大納言の邸宅に入り、妻や成長した息子の松君との対面を果たし、無事に帰京できたことを感慨深く思う。

【第三段落】 その後すぐに、中宮定子の御所に参上し、中宮定子とその子の宮たちに対面し、まず自分の恩人ともいべき若宮を抱こうとするが、喪中の身であることから遠慮する。中宮定子と伊周は、生きて再会できた喜び

と母の死への悲しみからひどく涙を流すのであった。

【第四段落】 伊周は、吉日を選び、弟の隆家とともに桜本にある母の墓所を訪ね、兄弟は、母が生きていてくれたならどんなによかったかと涙を流し、その死を悼む和歌を詠む。そして、母の菩提を弔うための御堂を建てさせようと心に決めるのだった。

#### 【全文解釈】

あの筑紫では、赤瘡の流行がそちら（Ⅱ筑紫）でもたいそうひどいので、帥殿は、（上京の準備を）急いでなさるけれども、大貳が、「この時期をやり過ぎて上京なさいます。道中がたいそう恐ろしいですよ」（都まで）お見送りに参上する召使いなども、たいそう都合が悪いでしょう」などと申し上げたので、（帥殿は）いかにもとお思いいなつて、じれったくお思いいなつて、とどまりなさつて、世の人が少し病から遠ざかつて（Ⅱ病の流行が静まって）上京なさる。この間に、（祖父の）二位が、この瘡で亡くなつてしまった。たいそうしみじみと悲しいことばかりである。こうして上京なさるのも、ひたすら若宮（ご誕生の）のおかげだと、しみじみとうれしくお思いいながら上京なさる。陸路をとっているの、もう到着なさつたのだらうとばかり、（都にいる近親者たちは）早く（会いたい）と待ち申し上げなさる。

十二月に都に到着なさり、あの致仕の大納言邸にお着きになった。（帥殿の）奥方をはじめとし申し上げて、邸の中の人々は、喜びの涙が不吉なほどはなはだしい。邸の様子など、昔とは違いすっかり寂しく荒れてしまつていた。奥方も、何も申し上げなさることができなくて、ただ涙にむせん（帥殿に）会い申し上げなさる。松君が、たいそう大きく成長なさつたのを（帥殿は）撫でて、たいそうお泣きになるので、松君も、どのようにお思いいなるのであろうか、目をこすりなさり、とてもうれいとお思いいなつているのも、しみじみと感慨深くもつともなことである。帥殿、

（邸の庭は）浅茅の生える野原となり荒れてしまつたけれども、ふるさ

そして彼らとのやりとりを通して「田中」は外国文学者としての自分のありように思いをめぐらせていくのである。したがってこれが二つ目の正解である。

⑥について。本文では「真鍋」の「芸術観」に対して、「小野」と「田中」の「芸術観」を一組にくくれるものとして「対照的」に描いてはいない。特に「小野」が芸術や創作についてどのような考えを持っているのかは具体的には何も書かれていないので、「小野」の「芸術観」の内容もわからない。したがってそれにより「作品世界に重層性をもたせている」とも言えない。

### 第3問 古文

#### 【出典】

『栄花物語』 巻第五・浦々の別

成立 全四十巻のうち、正編三十巻は一〇三〇年頃、続編十巻は一〇

〇年頃に成立したかとされるが未詳。

ジャンル 歴史物語

作者

正編は赤染衛門、続編は出羽弁とする説や、全編を赤染衛門とする説があるが未詳。

内容

歴史物語の最初の作品で、五十九代宇多天皇から七十三代堀河天皇までの十五代、約二百年間の歴史を編年体（年次順に記す形式）で記しているが、史実と一致しない内容もある。物語の中心は、藤原道長が権勢の座につくまでの経過とその後の繁栄の記述で、紫式部の『源氏物語』の影響を色濃く受けているため、物語性は豊かであるといわれるが、道長礼讃に終始し、批判精神に欠けるともいわれる。同時期に成立した歴史物語の『大鏡』も、ほぼ同じ時代のことを扱っているが、紀伝体（人物の伝記を記す形式）で記されている点や、大宅世継と夏山繁樹という二人の老人の回想に若侍が応じるという形をとり、複数の人物の視点によって登場人物や時代への批評がなされる点など、『栄花物語』とは異なる部分が多く、両書はよく比較される。

今回の本文は、小学館刊『新編日本古典文学全集』に拠るが、読解の便宜を図って、諸本に拠り、一部表記を改めるなどしている箇所がある。

#### 【本文解説】

今回の本文は、長徳元（九九五）年、花山院に矢を射かけ、それがきっかけで筑紫に配流されていた藤原伊周が、罪を許されて帰京を果たす場面である。

まず、本文に至るまでの場面を説明しておこう。



他人の作品を口まねしているに過ぎないという「真鍋」の指摘は事実であると感じてもいる。「田中」は「創る」ということをめぐって、外国文学者である自分のあり方がわからなくなっている。(c)

以上のポイントを踏まえて選択肢を検討していくと、③がこれらすべてを的確に説明しており正解となる。

①は、「真鍋」が「日本の文壇でしか通用しない論理を振りかざ」しているという点が本文からは読み取れず、また、「研究者としての自分が……と決意を固めている」としている点が、本文の末尾で「田中」に迷いが生じていることと矛盾する。

②は、「自分は小説を書く才能がないと痛感し」て、「それまで完全には諦めきれずにいた創作の道を断念せざるを得ない」と考えたとしている点が、本文の内容とは異なっている。「田中」は学生時代に小説家を志した時期があったというだけで、この時「創作の道を断念」したわけではない。

④は、「真鍋」について「毎月作品を雑誌に載せることに汲々(＝一つのことだけに精力を奪い取られて、他のことを顧みる余裕のない様)としている」としている点が、本文から確定できない。むしろ「田中」は、臨終まで創作に全身全霊を傾けたブルーストに比べ、「真鍋」が毎月雑誌に載る程度の作品を軽く量産していると考えているのである。また、「自分は、文学に携わる資格がないのではないかと自問し」ているのではなく、外国文学者としての自分がどうあるべきなのかわからなくなっているで、この点も間違いである。

⑤は、「真の創作者とは言えない」「真鍋」より、「研究者として世界的な傑作を翻訳することに取り組む自分の方がよほど文学の発展に寄与している」と自負している」という点が間違い。④と同じく、「田中」が外国文学者としての自分のありようが見えなくなっていると述べている本文の内容とは全く異なっている。

## 問6 本文の内容と表現について答える問題

近年の大学入試センター試験では、(本文の内容や表現) についての説明を求める設問が頻出している。本文と照らし合わせながら、選択肢を丁寧に吟味して、正誤を判断していこう。

①について。確かに「真鍋」は「君」「あなた」「貴様」と「田中」に対する呼び方を変えているが、そのことが「真鍋の田中に対する評価が大きく揺らいでいる」ことを示しているわけではない。「真鍋」は一貫して外国文学者の存在を認めてはならず、呼称の変化を評価の揺らぎと結びつける根拠はない。

②について。そもそも「擬人法」とは、人でないものをあたかも人のようにたとえる比喩の一種である。ここでの「九官鳥のように」や「ずっとサムライだな」という表現は「田中」を他のものにたとえて言われたものである。だから「擬人法を用いて」いるわけではない。

③について。「文学的な議論にはまったく無関心な画家たちの姿が表れている」としている点が間違い。彼らは「田中」が「真鍋」と話していた時「田中」のことを注視していたし、「真鍋」の言い分に同意して「田中」を冷笑したり、「田中」の抗弁を敵意のこもった眼で見たりし、「田中」が怒鳴り声をあげてからはよそよそしい態度をとるなど、終始、「田中」と「真鍋」のやりとりに注意を払っていた。

④について。「向坂」だけが他の日本人とは異なった態度で「田中」に接していた【本文解説】Ⅱの場面を思い出してみよう。「向坂」は「気にしなさんな」と声をかけている。その流れの中で「あなただけじゃないですよ」という言葉には、苦境にある「田中」を慰める意図があっただろうし、またその言葉は「自分に言いかけせるように」発せられたのであり、それが「パリで留学生を送ることの難しさを痛感している向坂自身のありよう」を表していると言うことができる。これが「一つの正解」である。

⑤について。本文には「小野」「真鍋」「若い画家たち」と、「様々な立場から芸術に関わっている複数の人物を主人公の周囲に配置」している。

「田中」に酒に酔った「真鍋」の相手をさせることに成功している。

「田中」と「真鍋」の言い争いで一座が白けた時には、「真鍋」の機嫌を取り持ち、次の店に行こうと提案して、その場を取り仕切っている。そのことを「向坂」は「田中」をかばうためだと言ったが、「田中」自身は彼の不快そうな冷やかな視線を感じており、その場を取り繕うための行動だと考えている。また、次の店で「小野」は、自分のことを批判して、「真鍋」や若い画家たちの機嫌を取り、うまく立ち回っているだろうと、「田中」は想像している。

ここでのポイントを整理しておこう。

a 自分の優位を確保して示そうとしている

b 手を焼いていた人間の相手をうまく他人におしつけている

c その場の空気を察知して、対処している

以上の三点をきちんとまとめている④が正解である。「権威的な振る舞いを見せる」がa、「周囲の雰囲気を感じ取る」がc、そして「巧みにその場を取りしきる世知に長けた面もある」がbのそれぞれのポイントに当たる。なお、「世知」とは〈世渡りの知恵〉と言う意味である。

⑤は「小野」が「自らの体面を何よりも大切にしたい」という点や、「自分の権威を見せつけるために」「後輩を利用することも辞さない」という点が、本文からは読み取れない内容となっている。また、b・cのポイントを踏まえ、ただ単に「利己的な人物」としている点も不適当である。

②は、「小野」の態度を「居丈高（＝人を威圧するような態度）」としている点だが、まず間違い。「小野」は「鷹揚に」振る舞って自分の優位を強調してはいても、威圧的に振る舞ってはいない。さらに「後輩をかばうような優しいところのある人物」という説明も、「田中」が「小野」の冷たい視線を感じ、次の店で自分を批判していることを踏まえると、適当とは言えない。

③は、「自分の認めた相手には安易に迎合する（＝相手の意向を汲んでそれに合わせる）」、「意に染まない相手に対しては必要以上に厳しく当たる」という内容が本文からは読み取れない。「小野」が「真鍋」のことを認めているかどうかはわからないし、「田中」についても、その出すぎた振る舞いを見て冷たく突き放したことは読み取れるが、それをもって「好き嫌いの激しい人物」とするには無理がある。

⑥は、「日本の芸術を発展させる」という目的意識を持って「研究者と芸術家との間を巧みに取りもとうとする」としている点が本文からは読み取れない。「小野」が芸術家に対してどのような態度を取っているかはわからない。なお「老成した」とは〈経験を積んで大人びていること〉という意味。

#### 問5 傍線部における人物の「内面」を説明する問題

傍線部は「田中」の心の声である。心の中でこの台詞を発した時の「田中」の内心を説明することが求められている。

まず、傍線部の指示語「それ」の内容を確認しよう。作家プルーストの臨終にまつわるエピソードを思い出した「田中」は、死の間際まで創作に執念を燃やして苦闘した姿を思い、「それ」こそが「創る者」の真のありようだと感じている。(a)

「創る者」とは、キャフエで「真鍋」が口にした言葉である。「真鍋」は自分たち小説家は「創る者」であり、辛さや苦しみを味わいながら「体を張って」創作と格闘していると誇っていた。しかし「田中」はそんな「真鍋」について、「毎月の文芸雑誌にのるあなたの作品の辛さとは一体なんですか」と一人叫んでいる。プルーストの苦闘に比べ、「三流作品」を毎月量産している「真鍋」などは「創る者」とは言えないと考えているのである。(b)

しかし「田中」は、創作を断念した劣等感をぬぐい去ることはできず、また外国文学者として傑作の翻訳に取り組もうとは考えているが、それが

と言われ、「自分の声が興奮のために上ずっていく」のに気づいている。そして周囲の視線を意識しながらも、「懸命に」抗弁をしていた。そしてそこで言うてはならない一言、つまり、「日本の小説家はフランスの一流にはとうてい及ばない」と言ってしまう。

さらに、「翻譯」者は「九官鳥」さながら口まねをするだけなのに、そのことの哀しさを感じていないと「真鍋」に言われて、「田中」は「高い声で怒鳴っ」てしまう。この時一座が静まりかえり、自分が座を白けさせてしまい、さらに「出すぎた」まねをしたことに気づくのである。まずは、「田中」が知らず知らず興奮して口にしてはならなかったことを言ってしまったことをおさえておこう。

それでは、この場でうまく振る舞えなかったことを、どういう点で「失敗」だと捉えているのか。傍線部の直後に、「巴里に到着早々、俺はここ日本人たちの前で出すぎたまねをした」とあることに注目しよう。「田中」は留学生の「向坂」に連れられて「日本人が集まるというキャフェ」であるこの店にきた。そこにはこれから留学生生活を始める「田中」がうまくこの地になじめるようにという「向坂」の配慮があったと考えられる。しかし、この時「田中」は「出すぎたまねをした」。新参者としての分を守り、「真鍋」らパリでの生活の先輩たちの話を大人しく聞き、この場で無難に振る舞えばよかったのに、言わずもがなのことを口にし、「小野」をはじめとして居合わせた人々の不興をかってしまった。「小野」や「若い画家たち」の当惑や敵意に気づいていながら、感情的に振る舞ってしまったことで、今後周りの日本人たちと自分の関係に悪影響を及ぼすことが察せられ、後悔していると考えられる。

ここでのポイントをまとめてみよう。

a 留学してきたばかりの「田中」にとって、当地の日本人社会とうまくつきあうことは大切である

b 「真鍋」の挑発するような言葉をうまく受け流せず、次第に興奮して

本心を口にしてしまった

c 新参者の分を越えて生意気なことを言い、先住者たちとうまく関係を築けなかった

d その失敗を後悔している

以上の四点を的確に踏まえている①が正解である。

②は、aやcのポイントに触れていない点で不十分である。また、「有名な小説家である真鍋と親しくなる好機だった」という点が本文からは読み取れない。

③も、②と同様にaやcのポイントが説明されていない。また、「パリに来てまで日本にいた時と同じように不毛な文学談義に熱中する周囲の者たちに苛立」つという点が本文からは読み取れない。失敗の内容を「結局は妥協し握手までかわしたことに限定している点もおかしい。

④も、aやcのポイントから外れているうえ、「田中」に「芸術についての自分の考えを冷静に論じるつもり」があったとしている点、そして「論敵に付け入る隙を与えてしまい、言い負かされたこと」を失敗の内容としている点がそれぞれ間違っている。

⑤は後半の「他の誰よりも大切にすべきだった先輩の小野との関係を損ねてしま」ったとしている点が本文の内容から確定できない内容となっている。確かに「小野」との関係についてⅢの箇所「田中」は悩んでいる。しかし、「小野」との関係が「他の誰よりも大切にすべきだった」とまでは言えない。

#### 問4 本文全体から人物像を読み取る問題

この設問には傍線が引かれていないので、「小野」がどのような人物として描かれているかを本文全体から読み取らなければならない。「小野」が登場する箇所をチェックして、「小野」という人物を正確に把握しよう。まず冒頭での「小野」であるが、自分が「田中」より「二階級上だ」ということを示すために鷹揚に振る舞っている。さらにうまく立ち回って

という意味。したがって③が正解である。残りの選択肢には〈困り果てる〉という意味がないので除外できる。

(ウ)「白けた空気」では、「白ける」の意味が問題となっている。「白ける」とは〈興が醒める・盛り上がっていた気分を水を差される〉といった意味であり、②が正解である。①・④・⑤には〈面白がり盛り上がっていたのにその雰囲気なくなるといったニュアンスがない。③についても、「落ち着いた」だけでは、それまでであったその場の盛り上がりが消えていくというニュアンスがないので間違いである。

## 問2 発言を踏まえて人物像を説明する問題

傍線部は、「真鍋」が外国文学者を批判して発した言葉である。設問は「このように言う『真鍋』について問うている。したがって、この傍線部だけを見るのではなく、このような発言に至った『真鍋』の考えや人物像を丁寧に確認して行くことが必要である。

まず、「真鍋」は自らを作品を「創る者」、「田中」たち外国文学者を「創らない者」とあると言っている。その上で、「創る者」である小説家は作品に「体を張つ」ているのに対し、外国文学者は「他人のフンドシで角力をとつて」とその違いを述べている。【本文解説】でも触れておいたように、「真鍋」には、自分たち小説家はその作品の創造に全身全霊を懸けて格闘しているという誇りがあるのである。一方で「創らない者」すなわち外国文学者については、人の作品を無責任に批評しているだけであると見下している。そして、傍線部にあるように、そのような外国文学者に、全身全霊を懸けて創作している者の苦悩は理解できない、と言うのである。

以上の点を踏まえてこの発言について整理しよう。

a 「真鍋」には小説家として創作に全身全霊を懸けて格闘しているという自負(＝プライド・誇り)がある

b 「創る者」はその創作活動の中で「哀しみや苦しさ」を味わっている

c 「創らない者」は他人の作品を無責任にあれこれ批評しているだけである

d そのような「創らない者」に創作上の悲哀や苦悩は理解できるはずもない

こうした四つのポイントを踏まえている②が正解である。

①は、「真鍋」が「芸術の都パリに芸術とは無縁の学者ばかりが次々と留学してくることに苛立つ」としている点が本文中に書かれていない。また傍線部のような発言から「ただ外国文学を研究するだけでは留学する意味がない」という考えも読み取ることができない。

③は、「真鍋」が「日本文学の優越性を信じている」という点が本文とは矛盾する。「真鍋」は「田中」に自分がフランスの作家にはとうてい及ばないと言われた時に、「その酷評は素直に受けとるとしよう」と答えたことを考えると、「日本文学の優越性を信じている」とは言い難い。

④は、「芸術を享受する者」に対する希望や期待を述べている点で、間違っている。ここで「真鍋」は外国文学者を批判している点である。

⑤は、「真鍋」が「田中」など外国文学者について「人生経験の浅い人間」であると考えていたとは本文から読み取れないし、人生経験が浅いから「真の芸術はわからないと考えている」とも言えないので、間違いである。「真鍋」は「創らない者」には芸術を創作する上での苦悩や悲哀が理解できないと言ったのである。

## 問3 傍線部における心情を説明する問題

「田中」が「俺は失敗した。」と、自分の失態を自覚した時の心情を説明する問題である。設問に「この時の」とあるので、まずはこの時の状況を確認しておこう。

「田中」は「真鍋」とのやりとりを重ねるうちに、次第に興奮してきている。最初は遠慮がちに小声で話していたが、「真鍋」に「田中」たち外国文学者より「創る者」として格闘している自分たちの方が優越している



た「田中」の「つくらないという劣等感」は今も「全く消えていなかった」。誰もいない部屋で「田中」は「真鍋たち」に向かって叫ぶ。「毎月の文芸雑誌にのるあなたの作品の辛さとは一体なんですか」と。毎月出版される雑誌に載せられる程度の軽い作品を創っている「真鍋」が誇っていた「創る者の哀しみや苦しさ」などいかにほどのものか、というその反論は、しかし、創作をあきらめた田中の強がりに過ぎないともいえる。だからその声は誰にも届くことなく「空虚な部屋の中で消えて」いくしかないのである。

その時、「田中」は文豪ブルーストの臨終を思い出す。ブルーストはその生涯のほとんどを大作『失われた時を求めて』に費やし、結局その完成を遂げることなく亡くなった作家である。彼は「田中」が今いる、まさにこのホテルで、死ぬ間際まで大部の著作に手を入れ、自らが臨終間際に感じた苦しさを執筆中の作品に取り入れるために、死の床で女中に筆記させたという。

「田中」は思う。まさに命を懸けて創作に取り組んだブルーストのような生き方こそが「創る者だ」と。軽い作品を量産している「真鍋」とは違う、真の創造者であると思う。「田中」は、自分の部屋の壁に、ブルーストの執念が蝙蝠のような影としてこびりついているように感じた。この部屋で昨夜から自分が息ぐるしく感じてきたのは、そのようなブルーストの執筆に対する執念が記憶としてあったからかもしれない。

だが、そうやって身を削り命を懸けて創作された作品を、外国文学者はただ「九官鳥」として「口まねをして訳したり紹介している」だけだと言う「真鍋の酷評」が「田中」にはこたえる。なぜならそれが「多分に(1)たいいていの場合」、日本の外国文学者にとって事実だということを「田中」自身が知っていたからである。窓の外は、「城塞の厚い壁のように眼の前に立ちふさが」る闇だ。そして「この闇の奥に幾百、幾千のブルーストのようなさまざまな執念がひそみ、わめいているような感じ」を「田中」は抱く。「創るものの執念」を感じた「田中」は自分たち「外国文学者」にどのような存在意義があるのか、次第にわからなくなっていくのである。

この場面にいたって、「田中」がIの場面で興奮して小説家である「真鍋

と激論を交わした背景が明らかになる。

「田中」が「真鍋」に対してつい本音を吐露してしまったのは、

- ・ 創作を断念したが故に、創作者に対して劣等意識がある
- ・ 外国文学者がただ口まねをしているだけの存在であるというのは事実である
- ・ だからそれしかできない自分に対して、情けなさや悲しさを抱いている

という、「田中」自身の弱さをつかれたからであるだろう。

ここでは、先ほどのキャプエでの「田中」の言動の背景にある事柄や、同じホテルに滞在していた文豪の創作態度を思い出し、それに圧倒されて自分のあり方に迷いが生じてくるまでの「田中」の心情を丁寧に読み取っておこう。

小説の読解では、最後まで読んでみて初めて出来事の意味や心情が理解できることも多い。途中でよくわからないと感じる時も、最後まで一読して全体を理解していくことを心がけたい。

#### 【設問解説】

##### 問1 語句の意味を答える問題

大学入試センター試験の小説問題では、語句の意味を問う問題が必ず出題されている。これは基本的に〈辞書的な意味〉を問う知識問題である。

語句の辞書的な意味を確認したうえで、本文の文脈も踏まえながら、確実に解答するようにしよう。日頃から語句そのものの意味をきちんと理解していくように辞書を活用しながら準備しておきたい。

(ア)の「鷹揚」とは、【本文解説】でも触れたように「ゆったりと落ち着き払っている様子」だ。したがって①が正解である。他の選択肢はどれも「鷹揚」の語義から外れている。②の「ぞんざい」は「物事のやり方がいり加減であらうまい」という意味である。

(イ)「閉口する」は「どうにもならないで困る・どうにも手に負えない」

・日本の小説家（芸術家）はヨーロッパの芸術家と比べるとはるかに劣る  
・外国文学者である自分は、「九官鳥」的なあり方の悲しさや寂しさを自覚している

Ⅱ 「向坂」との会話（「どうも……あなたにまで迷惑をかけて」～「……眼をしばたきながら、うなずいた。」まで）

「田中」は「向坂」がわざわざ日本人の集まるカフェを紹介してくれたのに、そこでいきなり波風を立ててしまい、結果として紹介者である彼の顔に泥を塗るようなことをしてしまった。謝罪する「田中」に「向坂」は「（今の失態を）気にしなさんな。小野さんは君をかばっただけ」だからと慰めともとれる言葉をかける。ただ、「向坂」の見方と違い、「田中」は「小野」が彼をかばって「真鍋」を連れ出してくれたとは思っていない。「田中」のいない場所で彼のことを「困った」人間なのだと言って、自分の立場を守るために弁解してみせているだろうと想像している。先ほど「田中」が「小野」の不快そうな<sup>いちべつ</sup>瞥を見たことを思い起こそう。

「向坂」は、パリにいと誰かが「心身の疲れや、色々な人間関係のウルサさのために」「妙に神経が刺々しくなる」ものであり、それは「田中」だけのことではないと言う。「その上、外国にくると日本人同士には職業的な競争心や嫉妬心起きるのも、特徴」であるとして、「向坂」自身も「一番いやなのは、巴里の日本人のこの競争心」であり、自分は「一人で生活する」、つまりパリの日本人社会からは距離をおいて生活することにしたのでと言う。今「田中」が巻き込まれたのは、まさに文学や芸術に関わる職業意識をもつ日本人同士の競争心や嫉妬心からくるいさかいであった。それから離れて生活することもできる、という話を「田中」はそれでも「哀しそうに眼をしばたたきながら、うなずい」て聞いた。「向坂」はこの話を「自分に言いかけするように」呟く。彼にとっても自身が実感している留学生生活の難しさを改めて確認させられたことであったのだろう。

ここでは、それまで「田中」が話していた日本人たちとは異なる「向坂」

の考えや態度を読み取っておこう。

Ⅲ 自室での自問自答（「ホテルまで二人は……」～最後まで）

そのまま二人は黙って帰途につく。そして夜の挨拶だけを残して「向坂」も廊下に消えた。一人「とり残された」「田中」がたどりに着いた部屋は「暗い灯の中で」わびしく感じられた。パリ生活のスタートで大きな失敗をしてしまった「田中」には転がっていた風呂敷包みとトランクが「みじめに」見えた。「カフェでの失敗」の中でも一番気がかりなのは、同じ専門であり、これからもいろいろと交流を持つに違いない「先輩の小野に冷やかな眼で見られてしまったということ」である。さらに「限界をこえた振舞いを、前からここに居る日本人たちの前でやってしまった」自分がこれから「どういう眼でみられるかは想像できる」、つまり好意的に受け入れてもらえるとは思えない。今後の生活を考えると、大きな後悔の念が「田中」の心を苦しめる。

しかし、「田中」が「真鍋」に言った、「日本の現在の小説家は到底ヨーロッパの作家には及ばない」というのは、本心であった。彼は日本の小説家のほとんどを心中で軽蔑していたし、それは日本の外国文学者のほとんどに共通した感情でもある。ただその「正直な気持」は日本では決して口にはしないのが「外国文学者の習慣」であった。「小野」からすればその暗黙の約束事とも言えるべき習慣を破った「田中」の方に非があるということだろう。そんな失敗を犯してしまったのは、パリまで来た疲れから「自分の神経がとがっていたため」かもしれないと「田中」は自分を省みる。

一方で「なにも創らん者に、創る者の辛さがわかるかい」という「真鍋」の台詞は、「単純で愚劣」であると「田中」は考えていた。そして、その言葉に対して自分を抑えることができず、つい反論してしまった。冷静に自分を振り返ってみると、自分に「それを笑って聞きながらすほどの信念」がないことに気づく。さらにここで「田中」は、自分でも学生時代には小説家を志していたことを想起する。一度は「創る」ことを志したもののそれを断念し

いところを突かれたのである。「真鍋」は、「創作」の苦悩を知る小説家は外国文学者よりも優位であると主張しながらも、日本の小説はヨーロッパの文学にはとても及ばないという「田中」の指摘に対しては抗弁できないからこそ、強がるしかなかったのである。

「真鍋」は「田中」の反論は「問題をすりかえ」ただけだと言い返す。「真鍋」は再度「田中」に自分の身を反省してみろと問う。「君は俺のように創らないかわりに、文学に何を賭けているかね」。それに対し「田中」は、「たとえば……傑作を翻訳しようと思います」と答える。「たとえば……」という表現には、即答できない「田中」の姿がうかがえる。三流の作品を創造していると「真鍋」を批判した「田中」ではあるが、創造しない自分が目指すべき道をはっきりと確信を持って見立てているわけではないという点も読み取っておこう。

「真鍋」は言う。「翻訳」とは「血のかよった（＝ここでは命を懸けている、というほどの意味）人間の言葉を九官鳥のようにまねする」ことである。外国文学者は自分が「九官鳥」のように人まねしかできないことを自覚して、その「悲しさや辛さ」をかみしめながら生きていてほしい、と言う。だが「日本の外国文学者には、それが一向ない」、つまり安穩として生きていくだけではないかと批判してみせる。ついに「田中」は「高い声で怒鳴っ」てしまう。「ばくら（＝外国文学者）に九官鳥としての寂しさや哀しさがないとあなた、どうして断定できるのですか」。その怒鳴り声は一座を白けさせる。酒の入った「真鍋」の言葉を受け流すことができず、本気で言い返す新参者。それまでの空気が一変した。

「真鍋」はその白けた空気に気づき、磊落な（＝細かいことにこだわらない快活で器量の大きな様子）笑い声を作りその場を納めようとする。「小野」に向けて「田中」のことを「サムライ（ここでは勇気をもって難敵に挑んだ者、というほどの意味）」と評し、和解するふりをしてみせる。さしのべられた「真鍋」の手を握る「田中」は、「屈辱的な哀しみのこみあげてくるのを感じた」。「真鍋」が「田中」を誉めてみせることは、「真鍋」の大人ぶり

を強調することになるからだ。

「俺は失敗した」。パリに到着するなり、当地の日本人の前で「出すぎた（＝自分の分を越えて差し出がましい言動をとる）まねをした」。新参の身でありながら、酒に酔った小説家と本気で言い争い、機嫌を損ね、その場の空気を白けさせた。それが身の程知らずな言動であったことを、「田中」は「不快そうに横眼でちらっと見た小野の顔色」で理解した。

「小野」は「真鍋」の機嫌をとるように「河岸<sup>かし</sup>を変えろ（＝他の店で飲み直す）」ことを提案し、「田中」を冷たく見下ろすと、そっけなく出て行った。若い画家たちも「田中を黙殺したまま」立ち去る。その人々の背中には「新参者のくせに生意気な」という気持ちが感じられた。「田中」はパリでの実際のスタートからつまづいてしまった。

この場面での「真鍋」の主張を確認しておこう。

#### 「真鍋」の主張

- ・外国文学者は自力では作品を作らず、他人の作品を勝手に批評したり翻訳したりするだけの存在である
- ・小説家（芸術家）は創作の苦しみや哀しみを背負いながらも創作に命を懸けている
- ・だから外国文学者は小説家には及ばない存在である
- ・外国文学を翻訳する者は言葉の意味もわからず口まねする「九官鳥」のようである
- ・外国文学者は右のような自己のあり方を謙虚に自覚して、その辛さや悲しみを感じながら生きていくべきだ

それに対する「田中」の考えも確認しておこう。

#### 「田中」の考え

- ・傑作を創ってこそ小説家（芸術家）には存在価値があるのであり、ただ創っているというだけで自らの優位を誇ることはできない

一体お前さんたち（外国文学者）と文学との間には、どんな関係が成立しと  
るのかね。小説家のように、切っても切れない関係があると言うのかね」と  
たたみかけるが、その発言からは、外国文学者と文学との関係について「真  
鍋」が懐疑的であることが読み取れる。さらに外国文学者は「他人のフンド  
シで角力をとって」いる（Ⅱ一番大事なものを人から借りて勝負をしている  
）だけの「無責任な解説者」、つまり肝心の「文学」は自前で書くわけでは  
なく、人の書いた「文学」を拝借して「無責任」に解説、批評しているだ  
けだと指弾する。

「田中」はその「真鍋」の言葉の調子を、日本の「文士」（Ⅱ文学者）が日  
本の飲み屋で外国文学者をつかまえてなじると同じだと感じた。先ほどの  
「小野」の態度といい、今の「真鍋」の言葉といい、彼等の言動から「田中」  
は、パリに来てまで日本にいるときと同じような気分を味わっているのだ  
る。

一方、「田中」よりパリ生活が長く、世知に長けている「小野」は「たく  
みに相手（Ⅱ「真鍋」）のほこ先」、つまり攻撃を「田中」に「向けさせ」  
て、「田中」に返答を促す。先に「閉口する（Ⅱ困る）」と言っていたよう  
に、酔った「真鍋」に手を焼いていた「小野」はこれ幸いと「田中」にその  
相手をさせようとしている。ここからは、人間関係においてうまく立ち回っ  
ている「小野」の様子が読み取れる。

「真鍋」は「田中」に対し「一度も文学に体を張ったことがないくせに」  
とさらにからんでくる。「体を張る」とは（自分の身を犠牲にするつもりで、  
懸命に事に当たる）という意味であり、ここでは小説家（芸術家）である自  
分は創作に自らの存在を懸けて取り組んでいるという矜持（Ⅱ誇り）を表し  
たものと考えられよう。しかしその言葉がまた、「田中」に日本の雰囲気  
思い出させる。「田中」は留学先でしか学べないことや感じられないことを  
期待して来たはずである。ところが来た早々、日本の飲み屋同然の雰囲気  
の中で、日本と同じように「小野」からは格下に扱われ、小説家からは批判さ  
れる。その内心はおもしろいものではなかっただろう。

「田中」は「真鍋」の言葉を受けて、「ぼくらが何も作品を創れないとい  
うことですか」と答える。その時「田中」は「自分に注がれている若い画家た  
ち」、つまりパリ生活の先達の視線を気にしている。「田中」の声が小さかつ  
たのは、パリでは新参者でもあり、小説家の「真鍋」の威光にも遠慮してい  
たからであろう。逆に「真鍋」は大声で言う。「創らない者（Ⅱ外国文学者）  
に、創る者（Ⅱ作家・芸術家）の哀しみや苦しさがわかるか」と。彼が言  
たいのは、わかるはずがあるまい、それをわからない外国文学者は自分たち  
芸術家には及ばないということだ。「日本人の若い画家たち」も「真鍋」同  
様に自らを「作品を創る芸術家」であると考え、創作を放棄した外国文学者  
に対しては「優越感」を抱いて「冷笑」している。

「田中」は反論を試みる。「何を創ったかということが大切なんです」。「つ  
まらん小説」を書いただけで「創る行為の優位を誇るのの意味がない」。「小  
説家」は大勢いるが「存在価値があるのは、傑作を書いた時だけ」である  
と。この時「田中」は「自分の声が興奮のために上ずっていくのを感じ」て  
いる。一方で周囲にいた「小野」の「当惑」と、「若い画家たち」の「敵意」  
も意識している。自分の言動が周囲の人にどう映っているか理解しながら  
も、興奮から抗弁をやめられない。

「真鍋」は、「日本の作家や批評家たち」は「仏蘭西の作家にくらべると、  
はるかに劣ると言いたいわけだな」と「田中」を挑発する。「田中」はそれ  
を受けて「言ってはならぬ言葉」をついに口に出してしまった。「日本の作  
家はフランスの作家に比べ」はるかに劣ります。「真鍋さんの代表作だっ  
て、この国の一流に比較すれば三流作品でしょう。この国では今の真鍋さん  
でも、まだ本当の作家として通用してないかも知れません」。ここには、  
はっきりと日本の小説家（日本で一定の地位を築いている「真鍋」であつて  
も）に対して、外国文学の優位を信じている「田中」の姿が表れている。  
「真鍋」は「その酷評は素直に受けとる」と言う。ただ、「真鍋」は「田中」  
の批判を受け止めることで逆に度量の大きさを示して「強が」ってみせてい  
ることに注意しよう。「その顔はひきつつ」しているとあるように、実際は痛



## 第2問 現代文

### 【出典】

遠藤周作の小説『留学』からの出題。『留学』は三章からなる。それぞれの章ごとに主人公も時代も異なっており、その点では三部作といってもよい。各章に登場する三人の留学生がいずれもヨーロッパの文明文化の壁に挑んで格闘するが、宗教や文化の違いによって挫折していく姿を描いている。今回出題したのは第三章「爾も、また」の一節である。ただし、設問作成の都合で、一部省略した箇所がある。

遠藤周作（えんどう・しゅうさく）は、一九二三年東京生まれの小説家。幼くして父の転勤に伴って中国（当時は満州）の大連に移り、その後両親が離婚したため母について帰国し、神戸の伯母の家に同居する。その伯母の影響でカトリックに入信した。一九五〇年、留学生として渡仏。帰国後発表した初の小説『アデンまで』が一部で高い評価を受けたのち、次作『白い人』で芥川賞を受賞。以後『海と毒薬』『沈黙』『深い河』など、日本人がカトリックを信仰することの葛藤や苦悩をテーマに宗教的な思索を深める作品を数多く残した。一九九六年没。

### 【本文解説】

本文は、留学先のパリに到着したばかりの「田中」が、日本人の集まる店に行き、そこで彼より先に同地に来ていた日本人たちと出会って議論を交わし、ホテルの自室に戻ってから自らのあり方を自問する姿を描いている。

作品の舞台は一九六〇年代のパリである。大学入試センター試験での出題作品は明治のものから現代のものまでと幅広い。普段からさまざまな作品に触れ、読み慣れておくことが大切である。また、本文の長さが負担になった人もいるだろう。しかし近年の大学入試センター試験では相当量の長文を読むことが求められているので、今後の学習上の一つの課題として、限られた時間で長文を正確に読み解いていくことを意識するきっかけとしてはいい。

本文は、その内容から大きく三つに分けることができる。以下、その内容を確認していこう。

### I 小説家「真鍋」との言い争い（冒頭、「……煙草をふかしていた。」まで）

本文に先立つリード文にある情報をきちんと確認してから本文の読解に入ろう。「田中」は同じ留学生「向坂」に連れられて日本人が集まるキャフェに向かっている。留学してきたばかりの「田中」にとっては、当地の日本人社会になじんでおくことは大切なことであろう。

「田中」はそこで旧知の「小野」から声をかけられる。「向坂」がその名を口にしていたことから、パリの日本人社会ではそれなりに知られている存在であるようだ。「小野」は日大学の助教授であり、「田中君」「御苦労さんでした」と語りかけて「周りの者に、自分が一階級上だということを示すため」に「まるで研究室の中のように椅子に腰かけたまま鷹揚に（＝ゆつたりと落ち着き払って）うなずいてみせ」る。

「小野」が「田中」を紹介すると、いきなり「また、外国文学者か、やりきれんね」という男がいた。小説家の「真鍋」である。「真鍋」は酒に酔っているらしく、この発言には「からむような調子」が感じられた。「真鍋」は「ストックホルムでのペン・クラブ会の帰りに巴里にこられた」と紹介される（ペン・クラブ会とは、世界各国の作家・文筆家が表現の自由の確立や、国境を越えた相互理解と連帯を求めて設立された国際ペンクラブのこと）。「真鍋」が国際的な会合に参加する地位や権威のある存在であるからこそ、横にいた青年は「甘えるよう」な態度を取り、「小野」も「卑屈な笑いをうかべて」「真鍋」に阿（あ）って（＝相手の機嫌を取って気に入られようとして）いる。

その「真鍋」は、「小野」と「やりあ」っており、その流れのなかで「また（小野）と同じ」、外国文学者（の登場）か、やりきれんね」と発言するのである。「真鍋」は「田中」に対して、「外国文学者というのは何者だね。

反対にし、疑問の形にした表現」になっていることがわかる。

波線部Yは、直前の[7]で述べられている、「自然」を「交通Ⅱ交流Ⅱ関係」という観点からとらえるという筆者の主張を受けて、「なぜ……『関係』なのか」と問題提起をしている。これは、本文のテーマに関わる問題提起であり、この内容については本文の最終段落まで説明がなされている。

したがって、それぞれの表現上の特徴としては、次のようにまとめることができる。

X 疑問文の形をとっているが、反語になっている

Y 本文のテーマに関わる内容について問題提起をしている

以上の内容がまとめられている、③が正解である。

①は、Xについて「筆者自身も明確な結論が出せていない問題」としている点が不適当。右に説明したように、筆者はXの主張に対して否定的な立場を明示している。また、Yを「問題点」としている点も不適当。Yは筆者の考えを踏まえたものである。

②は、Xについて「ここでの『主張』を補強する論を述べるための契機」としている点が明らかに不適当。筆者はこの主張に対して否定的な立場を表明している。また、Yを「疑問点」としている点も不適当。Yは筆者の考えを踏まえたものである。

④は、YよりもXに「注目を集める工夫が施されている」としている点が明らかに不適当。逆接の接続詞「だが」を用いたからといって、「注目」を集めようとしているとは断定できないし、そもそも筆者の主張に関わるという点ではむしろ、Yの方により注目すべきであろう。

(ii) 文章全体の構成が問われている。詳しくは【本文解説】I～IVを参照してほしいが、ここでは、文章全体の論理展開を確認しよう。

Iでは、現在の日本において、自然が客観的な対象としてとらえられていることが述べられていた。このようなとらえ方を筆者は否定的に見てい

る。したがって、ここでは現在の問題点が示されている。

Ⅱでは、Iに対して、自然を「交通Ⅱ交流Ⅱ関係」としてとらえるという筆者の自然認識や価値判断が説明されていた。ここでは、筆者の考えが述べられている。

Ⅲでは、Ⅱで示したようなとらえ方を筆者がするようになった理由として、上野村に長期滞在したこと、上野村での滞在とマルクスの文献が共鳴したことが述べられていた。したがって、ここでは、Ⅱの論を深めている。

Ⅳでは、ここまでの論を踏まえて、筆者の自然観を確認するとともに、筆者にとつての自然哲学とはどのようなものかが説明されていた。したがって、この部分は結論と考えられる。

以上の内容をまとめている、①が正解である。

②は、最初の部分と最後の部分を「一般論」、第二の部分と第三の部分を「それについての具体的な話題」と説明している点が不適当。右に述べたように、第二の部分と第三の部分は、最初の部分の一般論を具体化しているのではなく、最初の部分の考えとは対立する筆者の考えを述べている。

③はまず、最初の部分を「全体の主旨」としている点が大きく外れている。また、第三の部分と最後の部分について「新たな話題を論じる」としている点も明らかな間違いである。

④はまず、「第二の部分と第三の部分で観念的な議論を展開し」が間違っている。筆者は群馬県の上野村に実際に長期滞在した体験に基づいて自分の考えを述べているのだから、「観念的な議論」だと決めつけることはできないだろう。また、最後の部分は、第二の部分や第三の部分で述べられていた筆者の考えをまとめている部分であり、「再び現状を詳細に分析する」とは言えない。

とは「関係Ⅱ交通をとおして自然と人間の双方を検討する分野」だと述べる。では、筆者のいう「変容」や「関係Ⅱ交通」とはどのようなものなのか。

それについての説明は、【本文解説】Ⅱの後半を参照してほしい。⑤・⑥を振り返ろう。⑥の冒頭に「私は自然を交通概念をとおしてとらえようとしている」とある。ここでのいう「交通概念」とは「自然と自然の交通、自然と人間の交通、人間と人間の交通という三つの交通」であり（a）、筆者は、「この三つの交通はそれぞれが単独で成立しているわけではなく、相互的に干渉し合っている」（b）と言う。⑤の末尾や傍線部の直前にもあったように、筆者は自然を「人間の外にある客観的なもの」と位置づけるのではなく、人間との相互的な関わりのおかげでとらえようと考えている。そして、その相互的な関わりは、単に人間と自然との関係を指すだけではなく、「自然と自然の交通」や「人間と人間の交通」、すなわち、自然世界内部の関係性や人間同士の関わり合いとも密接に関係しあうものである（b）。たとえば、「人間と人間の交通によってつくられたシステムが自然と人間の交通を変え、それによって自然と自然の交通も変わっていくように」（⑥）、三者それぞれが変化しつつ、その変化が互いに影響を及ぼし関係し合いながら変容を続けていくということだ。傍線部に即して言えば、そうした三者が互いに複雑に影響しあい変化していくなかで、自然も変容していくということになる（c）。これらの内容を傍線部に即してまとめると次のようになる。

- a 自然は、自然と自然の関係、自然と人間の関係、人間と人間の関係やそれによってつくられたシステムという三者の関係性のなかに存在する
- b 右の三者は、それぞれが単独に存在するのではなく、相互的に影響を及ぼしあっている
- c 自然は、右の三者が複雑に関わりあい変化していくなかで、そのあり方を変化させる

以上の内容がまとめられている、⑤が正解。

①は、「自然哲学」の変化を説明しているという点で、自然のあり方の変容について述べている傍線部からずれている。このように、設問の要求から外れた説明をしている選択肢を選ばないように注意したい。

②は、「人間がそうした自然を克服しつつも」が不適当。筆者は、aポイントで述べた三者の相互的な関係性に注目しているのであり、人間が自然を「克服」することを求めているのではない。

③はまず、「自然の世界」は「つねに人間社会の影響を受けて成立している」が、人間社会から自然界への影響という二者の一方的関係にしか触れていない点で、不十分である。選択肢の後半も、人間の「自然に対する認識の仕方」の「変化」について述べており、自然のあり方の変容について説明するというcポイントから外れている。

④は、「かつて」あった「自然」と「人間」との「交流」が「近代になり」失われた、という説明になっている点で、傍線部の内容から外れている。傍線部で説明されているのは筆者の自然観である。

#### 問6 この文章の表現と構成について説明する問題

(i) 本文の二箇所の傍線部の表現上の特徴が問われている。それぞれの文脈を確認しよう。

傍線部Xは、日本で一九七〇年代に入って議論になった、「貴重な自然」を「保護」しようという主張について述べられたものである。そこで、筆者がこの主張に対してどのように考えているのかを確認する。筆者は、③で、自然保護という主張は「自然を人間の外にある客観的な対象としてとらえる」という「欧米的な発想」から生まれたものだとして述べ、⑤で「哲学がとらえようとする自然は客観的な存在ではない」と、この発想に否定的な立場を表明している。つまり、傍線部Xは、疑問文の形をとっているが、最初からこの主張を否定しようという意図に基づいて書かれたものであり、「反語」（＝断定を強めるために、言いたい内容の肯定と否定を

(12)に、「彼(＝フョイエルバッハ)にとつては『理性と愛と意思の力』は人間の本质であり、この本質が人間の類としての存在を成立せしめるものであった」と述べられている。フョイエルバッハは、人間が本来的にもっている「理性と愛と意思」という性質が、人間を類として存在させると考えていたのである(a)。そして筆者は、マルクスの本を読むようになった当初、「理性と愛と意思」ではないにせよ、人間の本来的な性質が人間を類として存在させるというフョイエルバッハの考え方が「マルクスにも受け継がれていたのだらう」と思っていた(13)。

しかし、後になって『マルクス経済学ノート』を読み、必ずしもそうでないことに気づかされる。マルクスは、「人間は社会的な動物であり、さまざまな活動や交換などをおして共同体的な存在として自己をつくりだす」と記している(16)。人間は「社会的な結び合いのなか」で「さまざまな関係によって」自己を形成するという意味で、「類的、共同体的な存在だ」というのである(b)。このようなマルクスの考え方は、『理性と愛と意思』という人間の本性が類的存在としての人間をつくるというフョイエルバッハの論述とは違う類概念<sup>⑤</sup>である<sup>⑥</sup>と、筆者は考えるようになったのである(c)。これらの内容を整理すると次のようになる。

- a フョイエルバッハは、人間が生まれつきもっている本性が、人間を類として存在させると考えていた
- b マルクスは、人間は社会的な動物であり、社会のなかで他者とさまざまな関係を築くことで、類としての自己を形成すると考えていた
- c マルクスの類のとらえ方は、フョイエルバッハのそれとは異なっている

以上の内容を適切にまとめている、②が正解である。

①はまず、「理性と愛と意思が神によってもたらされた」が不適當。<sup>⑦</sup>にあるように、フョイエルバッハは「人間の愛という本質が神となって外化し、人間を支配するようになる」と考えていた。つまり、「理性と愛と

意思」はもともと人間に備わった性質であり、それを人間の外部の「神」に仮託したと考えていたのであって、それらの性質が「神によってもたらされた」わけではない。また、「マルクスは……フョイエルバッハの類概念に影響を受けつつも」がcポイントから外れている。

③は、「マルクス」は「フョイエルバッハの類概念を継承しながら」、「理性や愛ばかりでなく社会のなかでの他者との結び合いも必要だ」と考えている」がcポイントから外れており、不適當。これでは、マルクスが、フョイエルバッハの類概念である「理性や愛」に加えて「社会のなかでの他者との結び合いも必要だ」と考えたことになるが、マルクスはフョイエルバッハとは異なる類概念をもっていたのである。

④は、「マルクス」は「フョイエルバッハの類概念の観念性を否定し、そのような誤った認識が資本主義的な経済社会におけるさまざまな問題を引き起こした要因であると鋭く批判している」が本文にまったく述べられていない内容であり、不適當。

⑤はまず、マルクスが「フョイエルバッハの類概念に疑問を呈し」が本文に述べられていない。また、「人間の本性は自らが生まれながらにして社会的な動物であることを自覚するところにこそある」がbポイントから外れている。マルクスは、人間が社会のなかで他者とさまざまな関係を築くところに類としての存在を見ていたのであり、社会的動物であるという「自覚」に重きをおいていたのではない。

#### 問5 傍線部の意味内容を説明する問題

傍線部は「自然は交通とともに存在し、交通の変化によって変容していく存在である」というものであり、これは本文のテーマである筆者の自然についての考えを記したものである。本文全体の論旨を踏まえながら、傍線部の意味内容を明確にしていこう。

まず、⑬で筆者は、「自然も人間もすべては変容とともにあるというのが、私の発想である」と述べている。そして傍線部の前で、「自然哲学」



の考えが問われているということである。そのことを踏まえただえで、傍線部の文脈を確認していこう。

筆者は傍線部の前で、自然のとらえ方はひとつではなく、さまざまな「価値判断」に基づいた多様な自然認識の方法がある、ということ述べている(a)。そして、傍線部の後で、「自然をひとつの生態系としてとらえる」というあり方は、「科学によってみいだされたものが真理である」という近代のイデオロギー(Ⅱ歴史的・社会的立場に基づいて形成される、基本的なものの考え方)に基づいた認識方法であり(b)、そのようなイデオロギーに「私たちの時代が支配されている」ために、「生態学的にとらえられた自然が客観的真理を表現しているようにみえる」と記している(c)。つまり、自然を生態学的にみるあり方は、近代のイデオロギーが通用している私たちの時代には「客観的真理」として支持されているが、近代とは「価値判断」の異なる時代・社会には通用しないという点で決して普遍的なものではない(c)。傍線部の次の段落(5)にも述べられているように、「自然をどのようなものとしてとらえるか」は自然との「関係のとり方」によってさまざまに異なってくる(a)。

まとめると、次のようになる。

- a 自然のとらえ方は、自然との関係のとり方や価値判断によって異なり、多様である
- b 自然をひとつの生態系としてとらえるというあり方は、自然を科学的に見るという近代のイデオロギーに基づいている
- c bのとらえ方は、現代においては客観的真理として支持されているが、普遍的なものではない

以上の内容を踏まえている、①が正解である。

②は、「科学を装っているところに欺瞞(Ⅱ人目をあざむき、だますこと)があると考えている」が不適当。bポイントで述べたように、これは科学的な見方に基づいたものであり、科学でないのに科学を「装って」い

るのではない。

③は、「科学的真理に基づいているという点では妥当性があり評価できる」が不適当。b・cポイントで述べたように、筆者は、科学的真理に基づいているからといって必ずしも普遍的なものではないと考えているうえ、⑤の末尾に「哲学がとらえようとする自然は客観的な存在ではない」とあることからわかるように、筆者は科学的な立場から自然を客観的に見ようとしているのではない。

④は、「自然を人間が克服すべき対象とする」とらえ方と通じていると考えている」が不適当。傍線部の直前で筆者は、「自然を人間によって克服されるべき対象としてとらえる」という「価値判断」とは「逆に」生態学的なとらえ方があると述べており、⑤でも「自然を克服対象とする価値判断」と「自然を生態系としてとらえる価値判断」を別のものとして説明している。したがって、両者を共通するものとしてとらえるのはよくないだろう。

⑤は、「自然をさまざまな価値基準からとらえるようになった現代では、もはや有効性をもちえないものだと考えている」が不適当。b・cポイントで述べたように、現代は、自然を科学的に見るという近代のイデオロギーに支配されており、その点で、生態学的な見方を支持しているのである。

#### 問4 傍線部について、筆者のその後のとらえ方を説明する問題

傍線部には「マルクスの本を読むようになってしばらくのあいだ」の筆者の考えが述べられているが、この設問で問われているのは、「マルクス」と「フォイエルバッハ」の「関係」を、筆者が「その後」どのようにとらえるようになったのか、ということである。傍線部の後の文脈を丁寧に読んで、筆者の考えを整理していこう(詳しくは【本文解説】Ⅲを参照のこと)。

まず、「フォイエルバッハの類概念」について。傍線部の次の段落

欧米的な発想にすぎない。ここから生まれてくるのは客観的な自然をいかに管理すべきか、という発想であり、「開発」も「保護」もこの発想から生まれてくる。結論は正反對になっても、自然を客観的な対象としてとらえる点では、両者に相違はない」と述べている。つまり、経済発展のために自然を「開発」しようという議論も、貴重な自然を「保護」しようという議論も、ともに「自然を客観的な対象としてとらえる」という点で不十分だということである（a）。では、このようなとらえ方がなぜ「不十分」なのか。

それについては、⑥・⑦で説明されていた。⑥で、筆者は、「私は自然を交通概念をとおしてとらえようとしている」と述べる。ここでいう「交通概念」とは、「自然と自然の交通、自然と人間の交通、人間と人間の交通」という三つの交通」であり、この三つの交通は「それぞれが単独で成立しているわけではなく」、「人間と人間の交通によってつくられたシステムが自然と人間の交通を変え、それによって自然と自然の交通も変わっていく」というように、「相互的に干渉し合っている」ものである。とするならば、この設問で問われている、「開発か自然保護か」という議論に関しても、自然世界を人間社会から切り離して「客観的な対象としてとらえる」だけでは不十分であり、人間は自らと相互的に関わり合うものとして自然をとらえたうえで議論するべきであろう（b）。

なお、この点については、本文の最終段落でも、「はじめに述べたように、私が自然を人間の外にある客観的なものとして位置づけていない……」と繰り返されている。設問を解く際には、傍線部の前後だけを読んで安易に答えるのではなく、本文全体の論旨を踏まえたうえで解答の根拠となる箇所を確認しよう。

まとめると、次のようになる。

a 自然を開発すべきか保護すべきかという議論は、ともに自然を人間の外にある客観的な対象として位置づけている

b 右のようなあり方は、人間と自然の相互的な関わりを考察していない  
以上の内容を適切にまとめている、④が正解である。

④以外は、bポイントが説明されていないという点で既に不適当であるが、その他の問題点についても指摘しておく。

①は、「自然についての議論が開始されたのは公害問題を解決するためであった」が誤っている。本文の①に述べられているように、「一九六〇年代までの環境問題」は「鉱毒事件」や「公害問題」であり、「自然」の問題として議論されていたわけではなかった。それらとは違って、「自然」が問われるようになったのは、「開発か自然保護か」が課題になりはじめた七〇年代以降である。

②は、「自然を客観的な対象としてとらえる欧米的な発想」は「日本では受け入れがたいものだった」が誤っている。傍線部の次の段落にあるように、日本でなされていた「開発」か「保護」かという議論は、「客観的な自然をいかに管理すべきか」という「欧米的な発想」から生まれたものである。

③は、「理想的な自然を想定して保護しようという主張」が誤っている。傍線部の後に「もちろん『貴重な自然』は存在する」とあるように、自然を保護しようという主張は、現実に存在する「貴重な自然」を守ろうとしているのであって、現実にはない「理想的な自然」を「想定」（＝ある一定の状況や条件を仮に想い描くこと）しているわけではない。

⑤は、「開発」の立場と「保護」の立場とで「争いあうのは不毛なことだから」が誤っている。筆者は両者が争いあっていることを批判しているのではない。

### 問3 傍線部についての筆者の考えを説明する問題

傍線部の「自然をひとつの生態系としてとらえる」というあり方については、【本文解説】Ⅱの前半に説明がある。この設問で注意することは、傍線部自体の意味内容が問われているのではなく、傍線部についての筆者

たのかを考察することが必要だ。しかし、筆者は、そうした時代の枠組みにとらわれてしまうのではなく、【本文解説】Ⅱの前半に述べられていたように、さまざまな自然認識の背後に多様な価値判断や関係のとり方があることを踏まえ、「自然も人間もすべては変容とともにある」という発想をとりたいと考えている。

そのような筆者にとって、「自然哲学」はもはや「自然の考察という狭い枠に収まるものではない」。それは、自然と自然の交通、自然と人間の交通、人間と人間の交通という三者の関係をとおして、「自然と人間の双方を検討する分野」であり、「交通の変容をみることによって現代世界の構造を自然哲学の視点からとらえようとするもの」である。その意味で自然哲学は「人間学でもあり、ひとつの社会思想でもある」と言えるだろう。三者の交通のなかに存在し、三者が相互的に密接に影響しあうなかに自然は存在し、私たちの社会もまた存在するのである。

#### 筆者の考える自然哲学

- ・ 自然を客観的な存在としてとらえるのではない
- ・ 「関係Ⅱ交通」をとおして自然と人間の双方を検討する
- ・ 「交通」の変容をみることで、現代世界の構造をとらえようとする
- ・ 人間学でもあり、ひとつの社会思想でもある

#### 【設問解説】

##### 問1 漢字の問題

(ア)は「唱える」と書き、〈人に先立って主張する〉という意味。①は「招待」。②は「温泉」と書き、〈ある物事や思想などが生まれ育ちやすい環境〉という意味。③は「斉唱」で、これが正解。④は「賞金」。⑤は「考証」。

(イ)は「所産」と書き、〈産みだしたもの・作りだしたもの〉という意味。①は「散策」。②は「協賛」。③は「水産」で、これが正解。④は「三顧」

と書き、「三顧の礼」は〈優秀な人材を迎えるときに取る、手厚い礼儀〉という意味。⑤は「遊山」と書き、「物見遊山」は〈見物して遊びまわること〉という意味。

(ウ)は「着手」と書き、〈とりかかること〉という意味。①は「首尾」と書き、〈始めと終わり〉という意味。「首尾一貫」は〈考え方や態度などが矛盾なく終始すること〉という意味である。②は「手腕」で、これが正解。③は「聴取」。④は「種子」。⑤は「殊勲」。

(エ)は「営為」と書き、〈いとなみ〉という意味。①は「鋭敏」。②は「設営」で、これが正解。③は「衛生」。④は「英雄」。⑤は「永住」。

(オ)は「検討」と書き、〈よく調べて考えること〉という意味。①は「検印」と書き、これが正解。ちなみに「検印」は〈書籍の奥付に、著者が発行部数を確認するために押す印〉のことを言う。②は「貢献」。③は「兼任」。④は「再建」。⑤は「顕微鏡」。

なお「ケントウ」は、〈目当て・見通し・予想〉を意味する「見当」、〈頑張って戦うこと・屈せずに努力すること〉を意味する「健闘」等の同音異義語がある。漢字の問題では、同音異義語と間違えないように文脈を確認して答えるようにしたい。

##### 問2 傍線部の理由を説明する問題

まず傍線部の「それ」は、直前に述べられている、「日本でも」開始された「自然についての議論」を指しており、ここという議論は、前の段落の「開発が自然保護か」という議論である。この議論を筆者はなぜ「十分なレベル」にとどまるものだと言うのだろうか。

傍線部の直後の、「開発を推進しようとする人々にとっては、自然は経済発展のための改造すべき対象にすぎなかったし、自然保護を唱える人たちも「貴重な自然」を守ろうと訴えるだけで終わっていた。……だがそう主張するだけで十分なのだろうか」という問題提起に注目しよう。筆者はこれに続けて、「自然を人間の外にある客観的な対象としてとらえるのは、

り、この本質が人間の類としての存在を成立せしめる」と考えており、この類概念をマルクスは継承したと、筆者は考えていたのである。

しかし、後になって筆者は、「マルクスの類のとらえ方はもっと複雑であると感じかされる」ことになる。マルクスは初期に『マルクス経済学ノート』という文献を書いているが、そこに「生産そのものの内部での人間の活動の生産物のおたがいの間での交換も、ひとしく類的活動であり、類的精神である」といった記述が出てくる。そして、このような「類的」な精神をもち活動をする人間は、「真に共同体的な存在」であり、それは「人間の本質である」と記されている。これらを端的にまとめるならば、「人間は社会的な動物であり、さまざまな活動や交換などをおして共同体的な存在として自己をつくりだす」ということになるだろう。これを筆者の言う「関係」という言葉を用いてさらに言い換えると、「人間はさまざまな関係によって自己を存在させる、その意味で類的、共同体的な存在だ」ととらえることができる。筆者は、マルクスの文献を読み進めるうち、マルクスは、「関係」「交通」といった営みが人間を類的な存在にすると考えていたと思うようになる。これは、『理性と愛と意思』という人間が生まれながらもっている本性が人間を類として存在させる<sup>9</sup>と考えているフョイエルバッハの類概念とは明らかに異なるものである。

筆者は上野村で、「自然と人間が交通し、人間と人間が交通し合うなかに村というひとつの共同体を形成」するというあり方を体験した。このような村のあり方と、社会的動物である人間が他者とさまざまに「関係」「交通」することで、人間は共同体的な存在としての自己を形成する<sup>10</sup>というマルクスの類概念が「共鳴」しあい、筆者は、「交通し交流し関係がこの世界をつくりだしている」と考えるようになったのである。

#### マルクスの文献を読みはじめた当初の筆者の考え

フョイエルバッハの類概念

・ 理性と愛と意思という人間の本性が、人間を類として存在させる

←  
マルクスに受け継がれた

⇔

#### 後になってからの筆者の考え

マルクスの考え方

- ・ 人間は社会的動物である
- ・ 他者とさまざまに関係しあうなかで、人間は共同体的（＝類的）な存在としての自己を形成する

—（共鳴）—

筆者の上野村での体験

#### IV 筆者の考える自然哲学（17～19）

ここでは、今までの論を踏まえ、筆者の考える自然や自然哲学のあり方がまとめられている。

【本文解説】Ⅲで説明したように、筆者はマルクスから触発を受けたこともあって「さまざまな関係を交通としてとらえていく」ようになり、またマルクスから「交通の変容が自然と人間の双方を変化させていくという考察」のヒントを得た。しかし、マルクスの考えに全面的に賛同しているわけではない。傍線部Cの前に述べられていた、「人間は本来は類的存在である。しかし資本主義という疎外された社会においては、個と類の関係が疎外された関係になる」というマルクスの言葉を思い出そう。ここでマルクスは、資本主義社会を「疎外」された社会である<sup>11</sup>ととらえ、人間の本来的なあり方として「純粋な『類的存在』を設定」している。筆者は、このような考え方を継承するのではなく、「自然も人間もすべては変容とともにある」と考える。もちろん、近代以降の自然と人間の世界をとらえるためには、近・現代の社会のさまざまなあり方や近・現代人の精神の変化が、人間と人間の交通や自然と人間の交通、さらには自然と自然の交通をどのように変容させていっ



の交通、自然と人間の交通、人間と人間の交通という三つの交通が成立して」おり、「この三つの交通はそれぞれが単独で成立しているわけではなく、相互的に干渉し合っている」。たとえば、人間と人間の交流から作られた社会的なシステムが、自然と人間の関係を変化させ、そのことが自然と自然の関係を変化させたりする。この三つの交通はそれぞれが変化しつつも互いに影響しあい、相互的な関係性のなかで複雑にからみあいながら変容していくのである。そのような関係の相互性からなる「交通概念」に価値を置くならば、確かに筆者のとらえようとする自然は、人間から自立して存在する「客観的な存在」などではない。筆者は、「交通Ⅱ交流Ⅱ関係がこの世界をつくりだしている」という観点から、自然をとらえようとしているのである。

#### 生態系としての自然

近代のイデオロギーⅡ科学的なものが真理である

生態学的にとらえられた自然Ⅱ客観的な真理の表現



#### 筆者の考える自然

世界は「交通Ⅱ交流Ⅱ関係」によって作られている



自然と自然の交通、自然と人間の交通、人間と人間の交通に価値を置く

・ 三つの交通は、相互的に影響しあいながら、複雑な関係性のなかで変化していく



自然を「交通」のなかで形成され変容するものとしてとらえる

#### Ⅲ 「関係」によって類として存在する人間（8～16）

ここでは、筆者が「関係」という概念を考えるようになった理由が述べられている。

ひとつめの理由は、筆者が群馬県上野村に長期滞在するようになったことにある。上野村は、「自然と人間が交通し、人間と人間が交通し合うなかに、村というひとつの共同体を形成している」。このような村に滞在するようになったことで、筆者は、**【本文解説】Ⅱ**で述べていたように、世界は「自然と自然の交通、自然と人間の交通、人間と人間の交通」という三者の相互的な関係と変容によって形成されている、と考えるようになったのである。

もうひとつの理由は、「この村での滞在と、かつて読んだ初期マルクスの文献が共鳴するようになったこと」である。どういふことか。

筆者は、初期マルクスの文献を読み、「（人間は類的存在である）というような言葉」に触れた当初、「フォイエルバッハの類概念を念頭においていた」。マルクスがこの文献の執筆に着手する少し前にフォイエルバッハの代表作のひとつが発表されており、それについて知っていたマルクスがフォイエルバッハの類概念を受け継いだのだと考えたためである。フォイエルバッハは、「人間の愛という本質が神となつて外化し、人間を支配するようになる疎外の構造、あるいは自己疎外の構造を論述した哲学者」である。「疎外」という言葉は、一般に（うとんじ、よそよそしくすること）という意味をもつが、哲学では、〈精神や理念が自己の本質を否定して、自己にとってよそよそしい他者となること〉といった意味をもつ。つまり、ここでフォイエルバッハが言っているのは、人間は本質的に「愛」という性質を有しているが、それが人間の外部にある「神」という存在に仮託され、人間を支配するようになったことで、人間の本質であつたはずの「愛」が人間にとってよそよそしい他者のような存在になつてしまった、ということである。こうしたフォイエルバッハの考え方を踏まえてマルクスを読んだとき、傍線部Cの前面にある、「（人間は本来は類的存在である。しかし資本主義という疎外された社会においては、個と類の関係が疎外された関係になる）」というマルクスの記述は、フォイエルバッハの類概念を継承したうえで、人間を疎外する対象を「神」から「資本主義」へと置き換えたものだと思われたのだらう。ともあれ、フォイエルバッハは、「理性と愛と意思の力」は人間の本質であ

【解説】

第1問 現代文

【出典】

『内山節著作集6 自然と人間の哲学』（一般社団法人農山漁村文化協会 二〇一四年刊）所収の「関係から問うという姿勢」よりの出題。問題作成の都合上、途中に一部省略した箇所がある。

内山節（うちやま・たかし）は、一九五〇年東京生まれの哲学者。一九七〇年代から、東京と群馬県上野村を往復し、上野村では農業などをしながら生活している。現在、NPO法人・森づくりフォーラム代表理事。立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科教授。主な著書に『山里の釣りから』、『時間についての十二章』、『日本人はなぜキツネにだまされなくなったのか』、『内山節のローカリズム原論』、『新・幸福論』などがある。

【本文解説】

本文は、自然のあり方を「交通Ⅱ交流Ⅱ関係」という概念からとらえ、筆者の考える自然哲学のあり方について論じたものである。本文は空白行によって四つの部分に分かれている。それぞれの内容を確認していこう。なお、形式段落は①～⑬で表記することとする。

I 客観的な対象としての自然 ①～⑬

ここでは、日本における一般的な自然のとらえ方について述べている。

筆者は、日本で「自然」についての議論がはじまるのは、一九七〇年代に入った頃からだと言う。一九六〇年代までにも環境問題についての議論はあったが、それらはたとえば「公害」といったかたちで問題になっていたのであり、「自然」それ自体が問われるようになるのは、「開発か自然保護か」が課題になりはじめた七〇年代以降である。自然を「開発」しようという主張と「保護」しようという主張は一見対照的なものに見える。しかし、経済

発展のために自然を改造し「開発」しようとするのも、日本に残る「貴重な自然」を「保護」しようとするのも、ともに「自然を人間の外にある客観的な対象としてとらえる」という「欧米的な発想」に基づいたあり方である。「客観的な自然をいかに管理すべきか、という発想」から生じたものだという点で両者に相違はない、と筆者は考えている。

現代日本の自然認識

自然を客観的な対象としてとらえるという欧米的な発想

← 自然を開発するか保護するかという議論

Ⅱ 「交通Ⅱ交流Ⅱ関係」としての自然 ⑭～⑲

ここでは、自然認識の背後に価値判断や関係のとり方があることを述べ、筆者の自然認識や価値判断、自然との関係のとり方について論じている。

自然にはさまざまなとらえ方があるが、それは、意識的であれ無意識的であれ、そうした自然認識の方法には価値判断がともなっているからだ。筆者は考えている。たとえば、自然を「経済的資源」として認識する人は経済の発展に価値を置いているのだろうし、自然を「生態系の世界」として認識する人は科学的なものの見方に価値を置いているのであろう。そして、現代は「科学によってみいだされたものが真理であるという近代のイデオロギー」に「支配」された時代であり、それゆえに「生態学的にとらえられた自然が客観的真理を表現しているようにみえる」のである。こうした価値判断は、対象との関係のとり方によって決まる。自然に対する価値判断は、自らが自然とどのように関わろうとしているかによって形成されるものである。

筆者は、「哲学がとらえようとする自然は客観的な存在ではない」と述べる。筆者は「自然を交通概念をとおしてとらえようとしている」のである。ここでの「交通」という概念は、「交流」や「関係」という言葉で表現することもできる。筆者の考えでは、「私たちが生きる世界には、自然と自然

【解答・採点基準】

【国語】

(200点満点)

第2問	第2問									第1問	第1問										問題 番号		
	問6	問5	問4	問3	問2	問1			問6		問5	問4	問3	問2	問1					設問			
						(ウ)	(イ)	(ア)							(オ)	(工)	(ウ)	(イ)	(ア)				
自己採点小計	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	番解 号答		
	⑤	④	③	④	①	②	②	③	①	①	③	⑤	②	①	④	①	②	②	③	③	正解		
	※																						
	(50)	5	5	8	7	8	8	3	3	3	(50)	4	4	8	8	8	8	2	2	2	2	2	配点
																						自己採点	

第4問		第4問								第3問	第3問								問題番号	
		問7	問6	問5	問4	問3	問2	問1			問6	問5	問4	問3	問2	問1			設問	
								(2)	(1)							(ア)	(イ)	(ウ)		
自己採点合計	自己採点小計	36	35	34	33	32	31	30	29	自己採点小計	28	27	26	25	24	23	22	21	番解 号答	
		⑤	①	③	②	③	⑤	③	④		④	③	②	⑤	①	③	⑤	②	正解	
(200)	(50)	8	6	7	6	7	6	5	5	(50)	8	7	7	7	6	5	5	5	配点	
																			自己採点	

※の正解は順序を問わない。





© Kawaijuku 2014 Printed in Japan

無断転載複写禁止・譲渡禁止

手引(国地公)